文部科学省認可通信教育

履修の手引き

－2013 年度版－

人間総合科学大学
人間科学部　人間科学科

目　次

基礎科目

英語　～速読演習～.....1

論文の書き方.....2

情報処理演習.....3

コア科目

人間科学概論.....4

行動科学概論.....6

生命科学概論.....7

文明科学概論.....9

統合科目

心身健康科学概論.....13

人間科学論.....15

健康科学論.....17

ストレスと健康.....19

心身医学.....21

生命倫理学.....22

分野別科目

こころ・精神の理解

人間関係論.....23

発達心理学.....25

青年期心理学.....27

産業心理学.....29

社会心理学.....31

交流分析.....32

カウンセリング論.....33

カウンセリング実践.....35

現代家族論.....36

心の防衛機制と反応.....37

心理学概論.....38

心理学研究法.....40

心理学基礎実験Ⅰ.....41

心理学基礎実験Ⅱ.....43

心理学基礎実験Ⅲ.....45

臨床心理学実践.....47

精神保健.....49

精神看護.....50

コミュニティ心理学.....51

心理統計学ＩＴ.....53

心理統計学ＩＳ.....54

心理統計学ⅡＳ.....56

産業カウンセリング.....59

教育心理学（学習と発達）.....60

高齢期心理学.....62

人間理解へのアプローチ.....63

からだ・保健の理解

身体の構造と機能.....66

栄養と代謝.....70

脳科学論.....72

病気の成り立ち.....74

臨床薬学.....76

保健学.....78

女性のからだと健康.....79

高齢者のからだと健康.....80

自律神経生理学.....81

運動生理学.....83
環境とホルモン.....85
健康教育概論.....86
応用看護学.....87
老化・寿命の科学.....88
免疫学（アレルギー）.....89
予防栄養学.....90
生命と遺伝子.....92
高齢者の健康増進.....95
成人看護学.....96
生活習慣と健康.....97
看護学概論.....98
リハビリテーション概論.....99
スポーツ障害学.....100
基礎から学ぶいのちの科学.....102
老年看護.....103
地域保健.....104
クリティカルケア.....105
緩和ケア.....106
障害からの回復.....107

文化・社会の理解

比較文化論.....108
東洋文化論.....110
西洋文化論.....111
日本文化論.....113
比較芸術論.....114
日本仏教の世界.....115
宗教人類学.....116
人間観.....117
地域の福祉.....118
高齢社会と福祉・医療.....119
医療職と生涯学習.....121
伝承医学.....122
現代の養生訓.....123
食べもの学.....124
地球の環境問題.....125
異文化コミュニケーション.....126
法　学（日本国憲法）.....127
地球と生命の誕生.....128
いのちの文化人類学.....129
教育学概論.....130
プレゼンテーション論.....131
リーダーシップ論.....132
地球・生命・文化の歴史.....133

卒業研究

卒業研究.....134

特別講義

生涯学習特別講義　ネット授業１..135
生涯学習特別講義　ネット授業２..136
生涯学習特別講義　ネット授業３..137
生涯学習特別講義　ネット授業４..138

学士申請プログラム

文明科学概論.....139
発達心理学.....141
ストレスと健康.....142
心理学概論.....144

運動生理学.....146
生命倫理学.....148

教職課程科目

教職概論.....149
教育課程論.....150
教育方法論.....151
道徳教育指導論.....152
特別活動論.....153
生徒指導論.....154
教育相談.....155
教職実践演習.....156
養護実習Ⅰ.....158
養護実習Ⅱ.....160
学校保健.....162
養護概説.....163
健康相談活動.....164
看護実習.....165
体育Ⅰ.....167
体育Ⅱ.....168
体育Ⅲ.....169
体育Ⅳ.....170

科目名	**英語　～速読演習～**
担当教員	大東俊一
科目コード	１９０１Ｔ
科目区分	基礎科目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	グローバル化した現代社会においては、英語はさまざまな情報を入手するための重要な手段である。本講では、比較的やさしい現代の英文を素材とし、練習問題をこなすことにより、速読能力を養成する。
【キーワード】	英文速読／現代英語／語彙力養成／リスニング／語法・文法
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　Falling in Love 本文の読解と練習問題 第２章　An American Breakfast in Kyoto 本文の読解と練習問題 第３章　You are the Sunshine of My Life 本文の読解と練習問題 第４章　Friends are Important 本文の読解と練習問題 第５章　Hair and Your Personality 本文の読解と練習問題 第６章　The Tree of Life 本文の読解と練習問題 第７章　Fashion Expresses Your Identity 本文の読解と練習問題 第８章　Peace is Beautifu 本文の読解と練習問題 第９章　Candles in the Dark 本文の読解と練習問題 第10章　Eating Health 本文の読解と練習問題 第11章　Listen to the Little Voice 本文の読解と練習問題 第12章　Everybody Needs a Hero 本文の読解と練習問題 第13章　A Beautiful Letter 本文の読解と練習問題 第14章　Follow Your Dream 本文の読解と練習問題 第15章　English：An Investment for Your Future 本文の読解と練習問題 〈アドバイス〉 本文の英文を段落を意識して読み通し、段落ごとに内容を理解して読み進んでください。
【使用教材】	■テキスト：J. McConnell ／武田修一『Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary（速読と TOEIC テストボキャブラリー）』成美堂
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 英文を速やかに読むスキルを習得することができる。 2. 英文の大意を把握することができる。 3. 現代英語の語彙を習得することができる。 4. 英語の学修上、重要な単語の語法を習得することができる。 5. テキストに付属するＣＤにより、リスニングの能力を養成することができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**論文の書き方**		
担当教員	岡野幸江		
科目コード	１９０４Ｓ		
科目区分	基 礎 科 目		
単位数	スクーリング履修：１単位		
テキスト履修グループ	－		
【教育目標】	わたしたちは日常生活のさまざまな場面で文章を書くことを要求されます。そこでこの授業では、文章を書くに あたって基本となる事項について学びます。論題の設定から情報の収集と整理、論文の構成や論理の展開など、 論の構想から執筆にいたるまでの方法について学修することを目的とします。また、明晰な文書を書くための表現や表記の工夫なども合わせて学修します。		
【キーワード】	論題設定／情報収集／情報整理／文章構成／明晰な表現		
【テキストの内容及びアドバイス】	1. 文章を書くにあたっては、文章の目的にあったスタイルに則って書くことが大切ですし、スタイルを身につけると案 外楽に書くことができます。 2. 文章は、書き方をいくら学んでも、実際に書いてみなければ上達しません。そこでこの授業では、書き方についての 理論的学修と同時に実際に文章を書く実習を行います。 3. まず、苦手意識を捨て、書くことに慣れていくことが大切です。		
【使用教材】	■テキスト：特に設けず、スクーリング時に資料を配布します。『卒業研究履修の手引き』を持参してください。 ■参 考 書 ：大本泉ほか『日本語表現　演習と発展』(明治書院、2011 年、¥1,400 円) 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会、2002 年、¥1,050) などです。ただし、持参して授業に臨まなければならないわけではありません。		
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 文章に書かれている事実をしっかりと把握できる。 2. 文章の論旨（主題）を理解しまとめることができる。 3. 自分の考えをまとめてしっかりと書ける。 4. わかりやすい明晰な文章が書ける。		
【評価基準】	評価は、提出物の内容と出席率を総合して行います。具体的には、出席率 100%で５０点、提出物最高点５０点の計１００点 となります。		
【スクーリングにおける事前学修】	短い文章を読んで、①内容として何が書かれているか（要約）、②そこで一番言いたいことは何か（主題）、③それに対して自分はどう思うか（批評・感想）、ということについてそれぞれ考えてみてください。できれば、それらをメモのように してまとめてみることを勧めます。そうすることによって文章力がつきます。		
【スクーリングでの講義内容】	学修内容		キーワード（重要語句）
	1-2 時限	テーマの設定を行うにあたってはどのようなことを考えたらよいか、また資料収集に当たってはどのようなことに注意すべきかなどを学びます。それに続いて、文章の構成、文章の展開などスタイルについても学びます。実習としては、「章立て」の仕方を練習します。	テーマ設定、資料収集、文章構成、 構想メモ、章立て
	3-4 時限	文章の構成や文章の展開について学びながら、テキスト批評の方法を 使って要約の仕方や主題の把握方法などを学び、実際に制限字数内でまとめる実践を行います。	テキスト批評、主題把握、制限字数
	5-6 時限	表現の方法や表記の方法などについて具体的な事例を取上げながら学び ます。実習では、タイトル（表題）のつけ方、キーワードの取り出し方、 文献の記述方法、推敲の仕方などを実践します。	タイトル、文献記述、推敲
	課題	小論文をまとめます。課題文をもとに実際に執筆してください。なお、提出した小論文については、後日、添削指導を行って返却します。	スクーリング終了後、１０日以内に小論文を作成し提出してもらいます
【連絡事項】			

科目名	**情報処理演習**
担当教員	高柳良太
科目コード	１９０８Ｓ
科目区分	基礎科目
単位数	スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	
【教育目標】	大学生活における情報活用、および学校教諭として勤務するに当たり、最低限必要と考えられるコンピュータリテラシーの習得を目標とする。本学のポータルサイト（ＵＨＡＳ）の基本的な説明、効率的な文書作成方法、基本的なデータ入力や分析方法、プレゼンテーションの技法について、基本技術の習熟を目標とする。
【キーワード】	情報モラル／文書作成／データ処理／プレゼンテーション
【テキストの内容及びアドバイス】	全時間、本学コンピュータ教室での実習授業となる。大学でのリポート作成や発表、卒業研究、および学校現場での授業資料作成や成績管理などを念頭に、基本的な内容について説明する。この授業の内容で十分とはいわないが、特にデータ処理やプレゼンテーションの基本を知りたい人は、履修を勧める。
【使用教材】	■テキスト：授業時に資料を配付する ■参考書：授業時に資料を配付する
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. ネットワークやPCを使用する際の情報モラルについて理解する 2. ページ番号や目次など、書式の定められた文書を作成することができる 3. 基本的なデータ入力とその処理を行うことができる 4. 発表用スライドを作成し、プレゼンテーションを行うことができる
【評価基準】	出席点、提出された課題の評価、最終時限に実施する試験課題の成績をあわせた総合評価とし、６０点以上を合格とする。
【スクーリングにおける事前学修】	全時間PC を使用した実習授業となり、基本的な文字入力や操作については説明を行わない。PC に触れるのがほぼ初めての人、文字入力に不安がある人は、事前に自分で練習をしておくこと。それらに対する授業内でのフォローは行わない。 試験以外の授業時間内の課題については、すべてUHAS@Myキャンパスの提出ページへの提出となる。一度もUHASにログインしたことが無い人、UHAS のID、パスワードがわからない人は、事前に自宅等でUHAS にログインしログイン方法を確認しておくこと。 なお、本学のコンピュータ教室は Windows 環境であるので、普段 Macintosh を使用している人は留意すること。
【スクーリングでの講義内容】	1. インターネット、UHAS@Myキャンパスの基礎知識とセキュリティ 2. 文書作成の基本 3. 書式指定のある文書作成 4. 図形描画・図形挿入のある文書作成 5. 表計算ソフト（Excel）の基本　データ入力と書式設定 6. 四則演算と基本的な関数 7. グラフ作成 8. 表・グラフのWord への貼り付け 9. 条件判断、条件付き書式 10. ピボットテーブル 11. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本 12. 発表用プレゼンテーションの作成　1 13. 発表用プレゼンテーションの作成　2 14. プレゼンテーションの実際（学生による発表） 15. 試験

科目名	**人間科学概論**
担当教員	テキスト履修：　　鈴木はる江 スクーリング履修：　鈴木はる江　　鍵谷方子
科目コード	２１０１Ｔ／２１０１Ｓ
科目区分	コア科目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	人間は地球上で最も進化した生物であり、言語や文字を獲得し哲学、科学、宗教、芸術等高度な文化を創り上げてきた。一方、人間は未だに争いの本能を持ち続けている。 そのような人間の心と身体の特徴を科学的に学び、さらに人間の創り上げてきた文化についても学び、それによって人間の素晴らしさ、感性の豊かさ、理性、思考力、創造性、愛などを理解しながら、他の人間とともに協調性をもちながら生きることの意義を考える。
【キーワード】	人間の特徴／脳とこころ／脳と身体の相互作用／文化の特徴
【テキストの内容及びアドバイス】	**第1 章　人間の誕生と社会** 1. 「人類の誕生」では、人間が地球上に生まれ進化してきた過程を理解し、人間が自然や人以外の生物とどのように関わってきたかについて学ぶ。 2. 「ヒトの一生」では、新しい個体が生まれ、成長・成熟し、老化していく過程について学ぶ。 3. 「個人と集団と社会」では、人はどのような社会を形成してきたかを学び、人間のもつ尊厳、他人と共生して生きる意義を理解する。 **第2 章　人間の「心」と「脳」・「身体」** 1. 「心を創り出す脳」では、心と脳の関係に関する考え方の変遷を理解し、脳を形成している神経細胞（ニューロン）の性質や働き、脳の発生過程など、脳の基本的な事項を学ぶ。 2. 「脳が生み出す心」では、人間の様々な心の在りようと心を創り出す脳の仕組みについて詳しく学ぶ。すなわち感覚と認識、運動の調節、言語、覚醒と睡眠、知能と思考、本能と情動、性格、学習と記憶などについて学ぶ。 3. 「心と脳を支える身体の営み」では、脳が正常に働くために重要な呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、免疫系などの身体機能の特徴と役割について学ぶ。 4. 「心と身体機能との相互関係」では、心と身体が相互に関係しながら生涯に渡り発達していく過程と、ストレスの際に心と身体はどのように反応し、相互に影響を及ぼしあっているかについて学ぶ。 **第3 章　人間の創り出した文化** 1. 「文化とは」では、文化の特徴となぜ人間のみが壮大な文化を創り出すことができたのか学ぶ。 2. 「コミュニケーション」では、文化の伝承、蓄積、発展に重要なコミュニケーションの役割を学ぶ。 3. 「芸術」 4. 「宗教、思想と哲学」 5. 「国家と社会」 6. 「科学」の各項では、各文化の特徴とそれらがどのように発展し引き継がれてきたのかを学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：佐藤昭夫、佐藤優子『人間科学概論』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 人類の誕生と進化の歴史と、他の動物には見られない人間の特異性について理解している。 2. 人間の脳の構造の概要、神経細胞の特徴の基本事項を説明できる。 3. 脳の働きについて、感覚と認識、運動調節、言語、覚醒・睡眠、本能と情動、学習と記憶など、主な働きを理解し、要点を説明できる。 4. 脳の働きを支えている各種身体機能の役割について、要点を説明できる。 5. 心と身体の生涯発達の過程、ストレスの仕組みについて基本事項を理解している。 6. 文化の歴史上、重要な出来事や人物の業績について、概要を理解している。
【評価基準】	**【テキスト履修】** 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 **【スクーリング履修】** 講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。 総合評価で６０点以上を合格とする。
【スクーリングにおける事前学修】	人間科学概論は、人間の心と身体と人間の創り出した文化について、科学的に統合的・学際的に理解する学問である。心、身体、文化の各分野のより深い知識は、他の専門基礎

<table>
<tr><td></td><td>科目や分野別科目で学んでいくので、この科目では、人類誕生の歴史、人間の脳の働きの特徴、人間の創り出した文化を、大きな流れで理解することが望まれる。
　スクーリングでは人間理解のための重要事項として、人類の特徴、脳の働き、身体の働き、脳と身体の相互作用などに重点をおいて講義していく。この分野の重要用語を大まかに予習しておくと、講義への理解がより深まるであろう。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1－2 時限</td><td>人類誕生の歴史、社会的生物としての人間の特徴を学ぶ。</td><td>進化、人類の特徴、適応</td></tr>
<tr><td>3－4 時限</td><td>脳の基本構造と、脳を構成する神経細胞＝ニューロン、神経回路を形成するシナプスの特徴について学ぶ。</td><td>脳、ニューロン、シナプス、神経伝達物質、グリア</td></tr>
<tr><td>5－9 時限</td><td>感覚と認識、運動、言語、情動・感情、本能、覚醒・睡眠、学習・記憶などを取り上げて、こころを生み出す脳の仕組みを学ぶ。</td><td>感覚、運動、情動、学習</td></tr>
<tr><td>10－12 時限</td><td>脳が呼吸器系、循環器系、内分泌系、免疫系などの身体機能を調節し、これら身体機能が脳を支えるという、脳と身体の相互作用を学ぶ。</td><td>呼吸、循環、内分泌、免疫</td></tr>
<tr><td>13－14 時限</td><td>ストレス時の心と身体機能の相互作用の仕組みについて学ぶ。人間のみが文化を形成できた理由と、芸術を例に文化の特徴を学ぶ。</td><td>ストレス、心身相関、コミュニケーション、言語、芸術</td></tr>
<tr><td>15 時限</td><td>まとめと試験</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

科目名	**行動科学概論**		
担当教員	矢吹弘子　　島田凉子　　筒井末春(インターネット授業のみ)		
科目コード	２１０２Ｔ／２１０２Ｓ		
科目区分	コ ア 科 目		
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：２単位		
テキスト履修グループ	B		
【教育目標】	行動科学は、心理学、社会学から生理学、精神医学、生物学、統計学、情報工学などの諸科学を網羅した手法で人間の行動を研究する学問体系である。これら幅広い視野からストレス研究、健康心理研究を軸にして人間行動の原理を学んでいく。		
【キーワード】	人間行動／心理／脳生理／ストレス／行動医学		
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　人間理解としての心理学の歩みと現代の心理学（行動科学）に要求されているもの。 第２章　脳生理、生物リズム、ストレスと自律神経、神経内分泌学など心を支える行動の生物学的側面。 第３章　個人の行動を織りなす感情、人格、意識－無意識、それらの変容について。 第４章　ライフサイクルと発達心理の概念について。 第５章　コミュニケーションや対人行動における問題について。 第６章　社会的な問題行動と保健行動について。 第７章　行動医学的アプローチと疾病について。 第８章　認知行動変容を中心に行動療法の解説。		
【使用教材】	■テキスト：筒井末春／大谷純『行動科学概論』（本学オリジナルテキスト）		
【学生が達成すべき目標(行動目標として)】	1. 行動科学について説明できる。 2. 人間行動について議論することができる。 3. 行動医学について要点を説明できる。 4. 自分の行動特性について洞察することができる。 5. 社会的問題行動について議論できる。		
【評価基準】	【テキスト履修】 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 【スクーリング履修】 講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。 総合評価で６０点以上を合格とする。		
【スクーリングにおける事前学修】	テキストに沿って各章の概要を理解しておく。 行動目標を念頭に置いて予習を進める。		
【スクーリングでの講義内容】	学修内容		キーワード（重要語句）
	1-3 時限	心理学について概説し、脳機能と生物リズムについて学び、心身のストレスと行動について理解を深める。	心理学、研究法、脳生理、生物リズム、意識、ストレス、自律神経
	4－6 時限	個人行動の理解のための要点を学修する。感情や気分とその障害、パーソナリティの評定、精神力動について理解を深める。ライフサイクルと発達心理について学ぶ。	感情､気分､パーソナリティ､力動、理論、発達課題、思春期、中年期、高年期
	7－9 時限	行動の形成と変容について学ぶ。学習理論と行動療法についてケースを交えながら学修する。	学習（行動）理論、行動変容、認知行動療法
	10－14 時限	対人行動、社会行動、社会的問題行動について学ぶ。保健行動とヘルスケアの視点を交えながら、認知的行動変容を軸にした行動医学的アプローチについて理解を深める。	対人行動、社会行動、保健行動、健康習慣、行動医学、認知変容
	15 時限	試験	

科目名	**生命科学概論**
担当教員	庄子和夫　　村上志津子
科目コード	２１０３T/２１０３S
科目区分	コ ア 科 目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	A
【教育目標】	人間を生物学的存在と考える場合、われわれ自身が人間であり、生物学や医学は事実に基づいた学問であるとはいえ、人間が考えだした多くのアイデアによって成り立っているわけなので、人間を客観的にとらえることは困難な面があるのも事実である。「人間とは何か」を理解するために、この科目では、はじめに「人間の生命科学」として生物一般に成り立つ法則がどこまで人間に適用できるか、生物学的に見た人間の特徴とはどういうところにあるのかを考える。人間には生物学的存在としての面ばかりでなく、精神的存在、社会的存在としての面とが共存しており、「人間の生命科学」は人文科学を含む総合科学としても考える必要がある。
【キーワード】	シアノバクテリア／ミトコンドリアのＤＮＡ／化石人類／ＥＳ細胞／アポトーシス／テロメア／ＡＴＰ／ＳＲＹ遺伝子／アンドロゲン
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**では、生命とは何か、生命体の特徴。分子から最初の細胞に至る過程にはどのような出来事があったか。膜が最初の細胞を形づくった。遺伝情報は最初は RNA によっていた。これに DNA が取って代わったなど。 細菌のような核のない原核細胞から、核のある真核細胞へ。シアノバクテリアの役割や、嫌気性から好気性への過程で好気性細菌であったミトコンドリアとの共生の意味などを理解する。 **第２章**では、600 万年以上前にゴリラ、チンパンジーとの共通な祖先と分かれてから、人類は進化の過程でどのような道をたどって現在に至ったかを最近の化石人類学と分子生物学の知見から説明する。ミトコンリア・イブや Y 染色体アダムとは。 **第３章**では、ヒトの身体の基本構造について、体の構成最小単位は細胞であるが、機能的最小単位は組織であることを学ぶ。受精卵からの発生過程で、分化や胚葉形成の仕組み、最近問題になっている胚性幹細胞（ＥＳ細胞）や万能細胞について学ぶ。 **第４章**では、細胞の基本構造、細胞小器官、特に細胞内膜系細胞小器官の機能の理解。細胞の寿命と個体の寿命、細胞の分裂寿命と老化について学び、細胞死についてはネクローシスとアポトーシスの二つの様式があることを学ぶ。 **第５章**では生命現象の生化学的な理解。個体を維持や活動に必要なエネルギーが細胞内の生化学反応によって作られる仕組みを学ぶ。 **第６章**では、遺伝子の本体は DNA であること、遺伝子の暗号は細胞内で合成するタンパク質のためのみであること、発現の仕組みやタンパク質の合成の仕方などを学ぶ。細菌からヒトに至る現存の生物の基本的な遺伝の仕組みは皆共通であること。ヒトのゲノム計画でヒトの遺伝子は約 3 万個あることが分かり、それは全体のゲノムの 2-3%にすぎないので、今まで何も機能していないと考えられていたイントロンの DNA の役割が注目されるようになった。 **第７章**では、遺伝子発現がどのように調節されているかを学ぶ。特にヒトゲノム計画が終了してから遺伝子発現のスイッチの ON は OFF によって調節されているというエピジェネティクスという領域が注目を集めている。 **第８章**では、ヒトの生命の誕生について発生に伴う形態変化（受精卵－胚子－胎児－新生児）を学ぶ。生命の発生の医学的な定義、胎児の命と法律、医療技術の進歩によって起こってくる生命倫理問題などを考える。受精卵はいつから人間かなど。 **第９と１０と１１章**では、男と女の体と脳はどのようにして出来上がっていくかについて、そのメカニズムを学ぶ。ＳＲＹ遺伝子、アンドロゲン、抗ミュラー管ホルモンなどが性分化のキーワードである。 なおテキストを学修するに当たっては、章の始めの「学習のねらい」を読んでから必ず始めること。また、章が終わったら再び「学習のねらい」を読んで知識をチェックすること。
【使用教材】	■テキスト：新井康允『生命科学概論』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 生命体の初期の段階でシアノバクテリアとミトコンドリアについてその意義を述べることが出来ること。 2. 化石人類から現代人までの進化の過程を説明できること。 3. 組織が臓器の機能的単位であることを説明できる。 4. アポトーシスやテロメアについて説明できる。 5. 遺伝子発現の調節について説明できること。 6. 体と脳の性分化の仕組みについて説明できること。

<table>
<tr><td>【評価基準】</td><td colspan="3">【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">【スクーリングでの講義内容】</td><td colspan="2">学修内容</td><td>キーワード（重要語句）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1 日目</td><td>生命とは、分子から最初の細胞まで</td><td>生命の起源、原核細胞と真核細胞、多細胞生物</td></tr>
<tr><td>人類の進化の道すじ
細胞と組織の基本構造、細胞の寿命
細胞内の生化学反応</td><td>化石人類、分子生物学、
細胞の構造と機能
酵素、ＡＴＰ、解糖
ＴＣＡｻｲｸﾙ、ＤＮＡ、ＲＮＡ</td></tr>
<tr><td>2 日目</td><td>遺伝子の本体と遺伝の仕組み
ヒトの性と生殖
ヒトの生命の誕生
ヒトの性と性分化</td><td>受精
ヒトの生命の発生の時期はいつか
生命倫理の問題点
幹細胞、ＥＳ細胞、ｉＰＳ細胞
男と女の体はどのようにして出来上がるか
ＳＲＹ、アンドロゲン、抗ミュラー管ホルモン</td></tr>
<tr><td>3 日目</td><td>脳の性分化
テスト1−3 日の講義内容について</td><td>視床下部、アンドロゲン</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>【連絡事項】</td><td colspan="3">テキストで分からないことがあったら、遠慮なく質問すること。
スクーリングには忘れずにテキストを持参すること。</td></tr>
</table>

科目名	**文明科学概論**
担当教員	テキスト履修：青木　清／加藤尚武／菊地京子 スクーリング履修：青木　清／大東俊一／加藤尚武／菊地京子
科目コード	２１０５T/２１０５S
科目区分	コア科目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	A
【教育目標】	本学では、人間の理解を、「こころ」「からだ」「文化」の領域から学際的、総合的に追求していくことを目標にしているが、その「文化」の領域の核をなすのがこの「文明科学概論」である。 21世紀に入って、時代は急激な変化を見せ、科学・社会・人間すべてに質的な転換が求められている。そのため、人間とは何かを問う時に、身体面、精神面とともに文化面からの追求が欠かせない。特に、現代を生きる人間の「いのち」や「存在」を考える時、私たち人間のたどった文化・文明に焦点を当てることが重要であろう。そこで「文明科学概論」では、人間がこれまでに形作ってきた古代から現代までの文化・文明を見渡すとともに、ヒトが人間へと進化してきた過程や人間の心と文化の形成に欠かせない宗教について解説しながら、真の意味で人間とは何かという問いを広く考えていく。
【キーワード】	比較文明／比較宗教／人間の特異性／現代日本／環境適応／環境との共生／異文化理解
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　文明誕生への序章―ヒトの脳と行動の進化（青木清） 20 世紀の後半に発展した生命科学は、人間とは何かという問いに対して様々な材料を与えてくれた。そのひとつに、植物であっても動物であっても、生命現象は分子や細胞のレベルでみると共通の仕組みを持っているということがある。一方、人類と他の生物との共通性が理解できたとしても、総体としての人間の他の生物との違い―人間の特殊性―は何か、という課題に対する答えはまだ出ていない。第Ⅰ章では、この人間の特殊性とは何かという課題に関して、生命科学や自然人類学、行動生物学などからわかってきた人間の自然科学的理解と文化形成の生物的基盤について考える。 1. 人間の自然科学的理解／ 2. ヒトの脳と行動の変化／ 3. 脳の容量の変化／ 4. 石器の種類／ 5. チンパンジーの道具使用／ 6. 生物進化／ 7. 人間の環境と進化／ 8. ヒトと生物との共生／ 9. ヒトの進化／ 10. ヒトの環境適応としての文化／ 11. 動物のサブ・カルチャー（ヒトの文化に似た特徴）／ 12. ヒトの音声言語と他の霊長類の音声伝達の差／ 13. トリの歌と人間の言語習得／ 14. 人間と動物とのちがい／ 15. 人間と動物の感覚受容期間／ 16. 人間と動物との連続性と不連続性 第２章　文化の理解（菊地京子） 地球上に人類が誕生して今日に至るまでの歴史のなかで、異文化に属する人間同士の、あるいは社会集団間の緊張・敵対関係の大半は、相互に異なる文化への尊重が欠如していたことに起因する場合が少なくなかった。第Ⅱ章では、グローバル化の進展とともに異文化間の遭遇の機会が増大する国際社会のなかで異文化をもつ者同士の共存共栄を達成するための条件として欠かすことのできない「文化の理解」について、文化人類学の観点から考察する。 1.文化とは何か／2.異文化の認識と異文化理解への対応／3.世界観の諸相／4.人間とは何か／5.現代文明社会における人間 第３章　宗教と人間―人間に宗教は必要か（ひろさちや） 宗教を「人間らしい生き方を教えるもの」と定義し、それに基づいて、世界3 大宗教および主要な民族宗教について考察し、それぞれの宗教の特徴を理解する。そして、宗教と道徳・倫理という似て非なるものについて、それぞれのあり方と違いを学ぶとともに、宗教と科学の対立について、両者の成立の歴史を通して、その理由を考える。 最後に、病気になったときにどう生きるべきかという問いについて、それぞれの宗教ではどう教えるかを考察しながら、宗教という生き方の指針をもたない現代日本の社会のあり方に警鐘を鳴らす。 1. 宗教とは何か？／ 2. 宗教と道徳・倫理／ 3. 宗教と科学・医学／ 4. 現代日本人と宗教／参考：世界宗教の基礎知識（キリスト教，イスラム教，仏教，ヒンドゥー教，儒教，神道） 第４章　現代文明の諸問題―技術文明の高度化（加藤尚武） ２０世紀の後半には世界の文化史のなかでも最大といえるような変化が起こった。第１に遺伝子への操作が可能になり、人工の生物も作られるようになった。第２に、自然全体が歴史性という特徴をもち、自然は同一の構造の永遠の反復であるという見方ができなくなった。第3 に、原子力の開発、地球の温暖化、臓器移植、遺伝子操作など自然の根底にある同一性を破壊する人工的な営為が始まっている。第4 に、個人が大量の情

<table>
<tr><td></td><td>報を操作できるようになったが、情報の質を高める自動的な調整装置は存在しないので、大量の粗悪情報が氾濫している。この時代をどのように生きたらいいのかを考える。
1. 20～21 世紀の技術文明／ 2. 原子力エネルギーの開発／ 3. 情報工学の展開／ 4. 生命を操作する技術／ 5. 地球の温暖化／6. 資源の大量消費</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：青木清、菊地京子、ひろさちや、大東俊一、加藤尚武『文明科学概論』（本学オリジナル）</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>1. 世界には、多様な文化、文明のあることを歴史的、実証的に理解している。
2. 時代による文化や生活の変化について、具体的な説明ができる。
3. 時代とともに変化する社会や文化に対して、変わらない価値や考え方、存在のあることについて説明ができる。
4. ヒトと他の生物との共通性と、人間の特殊性について理解している。
5. 人間に特有な文化の形成と、ヒトの進化との関連について理解している。
6. 世界の宗教とその特徴について理解している。
7. 自然と倫理学や科学技術との関連性について説明ができる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて60 点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で 60 点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>この文明科学概論は、テキストの目次をみるとわかるように、非常に幅広い視点から多岐にわたる要素によって構成されている。事前学習に限らず、スクーリングを受けた後でも、テキストの各章末尾に列記された「参考文献」にも目を通しておくことをお勧めしたい。すべてを読むことは必要ないが、興味に従って文献を選び目を通すことで、現代社会に生きる人間の理解に役立つはずである。そして、講義の最中、または講義の終了後に多くの質問を期待したい。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1-3
時限
【担当】
青木清</td><td>この1～3 時限では、人間の進化と文化について神経行動学や自然人類学、行動生態学の面から考えていく。
人間の社会の最小単位は家族であり、その家族が生息地の環境にあった社会を作り、そこに文化が形成される。このような視点に立ち、人間の進化と文化の形成について見ていきたい。まず「生命の進化からみたヒト」とは何かということを考える。人間は生物の進化として一番新しく出現した動物の一種である。さらに地球上に生存するあらゆる生物のヒトの生命の連続性とヒトの生物学的な身体と脳の特徴を理解する。次に「ヒトの身体的特徴と脳の発達」という点から、ヒトの脳の問題を中心に考えていく。特に大脳の発達は創造・意欲・知識だけでなく複雑な言語を話すようになり、個体間のコミュニケーションが充実するところとなり、知能を増すとともに文化を持つようになった点を解説する。そこで「ヒトの文化」について言及する。ヒトの身体と脳の機能の発達からもたらされたヒト特有の文化とは何かについて考える。そしてヒトの理解にとって重要な「人間の自然科学的な理解」ということを考えたい。科学は、20世紀に大きく飛躍して物質から生命そして精神へと発展している。最後に、人間の特徴である精神について理解するために脳科学、行動生物学、社会科学、文化人類学などの面から得られた知識の統合が重要となることについて触れる。</td><td>・人間の自然科学的理解
・脳の進化
・ヒトの進化
・道具の使用
・生物進化
・環境と進化
・生物との共生
・動物のサブ・カルチャー
・音声言語と音声伝達
・人間の言語習得
・人間の特異性
・感覚受容期間
・動物との連続性と不連続性</td></tr>
<tr><td>4-6
時限
【担当】
大東俊一</td><td>この時限では、テキストでの学修を踏まえ、宗教とは何かを考えつつ、日本人の宗教の在り方を明らかにしていく。
まず、「神の存在を信じるか」、「死後の世界</td><td>・宗教観
・キリスト教
・科学革命
・近代科学</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

			の存在を信じるか」といった各種の調査結果を参照しながら、宗教の類型と日本人の精神的風土の特性を検討する。そして、日本人は無宗教であると言われているが、そのような主張の根拠を考える。 次に、キリスト教は科学を含め西欧近代文明を支える精神的支柱であると言われているが、その宗教的な特性を考察する。その際、科学とキリスト教との歴史的なかかわりを手がかりとする。 さらに、日本人の有する宗教について、複眼的な視点から検討する。日本はユーラシア大陸の東方海上に位置し、大陸より仏教、儒教をはじめ様々な文物が流入したが、日本固有と思われるような宗教も存在する。私たちの日常生活に着目しながら、日本人の宗教の特性を検討していく。	・超越神 ・キリスト教の人間観 ・仏教 ・儒教 ・年中行事 ・死生観 ・他界観 ・固有信仰 ・自然崇拝 ・祖霊信仰 ・民俗宗教
		7-9 時限 【担当】 加藤尚武	まず、20～21世紀の技術文明の発展と限界について歴史的な視点と現状から考察する。また、高度技術文明の成立について従来の教育内容を検討する必要もある。 さて、21世紀はエネルギー問題と環境問題が大きなテーマだが、原子力エネルギー開発、地球の温暖化、環境問題は、現在世代のみならず、次世代のことを十分に考慮にいれなければならない。「世代間倫理」について学習する。また臓器移植、遺伝子操作など、人類が今までに直面したことのない倫理的問題であることを確認する。 さらに、個人と個人が交換することのできる情報量が飛躍的に多くなった高度情報社会においては、情報の質を高めるために、情報倫理の必要性を考える。この時代をどのように生きたらいいのか、みなさんと考えていきたい。	・産業革命 ・持続可能性 ・環境教育 ・現代世代、未来世代 ・職業倫理 ・テクノ・ファシズム ・説明責任 ・代理同意 ・高レベル放射性廃棄物 ・世代間倫理 ・他者危害、自己危害 ・ホイッスル・ブローイング ・遺伝子治療 ・サスティナビリティ
		10-12 時限 【担当】 菊地京子	まず、文化とは何かについて考える。文化についての定義と文化の類型を学ぶ。さらに文化と文明、文明科学についての関係も明らかにしよう。 次に異文化の認識と異文化への対応について考える。文化は生産様式別に分類されるが、それぞれの特徴を押さえる。そして文化の違いによって偏見や差別が生み出された経緯を歴史的に解明し、それらを解消するための方法や考え方を探る。そのために自民族中心主義と文化相対主義という２つの文化の見方を押さえる。そして異文化への対応には、それぞれの文化の違いを楽しみ、歩み寄りが必要であることを学ぶ。 また、異文化理解のカギを握る世界観には言語の研究が欠かせない。さらに世界観を体現した儀礼についても触れたい。次に人間とは何かを考えるときに、個人としての人間、家族・親族のなかの人間という観点から解明する。 最後に現代文明社会における人間を考察し、異文化間の相互理解と異文化の共存共栄の重要性を確認する。	・技術の文化、社会の文化、価値の文化 ・文化、文明、文明科学 ・採集狩猟文化、遊牧文化、農耕文化、産業の文化 ・自民族中心主義、文化相対主義 ・構造主義 ・言語学 ・儀式、儀礼 ・ジェンダー ・定位家族、生殖家族 ・核家族、直系家族、合同家族、複婚家族 ・単系親族家族、非単系親族組織 ・グローバリゼーション ・パワーポリテックス
		13-14 時限 【担当】	スクーリングの最終日は、これまでの講義の総まとめを行う。その中でひとつに人間の行動も身体と同じように遺伝するという人間行動の	

	青木清	生物学の考え方をきっかけに、文化や文明を考察する。当然、哲学や宗教、芸術や言語といった文化的営為にも触れていくことになるだろうし、その結果、現在の科学技術についても広くみる必要が出てこよう。 最後に、人間が創り出し長い間育んできた叡知の総称である「文化」「文明」そして私たちが形づくってきた「社会」と、本学の建学の精神に刻まれた「こころとからだの相関性」との関連について「文明科学概論」としてどう考え、どう実生活に活かしていくのかを皆さんと考えていきたい。	
	15 時限	テスト	

科目名	**心身健康科学概論** ★正科生は 3・4 年生のみ受講可。 テキスト履修は必修（※ 2008 年度以前入学生は選択）
担当教員	久住眞理　　久住　武　　鈴木はる江　　鍵谷方子　　高原皓全
科目コード	２２１０Ｔ／２２１１Ｓ
科目区分	統 合 科 目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	心身健康科学とは、人間が「よりよく生きる」ための知恵を創りだすために、「心身相関」をキーコンセプトとして、「学際的・統合的」なアプローチによって、「健康科学」の領域を専門的に研究しようとする領域です。新しい学問領域ですが、本学の大学院課程（心身健康科学専攻）の中心に位置する研究領域でもあり、皆さんが学ぶ人間総合科学とも密接なつながりを持っています。 人間は有史以来、「よりよく生きる」ことを求めて進化、発展し、様々な文明を築いてきました。とりわけ１９世紀以降に急速に進展した科学技術は、物質に関する法則性を見事に解き明かし、２０世紀以降の物質文明や生命科学の礎となりました。今日、わたしたちはその恩恵を受けて、遠い土地に生活する方々と瞬時に情報を交換できることから、その情報をもとにインフルエンザなどの予防接種を受けることができます。また、最先端のテクノロジーに囲まれ、お腹一杯の食事を毎日摂ることができる環境で暮らしています。しかし一方で、私たちは常に漠とした不安を抱いているのも事実であり、社会には閉塞感が覆っています。その問題は一個人の問題に止まらず、政治や経済状況、地球環境問題にまで至っています。こうした現状を背景として、科学とその応用領域にも質的な転換が求められるようになりました。心身健康科学は、まさにこのような時代の要請に応えるために誕生した学問です。本教科を通して人間総合科学の発展領域となる心身健康科学の考え方を学習して下さい。
【キーワード】	心身健康科学／心身相関／よりよく生きる／統合科学
【テキストの内容及びアドバイス】	心身健康科学を理解する上で重要となる一つ目のポイントは、本学問が「こころ」と「からだ」の有機的関連性（心身相関）の解明を中心軸に据えている点です。私たちは「からだ」に何らかのトラブルを抱えたとしても、「こころ」までこの問題を波及させてはならないでしょう。逆に「こころ」が病んでいるからといって、「からだ」まで傷めることがあってはなりません。心身相関の法則性を科学的・客観的に理解して、自らの意志によって心身両面の調節をとることが、この時代に「より賢く生きる」ためには必要となります。 次のポイントは、心身健康科学が「統合科学」であるという点です。人類が抱える諸問題を解決するアプローチとしては、高度に細分化・専門化された学問や研究の諸分野を俯瞰統合的に架橋して、人間の生命の本質に迫ることがなによりも求められます。ライフサイエンスや脳科学などの最先端の学際領域も含めて、人間諸科学を統合する視点がこれからは重要となります。 三つ目のポイントとして、心身健康科学の知見は人々の「よりよい生」に資することが必要です。健康教育やヘルスプロ モーションなどを通して、学問の知識が「生活者の知恵」となり、学問成果を広く生活レベルに浸透させることが今後求められます。これによって、私たちは自らの人生をプロモートし、明日を生きる知恵と力を身につけることができるようになるのです。 第１章　心身健康科学がめざすもの 第２章　心身相関の基礎 第３章　心身の相関性を理解する 第４章　心身健康科学の展開
【使用教材】	■テキスト：久住眞理監修『心身健康科学概論』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	・心身健康科学の概念と、心身相関のメカニズムを理解する。 ・自分の人生の Knowledge for well-being（よりよく生きる知恵）を見出し、さらに創造して、この知恵を実生活や社会 で活用することの端緒を開くこと。
【評価基準】	【テキスト履修】 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 【スクーリング履修】 講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で６０点以上を合格とする。
【スクーリングにおける事前学修】	テキストを読み、心身健康科学の特徴と、心身相関の基礎を理解しておく。

【スクーリングでの講義内容】	テキストに沿った内容にトピックスを交えながら授業を構成する。担当教員によるオムニバス形式で実施する。		
	学修内容		キーワード（重要語句）
	１時限	心身健康科学がめざすもの	心身健康科学の特徴・手法・領域
	2-3 時限	心身相関の基礎	脳・こころと身体の相互作用、脳の発生と脳の成長、免疫学、栄養と食
	4-6 時限	心身の相関性を理解する	脳とこころの健康、乳幼児のこころとからだ、老化とサクセスフルエイジング、女性のライフサイクルと心身の健康、メンタルヘルスマネジメント、ヘルスプロモーション、生命文化
	７時限	心身健康科学の展開	ディスカッション、心身健康科学の日常生活への応用
	８時限	心身健康科学の展望 まとめ・試験	

<table>
<tr><td>科目名</td><td>人間科学論　～人間と環境～</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>鍵谷方子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>２２１２Ｔ／２２１３Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>コア科目</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：２単位</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td>Ａ</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>高度に発達した文明社会に生まれ育つ現代の人間は豊かな文明を享受できる一方で、急速に変化する自然や社会環境に適応することを迫られている。人間科学論では人間が長い歴史の中で自然環境や社会環境にどのように働きかけ、どのように適応してきたかについて学ぶ。さらに科学や産業が発達し、人間が活動を広げる中で、地球が大規模に破壊されつつあり、人間がそれに新たに対応している様子を学ぶ。次世代が心身ともに充実して自然と共に生を楽しむ地球環境を作るために私達は何ができるかを考える。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>地球環境と人間／心身の発達と環境／内部環境と身体の健康／社会環境と適応／持続可能な開発</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>第１章　現在人間が住んでいる地球環境は人間のみに与えられたものではなく、他の生物と共有するものである。人間と自然との関わりについて学び、人間が作った文化と適応する人間について考える。
第２章　他の生物に比べて成長の遅い人間の心身の発達に家庭や学校環境が与える影響が大きい事を学ぶ。
第３章　人間は環境の変化に適応して身体の恒常性を保つ仕組みを備えているが、その仕組みが限られていることを学ぶ。
第４章　日常の生活習慣や人間による環境汚染がもたらす疾患やその予防について考える。
第５章　地球環境を破壊することなく、文化の発展を持続するための社会システム作りについて考える。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：佐藤優子編著『人間科学論―人間と環境―』（本学オリジナルテキスト）
■参考書：佐藤優子他『生理学』医歯薬出版社</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>1．地球環境の変化と生物の進化の関連について説明できる。
2．環境の変化と人類の歴史との関連について議論できる。
3．内部環境維持機構の限界について説明できる。
4．社会環境変化と健康について議論できる。
5．持続可能な発展の考え方について説明できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>スクーリング前にテキストを読み、「人間と環境の関わり」について、理解を深めてほしい。スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>第Ⅰ章　人間と自然・文化的環境
太陽系で生物の住める唯一の天体である地球環境の生成と人間の地球環境への適応の過程を学ぶ。</td><td>地球環境、生命、酸素、水</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>人間が自然環境に働きかけて住みやすい環境を作る過程で、人間自身が発達し、感性を磨き、文化を発達させてきたことを学ぶ。</td><td>文化、生物圏、生態系</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>火や電気の利用、農耕、産業革命による都市社会の形成や情報技術社会の到来で大きく変化した新しい生活環境に、人間が影響をうけ適応していく事実を学ぶ。</td><td>農耕、産業革命、都市社会</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>第Ⅱ章　人間らしさの生涯発達に及ぼす環境の影響
人間らしさに反映される精神機能が、内的、外的環境の影響を受けて発達することを学ぶ</td><td>人間らしさ、生涯発達、前頭前野</td></tr>
<tr><td>５時限</td><td>人間の心と身体が相互に関連し合いつつ、環境の影響のもとに発達する様子を学ぶ。</td><td>愛着、環境、心身の発達</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

	6時限	人間らしさの形成に重要な乳幼児期の保育と児童期の教育に焦点を置き、保育や教育の歴史から保育や教育が社会の影響で変わり、人間発達に影響することを学ぶ	保育、教育、学校制度
	7時限	第Ⅲ章　人間の環境適応のメカニズム 身体は周囲の環境変化に常に対応し、身体にとっての最適な条件を内部に作って対応している様子を学ぶ。	ホメオスタシス、内部環境
	8時限	外部環境の影響で内部環境がずれたときに元に戻す仕組みや、影響が大きく元には戻せない場合の障害について学ぶ。	外部環境、体液
	9時限	地球の環境は昼と夜、季節などのリズムで変化する。環境リズムの変化に対する人間の適応の仕組みと、自然のリズムを人為的に乱した時の身体の対応や障害について学ぶ。	サーカディアンリズム、ウルトラディアンリズム
	10時限	第Ⅳ章　人間の健康と環境の影響 医療の発達や公衆衛生環境の改善は、身体的な健康の維持に大きく寄与した事実を学ぶ。	健康、健康寿命
	11時限	糖尿病などの生活習慣病は増加しているが、望ましい生活習慣を楽しみながら実行することで予防できることを学ぶ。	生活習慣病、糖尿病
	12時限	増加するアレルギー性疾患、次世代にわたる健康障害が懸念される環境ホルモンなど、最近話題になっている新しい健康被害についても触れる。	アレルギー性疾患、環境ホルモン、有害物質
	13時限	第Ⅴ章　環境問題の出現と人間の対応 人間は自然環境に働きかけ快適な環境を作り適応してきた。その弊害として地球環境が急速に破壊されつつある現状を学ぶ。	地球環境問題
	14時限	現在の世界中の市民・行政・企業が協力しあって、持続的に発展可能な循環型の社会を築こうとしている現状を学ぶ。	循環型社会、持続可能な開発
	15時限	試験	

科目名	**健康科学論**
担当教員	丸井英二
科目コード	２２１４Ｔ／２２１５Ｓ
科目区分	統合科目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	医学を基盤とした医療は主として疾患をもつ人々への治療にかかわり、保健学はいかに健康で過ごすかに注目する。それに対し、健康科学は生物としての人間を心身両面から尊重しつつ、社会的活動の中で、健康の意義、健康の価値、健康の歴史、健康の社会哲学、健康の倫理などを網羅するような、人間の本来のあり方を考える基礎的な分野として位置づけたい。健康科学は、健康とは何か、健康を構成する概念は何か、といった中心的な概念から出発する。そして歴史的考察、さらには社会や文化と健康とのかかわりを学ぶことで、グローバルな視点で、現在の私たち、そして未来の人類がどのように生きていくのかを各自が考えるための糸口とする。
【キーワード】	人口／身体／こころ／遺伝／環境／主体環境系／病気／歴史／社会／文化／思想／政治経済／倫理
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　集団としての人間の健康を統計的な視点から見ていきます。また、健康が個人だけの問題ではなく社会の仕組みの中で考えられることを認識しておきましょう。 **第２章**　（前半）人の健康を「からだ」と「こころ」という視点から理解していきます。身体は解剖学的な構造と生理学的な機能との両面から把握できます。また、「こころ」の問題は単に脳の問題ではなく精神のあり方と関わって重要なことです。 （後半）人の健康は遺伝と環境のダイナミックな相互関係として成立してきます。ここでは「主体環境系」という言葉がキーワードとなります。 **第３章**　環境、栄養、運動、生活習慣と健康の関連を考えることで、現代の私たちの健康がどのように成立しているか考える基礎ができあがります。 **第４章**　健康状態を決める社会的要因は格差を作り出し、政治経済的な状況が健康に影響を与えます。しかし、その一方で健康状態が社会のあり方に与える影響もあるので、双方の関係をみなければなりません。職業による健康への影響、また経済状態や法律などが健康に与える影響も無視できないものがあります。法律が健康を守っている機能を知ることも大事です。 **第５章**　科学が健康を守り、逆に、科学が健康を損なうことがあります。ここではさまざまな化学物質が取り上げられ、とくに発がん物質などについて紹介されています。また、情報技術は健康にプラス、マイナスの両面から関係してきます。社会のシステムとして交通・輸送も忘れてはなりません。そして、この章では最後に住宅について取り上げています。最近は物理的な環境だけでなく、化学物質やダニなど化学的あるいは生物学的環境としての住宅の意味が大きくなってきています。 **第６章**　ここでは健康観について取り上げられています。病気になるのは仕方がないことなのか、それとも誰かの責任なのだろうか。そう考えたくなります。すると、だれの責任なのかが問題となることがあります。あるいは健康は権利なのか義務なのか、といった論議もあります。ここで倫理の問題があらわれてきます。最後に、ふたたび健康は個人の問題であると同時に、社会のあり方そのものでもあるということを強調しておきたいと思います。
【使用教材】	■テキスト：『テキスト健康科学』南江堂
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	【テキスト履修】 １．健康状態について統計的な視点から把握、理解し、説明できる。 ２．人間の健康を身体（構造と機能）ならびに心を統合したものとして理解し、説明できる。 ３．主体環境系を理解し、遺伝と環境の関係について説明できる。 ４．健康と栄養、運動、生活習慣の関連を説明できる。 ５．政治経済を含む社会のあり方と人びとの健康との関係について説明できる。 ６．科学技術や情報科学と健康との関連を理解し、説明できる。 ７．人々の健康観と生命倫理について理解し、自分の考えを説明できる。 【スクーリング履修】 テキストで理解したことを学習し、そのうえで、他の学生と討議し、発表し、交流して、相互に評価する。こうした体験によって、みずからの社会における立場と役割を認識し、健康について人びとと積極的に交流し働きかけることができるようになることを目標とする。
【評価基準】	【テキスト履修】 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

<table>
<tr><td></td><td>【スクーリング履修】
議義の出席状況ならびに参加状況、そして最後の時限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>教科書を一通り理解し、それに対して自分はどう考えるかを、消極的な「受け身」から積極的な「働きかけ」へと展開していく意欲をもってスクーリングに参加してください。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1 時限</td><td>健康をどのような立場で、どのように考えるか学ぶ。</td><td>個人と社会、歴史</td></tr>
<tr><td>2 時限</td><td>討議、発表</td><td></td></tr>
<tr><td>3 時限</td><td>健康を構成する領域について学ぶ。</td><td>身体要因、精神要因、社会要因</td></tr>
<tr><td>4 時限</td><td>討議、発表</td><td></td></tr>
<tr><td>5 時限</td><td>身体の構造と機能、からだとこころの関係について学ぶ。</td><td>解剖、生理、脳科学</td></tr>
<tr><td>6 時限</td><td>討議、発表</td><td></td></tr>
<tr><td>7 時限</td><td>「主体環境系」について学ぶ。</td><td>遺伝、環境、相互作用</td></tr>
<tr><td>8 時限</td><td>討議、発表</td><td></td></tr>
<tr><td>9 時限</td><td>栄養、運動、生活習慣について学ぶ。</td><td>地球環境、生活習慣病</td></tr>
<tr><td>10 時限</td><td>討議、発表</td><td></td></tr>
<tr><td>11 時限</td><td>健康の社会的要因について学ぶ。</td><td>社会格差、自殺、感染症</td></tr>
<tr><td>12 時限</td><td>討議、発表</td><td></td></tr>
<tr><td>13 時限</td><td>社会における健康と倫理について学ぶ。</td><td>健康観、生存</td></tr>
<tr><td>14 時限</td><td>討議、発表</td><td></td></tr>
<tr><td>15 時限</td><td>まとめ、テスト</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>【連絡事項】</td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目名</td><td>ストレスと健康</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>テキスト履修：　久住武　鈴木はる江　鍵谷方子</td></tr>
<tr><td></td><td>スクーリング履修：　久住武　鈴木はる江　鍵谷方子　小岩信義　村林信行</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>２２１６Ｔ／２２１７Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>統合科目</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>テキスト履修：２単位　スクーリング履修：２単位</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td>Ａ</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>現代人は様々なストレスにさらされながら生きている。１９３０年代に動物でストレスの主体に及ぼす作用の神経科学的メカニズムが解明された。人間の社会的生活においても種々のストレス刺激によって、動物と同様のストレス反応が現れるが、人間ではさらに心理的・社会的刺激もストレス反応を起こしうる。このようなストレスの基礎的科学的メカニズムと人間社会のストレスの特徴を学ぶ。各種ストレス反応の評価法、ストレスによる健康障害とストレスに対する対処法についても学び、ストレスへの理解を深める。本科目は各専門分野の教員の分担によるテキストと議義により、ストレスとは何かを学ぶ。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>心身相関／ストレス反応／ホメオスタシス／ストレス障害／ストレスマネジメント</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>第１章　ストレスと健康　―統合的考察―
ストレスは古くて新しい概念である。現代社会のストレスの特徴やストレスとどう向き合うかなど、ストレスを取り巻く諸問題について概観する。
第２章　ストレスの生理学的基礎　－ストレスとホメオスタシス―
ストレス概念の基礎を築いたセリエの全身適応症候群やキャノンの緊急反応について学び、ストレスの生理的仕組みについて理解する。ストレスは生体に本来備わっているホメオスタシスにも影響を及ぼす。その仕組みについても学ぶ。
第３章　ストレスと脳　―ストレスの脳機能に及ぼす影響―
ストレスはうつ病やうつ状態を発症したり、脳の発達に大きな影響を及ぼす。ストレスの脳科学からのアプローチについて学ぶ。
第４章　生理的ストレス反応の測定
ストレスは身体に様々な反応を起こす。ストレス反応の様々な測定法について学び、ストレス反応を測定して客観的に評価することの意義について理解する。
第５章　ストレスとメンタルヘルス
人間は多数の心理学的・社会的ストレスに曝されている。種々の心理的・社会的ストレスモデルを学び、ストレスの認知的評価、ストレスのコービング、ストレスマネジメント、メンタルヘルス、種々のストレス性健康障害について理解する。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：久住眞理／筒井末春／久住武／鈴木はる江／小岩信義『ストレスと健康』（本学オリジナルテキスト）
■参考書：テキストの各章ごとに基本的な文献を列挙してある。</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>１．ストレスの生理学的仕組みについて、セリエの視床下部―下垂体前葉―副腎皮質系、キャノンの交感神経―副腎髄質系の反応の要点を説明できる。
２．血圧調節、体温調節、血糖値調節などのホメオスタシスの仕組みと、それぞれに対するストレスの影響について説明できる。
３．ストレス反応を客観的に測定する方法と生理的指標の関係について説明できる。
４．ストレス性健康障害の代表例やストレス予防と対策のあり方について説明できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする、
総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>テキストの第２、４、５章について大まかに予習しておくとよい。
身体の構造と機能、自律神経生理学についても受講もしくはこれらの分野の基礎的知識を理解していることが望ましい。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>スクーリングはいずれかの教員が担当します。
<table>
<tr><th colspan="2">午前</th><th>午後</th></tr>
<tr><td>1－4 時限</td><td>ストレスの生理学的基礎
担当／鈴木はる江</td><td>セリエ、全身適応症候群、キャノン、緊急反応</td></tr>
<tr><td>5－9 時限</td><td>生理的ストレス反応の測定
担当／久住武</td><td>ストレス反応、ストレスマーカー、自律神経機能、運動機能</td></tr>
<tr><td>10－12 時限</td><td>【実習】ストレスの生体機能に及ぼす影響の観察</td><td>心電図、筋電図、血圧、皮膚血流</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

	担当／鍵谷方子、髙原皓全	
13－14 時限	ストレスとメンタルヘルス 担当／村林信行	ストレスコーピング、メンタルヘルス、ストレス性健康障害
15 時限	まとめと試験	

＊スクーリングのスケジュールは、担当教員の分担により変更になる場合があります。

科目名	**心身医学**
担当教員	矢吹弘子　　筒井末春　　村林信行
科目コード	２２１８Ｔ／２２１９Ｓ
科目区分	統合科目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	心身医学は全人的医療の実践が叫ばれるなか重要性を増しつつある。心身症、不安障害、軽症うつ病などストレス性健康障害についてその概要を学び、心身の健康の重要性についての理解を深める。
【キーワード】	心身医学／心療内科／心身症／不安障害／軽症うつ病
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　心身医学の歴史、医療におけるその役割、健康生成論について学ぶ。 **第２章**　心身医学の二つのおもな理論、精神分析理論と学習理論について学ぶ。 **第３章**　心身医学的診断の概要と要点を整理し系統的に学ぶ。 **第４章**　心身医学的治療について学ぶ。 **第５章**　代表的な内科的心身症について学ぶ。 **第６章**　ライフステージからみたストレス性健康障害の病態とがんの心身医療について学ぶ。 **第７章**　不安障害や軽症うつ病など心療内科で診ることの多い近接領域の精神疾患について学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：筒井末春／大谷純『心身医学』（本学オリジナルテキスト） ■参考書：筒井末春監修、中島弘子編著『心身症と心理療法』新興医学出版社
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．心身医学の歴史について説明できる ２．心身医学の現代医療の中での役割について議論することができる。 ３．心身医学のおもな理論について説明することができる。 ４．心身医療の診断と治療法について説明することができる。 ５．おもな心身症と近接する精神疾患について説明することができる。
【評価基準】	【テキスト履修】 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 【スクーリング履修】 インターネット授業の最終リポートで６０点以上を合格とする。
【インターネット授業における事前学修】	・心身医学の歴史と現代医療における役割について。 ・おもな心身医学的理論について。 ・心身医学的診断と治療の要点について。 ・おもな心身症について。 ・摂食障害について熟読しておくこと。 ・ライフステージにおける諸問題について。 ・不安障害やうつ病などおもな近接精神疾患について。
【インターネット授業での講義内容】	

学修内容		担当教員
１時限	第１章　心身医学序説	筒井末春
２時限	第２章　心身医学理論	矢吹弘子
３時限	第３章　心身医学的診断	村林信行
４時限	第４章　心身医学的治療法	村林信行
５時限	第５章　代表的な内科系心身症① ＊呼吸器系・循環系・消化器系	矢吹弘子
６時限	第５章　代表的な内科系心身症② ＊摂食障害から	矢吹弘子
７時限	第６章　ライフステージからみた病態とがんの心身医療	矢吹弘子
８時限	第７章　近接領域の精神疾患	矢吹弘子

科目名	**生命倫理学**
担当教員	青木清
科目コード	２２２０Ｔ／２２２１Ｓ
科目区分	統合科目
単位数	３単位（テキスト履修：２単位／スクーリング履修：１単位）
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	現在、著しい生命科学の進歩に伴って開発された技術が医学薬学医療に応用される一方、それら科学技術と医療技術の進歩は私たち人間の生存に対してさまざまな問題を提起している。これらの問題に対して、生命倫理（バイオエシックス）の果たす役割は大きい。その根本にある、生命科学の時代の基本的な考え方は、人間の尊厳や生命の尊厳と、人間の生存を守ることにある。生命科学が21 世紀に大きく発展して、健全な発展により人間の生存を守ることで大きな力となるかどうかは、人々が生命倫理の知識を教養として持っているかどうかにかかっているだろう。特に、近年、脳死臓器移植、ヒト・ゲノム研究、遺伝子治療、再生医学医療などについての議論がなされている。その生命倫理的な問題を具体的に考察し、環境倫理といった分野までを学ぶ。
【キーワード】	バイオエシックス／ＤＮＡ／インフォームド・コンセント／倫理的基準／ヒトクローン
【テキストの内容及びアドバイス】	1．人間の生存とバイオエシックス 2．生命倫理に関する諸問題 3．ヒト・ゲノム研究 4．脳死と臓器移植 5．医療における論理―患者の自己決定権とは― 6．生命・いのち・倫理 7．遺伝子治療 8．安楽死と尊厳死 9．人間の生存を考える 10．環境倫理
【使用教材】	■テキスト：青木清『生命倫理学』（本学オリジナルテキスト）、『生命倫理学 別冊』
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．生命倫理の課題としては何があるか 2．先端医学医療について 3．先端的生物医学について 4．生命科学について 5．技術の進歩と自然について（人間と他の生物との共生） 6．生命倫理と医療倫理について 7．生殖補助医療について 8．終末期医療について
【評価基準】	**【テキスト履修】** 科目修了試験において60 点以上を合格とする。 **【スクーリング履修（インターネット授業）】** インターネット授業の最終リポートで 60 点以上を合格とする。
【スクーリングにおける事前学修】	テキストの資料編付録1 と用語編付録2 を概観しておくこと。生命倫理は人間の生存と弱者を守るという思想に基づいていることを理解すること。
【スクーリングでの講義内容】	ねらい・授業内容 1－3 時限：２１世紀の生命科学の全体像を理解し、その進歩に伴う生命倫理の諸問題を学修する。 4－6 時限：先端医療技術と生命倫理の様々な問題を解説し、患者に対するインフォームド・コンセントや、患者の自己決定権について考える。 7－8 時限：人間の生存の問題に触れ、生命科学が人類の未来に果たす役割とその貢献について考え、学ぶ。
【連絡事項】	テキストには、生命倫理学を学修するにあたっての基礎となる資料として「ヒポクラテスの誓い」「ニュールンベルク綱領」 「ヘルシンキ宣言―患者の権利章典―」「ジュネーブ宣言」「リスボン宣言」「国際看護師倫理綱領」が付されています。

科目名	**人間関係論～精神分析を基礎として～** ★テキスト履修とスクーリング履修の両方を同時に登録する必要があります。
担当教員	島田凉子
科目コード	２３４３Ｔ／２３４３Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	人間関係について考えるための基礎知識として精神分析について学ぶ／心身相関の視点からさまざまな障害のメカニズムについて考える／フロイトとユングによる無意識の理解について学ぶ／心身健康な生活のために主体性を重視する人間性心理学について学ぶ。
【キーワード】	心理療法／精神分析／分析的心理学（ユング心理学）／人間性心理学／交流分析（TA）
【テキストの内容及びアドバイス】	人間関係について論じる際、社会・発達・性格・認知心理学などいくつもの視点が考えられる。本教科では、それらの視点をすべて含んでいるともいえる臨床心理学の流れの中で人間関係についてどのように捉えられてきたか見ていくことを通して、われわれ人間にとって「人間関係」が持つ意味と個人の心身の健康への影響について考えていただきたい。 第１章：フロイトに始まり現代に至るまでの臨床心理学の歴史を大まかに理解して下さい。 第２章：Ｓ.フロイトは個人の無意識の領域で心身が相関していることに気づいたことから、精神分析を生み出しました。その後のあらゆる臨床心理学および心理療法の理論は、精神分析を土台としたり批判したりして生まれたものであり、人間関係について考えていく上でも、精神分析の考え方と用語を理解しておくことは必須です。精神分析を通して心身の相関についての理解を深めるとともに、精神分析用語を基礎知識として理解して下さい。 第３章：もとはフロイトの共同研究者でしたが、のちに袂を分かったアードラーとユングについて学びます。とくにユングの集合的無意識および元型の概念は、人間理解に多くの示唆を与えてくれます。文学や芸術を理解するうえでも役立ちます。ユングはまた人間の心の身体性に注目し、人間をより全体として理解しようとしました。 第４章：人間性心理学とは第二次世界大戦後に台頭してきた人間中心主義的心理学であり、人間の主体性を何より重視します。自分が何を感じ、何を考え、何を望み、どう行動するか、その態度を決定するのかはほかならぬ本人であり、心理療法家の仕事はそのプロセスを支持・促進することである、という思想に貫かれています。その「支持」「促進」の方法論はさまざまであることを学びます。また、主体性の重視は本学の教育目標である「よりよく生きる知恵」の獲得につながる道である点を理解して下さい。なかでも交流分析（ＴＡ）は、人間関係で起きている現象を洞察するためにとくに有用な理論を含んでいます。人間関係をより健康なものとし、心身共に健康な生活をおくるために役立ててください。
【使用教材】	■テキスト：島田凉子『人間関係論』（本学オリジナルテキスト） ■参考書：交流分析について詳しく学びたい方は本学オリジナリテキスト『交流分析』および『ＴＡ　ＴＯＤＡＹ』実務教育出版社
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．人間の健康と幸福に貢献することを目指す臨床心理学において、人間関係について論議されてきたことを理解する。 ２．心身相関の理解から生まれた精神分析の人間観と主要な用語を大まかに理解する。 ３．交流分析による人間関係理論を理解する。 ４．あなたの自己理解を深めるために有用な心理療法理論と出会って、心身の健康に役立てていただきたいと思います。
【評価基準】	【テキスト履修】科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 【スクーリング履修】講義の出席状況と最後の次元に実施する試験の総合評価とする。総合評価で６０点以上を合格とする。
【スクーリングにおける事前学修】	テキストを一読したうえで、詳しく説明してほしいところ、よくわからなかったところなどを、メモしておいて授業開始時および途中でも、質問していただければていねいに説明します。
【スクーリングでの講義内容】	学習内容 ／ キーワード（重要語句）

	1 時限	人間関係を理解するための臨床心理学とは	心理学の第一勢力、第二勢力、第三勢力
	2-3 時限	精神分析	無意識、抵抗、防衛、抑圧
	4-5 時限	精神分析	エス、超自我、自我、リビドー
	6-7 時限	精神分析	転移、逆転移、エディプスコンプレックス、自己愛
	8 時限	アードラー	権力意志、心的エネルギー論、タイプ論
	9-11 時限	ユング心理学	集合的無意識、元型、自己実現
	12-13 時限	人間性心理学（ロジャーズを中心として）	マズロー、ロジャーズ、パールズ
	14 時限	交流分析	自我状態の分析
	15 時限	テスト	

科目名	**発達心理学**
担当教員	中野博子
科目コード	２３０１Ｔ／２３０２Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	人間が人間らしく成長するためにはどのような条件が必要かについて心理的視点から考察することを目標とする。特に「こころの健康」に関係が深いと思われる情緒的側面の発達を中心に据え、人の命の誕生から死にいたるまでの生涯発達を視野に入れて検討する。
【キーワード】	生涯発達／遺伝と環境／ライフサイクル／アタッチメント（愛着）／中高年の発達
【テキストの内容及びアドバイス】	【テキスト履修】 第１章　人間の生涯の中での発達心理学 発達心理学がどういうことを目指しているのかについてのオリエンテーションです。 第２章　人間の発達 心理学では長い間「遺伝と環境」はどう関連するのかが大きなテーマとして扱われてきました。これらが具体的にはどういう風に扱われてきたのかを学んでください。 第３章　ヒトが人間になるとはどういうことか ヒトとして育つ環境の与えられなかった事例を検討することで、人の発達に必要なものを学びます。現在では児童虐待の問題もこれらの問いに対して私たちにさまざまな問題提起をしています。 第４章　初期経験の影響 環境の影響についてこれまでに行われてきた動物の知見をもとに検討します。またヒトはその中にあってどういう風に位置付けられるのか考えます。 アタッチメント（愛着）の問題が大きなテーマです。 第５章　発達を理解するための理論 発達段階について考えます。フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階などを理解することが必要です。 第６章　人間の発達の可能性と諸問題 これまで述べてきたことを利用して、現在の私たちを取り巻くさまざまな問題について考えてみましょう。発達心理学を学ぶことは単に知識をふやすことではなく、分かったことを利用していかに私たちが自分の問題を理解していけるかにあると思います。 【スクーリング履修】 発達心理学は、実際の子どもや青年、中高年のこころの理解をする上で実生活にも役立つ領域だと思います。しかしすぐに結論が出るわけではありません。ヒトの心はとても複雑なものなので、いろいろな問題が生じたときに、原因→結果という直観的で単純な因果律で理解するのではなく、複雑な多くの要因の関係を考慮しなくてはなりません。そこが人のこころの難しさでもあり、面白さでもあります。私たちはつい、物事を単純化して理解したくなりますが、心理学を学べば学ぶほど、人のこころはそんなに簡単に理解出来ないことを思い知らされます。割りきれないために学ぶことでかえってすっきりしない気持ちが残るかもしれませんが、そこを楽しんで下さい。時間の関係でスクーリングではテキストの内容をすべて扱いませんが、スクーリング履修においては、可能な限り事前にテキスト全体に目を通しておいてください。スクーリングにおいては、テキストの学修で扱いきれなかった内容について映像なども使いながら伝えたいと思っています。
【使用教材】	【テキスト履修】 ■テキスト：中野博子『発達心理学』（本学オリジナルテキスト） 【スクーリング履修】 ■テキスト：中野博子『発達心理学』（本学オリジナルテキスト） スクーリングのための配布資料
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	【テキスト履修】 １．生涯発達の視点をもって人間の発達の各段階の特徴を論ずることが出来る。 ２．ヒトが人間として存在するために必要なことについて説明することが出来る。 ３．発達心理学で得られた知識を基にして日常の問題を考えることが出来る。 【スクーリング履修】 １．スクーリング授業に参加し、課題に対し自分の考えを積極的に述べることが出来る。 ２．生涯発達の視点をもって人間の発達の各段階の特徴を論ずることが出来る。

<table>
<tr><td></td><td>３．ヒトが人間として存在するために必要なことについて説明することが出来る。
４．発達心理学で得られた知識を基にして日常の問題を考えることが出来る。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とします。
【スクーリング履修】
議義の出席状況、出席態度（必要に応じた発言、授業態度）を重視します。授業の最後に行われる試験では、スクーリング授業内容に関する内容を出題しますが、試験の成績と講義への参加状況の両者を総合的に判断し、６０点以上を合格とします。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>発達心理学のテキストを事前によく読んでおいてください。また、最近の発達心理学のトピックスが知りたい方に事前学習として、「柏木恵子・子どもも育つおとなも育つ発達の心理学　萌文書村２０１３」をすすめます。発達心理学の視野を広げられることと思います。
スクーリングにおいては、その時々のトピックスや事例、また受講者の希望も取り入れながら、発達心理学の知識をどう生かすかという点に力を入れていく予定です。基本的な理解が進んでいる場合には、参加者に合わせて新たな問題について考えていくことが可能です。時間的にもテキストのすべてを網羅することは不可能な分、基本的なことについては自分で積極的に事前に学んで参加して下さい。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>イントロダクション
発達心理学の対象は？
ヒトが人間になるとは？</td><td>生涯発達、孤立児</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>ホスピタリズム、
マターナル・デブリベーション</td><td>ホスピタリズム、マターナル・デブリベーション、虐待、ＦとＧの事例</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>初期経験とヒトの発達</td><td>刻印付け、臨界期、環境剥奪実験、ハーロウの実験</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>人の発達の特殊性、アタッチメント</td><td>生理的早産、アタッチメント、ストレンジ・シチュエーション、情緒的利用可能性</td></tr>
<tr><td>５時限</td><td>発達段階
フロイト、エリクソン、マーラー、レヴィンソンを中心に</td><td>ライフサイクル、二者関係、三者関係、再接近期、中年期の危機</td></tr>
<tr><td>６時限</td><td>人の発達の可能性とさまざまな問題
子どもの行動の「問題」、中高年の問題など</td><td>中高年の発達</td></tr>
<tr><td>７時限</td><td>まとめ
私たちは発達心理学をどのように利用できるか</td><td></td></tr>
<tr><td>８時限</td><td>テスト</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

科目名	**青年期心理学**
担当教員	中野博子
科目コード	２３０３Ｔ／２３０４Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	青年期は社会の影響を受けやすく、時代によって変化が激しい特徴を持つ。一方で表層が変化しても変わらない青年期の特性もある。この特性は何かについて検討する。身体的な変化をきっかけとして開始する発達の中での自我の確立、親との関係についてなど、生物学的、心理学的、社会学的という広い視野から理解することを目指す。
【キーワード】	ライフサイクル／思春期／自我同一性／親離れ／青年期の危機／心身相関
【テキストの内容及びアドバイス】	【テキスト履修】 **第１章　青年期とは** まず初めにおおまかに青年期とはどういう時期かについて把握します。 **第２章　身体とこころの発達** 青年期と切り離せない身体の変化とそれに伴う心の変化について学びます。 **第３章　青年期をどう捉えるか　生涯発達の中での青年期** これまで青年期がどのように捉えられてきたのかについて学びます。 **第４章　青年期と自分** 青年期には多くのものが「自分」とは何かについて考えます。「自分」がどう発達するか、またよく耳にする「青年期の危機」の意味について考えます。 **第５章　青年期の対人関係** 青年期の精神的発達は、親との関係や友人との関係、対人関係全体に変化を与えます。この特徴について学びます。 **第６章　青年期の成長過程をどう援助するか　―不登校中学生を題材に―** 実際に一人の青年が成長する際に何が起こり、私たち大人ができることは何かについて具体的な事例を基に考えます。 【スクーリング履修】 青年期心理学のテキストの内容を事前によく読んでおいてください。 青年期心理学のスクーリングにおいては、その時々のトピックス（青年期の新聞記事も含む）や事例なども扱いながら学修をすすめていきます。テキストを基にしながら、日常的に出会うさまざまな青年期の問題を意識してみてください。それが科目と関わる際の興味につながっていくと思います。
【使用教材】	【テキスト履修】 ■テキスト：中野博子『青年期心理学』（本学オリジナルテキスト　改訂版） 青年期に関して興味を持った資料（新聞記事、小説、映画、歌詞その他なんでも）に触れたり、自分自身の青年期を見直して、知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識を持つようにしてください。 【スクーリング履修】 ■テキスト：中野博子『青年期心理学』（本学オリジナルテキスト　改訂版） スクーリングのための配布資料
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	【テキスト履修】 １．青年期を生涯発達の流れの中に位置づけて説明することが出来る。 ２．青年期を家族とのライフサイクルの重なりを理解した上で説明することが出来る。 ３．青年期を自我発達の視点から説明することが出来る。 ４．青年期と親との関係について理解し説明することが出来る。 ５．さまざまな素材を通じ、また現実の青年の問題に授業を通じて学んだことを生かして評価することが出来る。 ６．青年期についてこころと身体の関係から説明することが出来る。 **【スクーリング履修】** １．スクーリング授業に参加し、課題に対し自分の考えを積極的に述べることが出来る。 ２．青年期を生涯発達の流れの中に位置づけて説明することが出来る。 ３．青年期を家族とのライフサイクルの重なりを理解した上で説明することが出来る。 ４．青年期を自我発達の視点から説明することが出来る。 ５．青年期と親との関係について理解し説明することが出来る。 ６．さまざまな素材を通じ、また現実の青年の問題に授業を通じて学んだことを生かして評価することが出来る。 ７．青年期についてこころと身体の関係から説明することが出来る。

<table>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とします。
【スクーリング履修】
議義の出席状況、出席態度、(必要に応じた発言、授業態度）を重視します。授業の最後に行われる試験は、スクーリング授業内容に関するものですが、試験の成績と講義への参加状況の両者を総合的に判断し、６０点以上を合格とします。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>青年期心理学で扱う青年期という時期は最も社会の影響を受けやすい領域です。普段から日常生活の中で出会う青年期に関するさまざまな情報を意識してください。例えば、小説、特集、詩集、映画、歌詞、新聞記事など、さまざまな領域に生き生きとした青年たちの様子を考えるためのヒントが隠されています。昨年までのスクーリングの授業では、実際に映画や詩集を題材に用いて青年期について受講生と一緒に考えてきました。これから受講される学生のも皆さん積極的に青年期に関するさまざまな資料に目を通して下さい。スクーリングの議義内容にも書いたように昨年は、よく知られた映画を題材にいて青年期の問題を考えました。時間のある人は、手に入りやすい映画として「スタンドバイミー」「グッド・ウィル・ハンティング」「ギルバード・グレイプ」などを見ておいてください。以上のような問題意識を持っての授業参加を期待しています。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>青年期とは</td><td>身体変化・反抗期、親離れ、生涯発達、ライフサイクル</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>身体とこころの発達</td><td>第二次性徴、個人差、質的な変化、発達加速現象、成熟前傾現象、ヤング・アダルト</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>青年期をどう捉えるか―生涯発達の中での青年期―</td><td>疾風怒濤、アイデンティティ、心理的離乳、第二の誕生、第二の分離―固体化、形成的操作</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>青年期と自分①</td><td>自分、自我意識、ストレス</td></tr>
<tr><td>５時限</td><td>青年期と自分②</td><td>アイデンティティ、アイデンティティ・ステータス、青年期危機説、青年期平穏説、性役割</td></tr>
<tr><td>６時限</td><td>青年期の対人関係</td><td>親離れ、反抗期、家族の発達、個性化、自立と依存、チャム、対人関係論</td></tr>
<tr><td>７時限</td><td>青年期の問題をどう援助できるか</td><td>支援、アセスメント、環境、成長促進</td></tr>
<tr><td>８時限</td><td>テスト</td><td></td></tr>
</table>
＊青年期心理学のスクーリングの授業の内容は、その状況に応じて変更する可能性があります。
</td></tr>
</table>

科目名	**産業心理学**
担当教員	テキスト履修　　：苅部ひとみ　　ｽｸｰﾘﾝｸﾞ履修　　：河野慶三
科目コード	２３０５Ｔ／２３０６Ｓ
科目区分	分野別科目－こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	テキスト履修：現代産業社会における人間心理の理解／職場におけるワークモチベーション／職場のメンタルヘルス／組織の人間関係、コミュニケーション／人事管理と能力開発／教育・研修とキャリア開発について学ぶ。 スクーリング履修：産業心理が研究対象とする領域は広く、そのすべてを網羅した教育を短時間で行うことは困難である。スクーリングでは、テキスト履修で得られた知識を、次の課題に絞って深めることを目指す。テキスト履修は縦糸であり、スクーリング履修は横糸であると考えて講義を進める。 ① いま、職場で何が起こっているか（産業のグローバル化と高度情報化がもたらした変化、労働者の高齢化、女性の職場進出、コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ、人事管理） ② 管理監督者と部下のコミュニケーション（安全配慮義務、快適職場、いわゆるパワーハラスメントの問題） ③ 職場のメンタルヘルス（心理・社会的ストレス、メンタルヘルス教育、メンタルヘルス相談、メンタルヘルス不調者への対応、職場復帰、メンタルヘルス対策への心理学のかかわり） ④ 生活の中に仕事をどう位置づけるか（ワークライフバランス、キャリア開発、キャリアコンサルティング） ⑤ 産業カウンセリング（職場内での位置づけ、産業カウンセリングの方法、産業カウンセリング活動の実際） この領域には、現在の日本の産業現場で解決の必要が高いと考えられる問題が存在し、様々な対応が試みられている。その実態を把握する。
【キーワード】	テキスト履修：産業心理学の歴史／職場の人間関係／キャリア開発／職場のメンタルヘルス／ワークモチベーション スクーリング履修：労働契約／安全衛生管理体制／労働者災害補償保険法／ＥＡＰ／メンタルヘルス不調／キャリアコンサルタント／産業カウンセラー
【テキストの内容及びアドバイス】	【テキスト履修】 第１章　産業心理学のはじまりと発展について学ぶ。 第２章　今日の産業社会の変化とはたらくということについて考える。 第３章　組織におけるコミュニケーションの意味と役割について学ぶ。 第４章　効果的リーダーシップとは何かについて考える。 第５章　いかに動機づけや達成感を保つかについて学ぶ。 第６章　職場環境と働く人のストレス及びメンタルヘルスについて学ぶ。 第７章　職業人の能力を開発し、いかに教育と研修を行うかについて学ぶ。 第８章　適正配置を実現ンンするための方略を考える。 第９章　自立的キャリア開発とその支援について学ぶ。 第１０章 消費者行動と広告・マーケティングの心理。 （＊興味がある場合の自主学習としテキスト課題及び科目修了試験の対象外とする） 第１１章　社会労働環境の変化と企業福祉。 （＊興味がある場合の自主学習としテキスト課題及び科目修了試験の対象外とする） 【スクーリング履修】 目標のところで示したとおり。とにかく現実を直視することが重要。
【使用教材】	■テキスト：宮城まり子著『産業心理学』培風館　２００９年、リーディングガイド
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	【テキスト履修】 １．産業心理学の歴史について概読できる。 ２．今日の産業社会の変化の中で働くということについて述べることができる。 ３．組織の人間関係とコミュニケーションについて客観的に考えることができる。 ４．働く人のストレスとその対処について述べることができる。 ５．能力開発や教育研修について方略を立てることができる。 ６．キャリア形成とその支援について述べることができる。 【スクーリング履修】 自分自身の考えや意見をもつ前提として、実態の正確な把握・理解が欠かせないことを自覚できること。

<table>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>現在就業している受講者は、自分の職場で事業者が行っているメンタルヘルス対策についてその実態がどうなっているかを把握しておくこと。
就業していない受講者は、厚生労働省が進めているメンタルヘルス対策がどのようなものかをインターネットの「こころの耳」（http://kokoro.mhlw.go.jp/）で検索し、その概要を把握しておくこと。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>いま、職場で何が起こっているか</td><td>労働契約</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>労働者の健康を守るための国の制度</td><td>安全衛生管理体制</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>労働者の健康をまもるための職場の仕組み</td><td>労働者災害補償保険法</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>職場のメンタルヘルス①</td><td>ＥＡＰ</td></tr>
<tr><td>５時限</td><td>職場のメンタルヘルス②</td><td>メンタルヘルス不調</td></tr>
<tr><td>６時限</td><td>生活のなかに仕事をどう位置づけるか</td><td>キャリアコンサルタント</td></tr>
<tr><td>７時限</td><td>産業カウンセリング、キャリアコンサルティング</td><td>産業カウンセラー</td></tr>
<tr><td>８時限</td><td>まとめ／テスト</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

科目名	**社会心理学**
担当教員	村林信行
科目コード	２３０７Ｔ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	社会心理学は、人間の行動のなかでも他者に影響を与える社会的行動について学ぶ。本講義では、個人対個人、個人対集団の関係に着目し、より健康な関係を築くための対人コミュニケーションについて学ぶ。
【キーワード】	パーソナリティー／対人認知／態度／集団
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　社会心理学の定義、歴史、研究法について学ぶ。 第２章　自己と他者の関係を主として「態度」という視点を学ぶ。 第３章　対人関係の問題について学ぶ。 第４章　社会心理学を応用した代表的な分野について学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：井上隆二、山下富美代著『図解雑学社会心理学』ナツメ社、リーディングガイド
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 社会心理学を身近なものとして感じられる。 2. 上記キーワードについて説明出来る。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

<table>
<tr><td>科目名</td><td>交流分析　～自己理解を深め、社会生活に役立つ～</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>島田凉子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>２３５５Ｔ／２３５６Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>分野別科目―こころ・精神の理解</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td>Ｂ</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>自分の感情・思考・行動のパターンや人間関係の持ち方に気づくために有用な交流分析（TA）について体系的に学ぶ。ＴＡの基本的理論を理解したうえで、ＴＡのすべての理論を統合したパーソナリティ理論でありかつ治療理論である人格適応論を学ぶことを通して、主体的に社会とかかわり、心身ともに健康な生き方について考えること。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>ゲーム／禁止令／脚本／人格適応／治療上のドア</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>第１章　ＴＡの最も大切なOKness の思想と契約の概念について学びます。
第２章　自我状態の分析について学びます。自我状態モデルはＴＡ土台です。
第３章　交流（やりとり）の分析を学び、他者とのやりとりの種類について理解して下さい。
第４章　ラケットとゲームの分析を学びます。パターン化していていつも嫌な感じで終わるやり取りは、不健康で心身症の原因ともなります。いやなパターンから脱する方法についても考えましょう。
第５章　脚本分析について学びます。禁止令、ドライヴァーなどを用いた脚本の図式をよく理解し、自分の脚本についても考えましょう。
第６章　ＴＡのすべての概念を統合したパーソナリティ理論であり、治療理論である人格適応論について学びます。自己理解を深め、また、他者との交流をより建設的なものとするために役立てて下さい。
第７章　ＴＡによる治療の実際について学びます。ＴＡの治療にはどのような手続きや方法、目標が含まれているか理解し、心身ともに健やかに、社会の中でよりよく生きるためのヒントとして下さい。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：島田凉子『交流分析』（本学オリジナルテキスト）
■参考書：人格適応論について詳しく学びたければ、『交流分析による人格適応論』誠信書房</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>1．ＴＡの主要な概念を理解する。
2．ＴＡにおける人間観と健康観を理解する。
3．ＴＡにおける「契約」の意味を理解し、社会生活に役立てる。
4．ＴＡの脚本理論を通して自己理解を深める。
5．ＴＡの人格適応論を通して自己理解を深める。
6．ＴＡの学修を心身ともに健康な人間関係と社会生活に役立てる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>講義の時間は限られているので、十分な理解を得るためには、事前にテキストを読んで、ＴＡの主要な概念について完璧でなくとも大体理解し、わからないところを明確化したうえで、スクーリングに参加していただけるとよいと思います。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>ＴＡの基本理論</td><td>自我状態、やりとり交流</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>ラケット・ゲーム分析</td><td>ゲーム、ラケット</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>脚本分析</td><td>禁止令、ドライヴァー
脚本の図式</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>人格適応論　スキゾイド</td><td rowspan="4">親の養育スタイル、人生の立場、治療上のドア</td></tr>
<tr><td>５時限</td><td>人格適応論　パラノイド</td></tr>
<tr><td>６時限</td><td>人格適応論　反社会・受動攻撃</td></tr>
<tr><td>７時限</td><td>人格適応論　強迫・演技</td></tr>
<tr><td>８時限</td><td>ＴＡの治療論</td><td>自己再養育療法、再決断療法
関係性ＴＡ</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

科目名	**カウンセリング論** ★テキスト履修とスクーリング履修の両方を同時に登録する必要があります。
担当教員	中野博子
科目コード	２３１６Ｔ／２３１６Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位／スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	医療、産業、教育などさまざまな領域でカウンセラーとしてではないが、対人援助の仕事に就いていたり、これから就こうといている人が活用できるために、対人援助に必要な基本的な知識を整理するとともに、援助をする際に必要な援助者自身の自己理解の必要性を理解する。
【キーワード】	クライアント中心療法／治療者の態度／成長モデル／転移と逆転移
【テキストの内容及びアドバイス】	**序章　カウンセリングを学ぶに当たって** カウンセリングを実際に行うためにはどういうことが必要かについてのオリエンテーションです。 **第１部　理論学習編** 全体にスクーリングで学ぶカウンセリングの基礎的な理論の内容なので第１部は特に丁寧に読むようにして下さい。 **第１章　カウンセリングの定義** 特に３の心理的コミュニケーションの内容が重要です。特に傾聴とはどういうことかについて熟読してください。 **第２章　カウンセリングの理論** ロジャーズの理論は彼の体験から出てきていることを理解して下さい。また、クライアント中心療法の基本的概念はすべてここで述べられているのでじっくり読んで下さい。スクーリングでも補う予定です。 **第３章　理論の意味するもの** フィールドワークと臨床心理、間さん、シュヴィング、サリヴァンについての記述をよく読んで下さい。 **第２部　体験学習編** 実際にはすぐに行うわけではありませんが、どういうことが必要かについての理解を深めて下さい。 **第１章　体験学習の位置づけ** どういう体験学習があるかについてひとつひとつの方法を理解して下さい。 **第２章　体験学習の実際** 特にグループ・アプローチの方法を理解できるようにして下さい。 **第３章　核としての体験学習** 内容が難しいですが、これまでのところをふり返り、フォーカシングという展開を理解して下さい。 **第３部　実習編** 実習編に関しては、実際に臨床場面を持ったり、スーパービジョンを受ける場合、どういう風に学習が進むのかを理解するために大まかで構わないので目を通すことで実際のトレーニングのイメージをつかむようにして下さい。 **第１章　事例** **第２章　スーパービジョン** **第３章　ケースカンファレス（事例検討会議）** **第４章　事例を検討することの意味** **終　章　カウンセラーのありよう** 筆者らの治療者観が最もよく現れている章といえる部分です。じっくり読み理解に努めて下さい。
【使用教材】	■テキスト：佐治守夫／岡村達也／保坂亨『カウンセリングを学ぶ　理論・体験・実習　第２版』東京大学出版会、リーディングガイド スクーリング履修では、スクーリング内容に沿ったプリント資料を配布します。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．カウンセリングとはなにかについて成長モデルの視点から説明できる。 ２．クライアント中心療法における治療者の役割について説明できる。 ３．対人援助における基礎的知識として、発達段階、対象喪失、パーソナリティの障害について理解され、説明できる。

<table>
<tr><td></td><td>４．治療者としての自己理解の重要性について理解し、転移、逆転移を用いて説明できる。
５．カウンセラーに必要なトレーニングについて理解し、説明できる。
６．わりきれない人のこころを受けとめることの重要性を理解し、説明できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とします。
【スクーリング履修】
必ず全日程に参加するようにして下さい。講義の出席状況、出席態度（必要に応じた発言、授業態度）を重視します。
授業の最後に行われるスクーリングの試験は授業内容に関連するものですが、試験成績と講義への参加状況を統合的に判断し、６０点以上を合格とします。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>事前にテキストを読んで、基本的な知識を理解しておいてください。スクーリングの際に、読んだだけでは分かりにくかったところを復習できるようにテキストの重要な点を解説します。
人間理解を助けるために、可能な限り事前に「発達心理学」を履修し、人間の発達の特徴についての理解をした上で受講してください。
スクーリングでは対面授業の利点を生かして、普段見ることのできない著名な心理療法家の実際の心理療法や、エンカウンター・グループのＶＴＲを見ます。必ず全時間休まず参加できるようスケジュールを調整してください。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>カウンセリングとは何か？
オリエンテーション</td><td>医療モデル、成長モデル</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>ロジャーズのクライアント中心療法
治療者の態度</td><td>実現傾向、経験、自己概念、体験過程</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>カウンセリングの実際１
「グロリアと３人のセラピスト　―ロジャーズ―」</td><td>自己一致、受容、共感的な理解</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>心理療法の基礎：精神分析療法・行動療法</td><td>無意識、転移・逆転移、投影、防衛機制、力動的心理療法</td></tr>
<tr><td>５時限</td><td>カウンセリングの実際２
「グロリアと３人のセラピスト　－パールズ―」</td><td>ゲシュタルト療法、今ここ、我と汝</td></tr>
<tr><td>６時限</td><td>カウンセリングの実際３
「グロリアと３人のセラピスト　－エリス―」</td><td>倫理情動療法、ＲＥＢＴ、ＡＢＣモデル</td></tr>
<tr><td>７時限</td><td>カウンセリングの実際４・カウンセリングの訓練
カウンセリングにおける構造</td><td>スーパーヴィジョン、グループ、教育カウンセリング</td></tr>
<tr><td>８時限</td><td>クライアント理解に必要な発達段階
Ｓフロイト、ＥＨエリクソン、Ｍマーラー、レヴィンソンなど</td><td>口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期、基本的信頼感、自我同一性</td></tr>
<tr><td>９時限</td><td>対象喪失・ＰＴＳＤ</td><td>モーニング・ワーク、死の受容過程、トラウマ、ＰＴＳＤ</td></tr>
<tr><td>10 時限</td><td>対応の困難な事例のみたてと対応
パーソナリティ・ディスオーダー、発達理論、アセスメント</td><td>ＤＳＭ－ＩＶ　ＴＲ、ＢＰＯ、ＢＰＤ、見捨てられ不安、行動化、防衛機制</td></tr>
<tr><td>11 時限</td><td>心理テストによる自己理解</td><td>Ｙ－Ｇ性格検査、エゴグラム</td></tr>
<tr><td>12 時限</td><td>心理面の評価</td><td>知能検査、人格検査、妥当性、信頼性、アセスメント</td></tr>
<tr><td>13 時限</td><td>事例を通して考える</td><td></td></tr>
<tr><td>14 時限</td><td>まとめ
「出会いへの道」</td><td>エンカウンター・グループ</td></tr>
<tr><td>15 時限</td><td>テスト</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>【連絡事項】</td><td>☆養護経論養成コース登録の方
原則として「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目のテキスト履修単位（２単位）を修得している必要があります。
☆カウンセリング実践を受講予定の方
可能な限り、基本的な理論を学習するために、当科目カウンセリング論を先に修得することをお勧めします。</td></tr>
</table>

科目名	**カウンセリング実践**
担当教員	村上香奈
科目コード	２３１７Ｓ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：－単位　　スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	－
【教育目標】	カウンセリング・マインドの理論と基礎的なカウンセリングの理論・技法を身につける。
【キーワード】	カウンセリング・マインド／クライエント中心療法／認知行動療法
【テキストの内容及びアドバイス】	本科目は、全体を通して小グループに分かれての演習形式で実施する。演習の前半ではテキストを用いてカウンセリングの概念を理解する。後半では基礎的な応答技法を身につける。受け身でない、積極的な参加が求められる。
【使用教材】	■テキスト：佐治守夫／岡村達也／保坂亨『カウンセリングを学ぶ　理論・体験・実習　第２版』東京大学出版会、リーディングガイド 望ましい条件：「カウンセリング論」を履修済みであること。もしくは並行履修していること。 ■参考書：福山清蔵・日精研心理臨床センター編『改訂版　独習　入門カウンセリングワークブック』金子書房
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．カウンセリングの定義について理解できる。 ２．カウンセリングの基本的考え方、すなわち、カウンセリング・マインドを身につけることができる。 ３．クライエント中心療法の理論の枠組みを理解できる。 ４．カウンセリングにおけるカウンセラーの基本的態度が理解できる。 ５．認知行動療法の基礎を理解できる。
【評価基準】	必要な出席を満たし、かつ、スクーリング中に実施するグループ演習に参加した者について、スクーリング最終日に実施する試験の成績を評価する。合格は６０点以上である。
【スクーリングにおける事前学修】	事前に指定テキストを予習する場合は、序章と第１部を中心に学修すると良い。
【スクーリングでの講義内容】	学修内容 / キーワード（重要語句） 1－3 時限：カウンセリングを学ぶにあたって　カウンセリングの定義 / カウンセリング・マインド、カウンセリング、カウンセラーの自己理解　心理療法、援助、クライアント（クライエント）、カウンセラー 4-6 時限：カウンセラーの理論―クライアント中心療法の基本的な考え方 / カウンセラーの純粋性、無条件の積極的関心、共感的理解 7-9 時限：カウンセリングの応答練習 / 感情の反射、言い換え、閉じられた質問、開かれた質問、要約 10－14 時限：カウンセリングの理論―認知行動療法― / 認知行動療法　学習理論、自動思考、認知の歪み 15 時限：まとめ / ―
【連絡事項】	

科目名	**現代家族論**
担当教員	島田涼子
科目コード	２３１８Ｔ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	精神分析における発達論を学ぶ／交流分析（TA）における、脚本理論や人格適応論などを通して子どもが受ける養育の影響を学ぶ／家族療法について学ぶ
【キーワード】	発達／ライフサイクル／脚本／家族療法／システム理論／ジェノグラム
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**フロイト、エリクソン、サリヴァン、ウィニコットの発達論を簡単に紹介しています。精神分析的な親子関係の見方について理解して下さい。 **第２章**　養育が人格形成に与える影響についてのＴＡ理論（脚本・人格適応）を学びます。自分の子育てを悔やんだり、親を責めたりする材料にするのでなく、自分を含む個々人がそれぞれの環境の中でどのように生き延びてストロークを得る術を身につけてきたか、その強さに注目しましょう。 **第３章**　家族療法では、症状や問題行動をもつ人（IP）だけを治療するのでなく、問題は家族システムの機能が損なわれていることの現れであるととらえ、治療は家族関係を変化させることを目指します。用語が日常的でなく難解に感じられるかもしれませんが、「この子さえ～なれば」とか「誰のせいで」といった犯人探しや悪人作りをしない考え方は、救いがあり、治療的にきわめて有効でもあります。また、健康的な家族のあり方について考えるために役立ちます。 **第４章**　多くの参考書籍を取り上げています。家族をめぐる本は心理学専門書に限らず無数に出版されており、広い視点から読む価値のある本を紹介するため、島田自身の選んだもの含めて、編集者今野哲男氏に紹介していただきました。
【使用教材】	■テキスト：島田涼子『現代家族論』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．自分が生きてきた力（パワー）をストロークする（承認する）。 2．「健康」とは何か考える。 3．自分の人生に欲しいものは何か考える。 4．自分が身につけた戦略のうち、今となっては欲しいものを手に入れるために役立たないばかりか邪魔になっているものがあると気づいたら、やり方を変えることを検討する。（望むならば変える。） 5．これらのプロセスを通して「よりよく生きる」力を身につける。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**心の防衛機制と反応**
担当教員	藤城有美子
科目コード	２３１９Ｔ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	人の心の力動論的理解、すなわち、無識的な心のダイナミクスという側面から人間の心や行動についての理解を深めていくことを目標とする。そのために、基礎的な精神分析理論を学び、防衛機制をはじめとした諸概念を理解する。
【キーワード】	無意識／自我／防衛機制／対象関係
【テキストの内容及びアドバイス】	以下に、各章の内容と学習のポイントとなる用語を挙げる。似たような用語や、同じ表記をする日常語との混乱を避けるためにも、テキストは、最初から順番に読み進めて、専門用語の背後にある理論を踏まえた上で、個別の防衛機制について理解を深めることが望ましい。 第１章　歴史と定義：催眠療法、自由連想、構造論、力動論、発達論 第２章　構造論：自我、エス、超自我、意識、無意識、前意識 第３章　力動論的観点―自我の諸機能：現実機能、防衛機能、適応機能、対象関係、自律機能、統合機能 第４章　力動論的観点―自我の諸機制：防衛・適応機制、抑圧、否認、取り入れ、同一化、隔離、知性化、合理づけ、反動形成、やり直し、置き換え、投影、投影性同一視、退行（防衛としての退行）、昇華 第５章　心の病理と退行（局所論的退行の理論）： 退行（局所論的退行）、一次的心的過程（一次過程）、二次的心的過程（二次過程）、現実原則、快感原則 第６章　フロイトと自我心理学の発達論：口唇期、肛門期、男根期、エディプス期、潜伏期、思春期・青年期、思春期危機 第７章　対象関係の発達：自己表象、対象表象、部分対象、よい対象、わるい対象、よい自己、わるい自己、分裂、万能感、全体対象表象、全体自己表象、脱錯覚、抑うつ感情、対象恒常性、1 人でいられる能力 第８章　　マーラーの分離－個体化の発達：正常な自閉期、正常な共生期、分離－個体化期、分化期、練習期、再接近期、対象恒常性 第９章　スターンの発達論：新生自己感、中核自己感、主観的自己感、言語的自己感 第 10 章　境界的人格構造：境界的人格構造（BPO）、境界的人格障害（BPD）、分裂、投影、投影性同一視、原始的理想化、 脱価値化、攻撃化
【使用教材】	■テキスト：馬場禮子『精神分析的人格理論の基礎』、リーディングガイド ■参考書：前田重治『図説臨床精神分析学』誠信書房、前田重治『続 図説臨床精神分析学』誠信書房、北山修『精神分 析理論と臨床』誠信書房
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．精神分析の基礎的な用語とその概念について説明できる。 2．個人のなかでの防衛機制のはたらきについて、精神分析的に理解できる。 3．対人関係における防衛機制の作用について、精神分析的に理解できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**心理学概論**
担当教員	村上香奈
科目コード	２３２９Ｔ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	心理学とは、人間の意識や行動を科学的に解明する学問である。本科目では、知覚・認知・発達・学習・社会・臨床などの心理学の各分野を概観し、心理学領域の科目の基礎を理解することを目標とする。
【キーワード】	心理学／科学
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　環境を認知する心の接点―感覚系とその機能―** 環境からの刺激を情報として感受する機能としての感覚系を整理した上で、すべての感覚系に共通な感受機能の限界性質について学び、更に、環境認知にとって相対的に重要な役割を果たす視覚系と聴覚系と、その性質を勉強する。 **第２章　環境を認知する知覚の機能** 感覚過程の所産に外在的対象としての性質を解釈的に付与して外界の事物や様態を認知する心の働きを知覚と総称し、その中でも視覚を中心にその機能と性質について学習する。 **第３章　情報を処理する心のしくみ** 情報処理の基礎を学ぶ。まず、「情報」「情報処理」「情報処理研究」などの用語を整理した上で、入力と出力の間に介在する心の働きのしくみ、すなわち、情報を処理する人間の内部機構について、行動観測的データに推論を交えながら、その一端を概観する。 **第４章　児童期までの心の働きと行動の発達** 人間の心の働きと行動は時間の経過とともに変化する。人間の加齢に伴う継時的な変化をとらえようとする発達心理学について学ぶ。発達心理学のもつ基本的枠組みや独自の方法を概観し、その後に胎児から児童期までをとりあげる。 **第５章　青年期の心の働きと行動の発達** 青年期は発達の過度期であり、子どもから大人への発達の通過点でもある。この章ではこの青年期の特徴を学び、対人関係において、また自己との関わりの中で青年期にみられる変化の意味を考える。 **第６章　中高年期の心の働きと行動の推移** 発達のプロセスのうち中高年期から老年期について学ぶ。まずは中高年期についてその特徴とその時期の諸問題について考え、次に加齢に伴う老化の問題を概観する。老化は正常な老化と病的な老化があり、病的な老化については社会問題化しつつある認知症の問題について取り上げる。 高齢化社会においては老化の問題を避けて通ることはできない。 **第７章　行動の形成と変容－学習を支える行動法則―** 過去の経験によって行動が変容する過程を学習といい、心理学の中でも古くから研究が行われてきた分野である。この章では学習心理学の基礎、条件付けについて学ぶ。人間と動物に共通する行動法則について、実験室研究を中心に述べてあるので、誰にも知られているパブロフの犬の実験などを基本として学ぶこと。その上で社会的文脈における行動についても簡単に触れる。 **第８章　知識とスキルの学習** 前章では学習の成立過程を支えている行動法則（学習理論）が「条件付け」であることを学んだが、人間の日常的な学習行動を理解するためには多目的な視点が必要である。本章では人間の学習行動の多様な形態概観し、それらの理解に役立つ視点を紹介する。更に、知識や技能の学習に影響する学習者内部要因および学習者内部要因および学習事態の要因について学ぶ。 **第９章　記憶の過程と知識の蓄積** 記憶は単に情報を貯えておくだけではなく、われわれを人間らしくする重要な働きをもつといえる。そこで記憶の基本、短期記憶・長期記憶・構成的な記憶・手続き的記憶など記憶の多様な側面について学ぶ。 **第１０章　知識の利用と問題解決** 知識は推測を行うため、問題解決のためなどに利用される。本章では判断や推測を行うときに、内的、外的情報をどのように利用しているかについて学ぶ。 **第１１章　心の機能への認知科学的接近** コンピューター科学は人間の知識を理解するための新しい法論を提供している。一方コンピューターの進展のために人間の知的活動や心的処理が参考になっている。人

	間の脳がどのような情報処理を行っているのかについて認知科学と心の機能、人工知能、視覚と言語の情報処理、神経回路網モデルについて学ぶ。 **第１２章　知性の構造と個人差の理解** 一般的に用いられる「知性」について心理学ではどのように理解がすすんでいるのか、その知性を支えている「知能」についてはどのように考えられているのか、さらに「学力」についても心理学的な理解のありかたを学ぶ。 **第１３章　パーソナリティの理解** パーソナリティ研究は個人差の分類と人間を駆動させるものを把握しようとすることに大別できる。個人差の分類においては類型論と特性論、駆動力の理解には力動論が代表的な考え方である。 **第１４章　個人差のアセスメント** 人間ひとりひとりの知能およびパーソナリティのアセスメント（査定）についての章であり、心理測定と心理アセスメント、知能のアセスメントとパーソナリティのアセスメントについて学ぶ。最初に心理測定の性質や要件について、次いで知能とパーソナリティアセスメントについて実際に用いられている検査法が具体的に概観される。 **第１５章　自己概念の構造と自尊心** 社会心理学には社会構造や集団と個人との相互作用を調査や研究で解明する社会学的社会心理学と、社会に生きる個人の行動や個人間の相互作用を実験によって解明する心理学的社会心理学がある。後者の立場において「社会」とは「他者」を意味し、個人が他者によってどのように影響されるかを学習する。 **第１６章　自己と他者の相互作用** 本章では他者の存在によって自己の価値が変化すること、他者と競争することなどの人間として避けがたい他者との関係を社会心理学的な観点から自己意識、他者からの影響、対人相互作用などについて学ぶ。 **第１７章　集団に関する社会行動** かつてアメリカを中心とする心理学会は集団に関する研究―集団凝集性、集団構造、コミュニケーション構造、などのグループダイナミックスについての研究―は、一時衰退したかに見えた。しかし現在では集団に属することの個人にとっての意味がアイディンティティの問題と重なり、ふたたび注目されてきている。集団内行動と集団間行動などについて学ぶ。 **第１８章　喜怒哀楽と感情の機能** 感情や情動は人間にとって日常的かつ主観的体験として経験する。従来感情や情動の主観性から、感情内容の分析や感情状態を生起しせめる条件の研究が主流であったが、現代では人間の活動における感情や情動の果たす機能についての研究が盛んになってきている。これまでの研究の歴史を顧み、行動としての感情についての考え方を概観する。 **第１９章　心と行動のリズム** 人間の身体に生起する生理的過程と心や行動との関連を探求する生理心理学分野の章である。心と行動の生理学的基礎、睡眠と覚醒のリズム、意識について学ぶ。 **第２０章　ストレスと心の健康** 本章ではストレスに関する基礎、ストレスの定義からストレスへの対処までを整理する。 **第２１章　心の病と心理療法** 本章は臨床心理学の領域である。精神医学的な知識とともに、心理学においては異常心理学ととらえられてきた考え方に基づく。現代に多くみられる精神的な問題・心の病について整理し、それに対して心理学がどのように向き合ってきたのか、心理療法の基本理論と技法を学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：培風館「心理学概説」心と行動の理解　松田隆夫編 ■参考書　：心理学の諸領域についは個々の成書を参考にすること。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．心理学の各分野の歴史的背景および理論的背景を理解できる。 ２．人間の認知機能や発達過程を理解できる。 ３．心理学における専門用語について理解し、説明ができる。 ４．人間の心の過程・動きについて理解できる。
【評価基準】	選択式の科目修了試験に６割以上正解することで合格とする。

科目名	**心理学研究法**
担当教員	村上香奈
科目コード	２３３０Ｔ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	心理学とは、人間の心や行動といった目には見えにくい現象を科学的に捉える学問である。つまり、心理学が科学として成立するためには、心理学的観点からの研究を行い、心や行動を測定し、論拠を示す必要がある。本科目では、心理学研究における研究方法および測定の意義について学び、自身が心理学研究を行う際、適切な研究方法を選択し、計画・立案できるようになることを目標とする。
【キーワード】	独立変数と従属変数／研究仮説／帰無仮説／心理学的実験
【テキストの内容及びアドバイス】	心理学研究法を理解するためには心理学がどのような学問かを知る必要がある。第1章から第5章までは心理学の歴史的起源、現代の心理学が独立した科学として成立するまでの過程が解説されている。第6章から第9章は心理学研究を行う前に学修しておくべき基礎が記されている。 第１章　ヒトと二つの世界 　我々が生活している外的世界、学問、概念などすべての事象は、ことばによって説明されていることを学習する。 第２章　文化 　ヒトが作り出した文化の重要な領域として学問がある。学問の歴史を紐解きながら、心理学は科学という学問の一分野であることを学ぶ。 第３章　心理学と科学 　心理学が科学であるための条件について理解する。 第４章　心理学の成立と領域 　心理学を理解するために、心理学の歴史、心理学の代表的な実験と理論、その解説が記されているので理解する。 第５章　個を単位とした心理学 　心理学の研究には、一人のヒトを単位としてヒトが行う心理的行動を研究する分野と、ヒトとヒトの関係によって生じる現象を研究しようとする分野がある。これらについて発達心理学、臨床心理学、社会心理学の実験・検査を通して学習する。 第６章　心理学研究法 　心理学研究において行われる研究方法について理解する。実験群・統制群や独立変数・従属変数などといった重要な用語も出てくる。さらに、先行研究の重要性について学習する。 第７章　数学の利用 　本章では数を理解し、数の表記方法について学ぶ。 第８章　測定値 　心理学研究では、心理現象を測定して数値で表す。そのため、測定した値を理解する必要がある。本章では、尺度水準（名義尺度、順位尺度、間隔尺度、比率尺度）、代表値、散布度などについて理解する。 第９章　統計的方法 　第８章に続き、数値の理解として、母集団・標本の違いや代表値を理解する。また、統計的検定についても概観する。 第１０章　心理学読書案内 　心理学やその周辺領域の本が紹介されているので参考にする。
【使用教材】	■テキスト：中瀬　惇『心理学研究法 心の科学への招待』金子書房
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 心理学が科学であることを理解でき、説明できる。 2. 心理学の各理論の基となっている心理学実験を理解できる。 3. 統計的検定における研究仮説・帰無仮説・対立仮説を理解できる。 4. 実験計画をイメージできるようになる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	心理学概論および心理統計学を併せて受講するとより理解が深まる。

科目名	**心理学基礎実験Ⅰ**
担当教員	村上香奈
科目コード	２３３３Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：－単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	－
【教育目標】	心理学における基礎的な実験・実習に、実験者および研究対象者（実験参加者、調査協力者等）として参加体験することで、心理学における実験的技法や実証的技法に関する基礎知識を身につける。また、各実験のレポート作成を通して、得られたデータの分析方法や心理学研究における論文の形式などについても学習する。さらに、実験・調査などにおける研究倫理についても理解を深める。 ＊本科目は認定心士申請における基礎科目ｃ心理学実験・実習に該当する。本科目と「心理学基礎実験Ⅱ」「心理学基礎実験Ⅲ」の計３科目（各１単位、計３単位）を履修することによって、基礎駅な実験を複数含む、観察・調査・検査を併せて１０課題実習する。
【キーワード】	知覚／学習／記憶／情意／行動
【テキストの内容及びアドバイス】	心理学の各分野の異なったテーマで４つの基礎心理的な実験を実施する。自らが実験者および研究対象者（実験参加者）として参加・体験し、データ収集、データ処理、推計学的検定、レポート作成などの作業を行う。実験は、６～８名のグループに分かれ、２人１組にて行う。 なお、本科目は実習科目であるため、受講には定員枠が設けられている。
【受講条件】	１．下記の２科目が履修（単位取得）済みであること。 ①「心理学概論」 ②「心理統計学ⅡＳ」（２００８年度までの開講科目「心理統計学Ｓ」でもよい） ２．レポートはＷｏｒｄ（本文）とＥｘｃｅｌ（図表）で作成するので、両者の基本的な操作ができること。
【使用教材】	心理学実験指導研究会編　１９８５『実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）』培風館 実験・実習に必要な資料は当日配布する。下記の参考文献はレポート作成の際、有用なものである。
【参考文献】	心理学実験指導研究会編　１９８５『実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）』培風館 Ｂｒｕｃｅ　Ｆｉｎｄｌａｙ（細江達郎ら訳）１９９６『心理学　実験・研究レポートの書き方―学生のための初歩から卒論まで』　北大路書房
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．適切な方法で心理学的データを収集できる。 ２．適切な方法で心理学的データを分析できる。 ３．得られた統計値について、適切な解釈ができる。 ４．心理学的用語を使って、現象を説明できる。 ５．実験レポートに必要な構成を理解し、作成できる。 ６．実験・調査における研究倫理を理解できる。
【評価基準】	スクーリング最終日の試験は行わない。必要な出席を満たし、実験者および研究対象者双方の立場から全実験に参加した者について、スクーリング終了後に提出するレポートを採点する。合格は６０点以上である。 【出席】実習科目のため、全コマ出席のこと。病気や事故等でやむを得ず授業に出られない場合も、全て欠席扱いになる。遅刻しての入退室は、実験中のデータに影響を与えることがあるので、原則として認められない。参加できなかった実験がある場合は、単位を取得できない。 【レポート】各実験課題につき１本ずつレポートを作成する。レポートとして必要な形式および提出方法については、講義内にて説明する。全ての実験についてのレポートを提出できない場合は、単位を取得できない。
【スクーリングにおける事前学修】	１．実験で観察された事象の意味を理解し、レポート作成において考察を行うには、心理学の基礎的知識が必要である。 ２．データの処理には統計の知識が必須である。平均値や標準偏差の出し方、中央値の求め方、有意差検定（ｔ検定と分散分析）については、自分で使いこなせること。実習中には時間がないため、改めての統計指導は行わない。
【スクーリングでの講義内容】	学習内容 / キーワード（重要語句） １時限：オリエンテーション / 心理学における実験実習の位置づけ、研究倫理 2-3 時限：実験１　ミュラー・リヤーの錯視 / 錯視、調整法 4-6 時限：実験レポートの書き方について / 問題、目的、方法、結果、考察、

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td>の説明
実験１のデータ入力・分析、レポート作成</td><td>引用文献</td></tr>
<tr><td>7-9 時限</td><td>実験２　鏡映描写</td><td>鏡映描写、知覚運動学習、両側性転移、仮説検証</td></tr>
<tr><td>10-11 時限</td><td>実験３　要求水準</td><td>要求水準、達成度、満足度</td></tr>
<tr><td>12 時限</td><td>実験２、３のデータ入力・分析</td><td>平均、標準偏差</td></tr>
<tr><td>13-14 時限</td><td>実験４　自由再生における系列位置効果</td><td>系列位置効果、自由再生法、初頭効果、新近性効果、問題、目的、方法、結果、考察、引用文献</td></tr>
<tr><td>15 時限</td><td>実験４のデータ入力・分析</td><td>中央値</td></tr>
</table>
＊進行や当日使用する教室によっては、データ入力の時間帯を変更する場合がある。
＊実験や実験内容の理解を助けるため、ＶＩＤＥＯを用いることもある。
</td></tr>
<tr><td>【連絡事項】</td><td>１．受講者の定員は２４名である。
２．この科目の受講にあたっては、特別実習費（８，０００円）が別途必要となる（初日に事務局窓口にて支払い)。
３．フロッピーディスクもしくはＵＳＢフラッシュメモリを持参すること。
４．ＩＤおよびパスワードを持参すること。
５．実験の進行によっては、休み時間や昼休憩、授業終了後の時間を使わざるを得ない場合があるので、時間に余裕を持って参加して欲しい。実験によってかかる時間が異なるので、休憩時間も作業の区切りごとに取ることになる。
６．後日提出するレポートの作成は、かなりの作業量になるので、そのための時間も確保できるよう予め日程の心づもりをしておくこと。
７．心理学の実習科目であることを念頭に置き、積極的かつ真摯な態度で臨むこと。</td></tr>
</table>

科目名	**心理学基礎実験Ⅱ**
担当教員	村上香奈
科目コード	２３３４Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：　－単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	－
【教育目標】	心理学における基礎的な実験・実習に、実験者および研究対象者（実験参加者、調査協力者等）として参加体験することで、心理学における実験的技法や実証的技法に関する基礎知識を身につける。また、各実験・実習のレポート作成を通して、得られたデータの分析方法や心理学研究における論文の形式などについても学習する。さらに、実験・調査などにおける研究倫理についても理解を深める。 ＊本科目は認定心士申請における基礎科目ｃ心理学実験・実習に該当する。本科目と「心理学基礎実験Ⅰ」「心理学基礎実験Ⅲ」の計３科目（各１単位、計３単位）を履修することによって、基礎駅な実験を複数含む観察・調査・検査を併せて１０課題実習する。
【キーワード】	情意／行動／社会／集団
【テキストの内容及びアドバイス】	心理学の各分野の異なったテーマで３つの基礎心理的な実験・実習を実施する。実験１、実験２では、自らが実験者および研究対象者（実験参加者）として参加・体験し、データ収集、データ処理、推計学的検定、レポート作成などの作業を行う。実験３は、実験計画の立案、測定項目の吟味、準備プレゼンテーションの作業が追加される。実験は４～６名のグループに分かれて行う。 なお、本科目は実習科目であるため、受講には定員枠が設けられている。
【受講条件】	１．下記の１科目が履修（単位取得）済みであること。 「心理学基礎実験Ⅰ」 ２．実習中に統計指導は行わないので、自分で統計を使いこなせること（プレゼンテーションおよびレポート作成で必要とされる）。 ３．レポートはＷｏｒｄ（本文）とＥｘｃｅｌ（図表）で作成するので、両者の基本的な操作ができること。 ＊プレゼンテーションではＰｏｗｅｒ　Ｐｏｉｎｔを使用するが、これについてはＷｏｒｄとＥｘｃｅｌが使えれば基礎的な操作はできるので、初めてでも良い。
【使用教材】	心理学実験指導研究会編　１９８５『実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）』培風館 実験・実習に必要な資料は当日配布する。下記の参考文献はレポート作成の際、有用なものである。
【参考文献】	心理学実験指導研究会編　１９８５『実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）』培風館 Ｂｒｕｃｅ　Ｆｉｎｄｌａｙ（細江達郎ら訳）１９９６『心理学　実験・研究レポートの書き方―学生のための初歩から卒論まで』　北大路書房
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．実験計画が立てられる。 ２．実験の準備が整えられる。 ３．実験・調査における研究倫理を理解できる。 ４．適切な方法で心理学的データを収集できる。 ５．得られた統計値について、適切な解釈ができる。 ６．心理学的用語を使って、現象を説明できる。 ７．実験研究を分かりやすくプレゼンテーションできる。 ８．実験レポートに必要な構成を理解し、作成できる。
【評価基準】	スクーリング最終日の試験は行わない。必要な出席を満たし、実験者および研究対象者双方の立場から全実験に参加した者について、スクーリング終了後に提出するレポートを採点する。合格は６０点以上である。 【出席】実習科目のため、全コマ出席のこと。病気や事故などでやむを得ず授業に出られない場合も、全て欠席扱いになる。遅刻しての入退室、実験中のデータに影響を与えることがあるので、原則として認められない。参加できなかった実験がある場合は、単位を取得できない。 【レポート】各実験課題につき１本ずつレポートを作成する。レポートとして必要な構成および提出方法については、講義内にて説明する。全ての実験についてのレポートを提出できない場合は、単位を取得できない。
【スクーリングにおける事前学修】	１．実験で観察された事象の意味を理解し、レポート作成において考察を行うには、心理学の基礎的知識が必要である。 ２．データの処理には統計の知識が必須である。平均値や標準偏差の出し方、有意差検定（ｔ検定と分散分析）については、自分で使いこなせること。実習中には時間がないため、改めての統計指導は行わない。

【スクーリングでの講義内容】

	学習内容	キーワード（重要語句）
1-3 時限	オリエンテーション 実験１　心理尺度の構成 実験 1-1　順位法 実験 1-2　選択法 実験 1-3　一対比較法	研究論理 尺度水準、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度、順位法、選択法、一対比較法
4-6 時限	実験２　パーソナル・スペース（個人空間）の測定 実験 2-1　実験場面での個人空間の測定 実験 2-2　実験場面での個人空間の観察	パーソナル・スペース（個人空間）、親密距離、個体距離、社会距離、公衆距離
7-9 時限	実験３　ＫＪ法　定性的データ分析の基礎１ 調査計画、調査準備、調査実施	発想法、定性的データ（質的データ）
10-11 時限	実験３　ＫＪ法　定性的データ分析の基礎２ データ分析、ディスカッション（考察）、プレゼンテーション準備	単位化、グループ編成、図解化、叙述化
12 時限	実験３　ＫＪ法　定性的データ分析の基礎３　発表会	プレゼンテーション
13-15 時限	レポート作成	標題、問題、目的、方法、結果、考察、引用文献

【連絡事項】

１．受講者の定員は２４名である。
２．この科目の受講にあたっては、特別実習費（８，０００円）が別途必要となる（初日に事務局窓口にて支払い）。
３．フロッピーディスクもしくはＵＳＢフラッシュメモリを持参すること。
４．ＩＤおよびパスワードを持参すること。
５．身軽な服装（ズボンの装用など）で参加することが望ましい。実験実施に当たり、机や椅子を動かしたり、実験中、メジャーを用いて、しゃがんで距離を測定する、などが含まれる。
６．実験の進行によっては、休み時間や昼休憩、授業終了後の時間を使わざるを得ない場合があるので、時間に余裕を持って参加して欲しい。実験によってかかる時間が異なるので、休憩時間も作業の区切りごとに取ることになる。
７．後日提出するレポートの作成は、かなりの作業量になるので、そのための時間も確保できるよう予め日程の心づもりをしておくこと。
８．心理学の実習科目であることを念頭に置き、積極的かつ真摯な態度で臨むこと。

<table>
<tr><td>科目名</td><td>心理学基礎実験Ⅲ</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>村上香奈</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>２３５７Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>分野別科目―こころ・精神の理解</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>テキスト履修：　－単位　　スクーリング履修：１単位</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td>－</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>心理学における基礎的な実験・実習に、実験者および研究対象者（実験参加者、調査協力者等）として参加体験することで、心理学における実験的技法や実証的技法に関する基礎知識を身につける。また、各実験のレポート作成を通して、得られたデータの分析方法や心理学研究における論文の形式などについても学習する。さらに、実験・調査などにおける研究倫理についても理解を深める。
＊本科目は認定心士申請における基礎科目ｃ心理学実験・実習に該当する。本科目と「心理学基礎実験Ⅰ」「心理学基礎実験Ⅱ」の計３科目（各１単位、計３単位）を履修することによって、基礎的な実験を複数含む、観察・調査・検査を併せて１０課題実習する。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>情意／行動／人格／測定</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>心理学の各分野の異なったテーマで３つの基礎心理的な実験を実施する。自らが実験者および研究対象者（実験参加者）として参加・体験し、データ収集、データ処理、推計学的検定、レポート作成などの作業を行う。実験は２人１組にて行う。
なお、本科目は実習科目であるため、受講には定員枠が設けられている。</td></tr>
<tr><td>【受講条件】</td><td>１．下記の１科目が履修（単位取得）済みであること。
「心理学概論」
２．レポートはＷｏｒｄ（本文）とＥｘｃｅｌ（図表）で作成するので、両者の基本的な操作ができること。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>心理学実験指導研究会編　１９８５『実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）』培風館
実験・実習に必要な資料は当日配布する。下記の参考文献はレポート作成の際、有用なものである。</td></tr>
<tr><td>【参考文献】</td><td>心理学実験指導研究会編　１９８５『実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）』培風館
花沢成一・佐藤誠・大村政男　１９８５『心理検査の理論と実際』　駿河台出版</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>１．適切な方法で心理学的データを収集できる。
２．適切な方法で心理学的データを分析できる。
３．得られた統計値について、適切な解釈ができる。
４．心理学的用語を使って、現象を説明できる。
５．レポートに必要な構成を理解し、作成できる。
６．実験・調査・検査における研究倫理を理解できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>必要な出席を満たし、実験者および研究対象者双方の立場から全実験に参加した者について、スクーリング最終日に実施する試験及びスクーリング終了後に提出されるレポートを総合的に評価する。合格は６０点以上である。
【出席】実習科目のため、全コマ出席のこと。病気や事故等でやむを得ず授業に出られない場合も、全て欠席扱いになる。遅刻しての入退出、実験中のデータに影響を与えることがあるので、原則として認められない。参加できなかった実験がある場合は、単位を取得できない。
【試験】全コマに出席した者について、スクーリング最終日に試験を実施する。
【レポート】各実験課題につき１本ずつレポートを作成する。レポートとして必要な形式および提出方法については、講義内にて説明する。全ての実験についてのレポートを提出できない場合は、単位を取得できない。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>心理学基礎実験Ⅲにおける実験・調査・検査で使用される用語や尺度の意味を理解するためには、心理学の基礎的知識および心理学統計用語の基礎的知識が必要となる。これらについては、実習中に改めて詳しく説明しないので、各自学修しておくこと。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1 時限</td><td>オリエンテーション</td><td>心理学における実験実習の位置づけ、研究倫理</td></tr>
<tr><td>2-4 時限</td><td>実験１　セマンティック・ディファレンシャル法（ＳＤ法）によるイメージの測定</td><td>ＳＤ法、評定尺度、意味空間</td></tr>
<tr><td>5-10 時限</td><td>実験２　知能検査
ＷＡＩＳ－Ⅲ①</td><td>知能検査、ＷＡＩＳ－Ⅲ、言語性検査、動作性検査</td></tr>
<tr><td>11-14 時限</td><td>実験３　性格の測定</td><td>質問紙法、作業検査法、投映法、</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>信頼性、妥当性、テストバッテリー</td></tr>
<tr><td>15 時限</td><td>試験</td><td></td></tr>
</table>
＊実験や実験内容の理解を助けるため、ＶＩＤＥＯを用いることもある。
</td></tr>
<tr><td>【連絡事項】</td><td>１．受講者の定員は２４名である。
２．この科目の受講にあたっては、特別実習費（８，０００円）が別途必要となる（初日に事務局窓口にて支払い)。
３．実験の進行によっては、休み時間や昼休憩、授業終了後の時間を使わざるを得ない場合があるので、時間に余裕を持って参加して欲しい。実験によってかかる時間が異なるので、休憩時間も作業の区切りごとに取ることになる。
４．心理学の実習科目であることを念頭に置き、積極的かつ真摯な態度で臨むこと。</td></tr>
</table>

科目名	**臨床心理学実践　　★正科生は 4 年生のみ受講可**		
担当教員	原田憲明		
科目コード	２３３７Ｓ		
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解		
単位数	スクーリング履修：２単位		
【教育目標】	豊富な事例や視聴覚教材を用いながら、「臨床心理学」を実践的な立場から学ぶことを目標とします。具体的には、以下のとおりです。 ■臨床心理学実践（心理臨床）の基本を学ぶ。 ■臨床心理学の基本的な視点を学ぶ。 ■さまざまな「精神障害」や「発達障害」について理解する。 ■さまざまな心理学的援助・介入の基本を知る。		
【キーワード】	臨床／臨床心理学／臨床心理学的人間理解／心理学的援助（介入）／心理療法		
【テキストの内容及びアドバイス】	授業では、「臨床心理学」を実践的な立場から学ぶことを◎教育目標としているため、「臨床心理学」全般を網羅的に学んでいくことはしません。したがって、事前にテキストで臨床心理学全般について大体を掴んでおいていただくと、より理解し易いと思います。併せて、本科目履修の前に、下記の参考書を読んでいただくと興味が深まると思います。参考書はいず れも新書版ですが、内容的には大変優れた著作です。また、「カウンセリング」や「発達」についての科目も併せて履修していただくとより理解が深まると思います。		
【使用教材】	■テキスト：『よくわかる臨床心理学』下山晴彦編　ミネルヴァ書房 ■参考書：池見陽『心のメッセージを聴く　実感が語る心理学』講談社現代新書 滝川一廣『「こころ」の本質とは何かー統合失調症・自閉症・不登校のふしぎ』ちくま新書 山中康裕『少年期の心　精神療法を通してみた影』中公新書		
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．心理臨床（「臨床心理行為」）を行うにあたっての基本（「ルール」、「構造」、「枠組み」）がわかる。 2．「臨床心理学」と「臨床心理行為」、「精神医学」と「医行為」の人間理解や介入方法の違いについて議論することができる。 3．心理臨床を行う際に、面接の場、あるいは面接外の場で起こりうることについて理解する。 4．さまざまな「精神障害」「発達障害」について理解する。また、「異常心理学」や「発達課題」の観点から、それらを 議論することができる。 5．治療（面接）者の基本的なあり方、クライエントとの関わり方について議論することができる。 6．幾つかの代表的な心理療法の具体的な精神障害の理解と介入方法について理解する。 7．日本の代表的な心理療法の具体的な精神障害の理解と介入方法について理解する。		
【評価基準】	講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。 総合評価で 60 点以上を合格とする。		
【スクーリングにおける事前学修】	使用教材の中で紹介した４つの著作のうち、上２冊は優れた臨床心理学者（「臨床心理士」）によって書かれた（監修された）著作であり、下の２冊は優れた精神医学者（「精神科医」）によって書かれた著作です。「臨床心理学」と「精神医学」 ということを意識しながら読んでいただくと、「臨床心理学」の視点や方法論がよりはっきりすると思います。		
【スクーリングでの講義内容】	学修内容		キーワード（重要語句）
	1 時限	「臨床心理学」とはどのような学であるのか、また「臨床心理学実践」すなわち「臨床心理行為」とは何かについて、とくに「精神医学」との比較 のなかで学ぶ。	「臨床心理学」、「臨床心理行為」、「精神医学」、「医行為」
	2-3 時限	「回復する（治る）」とはどういうことなのか、1 人の社交不安障害（対人恐怖）の患者の入院から退院までを記録したビデオを視聴しながら「回復（治ること）」について考える。また、いつ「治療（面接）終結」するのか、考える。	「回復（治ること）」、「治療（面接）終結」、「成長」
	4-5 時限	アセスメント（2）として、発達の視点から、人間の心理的発達と発達課題について学ぶ。また、発達の遅れやズレ、異常として	「心理的発達」、「発達課題」、「発達障害」

		の「発達障害」や心理的問題について学ぶ。	
	6 時限	アセスメント（3）として、「異常心理学」の観点から、そもそも「正常」、「異常」とは何かを考える。また、具体的にどのような「異常」、「障害」があるのか、米国の精神障害の診断マニュアルである DSM を参考に学ぶ。	「正常」、「異常」、「精神症状」、「DSM」
	7-8 時限	心理療法の「枠組み」について学ぶ。幾つかの事例を参考にしながら、心理療法の場で起こること－「転移」、「逆転移」、「抵抗」などについて学ぶ。 また、面接室外で起こりうることとして、「自殺企図」・「家族への暴力」・ 「自傷行為」などの行動化について学ぶ。	「枠組み」、「転移」、「逆転移」、「抵抗」、「自殺企図」・「家族への暴力」、「自傷行為」、「行動化」
	9 時限	「セラピスト（治療者）論」として、クライエントとの関係におけるセラピストの基本的なありかたを学ぶ。視聴覚教材を使い、異なったありかたを示す二人のセラピストのセラピーを実際に観ながら、セラピストがクライエントのどこに注目し、どのような関わりかたを示すかを学ぶ。	「禁欲原則」、「提供モデル」、「中立性」、「受身性」、「能動性」、「言語」、「非言語」、「受容」、「対決」
	10-11 時限	「不安障害」と「認知行動療法」の基本を学ぶ。認知行動療法の基本モデル、基本原則、基本的な進めかたについて学ぶ。次に、「強迫性障害」の事例を用いながら、実際に認知行動療法がどのように進められるかを学ぶ。	「不安障害」、「認知行動療法」、「強迫性障害」、「暴露法」、「反応妨害法」
	12 時限	「外傷性精神障害」と「EMDR（眼球運動による外傷記憶の脱感作と再処理法）」の基本について学ぶ。精神的外傷（トラウマ）に対する「防衛」としての「解離」について学ぶ。また、近年、外傷性精神障害に対する一つの治療法として注目される「EMDR」について、事例やビデオ視聴を 参考にしながら学ぶ。	「外傷性精神障害」、「EMDR」、「外傷記憶」、「精神的外傷（トラウマ）」、「防衛」、「解離」
	13 時限	日本の心理療法（1）として、「神経質性格」を基盤に「とらわれの心理機制」によって発展した神経症（「森田神経質」）の治療法である「森田療法」の理論と実際について学ぶ。	「神経質性格」、「とらわれの心理機制」、「森田神経質」、「森田療法」
	14 時限	日本の心理療法（2）として、ビデオを用いながら、修養法としての「内観法」、心理療法としての「内観療法」を紹介する。	「内観法」、「内観療法」
	15 時限	試験を行います。	

科目名	**精神保健**
担当教員	矢吹弘子
科目コード	２３３９Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	精神保健は幼児から高齢者にいたる精神の健康問題を幅広く対象とする。したがって、まず精神医学について概観し、症状、見立て、各の障害特徴、治療法などについて理解する必要がある。次に、地域の現場で精神医療を実践するための方策、精神保健・福祉の資源について学ぶ。
【キーワード】	精神保健／精神医療／社会精神医学
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　精神医学とは **第２章**　精神障害における症状 **第３章**　精神科面接法と診断への過程 **第４章**　精神障害各論 **第５章**　精神科包括治療 **第６章**　地域社会と精神医療・保健・福祉
【使用教材】	■テキスト：『学生のための精神医学』医歯薬出版
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．精神障害者の健康問題について説明できる。 ２．代表的な精神疾患の概念・症状・経過について説明できる。 ３．精神を病んだ対象者の不安や苦悩について説明できる。 ４．様々な種類の心理社会的治療について説明できる。 ５．地域社会と精神医療・保健・福祉について説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**精神看護**		
担当教員	鈴木英子		
科目コード	２３４０T/２３５４S		
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解		
単位数	テキスト履修： ４単位　　スクーリング履修：１単位		
テキスト履修グループ	B		
【教育目標】	1　精神看護の基本概念と位置づけについて述べることができる。 2　精神保健：人間の発達と危機的状況ついて理解できる。 3　精神科における主要疾患を学びその要因、病体について理解できる。 4　ストレスとストレス対処方法を学び、自らの精神的健康について考えることができる。 5　職業上のストレスについて学びストレス予防について考えることができる。 6　ストレス予防のためのコミュニケーション技法について述べることができる。		
【キーワード】	人間発達上の危機／うつ病／ストレス／ストレスコーピング、アサーティブネス（自己主張のありかた）		
【テキストの内容及びアドバイス】	精神看護、精神科看護の標準テキストを選択した。この中から主要疾患を学んだ上で自らの精神的健康について振り返り、ストレスやその予防について学んで欲しい。		
【使用教材】	■テキスト：瀧川　薫、鈴木英子他：『看護系標準教科書　精神看護学』オーム社 ■参考書：瀧川　薫、鈴木英子他：『精神保健看護辞典』オーム社		
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	精神疾患への偏見をなくして、身近な問題として考えることができる。自らの精神的健康を考え、自分にあったストレスの対処法、職業上のストレスとその予防について学び、少しでも日常に生かしていただきたい。		
【評価基準】	【テキスト履修】 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 【スクーリング履修】 講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。 総合評価で６０点以上を合格とする。		
【スクーリングにおける事前学修】	事前に渡す質問紙に回答して（20 分ほどでできるもの）授業に臨んでほしい。		
g【スクーリングでの講義内容】	学修内容		キーワード（重要語句）
	1 時限	精神看護学の基本概念と位置づけ 精神保健と精神看護　人間の発達と危機的状況【1】	精神看護と精神科看護
	2 時限	精神保健と精神看護　人間の発達と危機的状況【2】精神保健医療の歴史と法制度	人間の発達上の危機的状況 障害者の人権
	3 時限	精神疾患の分類と主要疾患（神経症とパーソナリティ生涯）	神経症水準、人格障害水準、精神病水準
	4 時限	精神疾患の分類と主要疾患（統合失調症とうつ病）	現代増えつつあるうつ病
	5 時限	ストレスとストレスコーピング	ストレス
	6 時限	ストレスとバーンアウト	職業上のストレス障害
	7 時限	ストレス予防のためのアサーティブス（自己主張の方法）	ストレス予防
	8 時限	まとめ・テスト	
【連絡事項】	精神科看護主要疾患		

科目名	**コミュニティ心理学**
担当教員	萩原豪人
科目コード	２３４１Ｔ／２３４２Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	コミュニティ心理学は、1965 年アメリカで誕生した、まだ新しい心理学と言えるでしょう。現代は、伝統的な個人心理療法だけでは解決できない多種多様な問題を抱えています。コミュニティ心理学的アプローチでは、それらの心理・社会的な問題に対し、どのように取り組んでいるのでしょうか？心理・社会的な問題は、専門家だけでなく、コミュニティに共に生きる全ての人々が、自ら考え、関わりを持っていくことで変化していきます。 本講座を通して、そのような基本的な発想と姿勢を身に付けてもらえればと思っています。
【キーワード】	
【テキストの内容及びアドバイス】	前半はコミュニティ心理学という学問の概要や誕生の歴史的背景、背景にある理論、介入・援助の方法などについて説明されている。後半はコミュニティ心理学的アプローチがどう実践されているか、様々な臨床現場を紹介し、より具体的に理解できるような内容となっている。 第 1 章　コミュニティ心理学とは何か 第 2 章　基本的発想 第 3 章　歴史的背景 第 4 章　背景となる理論 第 5 章　介入・援助とその評価 第 6 章　家庭・地域における実践 第 7 章　学校・教育の場における実践 第 8 章　産業・職場における実践 第 9 章　医療・保健・福祉の場における実践 第 10 章　多文化コミュニティを支える実践 第 11 章　インターネット・コミュニティを支える実践
【使用教材】	■テキスト：『よくわかるコミュニティ心理学』　植村勝彦他編　ミネルヴァ書房 ■参考書：
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	・コミュニティ心理学についての基礎知識を習得し、またコミュニティ心理学の発想をもった心理臨床家としての視点・基本姿勢を理解することを目標とする。 ・様々な領域において、どのようなコミュニティアプローチがなされるか理解し、また、伝統的な個人心理療法との違いを説明できるようにする。
【評価基準】	【テキスト履修】 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 【スクーリング履修】 講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で 60 点以上を合格とする。
【スクーリングにおける事前学修】	テキスト全てに目を通してくる必要はないが、特に前半の基本的な説明（特にⅠ～Ⅱ章）と個人的に関心のある分野の実践が書かれている箇所は、読んでから授業に参加されると、より深く理解ができるものと思われる。
【スクーリングでの講義内容】	概ね以下のような予定で行なう。ただし、受講者の様子を見ながら、講義の内容や順番は、前半の理論編と後半の実践編を織り交ぜながら、より理解が深まるように工夫したいと思っている。また、できるだけ筆者が経験してきた臨床現場を紹介し、テキストには書かれていない、実際の事例等に触れることを通して、具体的な理解の助けとしたい。

	学修内容	キーワード（重要語句）
1 時限	イントロダクション コミュニティ心理学の概要など	基本的発想
2 時限	伝統的個人心理療法 基礎知識として個人心理療法を概観	個人心理療法
3 時限	コミュニティ心理学の特徴 1 個人心理療法との相違と特徴	コミュニティ心理学の定義 人と環境の適合
4 時限	コミュニティ心理学の特徴 2 登場の背景や歴史、基本的姿勢など	精神保健革命　ボストン会議 コミュニティ心理学者の役割

	5 時限	研究・理論 　ストレス研究・ソーシャルサポート研究など	ストレス理論　ソーシャルサポート理論
	6 時限	介入・援助の方法 1 　介入のレベルおよび予防的介入	コミュニティへの介入　予防の重視
	7 時限	介入・援助の方法 2 　危機介入の考え方と方法	危機理論　危機介入
	8 時限	介入・援助の方法 3 　コンサルテーションの考え方と技法	コンサルテーション
	9 時限	介入・援助の方法 4 　ソーシャル・ネットワーキングの考え方と技法	ソーシャルネットワーク理論サポート・ネットワーキング
	10 時限	コミュニティアプローチの実際 1 　スクールカウンセラー	スクール・カウンセリング
	11 時限	コミュニティアプローチの実際 2 　HIV ／ AIDS カウンセリング	HIV カウンセリング
	12 時限	コミュニティアプローチの実際 3 　児童虐待・ひきこもりなど	子育て支援　児童相談所
	13 時限	コミュニティアプローチの実際 4 　学生相談室	学生相談
	14 時限	コミュニティアプローチの実際 5 　専門家と非専門家…ボランティア活動や被災者支援	社会資源の活用
	15 時限	試験	

科目名	**心理統計学ＩＴ**
担当教員	久住武
科目コード	２３４５Ｔ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	最近では、統計用ソフトが安価になったこともあり、いろいろな分野で統計が活用されるようになって、一般の人も理解しやすくなってきた。しかし、その反面で、出力される判定結果のみにとらわれて、その意味を十分理解しないまま論じている人もいます。その原因の１つとして、調査や実験で得られたデータの性質を理解していないことがあげられます。 そこで本科目では、心理学をはじめとして調査や実験でデータの性質を理解した上で、データの処理や解析が出来るようになるための基礎を身につけることを目的としています。そのことによって、他者の論文を正確に理解できるようにし、さらに、自分の研究に応用できるようにする。
【キーワード】	データ処理／統計検定／実験計画法／推計学
【テキストの内容及びアドバイス】	統計学の基本的な概念や考え方の理解を中心におく。そのため、教科書は、できるだけ数式が少なく、各章も短くて平易に読んでいけるものを選んだ。 このテキストは統計学の概念から基本的な知識ができるように、数式を少なくわかりやすく書かれています。また、練習問題を挙げながら独学でも統計学がマスターできるようになっています。内容は、７章までに統計学の基礎となる項目が挙げられており、８章からがいよいよ統計らしさを出した検定や分析手法が書かれています。科目履修にあたっては、１章から７章までをしっかりと繰り返し学習して下さい。そのことが、８章以降の勉強に役立ちます。統計学というと、どうしても８章以降が目についてしまいます。統計学の手法をマスターするためにも、７章までの理解に努めてください。 教科書のところどころには、「やってみよう」という項に、具体的な数値が載っているので、これを練習問題と思って自分自身で解いてみること。
【使用教材】	■テキスト：『これならわかる統計学』（美濃哲郎著、ムイスリ出版）、リーディングガイド
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	・測定尺度の具体例を明確に言えるようにする。 ・数量データとカテゴリーデータの集計とグラフ表記が出来るようになる。 ・データの代表値、分散、標準偏差、標準誤差の違いを言えるようにする。 ・パラメトリック、ノンパラメトリックの違いが言えるようにする。 ・データの性質からどの検定方法、あるいは相関を用いたらよいかを判断できるようにする。 ・帰無仮説と対立仮説を明確に立てられるようにする。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする
【連絡事項】	科目修了試験では、電卓の持込を認めます。ただし、関数電卓、タブレット型パソコン、電子手帳、携帯電話など多機能のものは不可。もっとも単純な電卓機能のみのものとします。講義および試験の範囲となっていませんが、８章以降も是非、勉強して下さい。質問は教科書全般について受け付けます。

科目名	**心理統計学ＩＳ**
担当教員	高柳良太
科目コード	２３４６Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	２単位（スクーリング履修：２単位）
テキスト履修グループ	
【教育目標】	基本的な心理統計学の考え方を知る。実験、調査などの心理学的データの種類や整理方法を知る。Excel を使って、心理学的データの整理や初歩的な心理学的データ解析が行えるようになる。
【キーワード】	実験データ／調査データ／データ解析
【テキストの内容及びアドバイス】	実験・調査データなど、基本的な心理統計学の考え方について説明する。また、Excel を使ってデータの整理と簡単な集計も行う。統計学に触れるのが初めてという人は、心理統計学ⅡS を履修する前に本科目を履修することが望ましい。また、各時限の確認テストの他に、提出期日が決められた３回の小テストと修了テストがある。定められた期日までにテスト課題を提出しないと、途中で失格となるので注意すること。提出期日は他のインターネット授業と異なり、本科目独自のスケジュールとなっている。提出期日を間違えないように、十分に注意すること。
【受講条件】	・インターネット接続ができる環境にあること。 ・Excel がインストールされていること。 ・こちらで用意したアンケートシートのダウンロードができ、入力ができること。
【使用教材】	テキストは使用しない。必要な資料を適宜@My キャンパスよりダウンロードしてもらう。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 基礎的な心理統計学の考え方を理解する。 2. Excel を使って、基本的なデータの整理や初歩的な分析ができるようになる。
【評価基準】	この科目は受講中に実施する 3 回の小テストと最後の修了テストの総合評価で合否を決定いたします。従いまして、どれか１つでも未提出のテストがあった場合は評価の対象となりませんので、スケジュールを十分に確認の上、学修を進めてください。
【スクーリングにおける事前学修】	Excel の基本操作および UHAS@My キャンパスの説明は、授業内では一切行わない。本授業では UHAS@My キャンパスから課題ファイルをダウンロードし、Excel が起動し、サンプルファイルを開き、UHAS@My キャンパスで課題ファイルを添付して提出という一連の作業が自力でできないと履修は困難である。自信がない人は、事前に「情報処理演習」を履修するなど、何らかの対策を自分で行っておくこと。
【スクーリングでの講義内容】	

学修内容		キーワード（重要語句）
1 時限	統計学について	標本抽出と推測統計 確率と確率分布
2 時限	データの種類と整理	量的データ 質的データ データの整理
3 時限	データ収集とデータ 1	実験データの場合 調査データの場合
4 時限	データ収集とデータ 2	複数回答のデータ 自由記述のデータ
小テスト１（1 ～ 4 時限の内容）		
5 時限	Excel の基本 1	データの入力方法 複数回答の処理
6 時限	Excel の基本 2	文字データの入力 自由記述データの処理

	7 時限	基本統計量 1	関数（平均　中央値　合計）
	8 時限	基本統計量 2	関数（最大値　最小値　分散・標準偏差）
	小テスト 2（5 ～ 8 時限の内容）		
	9 時限	基本統計量 3	分析ツールを使った基本統計量の算出 分析ツールで出力される統計値
	10 時限	度数分析 1	ソート 関数（countif）
	11 時限	度数分析 2	ピボットテーブルを使った集計
	12 時限	度数分析 3	ピボットテーブルを使ったクロス集計 量的データのカテゴリ化
	小テスト 3（9 ～ 12 時限の内容）		
	13 時限	グラフ 1	棒グラフ
	14 時限	グラフ 2	折れ線グラフ
	15 時限	グラフ 3	円グラフ 帯グラフ
	修了テスト		
【連絡事項】	「心理統計学ＩS・ⅡS の学修の流れ」参照		

科目名	**心理統計学ⅡＳ**
担当教員	高柳良太
科目コード	２３４８Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	
【教育目標】	卒業研究や論文購読に必要な、基本的な統計学の知識や用語を習得する。 Excel を使って、簡単なデータ解析が行えるようになる。
【キーワード】	基本統計量／統計的検定／ Excel
【テキストの内容及びアドバイス】	Excel で実行可能な基本的な統計解析の話を中心に、文献を読む際に必要と思われる統計用語等についても解説する。授業と平行して、サンプルデータを使って自分で Excel を操作し、基本集計等を行う。また、毎回の確認テストの他に、提出期日が決められた 3 回の小テストと修了テストがある。定められた期日までにテスト課題を提出しないと、途中で失格となるので注意すること。提出期日は他のインターネット授業と異なり、本科目独自のスケジュールとなっている。毎回、提出期日を間違えて失格する人が少なからずいるので、十分に注意すること。
【受講条件】	・インターネット接続ができる環境にあること。 ・Excel がインストールされていること。 ・こちらで用意したアンケートシートのダウンロードができ、入力ができること。
【使用教材】	■テキスト：美濃哲郎『これならわかる統計学』ムイリス出版、リーディングガイド ■参考書：岩崎学／中西寛子／時岡規夫『実用統計用語事典』オーム社 高橋信『マンガでわかる統計学』オーム社 涌井良幸／涌井貞美『Excel で学ぶ統計解析』ナツメ社 田久浩志『Excel で学ぶやさしい統計学』オーム社 藤田和夫／藤田智恵子／高柳良太『看護研究ステップアップ』日本看護協会出版会
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 研究について理解する 2. 統計解析に関する基礎知識を身につける 3. 文献を読む際に必要となる統計用語を理解する 4. Excel を使って、基本的な統計解析ができる
【評価基準】	この科目は受講中に実施する 3 回の小テストと最後の修了テストの総合評価で合否を決定いたします。従いまして、どれか 1 つでも未提出のテストがあった場合は評価の対象となりませんので、スケジュールを十分に確認の上、学修を進めてください。
【スクーリングにおける事前学修】	Excel の基本操作および UHAS@My キャンパスの説明は、授業内では一切行わない。本授業では UHAS@My キャンパスから課題ファイルをダウンロードし、Excel が起動し、サンプルファイルを開き、UHAS@My キャンパスで課題ファイ ルを添付して提出という一連の作業が自力でできないと履修は困難である。自信がない人は、事前に「情報処理演習」を履修するなど、何らかの対策を自分で行っておくこと。統計学に触れるのが 初めてという人は、先に心理統計学ＩＳを履修することが望ましい。
【スクーリングでの講義内容】	

	学修内容	キーワード（重要語句）
1 時限	研究について	研究　仮説
2 時限	データの整理・度数表とグラフ	度数分布表　グラフ
3 時限	基本統計 1	平均　中央値　最大　最小
4 時限	基本統計 2	標準偏差　分散
5 時限	データの分布と確率	確率分布
6 時限	仮説検定	帰無仮説　対立仮説　p 値　α
7 時限	t 検定	t 検定

	8 時限	対応のあるｔ検定	対応のあるデータ
	9 時限	1 元配置分散分析	分散分析
	10 時限	2 元配置分散分析	2 元配置
	11 時限	相関	相関係数
	12 時限	回帰分析	重回帰　回帰係数
	13 時限	カイ二乗検定	クロス集計　χ二乗検定
	14 時限	ノンパラメトリック検定	ノンパラメトリック検定
	15 時限	多変量解析	因子分析　主成分分析

心理統計学ＩS・ⅡS の学修の流れ

1　概要

心理統計学ＩS・ⅡS はインターネット授業のみの開講で Excel を使用しての学修となります。基本的な学修の流れは「インターネット授業」に準拠しますので、まずは『学修生活の手引き』の「インターネット授業」を理解いただくとともに、 一部この科目独自の学修方法を採用しているところがございます。以下にその内容を記載いたしますので十分に理解の上、 学修を進めてください。

(1) 前期・後期のどちらかで受講

前期・後期で授業がそれぞれ完結します。内容は同一となりますので、以下に示すどちらのスケジュールで学修を進めるかをまずはご自身で選択してください。(申請の必要はありません。レポートの提出状況で大学側が判断いたします。)

(2) 3 回の小テスト（レポート提出）を実施

各回の確認テスト（自動採点）に加え、4・8・12 回の終了時に小テスト（レポート提出）が課されます。提出スケジュー ルは以下の通りです。

		課題提出期限	採点結果通知	成績通知
前期	小テスト 1 回目	～ 5/11（土）	～ 6/1（土）	～ 8/31（土）
	小テスト 2 回目	～ 6/8（土）	～ 6/29（土）	
	小テスト 3 回目	～ 7/6（土）	～ 7/27（土）	
	修了テスト	～ 8/10（土）		
後期	小テスト 1 回目	10/1（火）～ 11/9（土）	～ 11/30（土）	～ 2014/2/15（土）
	小テスト 2 回目	～ 12/7（土）	～ 12/28（土）	
	小テスト 3 回目	～ 2014/1/7（土）	～ 2014/1/25（土）	
	修了テスト	2014/2/8（土）		

（注意事項）

●前期・後期にわたっての受講はできません。

（例）前期の小テスト 1・2 回目を提出し、後期に小テスト 3 回目・4 回目・修了テ

	ストを提出することはできません。 ●やむを得ぬ事情により前期の途中で受講を断念した場合、後期に一から受講しなおすことは可能です。 （例）前期の小テスト 1・2 回目まで提出したが、やむを得ぬ事情により受講を断念し、後期に小テスト１回目から受講しなおし、最後の修了テストまで提出し単位を修得することは可能です。 ●前期・後期ともに最後の修了テストの提出まで到らなかった場合は、今までの学修状況（録画配信教材の聴講記録・確認テストの受験記録、小テストの提出記録）は全てリセットされ、次学期に最初から学修を始めることになります。 ●提出期間を過ぎて提出されたものは、如何なる理由であっても受付けられません。また、ファイルの添付し忘れも同様の処置となりますので、十分に気をつけてください。 ●小テスト・修了テストともに同一期（前期・後期）内での再提出はできません。 ●早めに提出しても成績通知期限までは結果が返却されません。 ●各章毎の確認テスト（自動採点）は不合格になると、３日間再受験ができなくなりますので、小テスト・修了テストの 提出期限までに余裕を持って終わらせておく必要があります。 ●履修有効期間内に単位修得ができずに、引き続き履修を希望される場合は、履修科目登録が必要になります。 2　受講の流れ 学修は全て、UHAS@My キャンパス上で行われます。
【連絡事項】	「心理統計学ＩＳ・ⅡＳの学修の流れ」参照

科目名	**産業カウンセリング**
担当教員	佐藤　進
科目コード	２３４９Ｔ／２３５０Ｓ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	産業の場におけるカウンセリング活動について、基礎的な知識と実践的スキルを習得する。 職場のメンタルヘルスケアについて、基礎的な知識と対応を理解する。 ［授業の概要］ 産業カウンセリングの目的は、勤労者の人間的成長を援助することであり、生涯にわたる成長過程を通して、その人が自らの力で効果的に機能できるようになるための援助を目指すものである。
【キーワード】	産業カウンセラー／役割と活動／傾聴の技法／労働関係法／人事労務管理／メンタルヘルス
【テキストの内容及びアドバイス】	産業カウンセリングに携わる者に求められる基礎的な知識やスキルの習得を目指して、講義は基本的にテキストに沿って行う。なお、本講義には、簡単な演習を含む。 1. 産業カウンセリングがどのような経緯で発生し、どのような過程を経て現代まで成長してきたか、その発展の歴史を学ぶ。 2. 産業カウンセラーが援助を行う際に果すべき役割や具体的な活動について学ぶ。 3. 産業カウンセラーが専門職としての援助業務を行う上で遵守しなければならない行動基準を学ぶ。 4. カウンセラーに求められる大切な傾聴について傾聴の基本的態度、姿勢、技法等について学ぶ。 5. 産業の場について労働市場、人事管理、労働関係法などを学ぶ。 6. 産業カウンセラーが職場のメンタルヘルスケアを推進していく上で基本となっている国の施策や法律の知識、その具体的な進め方について学ぶ。
【使用教材】	■テキスト:『産業カウンセリング』　日本産業カウンセラー協会
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	・産業カウンセリング活動について理解できる。 ・傾聴の技法について理解できる。 ・勤労者に関連する人事労務管理や関連法規について理解できる。 ・産業の場のメンタルヘルスについて理解できる。
【評価基準】	【テキスト履修】 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 【スクーリング履修】 講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。総合評価で６０点以上を合格とする。
【スクーリングにおける事前学修】	スクーリング前にテキストに沿って該当する各章の概要を理解しておいてほしい。
【スクーリングでの講義内容】	

	学修内容	キーワード（重要語句）
1 時限	産業カウンセリングの歴史と発展	３つの源流、ホーソン実験、日本における相談活動の始まり、EAP
2 時限	産業カウンセラーの役割 産業カウンセラーの倫理	産業カウンセリングの目的、産業カウンセラーに必要な条件、産業カウンセラーの３つの活動、産業カウンセラーの社会責任、倫理原則
3 時限	傾聴の意義と技法Ⅰ	傾聴の基本的態度、カウンセラーの心構え、カウンセリングのプロセス
4 時限	傾聴の意義と技法Ⅱ 講義および応答練習	傾聴の技法
5 時限	産業社会の動向と人事労務管理 労働関係の法規	労働市場の特徴、人的資本の理論、人事考課、解雇、就業規則
6 時限	職場のメンタルヘルスⅠ	安全配慮義務、労働災害、THP、心の健康づくり計画、4つのケア
7 時限	職場のメンタルヘルスⅡ	事例性、職場復帰支援の手引き
8 時限	まとめ、テスト	

科目名	**教育心理学（学習と発達）**
担当教員	中野博子
科目コード	２３５１Ｔ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：―
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	発達の途上にある幼児、児童、生徒の基本的な心身の発達について理解するとともに、障害を持った子どもの、障害に応じた特性を十分に理解し、学校において子どもの成長促進的で適切な対応が可能になるための基本的な知識を身につける。
【キーワード】	生涯発達／発達臨床／発達障害／学校臨床／学習過程とそれに関与する心理的背景／評価的理解／共感的理解／学習理論と学習指導の方法
【テキストの内容及びアドバイス】	【テキストの内容】 **第１章　生涯発達：** 子どもを対象とした発達を学習するに当たり、どういう視点が必要かについての基本的視点を学んでください。 **第２章　乳幼児期の発達：** 健康な子どもたちの乳幼児期の発達の領域は学童期の子どもの発達の理解にとって非常に重要な分野です。単に内容を知識として理解するだけでなく、実際の教育現場で応用して考えられるようにしてください。 **第３章　発達障害とその臨床的援助：** 発達障害は教育現場において様々な問題が生じたために、現場での必要に迫られて飛躍的に研究が進んできた分野です。概要をきちんと理解し、実際にさまざまな子どもの状態をよく把握した上でサポートできるようなことが必要です。 **第４章　児童期・思春期の発達：** 健康な子どもたちの発達がどのように進んでゆくのかをよく把握して下さい。１つの章にまとめられていますが、小学生と思春期以降の中学高校生の間には発達上も大きな変化があります。教育の上でもこの変化を理解した対応が必要です。 **第５章　児童期・思春期の心理学的障害と臨床援助：** 第４章で学んだ年代の子どもたちが持つ可能性のある心的障害を理解し、発達途上の子どもたちの援助としてどういうアプローチが必要かを学んで下さい。 **第６章　学校臨床：** 「学校臨床」とは聞きなれない言葉かもしれませんが、同じ心理的アプローチでも学校という現場の持つ特殊性を考慮し一般的な「カウンセリング」とは異なる特性を理解する必要があります。学習者のことを客観的に捉える評価的理解と共感的理解に努めると同時に、子どもをめぐる援助者同士の連携のあり方もよく理解して下さい。 **第７章　青年期の発達：** 健康な青年期の発達とはどういうことか、境界性、アイデンティティ、青年期の延長、心理的危機（標準的危機と病理的危機）、モラトリアム、性役割等をキーワードとして理解できるようにしてください。 **第８章　青年期の心理障害と臨床援助：** 青年期は心理的障害の生じやすい時期です。又、正常と異常の区別もつきにくいので、心配しすぎず、楽観もしすぎずに、心理的背景をよく吟味し、この時期の子どもの問題をとらえることができるようにしてください。 **第９章　学生相談：** 大学士対象の相談活動を学生相談といいます。高校卒業後の子どもたちの援助がどのようにされているのかが示されています。 **第 10 章　成人期の発達：** この学科を勉強している人の中には、成人期、老年期の問題は必要ないと思う人もいるかもしれませんが、子どもは子どもだけを取り出しても理解できません。子どもと生活を共にする親や祖父母世代のことも含めて理解することが重要です。 **第 11 章　家族臨床：** 幼児、児童、生徒を対象とする際に子どもを取り巻く環境、特に家族の問題は切り離せません。子どもひとりから問題を考えるのではなく、家族のライフサイクルを含めた視点を持てるようにしてください。 **第 12 章　老年期の発達と臨床援助：** 第 10 章とあわせて、こどもをとり巻く環境を理解するようにしてください。 【学習のアドバイス】

	かなりボリュームのある内容ですが、実際の教育の現場や人の発達理解に役立つ内容ですので、丁寧に読み進めるようにしましょう。またテキストにはかなり参考になる文献が書かれているので、テキストだけでなく、自分の興味のある領域についてはほかの文献にもあたって視野を広げてください。特に発達障害については近年の研究の進歩もあり、多くの参考になる文献がありますので、テキストを補う意味でも是非調べてみてください。
【使用教材】	■テキスト：　下山晴彦『教育心理学Ⅱ　発達と臨床援助の心理学』東京大学出版会、リーディングガイド ■参考書：子安増生／田中俊也／南原原朝和／伊藤祐司『教育心理学』有斐閣
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．人の健康な発達段階を生涯発達の視点から説明出来る。 ２．児童期、思春期、青年期の健康な発達を理解し説明出来る。 ３．子どもの発達障害の最近の発展を理解し、実際の障害を持った子どもに応用出来る。 ４．子どもの心理的障害に対して、心理・社会的背景などの子どもの周囲の状況も含めて理解出来る。 ５．教育現場において対象となる健康な子ども、問題を抱える子どもの双方に対して必要に応じて援助の方向性を探索し、行動に移すことが出来る。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とします。
【連絡事項】	テキストとして「教育心理学Ⅱ　発達と臨床援助の心理学」を中心に述べましたが、参考書として示した「教育心理学」にも必ず目を通すようにして下さい。とくに第４章～第 10 章には学習理論や学習指導に関する「教育心理学Ⅱ　発達と臨床援助の心理学」では扱われない重要な内容を含んでいます。積極的に学習をすすめてください。 ☆養護教諭養成コース登録の方 原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

科目名	**高齢期心理学**
担当教員	村上香奈
科目コード	２３５２Ｔ
科目区分	分野別科目―こころ・精神の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	－
【教育目標】	本科目は、心身健康科学のいう観点をふまえ、同時に、高齢期の発達的な意義及び加齢に伴う心身の変化について学習することにより、高齢者への理解を深める。高齢者のケアに関する実践的な応用力を養うとともに、健康な高齢期を実現するための方策について考察を深めることを目的としている。
【キーワード】	高齢者／高齢化社会生涯発達／老化／ウェネスライフ
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　高齢期心理学の目的・対象・方法について学ぶことにより、高齢期心理学の意義について理解する。 **第２章**　老化の発達的特徴とそれを規定する要因など、老化に関する生理・心理的な概念について学習する。 また、老化の主要な生物学理論について学ぶことにより、老化現象の特質について理解を深める。 **第３章**　高齢化社会の現状について人口統計学的データに基づいて学習する。さらに、生涯発達の観点から、高齢期の発達課題とその意義について考える。 **第４章**　加齢に伴う身体的変化、基本的特徴や脳神経系、関節、内分泌、代謝について学ぶ。さらに、これらの変化の心理的影響とその対応について考察する。 **第５章**　この章では、前章に引き続いて、呼吸器、循環器、消化器、泌尿器の加齢に伴う変化について学び、さらに、これらの変化による心理的影響とその対応について考察する。 **第６章**　高齢者の心理とその基本的特徴について概観したうえで、身体と運動、感覚と知覚、注意と記憶などの主要な心理機能の加齢変化について学習する。さらに、これらの変化の生活適応上の意味と適切な対応について考える。 **第７章**　高齢期に生じる思考と知能、感情と欲求、道徳性と社会性、自我とパーソナリティなどの主要な心理機能の加齢変化について学び、その生活適応上の意味と対応について考察する。 **第８章**　家庭環境、地域環境、職場環境における高齢者の対人関係とその心理的意義を学ぶことにより、高齢期の生活の質に重要な意味をもつ社会関係につて考察する。 **第９章**　高齢期には、退職、離別、死別などの重大なライフイベントが生じる。この章では、これらのライフイベントが高齢者の心理に与える影響について学習し、その心理的対応や支援について考える。 **第 10 章**　この章では、高齢者を心理臨床的に理解する方法について学習する。具体的事例を通して高齢者の心理を調べるための査定や診断方法を理解する。 **第 11 章**　高齢者の適応上の問題を解決するための心理臨床的支援法としての来談者中心療法、認知行動療法、表現療法、集団療法について学習する。 **第 12 章**　アルツハイマー病、妄想性障害、気分障害、などの高齢期の精神障害に関して、その症状、原因、診断、治療法を学ぶ。さらに、これらの精神障害に関わる家族の心理臨床的問題と支援法について考察する。 **第 13 章**　健康的な高齢期を達成する方策について、健康の改善と向上、生活能力の改善、自立能力の向上、社会参加といった諸点から考える。 **第 14 章**　高齢者の生活習慣、余暇活動、就学、就労などの側面から、生き生きした高齢期（ウェルネスライフ）の実現するための条件について考察する。
【使用教材】	■テキスト：『高齢者のための心理学』小林芳郎（編）　保育出版社 ■参考書：　『老年期の心理学』福屋武人（編）　学術図書出版
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．老化現象の特徴とその意義について説明できる。 ２．加齢に伴う身体的変化とその対応について説明できる。 ３．加齢に伴う心理的変化とその対応について説明できる。 ４．高齢期を実現するための主要な要因について指摘できる。 ５．健康な高齢期を実現するための主要な要因について指摘できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

<table>
<tr><td>科目名</td><td>人間理解へのアプローチ</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>島田凉子　　中野博子　　矢吹弘子　　吉田浩子　　庄子和夫　　小岩信義</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>２３５３Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>こころ・精神の理解</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>スクーリング履修：－単位　　スクーリング履修：１単位</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td>―</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>心・身体・文化のさまざまな視点から、人間理解への接近法について解説する。立体的、多角的に人間を観察し、自他の理解を深め、心身ともに健やかによりよく生きるためのヒントを得ていただきたい。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>動物としてのヒト／ストレス／社会神経科学／治療契約／成長モデル／傾聴／OKness ／対象喪失</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">ねらい・授業内容</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>人間理解の基礎として、生命進化の過程における動物としてのヒトの行動について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>最新の遺伝子の働きについて学び，それが「こころ」とどうリンクするのかについて学習する。</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>社会的な関わりのなかで重要となる脳の基本的原理を学び、自分と他者のこころの理解の一助とする。</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>心理療法を始めるために必要な「治療契約」の意味と役割について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>５時限</td><td>人が自分のもつ力を充分に発揮して生きていくための概念として「成長モデル」を学び、これを発揮するためにはどういうことが必要かについて考える。</td></tr>
<tr><td>６時限</td><td>相手を受け止める方法としてしばしば用いられる「傾聴」の意味について考える。</td></tr>
<tr><td>７時限</td><td>理解できない、理解してもらえないとしても、自他の存在を肯定して生きていく構えについて学ぶ。</td></tr>
<tr><td>８時限</td><td>対象喪失とは何かを学び、対象喪失における「悲哀の仕事」の意味を理解する。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：UHAS@Myキャンパス上に使用教材を掲載。
■参考書：
フランス・ドゥ・ヴァール「共感の時代へ　動物行動学が教えてくれること」　紀伊国屋書店
R&M・グールディング「自己実現への再決断」星和書店
佐治守夫・岡村達也・保坂亨「カウンセリングを学ぶ 第2版　理論・体験・実習」東京大学出版会
小此木啓吾「対象喪失―悲しむということ―」中公新書</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>1.　人間理解の基礎に動物としてのヒトが存在することが説明できる。
2.　遺伝子発現の仕方を説明できる。エピゲェネティックな制御について説明ができる。マウスにおける養育とストレス反応の関係について説明できる。
3. 脳の機能の基本的原理と、人間理解に脳科学を学ぶ意義について説明することができる。
4. 「治療契約」と「主体性」の関係について説明できる。
5. 対人援助の方法を「成長モデル」を用いて説明することができる。
6. 「傾聴」の意味を自分の言葉で説明できる。
7. 「OKness」の意味を説明できる。
8. 対象喪失における「悲哀の仕事」の意味について説明することができる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>インターネット授業における最終リポートで６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード
（重要語句）</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>多くの写真や画像を見ながら、楽しく「動物としてのヒト」について学習する。まず、人間理解の基礎となる生命進化の過程における生物としてのヒトの位置づけを理解するために、生命の進化について考える。その上で、ヒトが獲得した行動の起源がヒト以外の動物の行動にあることを、具体的な行動を例に学ぶ。協力行動、利他行動、互恵行動、不公平に対する嫌悪、といった人間に良く見られる行動の基盤は、ヒト以外の動物にも存在する。例えば、血縁関係がない個体間の利他行動が最も発達している動物はヒトであると言われているが、「個体間の助け合い」はミツバ</td><td>生命の進化/生物種/ヒト/ヒトの行動の起源/行動の進化</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

		チやハダカデバネズミ、チスイコウモリ等、他の多くの動物で観察することができる。ヒト以外の動物の行動を観察することで、ヒトの行動が他の動物の行動の進化の延長線上にあることを理解する。	
	2時限	今，「こころ」を遺伝子レベルで探ろうとする動きがでてきている。こころは目にみえず，物質としてとらえる事が出来ないため，従来この分野は生体分子レベルでは研究の対象とはならなかった。それが今，徐々に変化を見せつつあり，こころの領域を生体分子の織りなす反応の面から解明する動きがある。こころの病であるうつと遺伝子の関連やストレスに対する反応性への遺伝子の関わり，薬物中毒と遺伝子の働きの関連などが徐々に明らかにされつつある。このような事例を紹介しながら、物質としての生体があり、その生体へ「こころ」が宿るのであるならば「こころ」も物質，生体分子の動きから解明できる可能性があることを考えてみる。	ストレス反応／ＤＮＡメチル化／糖質コルチコイド受容体／ＨＰＡ系
	3時限	「脳はこころを生むハード・ウェアである。」聞き慣れた言葉であるが、人間関係を基礎とした社会生活の中で自分や他人を理解しようと試みたときに、この言葉の説得力はあまりにも弱い。1 千億個以上のニューロンと複雑なネットワークによって生まれる「こころ」を今日の脳科学で全て説明することは、例え最新の機器を使っても不可能である。むしろ私たちは「こころ」に起こる様々な変化について、一見、合理的に思えるなんらかの理由を探すことによって折り合いをつけている。しかし、これが本当の原因ではない可能性も残る。 では、人間理解を「こころ」の理解と捉えたとして脳科学を学ぶ意義はなにか？脳の複雑さと脳科学の限界を素直に認めながら、これまで脳科学が解明してきた知見をシンプルに見つめることによって、私たちが自分や他人のこころや行動に起こっている現象を決めつけや予断を持つことなく素直に受け入れることができる場合がある。こころを生むハード・ウェアである脳の働きに存在する法則性、原理を知ることが、自分や他者のこころを理解し、共感し、わかり合う際に有益なこともある。	社会神経科学／感覚入力のhigh road とlow road／陳述記憶と情動的記憶
	4時限	人は誰でも考える能力があり、自分の人生に望むものを決めるのは本人である。また、自分の人生の最終的な責任者は自分である。しかし、人は自分が本当に望んでいるものを見失うことがしばしばある。自分が何を感じているかもわからなくしてしまっている場合さえある。そして、あの人さえ変わってくれれば、と念じる。それはとりもなおさず自分の人生の責任を他者に委ねている状態である。そうした場合、心の奥底に隠した本当の感情や望みに気づくだけで、治癒や、行動上の大きな変化に至ることもある。契約は、人生の主導権と責任が自分にあり、結果を受けとめるのも自分であり、さらに自分の感情・思考・行動をコントロールする力が自分にあることに気づく（主体性の回復）ためのプロセスである。	治療契約／主体性
	5時限	「よりよく生きる」とは、一人ひとりが自分の能力を「充分に機能させる」ことができているときのことといえる。成長モデルの考え方によれば、人は適切な環境を与えられれば、他人に「こうしたほうがいい」とか、「こうしなければならない」などといわれなくても、本来の自分の持つ能力を発揮することが可能になる。そしてさまざまな課題を自分の力で克服できるようになると考えられる。援助者にとっては、クライアントに提供する環境をどのようにして提供するかが重要なテーマとなる。クライアント中心療法の考え方をもとに成長モデルについて学び、「よりよく生きる」ために自分を生かす援助の方法について考える。	成長モデル／充分に機能する人間／クライアント中心

	６時限	対人援助の場においては、相手のいうことをよく聴くこと、受け止めることを表す「傾聴」が重要と言われている。よく用いられる用語ではあるが、実際にはどういうことをいうのだろうか。そもそも相手の気持ちを分かる、理解することなどできるのだろうか。少しでも相手を理解することに近づくためにはどういう技術や態度が必要なのだろうか。受け入れること（受容）、共感して理解すること、傾聴することとはどういうことかについて考える。	傾聴／受容／共感的な理解
	７時限	人が「わかりあえない」というとき、相手をもっとわかりたいというのではなく、自分をわかってもらえない、あるいは相手が自分の思い通りにならない、ということを意味していることは多い。相手を変えたいと願うときには、相手の「ありよう」を否定している。また、自分の気持ちを受け容れてもらえないと、自分の存在が否定されていると感じてしまうのかもしれない。相手を変えたいという執着を手放して、もしも離れていくとしても、その人はその人としてOK であり、私は私としてOK である、と思えるようになることが、自己治癒につながる。それは「変わりたい」しかし「変われない＝変わりたくない」自分を許すことでもある。わからないことや葛藤をそのまま許容し、あらゆる関係性を自分の一部として保持する容れ物となっていることができるなら、しばしばそれが自然な答え、すなわちよりよく生きる知恵をもたらしてくれるだろう。	OKness ／ゲシュタルトの祈り／二律背反（アンビバレンス）
	８時限	自分にとって大事な対象を失う「対象喪失」は、すべての人が各々の人生の中で必ず体験することである。大事な人との死別・離別だけでなく、仕事や役割・住み慣れた場所を失うこと、自分自身の病気やけが・・・これらはすべて対象喪失である。精神分析の創始者フロイトは自身の体験から、「対象喪失」には「悲哀の仕事（喪の仕事）」が必要であることを見出した。対象喪失に伴う悲しみをしっかりと味わうことはとても辛い作業である。そのために人はしばしば「躁的防衛」によって悲しむことを回避してしまう。対象喪失を受け止めそこなったとき、人はしばしば困難な状況－心身症など－におちいる。対象喪失とは何か、そしてそれに対して心が営む「悲哀（喪）の仕事」について学び、悲しむということの意味について考える。	対象喪失／悲哀（喪）の仕事／悲しみ／躁的防衛

科目名	**身体の構造と機能**
担当教員	久住武　　高原皓全　　町田雅秀
科目コード	２４０２Ｔ／２４０２Ｓ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：２単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	脊椎動物の中でもっとも進化した人間の構造と機能を正しく理解し、最も健康的な生活を望むことは誰しも望むものである。ヒトの細胞は約60兆あるといわれ、その集合体の組織や器官は各々特有の構造と機能を持っている。解剖学は人体とそれを構成している器官や組織の形態を追求する学問であり、生理学はその生体がどのように機能しているかを解明する学問である。このテキストでは全てを学ぶ事はできないが、両者のかかわる系統的な事柄を、臨床医学に関わる点を特に強調しながら学ぶものである。
【キーワード】	細胞→組織→器官→器官系→人体／自律機能の調節／感覚機能／運動機能の調節／生命
【テキストの内容及びアドバイス】	**【テキスト履修】** **第１章**　人体のつくり　細胞と細胞の環境 人体を構成する細胞の特徴と生命の営みについて理解する。また、細胞が生きる環境（体液）の区分やその特徴とホメオスタシスについて理解する。 **第２章**　血液　血球と血漿の働き 血液の成分である血球と血漿それぞれの機能について理解する。血液凝固やpH の調節も血液の大切な機能であるため、その仕組みについて理解する。 **第３章**　循環器系　血液を循環する仕組み 心臓や血管について調節系の基本になる器官の構造と機能を学修する。これらを調節している循環調節の中枢や反射性に行われている構造とメカニズムについて理解する。 **第４章**　呼吸器系　酸素と二酸化炭素の交換 鼻腔や喉頭、気管、肺など呼吸器系に関わる器官の構造と機能を学修する。また呼吸運動の仕組みを理解し、酸素や二酸化炭素のガス交換が行われる仕組みとその調節を理解する。 **第５章**　消化器系　食物の消化と吸収 口腔、食道、胃、腸管など消化と吸収に関わる器官の構造と機能を学修する。また、吸収された栄養物が肝臓でどのように処理をされるのか、胆嚢や膵臓がどのように関わっているのかを理解する。 **第６章**　栄養素と代謝　栄養素の働き 腸管で吸収された三大栄養素やビタミン、無機質がどのように代謝され、生命現象に関わっているかを理解する。 **第７章**　体温調節　体温を保つ仕組み 体熱の産生（産熱）と放散（放熱）のしくみを学修し、暑さ、寒さに適応しようとする体温調節の仕組みについて理解する。 **第８章**　泌尿器系　尿の生成と排尿 体液とホメオスタシスを理解したうえで、その調節に関わる腎臓の構造と機能を学修する。腎臓でつくられた尿が膀胱で蓄尿され、そして排尿される仕組みを学修する。 **第９章**　内分泌系　ホルモンの働き 各ホルモンの作用やその特徴、ホルモンを分泌する内分泌腺の関係を学修し、内分泌系による身体の調節を理解する。また、ホルモン分泌の階層構造についても理解を深める。 **第10章**　生殖機能とヒトの一生 生殖に関わる性の仕組みを理解し、生命の誕生と妊娠・分娩を学修する。また個体の成長・成熟・老化それぞれの身体的・生理的特徴を学修し、寿命について理解を深める。 **第11章**　神経系　身体機能の調節 神経系の最小単位であるニューロンの興奮と情報の伝達・伝導の仕組みを理解する。また、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を学修し、身体の神経性調節の理解を深める。 **第12章**　運動器系　骨格と骨格筋の働き 骨や関節、骨格筋の構造と機能を学修し、運動機能の神経性調節を理解する。 **第13章**　感覚器系　環境情報の受容

	環境の変化を感じ取り、その情報を中枢に伝える感覚器の種類と働きを学修する。特に、特殊感覚、体性感覚、内臓感覚の区別を学修し、神経系との関係を理解する。 **第14章**　ホメオスタシスの維持と自律神経系 ホメオスタシスの維持に関わる自律神経である交感神経、副交感神経について学修する。 **【スクーリング履修】** **第１章**　人体のつくり　細胞と細胞の環境 人体を構成する細胞の特徴と生命の営みについて理解する。また、細胞が生きる環境（体液）の区分やその特徴とホメオスタシスについて理解する。 **第２章**　神経系　身体機能の調節 神経系の最小単位であるニューロンの興奮と情報の伝達･伝導の仕組みを理解する。また、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を学修し、身体の神経性調節の理解を深める。 **第３章**　運動器系　骨格と骨格筋の働き 骨や関節、骨格筋の構造と機能を学修し、運動機能の神経性調節を理解する。 **第４章**　循環器系　血液を循環する働き 心臓や血管について調節系の基本になる器官の構造と機能を学修する。これらを調節している循環調節の中枢や反射性に行われている構造とメカニズムについて理解する。 **第５章**　血液　血球と血漿の働き 血液の成分である血球と血漿それぞれの機能について理解する。血液凝固やpH の調節も血液の大切な機能であるため、その仕組みについて理解する。 **第６章**　呼吸器系　酸素と二酸化炭素の交換 鼻腔や喉頭、気管、肺など呼吸器系に関わる器官の構造と機能を学修する。また呼吸運動の仕組みを理解し、酸素や二酸化炭素のガス交換が行われる仕組みとその調節を理解する。 **第７章**　消化器系　食物の消化と吸収 口腔、食道、胃、腸管など消化と吸収に関わる器官の構造と機能を学修する。また、吸収された栄養物が肝臓でどのように処理をされるのか、胆嚢や膵臓がどのように関わっているのかを理解する。また腸管で吸収された三大栄養素やビタミン、無機質がどのように代謝され、生命現象に関わっているかを理解する。 **第８章**　泌尿器系　尿の生成と排尿　生殖機能とヒトの一生 体液とホメオスタシスを理解したうえで、その調節に関わる腎臓の構造と機能を学修する。腎臓でつくられた尿が膀胱で蓄尿され、そして排尿される仕組みを学修する。また生殖に関わる性の仕組みを理解し、生命の誕生と妊娠・分娩を学修する。また個体の成長・成熟・老化それぞれの身体的・生理的特徴を学修し、寿命について理解を深める。 **第９章**　内分泌系　ホルモンの働き 各ホルモンの作用やその特徴、ホルモンを分泌する内分泌腺の関係を学修し、内分泌系による身体の調節を理解する。また、ホルモン分泌の階層構造についても理解を深める。 **第10章**　感覚器系　環境情報の受容 環境の変化を感じ取り、その情報を中枢に伝える感覚器の種類と働きを学修する。特に、特殊感覚、体性感覚、内臓感覚の区別を学修し、神経系との関係を理解する。
【使用教材】	**【テキスト履修】** ■テキスト：『人体の構造と働き』久住眞理／佐藤昭夫監修（本学オリジナルテキスト） この科目ではテキスト内のStep Up は含みません。学修の参考にしてください。 **【スクーリング履修】** ■テキスト：『人体の構造と働き』久住眞理／佐藤昭夫監修（本学オリジナルテキスト） ■参考書：講義用プリントをスクーリング来校の際配布する場合もあります。 ※講義内容の順は、場合によって変更になることがあります
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	**【テキスト履修】** 1. 人体を構成する細胞の特徴や細胞が生きる環境（体液）の区分やその特徴について説明できる。 2. 血球と血漿の機能、血液凝固やpH の調節について説明できる。 3. 心臓や血管についての構造と機能を説明できる。 4. 呼吸器系に関わる器官の構造と機能を説明できる。また呼吸の仕組みを理解し、酸

<table>
<tr><td></td><td>素や二酸化炭素のガス交換が行われる仕組みを説明できる。
5．消化と吸収に関わる器官の構造と機能を説明できる。
6．腸管で吸収された三大栄養素やビタミン、無機質が生命現象にどのように関わっているか説明できる。
7．体熱の産生（産熱）と放散（放熱）のしくみを説明できる。
8．排尿の調節に関わる腎臓の構造と機能を説明できる。
9．各ホルモンの作用やその特徴、ホルモンを分泌する内分泌腺の関係を説明できる。
10．生殖に関わる性の仕組みや、個体の成長・成熟・老化それぞれの身体的・生理的特徴を説明できる。
11．神経系の最小単位であるニューロンの興奮と情報の伝達・伝導の仕組みを説明できる。また、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を学修し、身体機能の神経性調節について説明できる。
12．感覚器の種類と働き、神経系と関係について説明できる。
13．骨や関節、骨格筋の構造と機能、運動機能の神経性調節について説明できる。
14．ホメオスタシスの維持に関わる自律神経である交感神経、副交感神経について説明できる。
【スクーリング履修】
1．人体を構成する細胞の特徴や細胞が生きる環境（体液）の区分やその特徴について説明できる。
2．神経系の最小単位であるニューロンの興奮と情報の伝達・伝導の仕組みを説明できる。また、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を学修し、身体機能の神経性調節について説明できる。
3．骨や関節、骨格筋の構造と機能、運動機能の神経性調節について説明できる。
4．心臓や血管についての構造と機能を説明できる。
5．血球と血漿の機能、血液凝固やpH の調節について説明できる。
6．呼吸器系に関わる器官の構造と機能を説明できる。また呼吸の仕組みを理解し、酸素や二酸化炭素のガス交換が行われる仕組みを説明できる。
7．消化と吸収に関わる器官の構造と機能を説明できる。また腸管で吸収された三大栄養素やビタミン、無機質が生命現
象にどのように関わっているか説明できる。
8．排尿の調節に関わる腎臓の構造と機能を説明できる。
9．各ホルモンの作用やその特徴、ホルモンを分泌する内分泌腺の関係を説明できる。また生殖に関わる性の仕組みや、個体の成長・成熟・老化それぞれの身体的・生理的特徴を説明できる。
10．感覚器の種類と働き、神経系と関係について説明できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>テキストを一読したうえで、詳しく説明してほしいところ、よくわからなかったところなどを、メモしておいて授業開始時に、伝えていただければ、ていねいに説明します。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>スクーリングは、いずれかの教員が担当します。
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1－5 時限</td><td>・イントロダクション
・人体の概要
・人体の構成と区分：細胞・組織などの構造と機能を学ぶ。
・神経系の機能：末梢神経系、特に自律神経について学ぶ。
・人体の支持と機能：筋・骨格・関節について学ぶ。
・循環器系の構造と機能：血液と循環系について学ぶ。</td><td>細胞→組織→器官→器官系→人体自律機能の調節筋・骨格・関節心臓・血管</td></tr>
<tr><td>6 時限</td><td>模型の観察（筋・骨格系・関節・循環器系の模型）</td><td></td></tr>
<tr><td>7－11 時限</td><td>・呼吸器系の構造と機能
・消化器系の構造と機能</td><td>呼吸器系の解剖、ガス交換の仕組み</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

			・泌尿器・生殖器系の構造と機能 ・内分泌系の構造と機能	消化器系の解剖、消化吸収の仕組み 泌尿器系の解剖、尿生成の仕組み 生命の誕生 ホルモン分泌器官の部位とホルモンの機能
		12 時限	模型の観察（消化器系・呼吸器系・泌尿器系の模型）	
		13 時限	・神経系の構造と機能：主に中枢神経系の構造と機能を学ぶ。 ・ 感覚器の構造と機能：特殊感覚と体性感覚の受容器の解剖と機能を学ぶ。	大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄の解剖と機能 特殊感覚（視覚・聴覚等）、体性感覚（痛覚・触圧覚等）の受容器の構造、機能
		14 時限	模型の観察（感覚器・神経系の模型）	
		15 時限	スクーリング修了試験	
【連絡事項】	☆養護教諭養成コース登録の方 原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。			

<table>
<tr><td>科目名</td><td>栄養と代謝</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>茂木秀喜</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>２４０３Ｔ／３４０３Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>分野別科目―からだ・保険の理解</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td>Ｂ</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>私たちは毎日３度の食事や間食などを通じて、様々な栄養素を摂取しております。本科目では、これらの栄養素の役割、即ち、１）エネルギー源としての働き、２）体を作る素材としての役割、３）生命機能を調節している因子としての働きなどについて、正しく理解することを第一の目標としております。また、偏った食事によって起こりやすい「栄養素の不足」による身体の障害について理解しながら、食事の役割について理解を深めることを次の目標としています。更に、今日の飽食の時代に起こりがちな『「肥満―メタボリック症候群」』についても解説して、健康の維持のための食事の役割について、一層深く理解していくことを目標としております。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>ブドウ糖／アミノ酸／脂質／ビタミン／ミネラル</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>1）栄養素の定義と、人体における栄養素の役割の概要を理解する。
2）栄養の歴史について学ぶ。即ち、様々な種類の栄養素がどのようにして見つけられ、役割が調べられてきたかを振り返りながら、食生活の進歩を理解する。
3）消化と吸収の仕組みを学ぶ。即ち、口から摂取した食事がどのようにして分解され、吸収され、どこに辿りつくかを学び、消化吸収の役割を理解する。
4）エネルギー源としての食事の役割を理解する。カロリー、食品ごとのエネルギー、基礎代謝などについて理解する。
5）主要なエネルギー源である炭水化物の構成、消化と分解の仕組み、代謝の経路を詳しく理解して、ATP の役割や、血糖値の意味を理解していく。
6）脂肪の役割を学ぶ。即ちエネルギー源としての役割、エネルギー貯蔵庫としての役割、体の構成要素としての役割などを理解する。
7）蛋白質の役割を、食品、体の構成要素としてを理解する。更に、私達の体の中で蛋白質がどのような仕組みで作られ、どんな働きをしているかを理解していく。
8）水や無機質が、私達の体の機能を維持していくためにどのように役立っているかを理解し、無機質不足による障害、不足を補う食品についても理解を深める。
9）食品中に微量に含まれている各種ビタミンが、健康維持のために果たす重要な役割を理解する。また、ビタミンの取り過ぎによる弊害についても理解する。
10）飽食の時代における過食による障害、生活習慣病について学ぶ。特に、遺伝因子との関連について理解する。また、最近の遺伝子組み換え食品について、正しい理解を得る。
11）人間の本能である摂食行動は、脳の中の空腹中枢、満腹中枢にプログラムされて動いていることを理解し、更に、食事の果たす精神的な役割についても理解する。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：吉田勉編著『新・基礎栄養学第７版』医葉薬出版、リーディングガイド</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>１．５大栄養素の内容について説明できる。
２．ブドウ糖からＡＴＰが生産され、水と炭酸ガスに分解される仕組みを説明できる。
３．アミノ酸が分解し、尿素が出来、又、ＡＴＰが生産される仕組みを説明できる。
４．脂肪酸からＡＴＰが作られる仕組みを説明できる。
５．ビタミン１３種の名称と主な働きを説明できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験で６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
インターネット授業における最終リポートで６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【インターネット授業における事前学修】</td><td>①食品の主要な要素である炭水化物、蛋白質、脂肪がどんな物質であり、どのように分解され、エネルギー源として利用されるかを理解する。
②生体調節因子であるビタミン１３種と、ミネラル類の役割について、短く口答で、直ちに説明出来る知識の整理をしておく。</td></tr>
<tr><td>【インターネット授業での講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1-3 時限</td><td>１）栄養素の成分について復習し、正しく理解を深める。
２）各種の栄養素は、単独なものでなく、相互に入れ代わり、体の中で複雑に変化していくものであることを学ぶ。</td><td>１）栄養素の成分、炭水化物、脂肪、蛋白質、無機質、水、ビタミンについて、概要を説明する。
２）栄養素の代謝の経路、エネルギーの産生、体の構成要素の形成など、栄養素と体の役割を学ぶ。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

		4-8 時限	1）栄養学は、他の科目とも密接に関連しているものであり、それらと関連させながら総合的に理解することによって、はじめて人間のからだの不思議を知ることになる。 2）体の機能はとてつもなく複雑であること、まだまだ知られていない謎が多いものであることを理解しつつ、これからも学ぶ姿勢を失わないことの大切さを理解する。 3）現代に生きる私たちの食生活の問題点を、栄養学、生理的などの視点から理解する。	1）消化と吸収の仕組みについて、解剖学、生理学などと関連づけながら、正しい知識を得る。 2）ビタミン、無機質、水などの、機能調節に関わる栄養素の働きを学ぶ。 3）肥満、過食、拒食症などについて学び、その原因の解明のヒントとなる、食欲と脳機能の関係について学ぶ。 4）練習課題の解読。

科目名	**脳科学論**
担当教員	小岩信義　　村上志津子
科目コード	２４０４Ｔ／２４０５Ｓ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	３単位（テキスト履修：２単位／スクーリング履修：１単位）
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	昨今の脳科学ブームの影響で、TVや新聞等で見聞きする脳科学に関する情報を生活の中で活用すれば、個人や社会が抱える様々な問題に対処することは意外にたやすいのでは？との錯覚を受けてしまう。しかしこうした情報の殆どが科学的根拠に乏しく、脳を知ればすぐにでも子供の学力が向上し、認知症予防を実現できると考えるのは現時点では難しい。特に、動物モデルの知見を複雑な人間社会や日常生活に短絡的に当てはめることには慎重な姿勢が求められる。テレビでよく目にする人間の脳が赤く光った映像は、あたかも現実の脳がリアルに活動しているイメージとしてとらえてしまうが、そこには幾つものトリックが隠されていることが多い。 しかしながら、多くの優れた科学的研究によって見いだされた、あるいは見いだされつつある脳のしくみに関する知見を整理し丁寧に学ぶことによって、人間の本質の一端を知り「よりよく生きる」ことのヒントを見つけることができることも事実である。ここで求められるのは基礎的な脳科学の眼差しをもった科学リテラシー（科学情報活用力）である。本講座では、脳科学の見方、考え方を基礎・応用の側面から理解することで、我々が自ら自分の人生をデザインして生きていくことを進めるためのヒントを皆さんと一緒に考えたいと思う。
【キーワード】	ニューロン／脳の働き／こころ／前頭前野／情動
【テキストの内容及びアドバイス】	**【テキスト履修】** 脳科学は脳の構造だけ学んでも本当の理解にはつながらない。神経細胞とグリア、神経細胞の興奮の仕組み、脊髄や末梢神経系および内分泌系との相互関係などを知って初めて脳機能への理解が深まることを知って欲しい。このことから使用するテキストの分量も大変多くなっている。テキストの11章までは脳の構造や働きを理解するために必要となる基礎的かつ重要な知識を中心に学習する。テキストには多くの図表が挿入されている。画像や模型などを含めた立体的、具体的なイメージで脳・神経系を考えることは神経科学、脳科学を理解するためのポイントとなる。最近はきれいなイラスト、写真が容易に書籍、インターネットなどを通して入手できるので、積極的に良質な情報にアクセスして、基礎的な理解を深めるようにして欲しい。 特に12章以降は、私たちが生きる上で基礎となる行動（睡眠、摂食行動、体内時計、性行動、情動行動など）に脳がどのように働いているかについて理解を深める部分である。記憶や脳の左右差、ホルモンの影響、神経伝達物質の作用、男と女の脳の違いなどについて学習する。また、脳は必要に応じて神経回路網を修正し脳機能の変化に対処する可塑性を持つ臓器でもある。この特徴に関連したメカニズムを紹介する。この理解は、生理的な老化、認知症、パーキンソン病などの脳の病気の仕組みを考える上でも重要となる。 **【スクーリング履修】** スクーリングの前半では主に第10-16章を扱い、視覚や聴覚などの認知機能、運動処理における脳の働きを学び、「こころ」が生まれる仕組みを考えることを通して、脳の基本的な構造や機能について理解する（小岩）。 スクーリングの後半では、主に第17 章以降の内容について、脳とホルモンとの関連、脳の性差、種々の伝達物質や調節物質、ニューロンの発生、可塑性、新生について、最近の知見に触れながら脳の理解を深めたい（村上）。
【使用教材】	■テキスト：「脳科学論」、新井康允著（人間総合科学大学 オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．神経細胞（ニューロン）の構造、機能について説明できる。 2．脳の基本的な構造、位置関係、働きについて説明できる。 3．脳の情報処理（感覚、知覚、認知、運動）の基本を説明できる。 4．ヒトの代表的な脳機能イメージング法の特徴を説明できる。 5．記憶や精神活動などの脳の高次機能の基本を説明できる。 6．脳とホルモン、伝達物質、調節物質などの基本的な関係を説明できる。 7．脳の左右差、性差、可塑性などの特徴を説明できる。 8．脳科学の知見を人間生活に応用する際の注意点を説明できる。
【評価基準】	**【テキスト履修】** 科目修了試験で60 点以上を合格とします。 **【スクーリング履修】** インターネット授業における最終リポートで 60 点以上を合格とします。

<table>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td colspan="3"><table>
<tr><th colspan="2">ねらい</th><th>授業内容</th></tr>
<tr><td>1時限目</td><td>脳科学基礎</td><td>脳の構造と機能の理解、機能局在、シナプス</td></tr>
<tr><td>2時限目</td><td>運動、感覚情報の処理</td><td>視覚処理。体性感覚、運動野、小脳</td></tr>
<tr><td>3時限目</td><td>精神活動が生まれる仕組み</td><td>身体図式、注意システム</td></tr>
<tr><td>4時限目</td><td>脳機能のイメージング法</td><td>f-MRL、NIRS、EEG の原理と限界</td></tr>
<tr><td>5時限目</td><td>脳とホルモン、脳の性差</td><td>脳の性分化、アンドロゲン</td></tr>
<tr><td>6－7
時限目</td><td>ニューロンの発生と神経回路形成
ニューロンの再生と可塑性</td><td>神経幹細胞、軸索ガイダンス
シナプスの可塑性</td></tr>
<tr><td>8時限目</td><td>最近の知見の紹介と討論</td><td>グループ討議、全体討議、質問など（8 時限目の後半はスクーリング試験を兼ねます）</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>【連絡事項】</td><td colspan="3">インターネット授業を受講される方は、テキストに目を通し、特に各章の扉にある「学習目標」と章末の「まとめと復習」を読んでください。また、テキストにある図とその説明文に目を通してください。</td></tr>
</table>

科目名	**病気の成り立ち**
担当教員	志賀淳治
科目コード	２４０６Ｔ／２４０７Ｓ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	テキスト履修　病気の原因は外的なものと内的なものに分けられるが、それぞれについて理解する。細胞には可逆性と不可逆性の変化があり、それぞれ疾患の成立と関係すること、感染と悪性腫瘍（がん）は別な疾患概念であるが、相互に深く関係している場合があることを理解する。感染症を防ぐための免疫機構が、その機構の逸脱により、現代では新たなる疾患が生じていることを理解する。動脈硬化の成立が個々人の体質と日常の習慣と深く関係することを理解し、それに関連する重要な疾患を知る。また疾患には先天的なものと老化に伴うものがあるが、そのメカニズムについて知る。 スクーリング履修　病気の原因は何か、それがどのように作用して、その結果として臓器、組織にいかなる変化が生じるかをそれぞれの病気（疾患）について具体的に理解する。腫瘍（がん）、炎症とその関連疾患、循環器障害について学ぶが、特に日本人の最大の死因と関連するがんと循環器疾患について理解を深める。また認知症が最近問題となっているのでその成立機序に関して解説する。
【キーワード】	テキスト履修　化生／癌腫／免疫／動脈硬化／遺伝性疾患 スクーリング履修　癌／肉腫／感染症／動脈硬化／メタボリック症候群／認知症
【テキストの内容及びアドバイス】	【テキスト履修】 第 1 章　細胞の適応と変化：正常細胞は環境により変化し、適応していく。それは可逆的変化の場合もあるが、癌に移行する場合もあり、また適応能力を超えれば細胞は死ぬ。一方細胞の死は生体を構成していく過程において必要な手段でも ある。細胞死が如何にして導かれるかを学ぶ。 第 2 章　炎症性疾患と感染症：病原微生物が侵入すると感染症が成立するが、その場合に生じる炎症とは如何なる病変であるか。またそれに対してヒトはどのようにして自分を守るか、その機序を説明する。またその機序が乱れることにより、 アレルギーおよび自己免疫疾患が生じることを理解する。 第 3 章　腫瘍：がんの種類とその原因、またがんがどのようにして生じるかを学び、がんの原因とその生物学的特性が多様性であることを胃癌、食道癌をもとにして理解を深める。 第 4 章　循環障害：循環障害には致命的な疾患が少なくないが、その基本的な種類とその最大の原因となる動脈硬化の成立機序について学ぶ。 第 5 章　先天異常：先天異常の概念とその原因となる遺伝子疾患、染色体異常の違いについて理解する。また多因子遺伝病の概念について学ぶ。 第 6 章　老化と寿命:寿命は何によってきまるか。寿命は時代により変化してきたこと、老化とはどのような現象であるのか、老化と関係深い疾患を知る。また老化の原因は不明であるが、どのように説明されているかを理解する。 【スクーリング履修】 基本的にテキスト（病気の成り立ち）にそって進めるが、特にがんの原因が様々であり、その進行、悪性度が多様であることの理解を深めることを目的としている。ある程度の解剖、生理の知識があれば興味をもって理解できると考えるが、テキストを読んで、1 頁に理解できない（専門）用語が 4 ～ 5 以上あったら難しいかも知れない。そのような場合には「身体の構造と機能」などを勉強してからのほうがよいだろう。また日常からテレビ、新聞などマスメディアの病気に関する医学関連記事に関心を持つことが、病気の成り立ちを理解するのに役立つ。 本を読んでの学修でなく、直接著者と対話できる機会なので、できるだけ質問すること。特に理解ができないところがあれば積極的に質問して欲しい。講義の内容と直接関係ないことでも病気に関して日頃、関心があることなども聞いて欲しい。 認知症に関しては「病気の成り立ち」に記載されていない。しかし循環障害をよく理解しておけば、話についていくことは可能と思う。
【使用教材】	■テキスト：志賀淳治『病気の成り立ち』（本学オリジナルテキスト） ■参考書：講談社：病気の地図帳、体の地図帳
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	【テキスト履修】 1. 細胞死の種類とその内容について説明できる。 2. 感染防御機構と免疫について説明できる。 3. 癌腫と肉腫について説明できる。

<table>
<tr><td></td><td>4. 動脈硬化の原因とその成立機序に関して説明できる。
5. メンデルの遺伝法則について説明できる。
6. 寿命の時代による変化について説明できる。
【スクーリング履修】
1. 細胞の化生から発生する癌の具体例を挙げることができる。
2. 感染（症）と関係のある癌の例を挙げ説明できる。
3. 癌と肉腫の違いを説明できる。
4. 動脈硬化の成立を説明できる。
5. 糖尿病と動脈硬化に関連する疾患を最低 5 つ挙げることができる。
6. メタボリック症候群ついて説明できる。
7. 認知症について、異常タンパク質の脳内沈着との関係を説明できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>基本的な人体の構造：臓器の名称、細胞の基本構造と細胞が組織を構成していることを理解しておく。
基礎的な病原微生物の概念：ウイルス、細菌、寄生虫などの違いを理解し、基本的な生理、生化学的用語、血圧、消化、呼吸、酵素などが何を意味しているかをおさえておく。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1 時限</td><td>悪性腫瘍の概念、癌と肉腫の違い。細胞の化生とその原因、それが胃癌や食道癌の発生に深く関係すること。ピロリ菌と腸上皮化生の関係および胃癌の発生との関連</td><td>癌、肉腫、腸上皮化生、ピロリ菌、胃 癌、食道癌</td></tr>
<tr><td>2 時限</td><td>同上</td><td>同上</td></tr>
<tr><td>3 時限</td><td>大腸癌とがん遺伝子</td><td>大腸癌、がん遺伝子、がん抑制遺伝子</td></tr>
<tr><td>4 時限</td><td>ウイルスと発癌（子宮頚癌）</td><td>パピロマウイルス、子宮頚癌、体癌</td></tr>
<tr><td>5 時限</td><td>ウイルスと発癌（肝臓癌）</td><td>肝炎ウイルス、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌</td></tr>
<tr><td>6 時限</td><td>動脈硬化疾患</td><td>心筋梗塞、脳梗塞、コレステロール</td></tr>
<tr><td>7 時限</td><td>メタボリック症候群</td><td>肥満、インスリン抵抗性、糖尿病、脂 肪肝、NASH</td></tr>
<tr><td>8 時限</td><td>認知症の病理</td><td>認知症、失行、失認、異常蛋白質、ア ルツハイマー病</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

科目名	**臨床薬学**
担当教員	渡邊泰男
科目コード	２４０８Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	医薬品は、近代医療において必要不可欠なもので治療での位置づけは各々重要視されています。その医薬品を効果的に使用するために、どのような知識、注意が必要かを学修する。薬を少しでも理解し関心をもつ、よい機会にしてほしい。
【キーワード】	薬の作用／薬の効き方／薬の生体内運命／薬のかたち／薬の正しい使い方／市販薬と処方薬
【テキストの内容及びアドバイス】	**chapter 1「くすり」とはどういうもの？** 人はなぜ薬を飲むのでしょうか？病気を治すため？毒と薬の違いは？それらを理解するカギが「薬理学」なのです。薬理学の世界に浸って、健康な生活を考えるきっかけにしましょう。 **chapter 2「くすりが教えてくれたこと」** 薬には効き目が大事です。この効き目を通して、様々な体の働きを知る事ができます。つまり、薬は、生体反応を引き起こす「鍵」です。それでは、生体の「鍵穴」は何なのでしょうか・・・・ **chapter 3「くすりの旅」** 薬にはなぜいろいろな投与法があるのでしょうか。それは、効いてほしい場所に効率よく運ぶためです。その目的を達したら、早く体外に出るのが理想です。体内でのくすりの「旅」を考えて、効果的な薬の飲み方を考えましょう。 **chapter 4「やっぱりくすりはこわい？」** 薬には常用量での主作用を期待します。逆に言うと、薬には中毒量と副作用があります。それでは、薬ごとの用量はどのようにして決められているのでしょうか？ **chapter 5「くすりは内蔵に効く」** 薬は内蔵に効くとどんな効果があるのでしょう？腹痛を思い浮かべるかもしれませんが、それ以外にも喘息や血圧維持にも効果があります。これらは、自律神経に作用しているのです。 **chapter 6「心臓を規則正しく力強く」** 心臓に作用する薬は、心臓のリズム（不整脈）、ポンプ作用（心不全）を正常にする他にも、心臓自体に運ぶ酸素（狭心症）を調整します。 **chapter 7「血圧を下げましょう」** 高血圧はそれ自体に強い症状はでません。しかし、放っておくと動脈硬化症になり、脳卒中や心筋梗塞などの原因になります。それでは、どのように血圧を下げれば良いのでしょうか。 **chapter 8「お腹の調子を整える」** 我々が体験するお腹の不調には下痢、便秘、胃痛、嘔吐などがあります。どうして、お腹の調子は悪くなり、その際に飲む薬はどのように効くのでしょうか。 **chapter 9「痛みを癒し、熱を下げる」** 熱、痛み、腫れなどの症状を「炎症」といいます。炎症は生体を守るためには必要な反応なのですが、苦痛が大きいときには炎症を抑える薬を使います。アレルギーも炎症の1つです。 **chapter 10「抗生物質とは？」** 病気の原因となる細菌をたたく薬が抗生物質です。どうして、細菌にだけ効いて人の細胞には効かないのでしょうか？また、抗生物質に頼りすぎていると困った事がおきてしまいます。 **chapter 11「おしっこをだしましょう」** 人はおしっこを出して、体に不要なものを体外に出しています。便は2 － 3日でないことがありますが、おしっこが同様にでないと命に関わります。おしっこは、心機能や血圧とも密接に関係しています。 **chapter 12「糖尿病と戦う」** 糖尿病は痛くもかゆくもありません。糖尿病が怖いのは、その合併症のためです。「糖尿病網膜症」「糖尿病腎症」「糖尿病神経障害」が3 大合併症です。 **chapter 13「咳と痰抑える」** 咳と痰は病原体から体を守る防御反応なので、むやみに止めるものではありません。しかし、体力を消耗させるような咳や痰は整える必要があります。 **chapter 14「気分を直しよく眠る」**

	脳は意識、呼吸、気分、運動、学習などの生命を維持するために必要な機能を巧みに調節しています。この脳内の情報は、神経伝達物質によって伝えられています。これらの物質を調整して脳を元気にすることが大切です。 **chapter 15「痛みを取り除く」** 歯を抜くとき、開腹の手術を受ける時に必要なのは麻酔です。一般的に前者の麻酔は局所麻酔、後者の麻酔を全身麻酔と呼びます。 **chapter 16「くすり屋さんで買えるくすりの話」** 私たちが薬を手に入れるのは処方箋が必要なものと必要でないものがあります。何が違うのでしょうか？また、サプリメント、健康食品とはなんなのでしょうか。
【使用教材】	■テキスト：當瀬規嗣『よくわかる薬理学の基本としくみ』秀和システム
【学生が達成すべき目標(行動目標として)】	1. 近代医療での薬の役割は大きく、病気から解放され、社会復帰にもつながる。 2. 薬とはどんな性格のものか、薬は生命関連物質だけに多くの特性がある。 3. 薬を上手に使いこなすためには、知るべき必要情報やどんな注意点があるかを理解する。 4. 薬は病気の状況によって、錠剤、注射剤、水剤、シロップ剤、吸入剤、軟膏などの剤形を使い分ける。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	薬は治療のみでなく、私達の日常でも体調をくずした時に薬はよく使われるもので、知識は健康維持に役立つものです。有効で安全な医薬品が適正使用される為に工夫努力する必要があります。ですからテキストは学習以降でも御活用下さい。

科目名	**保健学**
担当教員	丸井英二
科目コード	２４０９Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	集団の健康増進、疾病の予防について、基本的な考え方を学習する。
【キーワード】	健康指標／疾病予防／疫学研究／ライフステージ
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　健康とは何か。人生に対し、健康が果たす役割を考えます。 第２章　健康指標について、その意味や算出方法を学修します。 第３章　環境のおよぼす健康影響について理解を深めます。 第４章　人間集団における疾病像を観察し、それを予防に役立てるという疫学研究の方法について学修します。 第５章　感染症や生活習慣病の具体的予防方法について学修します。 第６章　健康づくりとは何か。ライフスタイルとの関連から学修します。 第７章　ヒトの一生をライフステージとして捉え、各ステージでの健康問題について学修します。
【使用教材】	■テキスト：中村健一『保健学』（本学オリジナルテキスト）、『保健学　別冊』
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．健康とは何かを説明できる。 ２．健康指標を説明できる。 ３．疫学研究の方法を説明できる。 ４．環境の健康影響を説明できる。 ５．感染症の予防方法を説明できる。
【評価基準】	１．科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 ２．健康増進や疾病予防について具体的に理解しているか。疫学研究の方法について、原理まで理解しているか。

科目名	**女性のからだと健康**
担当教員	鍵谷方子
科目コード	２４１０Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	女性のライフサイクルを通して起こる身体の変化の特徴を学び、女性が外部環境の変化や内部環境の変化に適応しつつ、心身健康に生きることの大切さを考える
【キーワード】	性差と遺伝子／女性ホルモン／女性の身体の変化／女性生殖器官／女性の心身の健康
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　社会的性差と生物的性差について学ぶ。特に遺伝子の発現に基づいて起こる生物的性差の過程が、どの女性にも共通して起こる身体変化であることを理解する。 **第２章**　女性のからだの健康を学ぶ上で、ライフサイクルに伴う正常な女性生殖器系の特徴を理解する。特に男女の違いを際だたせている性ホルモンの働きについて学ぶ。 **第３章**　妊娠と出産に伴う身体の変化及び生命の誕生と胎児の発育について学ぶ。妊娠は女性の胎内で、１つの生命が育まれる非常に大切な期間であり、様々な身体内部の変化が起こることを理解する。 **第４章**　女性ホルモンは女性生殖器官の発達に大きな影響を与えるばかりでなく、身体の様々な器官に影響を及ぼす。女性ホルモンの影響が著しい皮膚、骨、代謝、泌尿器、骨格筋について女性ホルモンの関わりを学ぶ。 **第５章**　ライフサイクルの各時期における女性の心理的特徴と心の健康について学ぶ。特に身体機能の変化において、男女差の著しい時期の心の変化の特徴を理解する。 **第６章**　女性が健康で活躍する上で、個人の環境だけでなく、社会環境が非常に重要であることを理解する。また女性の身体の知識を備えた上で、環境変化に対処し、健康に生きることの意義について考える。
【使用教材】	■テキスト：佐藤優子『女性のからだと健康』（本学オリジナルテキスト） ■参考書：玉舎輝彦『性差の出現と女性ホルモン』金芳堂
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．生物的性差と社会的性差について説明できる。 2．性ホルモンの変化とその調節機構を説明できる。 3．女性生殖器官の特徴を説明できる。 4．更年期の身体変化の特徴を説明できる。 5．女性の心身健康について議論できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**高齢者のからだと健康**
担当教員	近藤昊
科目コード	２４１１Ｔ
科目区分	分野別科目－からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	高齢者が心身ともに健康な状態で、社会に参加し、自立した人生を終える上で、必要とされる高齢者の身体と心の特徴に関する科学的知識と考え方を学習する。
【キーワード】	高齢者の身体／寿命／高齢者の健康／高齢者の心／アクティブエイジング
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　人類が環境に適応しつつ、漸く到達した現在の高齢化社会において、よりよく生きる方法を模索する上で、寿命と老化についての科学的知識を学ぶ。 **第２章**　人体を構成する様々な細胞に決められた寿命や遺伝子の特徴について、また細胞老化に及ぼす環境因子についての最新の知識を学ぶ。 **第３章**　人体を構成する各器官の加齢変化の特徴について学び、身体の生理的な加齢変化にどのように対処すべきかを考える。 **第４章**　人間の心に映しだされる脳の加齢化の特徴を学ぶ。特に人間らしさとなって現れる高次神経機能について理解し高齢者の心の健康を考える。 **第５章**　人間が人間らしく生きる上で、身体的には勿論精神的、社会的な環境が重要であることを学ぶ。日本の高齢者のアクティブエイジングについて考える。 **第６章**　人間は平和な環境に生まれ、成長、成熟し、心身ともに健康で充実した人生を送る事が理想である。しかし、全ての人間は死を避けることは出来ない。高齢となり、死に至るまで人間らしく生き、次世代に文化を伝えることの重要性を考える。
【使用教材】	■テキスト：『高齢者のからだと健康』（本学オリジナルテキスト、佐藤昭夫著） ■参考書：『新老年学』（東京大学出版会、折茂肇編）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．正常な老化と病的老化について説明できる。 ２．高齢者の身体機能の特徴を説明できる。 ３・高齢者の脳機能の特徴を説明できる。 ４．高齢者の心理的特徴を説明できる。 ５．高齢者の健康維持について議論できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**自律神経生理学**
担当教員	鈴木はる江
科目コード	２４１３Ｔ／２４１４Ｓ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	自律神経系は、生体が生きていくために最も基本的な、循環、消化、排泄、体温維持などの自律機能を無意識のうちに常時調節している。本科目では、自律神経系の成り立ちと働き、自律神経系による生体の内部循環の恒常性維持の仕組みについて理解することを目標とする。自律神経の機能は感情やストレスの影響を受けて変化し、体調不良を招くこともある。自律神経の機能を良好に維持して心身の健康を維持するために、日常生活でどのように注意すべきか、自ら考察できるようにする。
【キーワード】	交感神経系／副交感神経系／内部環境の恒常性／ホメオスタシス／心身相関
【テキストの内容及びアドバイス】	**【テキスト履修】** **第１章**　身体機能の恒常性維持に役立つ自律神経系：交感神経と副交感神経および内臓救心性神経よりなる自律神経系の構造と働きの特徴、脳を含む中枢神経系による自律神経機能の調節の仕組みについて学ぶ。こころの変化が 自律神経を介して身体反応に表れる「心身相関」について理解する。 **第２章**　循環と自律神経：自律神経による心臓と血管の調整、運動時の循環調節の仕組みについて学ぶ。高血圧と低血圧についてもふれる。 **第３章**　食物の消化と自律神経：自律神経による唾液分泌調節、胃運動と胃液分泌の調節、腸の運動と排便の調整について学ぶ。ストレスによる胃潰瘍についてもふれる。 **第４章**　尿の排泄と自律神経：膀胱と尿道の働きの自律神経性調節と排尿調節について学ぶ。 **第５章**　体温の調節と自律神経：体熱の産生と放散の仕組み、皮膚血管と汗腺の自律神経性調節と厚さ寒さに対処する体温調節の仕組みを学ぶ。 **第６章**　ホルモン・生殖・免疫・呼吸・生体リズムと自律神経：自律神経系とは対比して考えられるホルモン系や免疫系、体性神経系によって調節される呼吸運動の調節にも自律神経が関わっていることを理解する。また種々の生理機能のリズムと自律神経の関係について学ぶ。 **第７章**　体性感覚刺激と自律神経機能：皮膚や筋への体性感覚刺激によって自律神経の機能が反射性に調節されることについて学ぶ。このような反射は、理学療法や手技療法の作用機序の１つと考えられている。 　テキストに記載されている内容の中で、特に太字の項目を重要ポイントとして充分理解すると良い。 **【スクーリング履修】** 　自律神経系の構造と働きの基本ならびに、自律神経系の神経伝達物質、受容体の特徴について学ぶ。さらに脳幹・視床下部・大脳辺縁系による自律神経系の働きの調節と、脳による生体の内部環境の恒常性維持の仕組みについて、循環器系、消化器系、排泄系、体温調節系などの具体例を取り上げながら学ぶ。最後に自律神経系と内分泌系、免疫系とが相互に関連しつつ働いていること、皮膚や筋の刺激によって反射性に自律神経の機能が変化しうることについても学ぶ。自律神経の働きをバランスよく保って健康を維持する方策について考える。 スクーリングでは、自律神経系の研究の歴史的な流れの紹介や、自律神経が常時働いていることを実感する体験などを盛り込みながら自律神経系の仕組みを学修していくので、楽しみながら学ぶ理解が深まるだろう。テキスト履修と併せて履修することを勧める。
【使用教材】	■テキスト：鈴木はる江編著『自律神経生理学』（本学オリジナルテキスト） ■参考書：テキストの末尾に参考図書を列挙してある。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．交感神経と副交感神経系の特徴と働きについて理解している。 ２．内部環境の恒常性を維持する仕組み、すなわちホメオスタシスについて、体温調節、血糖調節などの例を取り上げて説明できる。 ３．自律神経が心臓と血管をどのように調節して、血圧を維持しているか説明できる。 4．食事の際に、自律神経や消化管ホルモンによって胃液分泌がどのように調節されているか説明できる。 5．自律神経系の働きを良好に維持するために、日常生活で何に注意すべきか、意見を述べることができる。
【評価基準】	**【テキスト履修】**

<table>
<tr><td></td><td>科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
テキスト課題で出題されている内容、分野をよく理解しておくこと。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>「自律神経生理学」のテキストで、自律神経系の基礎である交感神経と副交感神経の違いについて、第Ⅰ章のp.10 ～20を大まかに予習しておくと講義が理解しやすい。自律神経系は神経系の１つであるので、「人間科学概論」のニューロン、シナプス、神経伝達物質、受容体について、概要を復習しておくのも良いだろう。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1 － 2
時限</td><td>自律神経系の構造と働きの基本的事項、自律神経系の神経伝達物質と受容体の特徴を学ぶ。</td><td>交感神経系、副交感神経系、ノルアドレナリン、アセチルコリン、受容体</td></tr>
<tr><td>3 － 4
時限</td><td>内臓求心性神経の働き、脊髄・脳幹・視床下部・大脳辺縁系による自律神経機能の調節、恒常性維持の仕組みについて学ぶ。</td><td>内臓感覚、循環中枢、呼吸中枢、排尿中枢、体温調節中枢、摂食中枢、満腹中枢、飲水中枢、ホメオスタシス、心身相関</td></tr>
<tr><td>5 時限</td><td>循環調節の仕組みと高血圧・低血圧について学ぶ。</td><td>血管運動神経、血圧調節、圧受容器反射、高血圧、低血圧</td></tr>
<tr><td>6 － 7
時限</td><td>消化機能調節の仕組み、自律神経による内分泌・免疫機能の調節、皮膚・筋の刺激による自律神経機能の調節の仕組みを学ぶ。</td><td>壁内神経叢、消化管ホルモン、ストレス、ホルモン、免疫系、体性－自律神経反射</td></tr>
<tr><td>8 時限</td><td>まとめと試験</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

科目名	**運動生理学**
担当教員	鈴木はる江
科目コード	２４１５Ｔ／２４１６Ｓ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の医学
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	我々は身体の種々の部位を動かして日常生活を営んでいる。本科目では、身体運動に関わる身体の構造と働きを理解することを目標とする。すなわち、骨格と骨格筋、骨格筋を調節する神経系、運動を支える呼吸器系や循環器系の働きについて、その基本構造と生理作用を学ぶ。その上で健康的な身体機能の維持に運動が重要な役割を果たしていること、さらに身体の健康ばかりでなく、心の健康、社会的な健康にも運動が役立っていることについても学ぶ。但し運動は、不足しても度をすぎても身体に害を及ぼす。運動生理学の理解を通じて、心身共に健康で充実した生活を送る上で必要な運動とは何かを考察する。
【キーワード】	骨と骨代謝／骨格筋／運動神経系／呼吸器系／循環器系
【テキストの内容及びアドバイス】	**【テキスト履修】** **第１章**　運動と骨格－体を支える骨の構造と働き：運動をする際に体を支える骨の構造と働きについて学ぶ。骨を丈夫に保つために運動が重要であることも学ぶ。 **第２章**　運動と筋肉－運動の基となる筋収縮の仕組み：収縮することにより様々な運動を起こす筋肉の働きについて学ぶ。筋収縮に必要なエネルギー供給の仕組みと運動の種類との関係を学び、健康維持にはどのような運動が有効なのかも理解する。 **第３章**　運動と神経－神経系による運動調節の仕組み：全身の筋肉を調節して適切な運動を可能にする神経系の働きを学ぶ。適切な運動を行うためには感覚系も働いている。運動時にはこのように運動神経系、感覚神経系が作動し、脳の広範な領域が活発に働くことについて理解する。 **第４章**　運動を支える身体機能：呼吸器系、循環器系などの身体機能が運動時にどのように変化して運動を支えているのかを理解する。健康のために運動中に留意すべきことについても学ぶ。 **第５章**　運動の身体的・精神的・社会的効用：運動が種々の身体機能を改善する効果を持つこと、さらには精神的・社会的にも健康維持に役立つことを学ぶ。 **第６章**　運動機能の発達と加齢変化：運動機能が生まれてから成人期まで発達していき、やがて老化に伴い機能が低下していく過程について学ぶ。 テキストに記載されている内容の中で、特に太字のキーワードを重要ポイントとして充分理解すると良い。 **【スクーリング履修】** 体を支える骨格の構造と働き、骨格筋の構造と筋収縮の仕組み、運動調節に関わる神経系の構造と働き、呼吸器系の構造と酸素摂取の仕組み、循環器系の構造と血液供給の仕組み、について順に学ぶ。その際、運動時には骨格筋、呼吸器系、循環器系が如何に調節されているのか、運動がこれらの働きの維持に重要な役割を果たしていることも学ぶ。最後に身体的健康、心の健康、社会的健康の維持に、適度な運動が欠かせないことについて学び、健康的な体づくりについて考える。
【使用教材】	■テキスト：鈴木はる江編著『運動生理学』（本学オリジナルテキスト） ■参考書：テキストの末尾に参考図書を列挙してある。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．骨の代謝に関わるホルモンの名称とその働きについて説明できる。 2．骨格筋の構造と収縮の仕組みについて説明できる。 3．運動調節に関わる中枢神経系の各部位の名称とその働きの特徴、基本的反射について説明できる。 4．運動中に呼吸器系と循環器系はどのように調節されるか説明できる。 5．心と身体の健康維持にどのような運動が適しているか、自分の意見を述べることができる。
【評価基準】	**【テキスト履修】** 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 テキスト課題で出題されている内容、分野をよく理解しておくこと。 **【スクーリング履修】** インターネット授業における最終リポートで６０点以上を合格とする。
【スクーリングにおける事前学修】	「運動生理学」のテキストで、運動の基礎になる骨格筋について「第Ⅱ章　運動と筋肉」を大まかに予習したり、「人間科学概論」のニューロン、運動調節に関する記述を復習しておくと、講義が理解しやすいだろう。
【スクーリングでの講義内	学修内容 / キーワード（重要語句）

容】	1時限	運動と骨格：体を支える骨の構造と働き、骨の代謝と運動の骨に及ぼす影響を学ぶ。	骨芽細胞、破骨細胞、パラソルモン、カルシトニン、エストロゲン、活性型ビタミンD
	2－3時限	運動と筋肉：身体各部の運動、骨格筋の構造、筋収縮の仕組みとエネルギー供給、筋線維の特徴を学ぶ。	横紋筋、アクチン、ミオシン、単収縮、強縮、ATP、無酸素系、有酸素系、赤筋線維、白筋線維
	4－5時限	運動と神経：神経系の構造、脊髄・脳幹・大脳・小脳による運動調節の仕組みを学ぶ。	運動単位、伸張反射、屈曲反射、姿勢反射、運動野、錐体路と錐体外路、随意運動の調節
	6時限	運動を支える身体機能：運動を支える呼吸器系、循環器系の構造と働きを学ぶ。	呼吸器系、換気、酸素摂取量、循環器系、血圧、心拍出量、心拍数
	7時限	運動の効用：適度な運動が身体的・精神的・社会的健康維持に役立つことを学ぶ。	高脂血症、高血圧、糖尿病、気分転換、人間関係

科目名	**環境とホルモン**
担当教員	林　縝治
科目コード	２４１７Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	人類は自然環境に適応しながら生きてきた。しかし、人類の歴史を見ると、人類は少しずつ自然環境を適応しやすいように変えてきたのも事実である。農耕や遊牧そして工業の発達と、人類の生活様式が変化するにしたがって、 その傾向が強まってきた。特に２０世紀の後半になってから、科学の発展、工業技術の進歩によって、自然環境が変化する度合いが著しくなり、それを意図したのではないにも関わらず、制御あるいは修復不能の自然破壊に近い状態に近づきつつある。本科目では、自然環境の物理的な変化あるいは破壊ではなく、我々の生活環境に放出された化学物質が我々の健康に与える影響－化学的環境破壊について学ぶ。これらの多くの化学物質は、２０世紀になって突然工業的に作られたものであり、これらの物質は生物の進化と共に生体が作り出したものではない。したがって、これらの多くの物質に対してヒトを含めて生物には、分解したり、無害にしたりする酵素系が備わっていないので、これらの化学物質に対してほとんどなす術を知らないのが実情である。これらの化学物質のうち、致死作用、がん化あるいは催奇作用といったはっきりと健康に対する悪影響を与えるものについては多くの注意が払われてきたが、最近、環境中に放出された化学物質に、ホルモン様あるいは抗ホルモン様作用があることが多くの野生動物に関する研究結果から分かってきた。これらの物質がヒトの体内で作用すると、内分泌系の調節・ 制御に大きな支障をきたす危険性があるわけである。このような化学物質を「内分泌撹乱化学物質」、または「環境ホルモン」と呼ぶ。教科書では、内分泌撹乱化学物質－環境ホルモンの理解を中心として、最近の環境問題を勉強するのが目的である。
【キーワード】	内分泌攪乱化学物質／環境ホルモン／受容体／食物連鎖／環境汚染
【テキストの内容及びアドバイス】	テキストは 10 章からなっており、前半では、内分泌撹乱物質－環境ホルモンについて、その問題の経緯を生態系における食物連鎖などの例から先ず学ぶと同時に、人体における内分泌器官やその働きなど内分泌学の基礎的知識を学ぶ。この場合、注目すべき問題として、ホルモンと受容体の関係、ホルモン作用の可逆性と不可逆性などがあり、ホルモンが胎生期や幼児期に作用する場合と成熟してから作用する場合とに大きな違いがあることも注目すべき問題である。また、環境ホルモンには性ホルモン様の働きがあるので、体の性分化の異常、脳の性分化の異常などを生ずる可能性があるので、そのしくみについても学ぶ。後半は、環境ホルモンの影響の事例、特に生態系への影響、ヒトに対する影響などについて勉強し、今後、我々が対処すべき問題について考える。
【使用教材】	■テキスト：新井康允『環境とホルモン』（本学オリジナルテキスト） ■参考書:『環境年表　平成 23・24 年』国立天文台編纂　丸善株式会社発行　2011 年 1 月発売　2100 円（本体 2000 円）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 内分泌攪乱化学物質、環境ホルモンとは何であるか説明できる。 2. 身の回りにある環境ホルモンについて具体的に挙げられる。 3. ホルモンなどの化学物質とその受容体との関係を説明できる。 4. 食物連鎖について説明できる。 5. 環境汚染について議論できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**健康教育概論**
担当教員	丸井英二
科目コード	２４１８Ｔ
科目区分	からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	健康教育という用語には大別して２つの意味があります。１つは、健康に関する態度や行動に影響する、個人・集団・地域住民のすべての経験を含むだけでなく、そのような影響を与えるための努力や家庭を含むこと。もう１つは、健康教育は上述するすべてを網羅するような経験・努力・過程のうち、意図的に計画されたものだけを意味する場合です。健康教育のテーマはその時代の健康問題であると言えます。健康上の問題を人々の生活の中で具体的にとらえることが重要です。そして健康教育のねらいは、健康問題に関する知識よりも行動の変容にあると考えられています。本講座では、健康教育のための計画、実践、評価および研究方法について学修していきます。
【キーワード】	健康教育／ニーズアセスメント／行動の変容／ヘルスプロモーション／疫学研究
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　健康教育の歴史やテーマ、ヘルスプロモーションについて理解を深めた後、健康に影響を与える要因、健康の評価やその指標について学修します。 **第２章**　健康教育のための計画づくりについて、まず、ニーズとアセスメントについて学びます。次にテーマの優先順位や必要情報とその入手方法について学修します。さらに企画立案に役立つモデルについて学び、健康教育を効果的に推進するための、計画―実行―評価というマネジメント・サイクルについて学修します。 **第３章**　健康教育の実践について学修します。ライフスキル・行動の変容・カウンセリング・インフォメーションテクノロジーなどについて学びます。 **第４章**　健康教育プログラムの評価について学修します。評価とは何か。評価の指標を何にするか。評価デザインをどう決めるか。次に具体的な事例に基づいて健康教育の評価とそのための調査や解析および結果の解釈などについて学修します。 **第５章**　健康権とは。健康の社会的責任とは。地域における健康づくりとそれを維持するために何が必要であるかなどについて学修します。また、健康政策についての国際的動向や近年の日本の健康政策における評価計画について学びます。また、評価から始まってシステムの改善例などについても学修します。 **第６章**　健康教育・ヘルスプロモーションの展開について学修します。学校における健康教育とは。職場における健康教育とは。地域における健康教育とは。さらに患者に対する健康教育などについて学びます。 **第７章**　課題別健康教育について学修します。生活習慣病、感染症、精神保健、歯科保健、ドラッグなどの課題別にその現状や予防対策および健康教育の展開事例について学びます。 **第８章**　健康教育における研究方法について学びます。ヒトを直接の研究対象とするには、疫学の原理と方法を知る必要があります。さらに疫学的方法をサポートするために、統計学的手法およびデータの評価方法について学修します。
【使用教材】	■テキスト:『新しい健康教育』日本健康教育学会編　保健同人社、リーディングガイド ■参考書：
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．健康教育の定義を説明できる。 ２．ニーズアセスメントについて説明できる。 ３．行動の変容について説明できる。 ４．ＰＰモレルについて説明できる。 ５．疫学研究の方法について説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**応用看護学　～感情と看護～**
担当教員	松本幸子
科目コード	２４１９Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	看護の仕事は、人と人とのコミュニケーションがもっとも基本になければならない。日常的な患者への世話、気遣いなど看護師としての仕事は、目に見えないことがたくさんある。それこそが看護の原点だと考える。それがいつのまにか、日常生活のケアよりも、医療に関わる技術的な記録・モニターのチェックなどが本務と勘違いされている傾向がみられる。看護は、肉体労働であり、頭脳労働でもある。と同時に看護は感情労働でもある。本科目を履修するなかで人とのかかわりを重視する意味を自身の看護を見つめ、捉え返す、考えることにある。
【キーワード】	看護／医療／共感／感情／感情労働／感情社会学／コミュニケーション
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　看護の仕事 「看護の仕事」について自身の体験から捉えなおす 第２章　感情労働としての看護 「看護は感情労働である」という概念を自身の看護から考察する 第３章　看護師のイメージ 看護師のイメージについて多面的に論じる 第４章　「共感」という神話 共感という用語の流布と乱用及び感情について自身の体験をふまえて考察する 第５章　身体が語る言葉 患者が訴えてくる「身体が語る言葉」について自身の体験から考察する 第６章　看護における無意識のコミュニケーション 看護師が無意識のうちに行っているコミュニケーションについて自身の体験を通して論じる 第７章　死との出会い 「死」について考えていることを多面的に論じる 第８章　傷つく看護師、傷つける看護婦 「傷つく看護師」「傷つける看護師」について多面的に論じる 第９章　看護師という生き方 看護師の生き方をどのようにすべきかを自身の体験から捉えなおしてみる 第 10 章　組織のなかの看護師 看護師と組織、医療と看護師、制度について多面的に論じる
【使用教材】	■テキスト：武井麻子『感情と看護－人とのかかわりを職業とすることの意味』医学書院、リーディングガイド ■参考書：A.R. ホックシールド『管理される心』世界思想社、P. スミス『感情労働としての看護』ゆみる出版
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 自身の体験を振り返り、看護や医療、看護と感情などについて捉えなおす。 2. 看護職のあり方を感情と看護の視点から捉えなおす。 3. 自身の体験を振り返るなかで看護師としての思い・願い及び生き方を対自化する。
【評価基準】	1. 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 2. テキスト課題においてテキスト本文の引用がただ羅列されているものは認めません。

科目名	**老化・寿命の科学　～ヒトはどうして老いるのか～**
担当教員	庄子和夫　　田沼靖一
科目コード	２４２１Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	２単位（テキスト履修：２単位）
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	本教科は、“生命にとって老いとは何か”、“死とは何か”、そんな疑問に対して、老化と寿命に関する研究と「死の生物学」の研究成果をもとに、“死の視点”から“老いと死”をとらえ直し、ひとつの答えを探ろうとする試みである。現在、急速に進んでいる高齢社会をいかにして健康に、自在に生き抜くか、「老化・寿命の科学」のなかに、サクセスフル・エイジングの大事なヒントが隠されているに違いない。
【キーワード】	テロメア／アポトーシス／アポビオーシス／寿命遺伝子／抗加齢医学
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　「不老不死の夢」** 可老可死とクローン・高齢社会・老化の過程・生物の寿命・寿命と老化・最大寿命とエネルギー消費 **第２章　「老化」はなぜ起こるか** 個体の老化・老化学説・細胞の老化・細胞老化と神経疾患・細胞老化とテロメア・老化遺伝子 **第３章　「死はなぜあるか」** 加齢と個体の死・死の起源・二つの細胞死・アポトーシスとアポビオーシス・生と死・死のある意味 **第４章　「寿命はいかに決まるのか」** 個体の寿命と細胞死・二つの細胞寿命・寿命遺伝子・環境と寿命遺伝子・不老長寿の秘訣 **第５章　「老い」の意味を問う** 抗加齢医学・生命とアイデンティティ・人間にとっての老い・老いの自由・サクセスフル・エイジングと結晶性知能・老いと精神
【使用教材】	■テキスト：田沼靖一『ヒトはどうして老いるのか―老化・寿命の科学』ちくま新書、リーディングガイド
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．アポトーシスと癌などの疾患の発症について、その関係を説明できる 2．アポトーシスとアポビオーシスについて説明できる 3．死の起源について説明できる 4．老化とはどのようなものかについて説明できる 5．代表的な老化学説にはどのようなものがあるか、そしてそれらはどのようなものかについて説明できる 6．「老いと死」の意味について科学の面から考察できる
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする

<table>
<tr><td>科目名</td><td>免疫学（アレルギー）</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>藤田紘一郎</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>２４２３Ｔ／２４２４Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>分野別科目―からだ・保健の理解</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td>Ｂ</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>アトピー性皮膚炎、気管支喘息、花粉症といったアレルギー性疾患は今や国民病となっている。しかし、これらの病気は４０年前の日本にはなかった病気である。なぜ、昔の日本になかったアレルギー疾患が最近増えてきているのであろうか。アレルギー性疾患を文明病ととらえると、日本人の「超清潔志向」が原因として浮かび上がってくる。そこで、「超清潔志向」のもたらす「罪の部分」を取り上げ、免疫力やアレルギー反応について学んでゆく。私たち日本人が目指してきた「健康」への追求が、果たして正しいかどうか、再考してみるのも本講義のねらいである。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>免疫／アレルギー／Ｔ細胞／Ｂ細胞／抗体</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>アレルギー性疾患とはＩｇＥ抗体が関与する一種の免疫反応による疾患群である。
第１章　免疫とは何かについて学修する。
第２章　抗体、抗原、リンパ球などについての基礎知識を習得する。
第３章　感染予防御免疫機構について学修する。
第４章　自己免疫現象と自己免疫病について学修する。
第５章　アレルギー反応とは何かについて学修する。
第６章　人間を作ってきた文明がアレルギー性疾患を多発してきた現象を解析する。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：藤田紘一郎『免疫力をアップする科学』（サイエンス、アイ新書）、リーディングガイド</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>１．抗体産生機序について説明できる
２．アレルギー反応の発症機序について説明できる
３．Ｂ細胞やＴ細胞の由来について説明できる
４．自己免疫疾患について説明できる
５．文明の発展とアレルギー性疾患の増加について議論することができる</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>免疫とは一体どのような現象なのか、それが身近な事象とどのような関係があるのか、あらかじめ考えて欲しい。とくにアレルギー性疾患がなぜ最近増えてきたかについても自分の意見をまとめて欲しい。抗原と抗体などの免疫学を理解するために必要な基礎的事項の知識を得ていて欲しい。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1-3 時限</td><td>免疫学やアレルギー学を学ぶ上での基礎知識の習得を目指す</td><td>免疫学序論、抗体、抗原、リンパ球の機能、 アレルギー学序論</td></tr>
<tr><td>4-6 時限</td><td>免疫反応と疾患の予防や発症についての理解を深める</td><td>感染防御免疫機構、自己免疫病の発症機序</td></tr>
<tr><td>7-8 時限</td><td>人類がもたらした文明がアレルギー性疾患を誘導してきた機序 について学ぶ</td><td>アレルギー学序論、アレルギー性疾患の種 類、文明とアレルギー反応</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>【連絡事項】</td><td>スクーリング受講時には、テキストを忘れずに持参すること。</td></tr>
</table>

科目名	**予防栄養学**
担当教員	島﨑弘幸
科目コード	２４２４Ｔ／２４２６Ｓ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	予防栄養学（Preventive Nutrition）は個人や国民を対象に、食品のとり方や食生活にかかわって生じる病気を防ぎ、人々の健康増進に寄与することを目的としている。食品は人を病気にすることはないが、人は食品のとり方や過不足で病気になることがある。食品と疾病のかかわりについて、どのような問題があるか、病気を予防するための新しい栄養学を身近なテーマで考え、ひろい視野と正確な知識を持つようにする。
【キーワード】	健康増進／欠乏症／メタボリックシンドローム／生活習慣病
【テキストの内容及びアドバイス】	【テキスト履修】 1. 砂糖物語：わたし達にとって最も身近な食品。しかし、その摂り過ぎには糖尿病や肥満の心配がある。砂糖以外の甘味料も含め、どのように摂取すれば良いか 2. 食物繊維：食物繊維にはどのようなものがあるか。からだの中での役割は何か。短鎖脂肪酸と腸内ガスの発生について。 3. n-3 系不飽和脂肪酸：この脂肪酸の栄養学的役割とは何か。脂肪酸には、他にどのような種類と役割があるか。食品により、含まれる脂肪酸はどのように違っているか。 4. 抗酸化ビタミン：人の栄養素として、必須のビタミンは 13 種類。抗酸化ビタミンとよばれるのはどのようなビタミンか また、それらはどのような食品に多く含まれ、どのような病気の予防になるか。 5. 食品中のプリン化合物と高尿酸血症：プリン化合物は何からつくられるか。それを多く含む食品は何か。プリン化合物は、どのような化合物として血液中に存在し、また最終的に排泄はどのように行われるか。 6. 鉄欠乏性貧血　－まだ鉄は足りない：からだの中にある鉄とはどのようなものか。ヘム鉄、非ヘム鉄とは何か。欠乏にならないためには、どの程度の量が食事から必要か。女性と男性で必要量に違いはあるか。 7. 高血圧では食塩が悪者にされている：食塩の体内での役割はなにか。食塩の過不足で起こる栄養学的な問題として著者はどのようなことを指摘しているか。 8. 骨粗鬆症：骨形成にかかわる因子にはどのようなものがあるか。骨粗鬆症とカルシウム、ビタミンＤにはどのような関係があるか。骨粗鬆症にならない体づくりはどのようにすれば良いか。 9. 肥満の分子生物学入門：肥満遺伝子にはどのようなものがあるか。レプチン、褐色脂肪細胞、UCP（不共役タンパク質）とは体の中でどのような働きをしているか。それぞれが肥満とどのように関っているか。 10. 筋肉をつくる食事：タンパク質を一日の必要量以上に多く摂取すると多くの筋肉がつくられるだろうか。糖質を多くとる食事は筋肉つくりに役立つだろうか。グリセミック・インデックス（GI）はどのように利用されるか。 11. 癌予防を考える食生活：発がんを予防するという食品には、どのような化合物が含まれているか。緑黄色野菜と発がんの関連はどのように指摘されているか。日本人が昔から飲んできたお茶にはどのような有効成分が含まれているか。 12. 高齢者の食事：長寿県の食事にはどのような特徴があるか。高齢者の食事の嗜好、長寿者の食事の特徴にはどのようなものがあるか。 【スクーリング履修】 第 1 回　予防栄養学概論：　栄養と栄養素について、健康と半健康・半病気の意味などを考え、予防栄養学を学ぶ目的をともに考える。また、テキストの第１章　砂糖物語について、糖尿病の成り立ちと食事について概要を解説する。 第 2 回　食物繊維と n-3 脂肪酸：　食物繊維の栄養素としての役割について、水溶性および脂溶性食物繊維の分類と役割を解説する。後半は、必須脂肪酸の栄養学的意義について、また n -3 脂肪酸と虚血性心疾患の予防について説明する。 第 3 回　抗酸化ビタミン：　抗酸化ビタミンとは何か、過酸化脂質や活性酸素とはどのようなものか、体内での抗酸化ビタミンの働き、とくに老化のフリーラジカル説や動脈硬化症の発症メカニズム（説）ついて解説する。 第 4 回　食品中のプリン化合物：　プリン化合物とはどのようなものか、尿酸はどのように作られるか、高尿酸血症の予防と食生活について解説する。 第 5 回　高血圧症と骨粗鬆症：　食塩を多く取るとなぜ高血圧症になるか、適切な食塩の摂取と血圧の関わりについて。後半ではカルシウムの摂取と骨粗鬆症の関わりについ

<table>
<tr><td></td><td>て解説する。
第 6 回　肥満の分子生物学：　肥満と肥満症、メタボリックシンドロームなど、なぜ肥満がいけないかを考える。肥満の原因として日本肥満学会が指摘する肥満発生の５つのパターンを紹介する。
第 7 回　たんぱく質の栄養：　食品として、良質のたんぱく質とはどのようなたんぱく質か、また筋肉として蓄えるにはどのようなことを留意するかな ど、食品のたんぱく質について解説する。
第 8 回　終講試験：　テキストの範囲から、一般的な栄養学の知識を問う。また講義内容の範囲で問う記述テストを実施する。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：三浦義彰／小野直美／橋本洋子『食卓の生化学』医歯薬出版社、リーディングガイド</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>1. 糖質、食物繊維の体内での働きについて説明できる。
2. n-3 不飽和脂肪酸、抗酸化ビタミンの関わる疾病と予防について説明できる。
3. 高尿酸血症、鉄欠乏性貧血、高血圧症、骨粗鬆症と食生活の関わりを説明できる。
4. 肥満とレプチンの働きについて説明できる。
5. 筋肉をつくる食事、理想的な高齢者の食事について説明できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
インターネット授業における最終リポートで 60 点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【インターネット授業における事前学修】</td><td>講義はテキストに添って進めるが、必ずしもテキストの内容を繰り返す訳ではない。講師の研究成果や資料なども交えて、いっそう興味深い内容となるように心がけている。パワーポイント（スライド）と配付資料を使って分かりやすく説明する。看護師や栄養士などの有資格者には比較的やさしい講義となるが、一般学生にとっても、食生活や自らの健康増進を考えるヒントになるように配慮されている。</td></tr>
<tr><td>【インターネット授業での講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1-3
時限</td><td>テキスト 1 章～5 章について自己学修した内容を確認し、なお不明な点について、講師との質疑応答を通して理解を深める</td><td>テキスト 1 章～5 章について学修の要点を解説する。受講前に、テキストは各自で読んでおくこと。</td></tr>
<tr><td>4-6
時限</td><td>テキスト 6～9 章について
同上</td><td>テキスト 6～9 章について
同上</td></tr>
<tr><td>7-8
時限</td><td>テキスト 10～12 章について
同上</td><td>テキスト 10～12 章について
同上</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>【連絡事項】</td><td>【テキスト履修】
このテキストは読みやすい内容になっているが、分からない言葉や内容は、生化学辞典や、栄養学の教科書を用いて調べて欲しい。またスクーリングで質問するのも良い。
【スクーリング履修】
スクーリング受講時には、テキストを持参する。このテキストは読みやすい内容になっているが、分からない言葉や内容は質問するのも良い。</td></tr>
</table>

科目名	**生命と遺伝子**
担当教員	庄子和夫
科目コード	２４２７Ｔ／２４２８Ｓ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	３単位（テキスト履修：２単位／スクーリング履修：１単位）
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	はじめに、ゲノム、ＤＮＡ、遺伝子とはそれぞれどのようなものかについて理解し、遺伝子の発現の仕方を学習する。ヒトゲノム計画でゲノムがどのように解析され、それによって何がわかったか、それをもとに現在どのような方向に研究が進んでいるかについて学習する。細胞分裂の仕方、細胞の死とDNAの関係や遺伝子の発現の仕方について学習する。さらに感染症、アレルギーがおこる機構やES細胞やiPS細胞を中心にした再生医療、遺伝子組み換えについても学習する。
【キーワード】	ＤＮＡ、遺伝子、ゲノム、ES 細胞、iPS 細胞、ポストゲノム、遺伝子組み換え
【テキストの内容及びアドバイス】	**第一部　基礎編** **１章　「細胞とゲノム」** 生物の体がどのように構成されているか、ゲノムとは何かについて説明されている。生物の体の構成単位が細胞であること、その細胞の一つ一つに染色体があり、その染色体とゲノムの関係に注意しながら学習すること。 **２章　「遺伝子とその働き」** 遺伝子とは何なのか、遺伝子とDNAの関係およびDNAの構造、そして遺伝子の発現の仕方について説明されている．DNAが二重らせん構造をとり、DNAの中にある遺伝子とはタンパク質の設計図であること、その設計図をもとにどのようにタンパク質が作られるかについて説明されている。遺伝子の情報をもとにタンパク質が作られるとき、そこにはmRNAやtRNAといった分子も活躍すること、それらの分子の活躍で遺伝子情報がタンパク質へ実際にどのように変換されるのかを理解しながら学習すること。 **第３章　「ゲノム解析」** ヒトを含めたモデル生物のゲノムがどのように解析されたか、そしてゲノム解析で何がわかったか、そしてゲノム解析後は研究がどのような方向に進んでいるかについて説明されている。 **第４章　「タンパク質は重要」** 生物の「生きている」と「死んでいる」の状態の違いや、「生きている」状態を支えているたんぱく質の働きについて説明されている。壊れるのが自然の摂理であるのに、生物はそれに逆らって「いきている」状態を保っている。その中心となって働いているのがタンパク質であることを理解し学習すること。 **第５章　「生物をもっと知る」** 地球上の生物界がどのように分けられるか、真核生物の細胞内のミトコンドリアはもともとは外からやってきた細菌であり、独自のDNAを持つことが説明されている。 **第６章　「細胞をもっと知る」** 細胞分裂と染色体の関係や細胞分裂の周期（細胞周期）のステップ、細胞の自殺アポトーシスのしくみ、細胞の老化について説明してある。細胞周期には４つのステップがあり、その４つのステップがどのように進んでいくのか、どのような場合にアポトーシスがおこり細胞はどのように死んでゆくのかを理解しながら学習すること。 **第ニ部　応用編** **第７章　「ウイルス」** ウイルスとはどのようなものか、ウイルスによる感染症がどのように感染するか、ウイルス増殖のしくみが説明してある。 **第８章　「アレルギー」** アレルギーがどうして起こるのかを免疫のしくみから説明してあり、さらに食物アレルギー、花粉症、アトピーなどについて解説してある。 **第９章　「再生医療」** 幹細胞、また幹細胞の１つであるES細胞やiPS細胞とはいかなるもので、それらの違

<table>
<tr><td></td><td>いや、それらが如何に再生医療の分野で期待されているかが述べられている。

第１０章
「がん」がんとはどのようなものか、がんと遺伝子の関係について説明されている。がんがどのように発生するのか、そのしくみを理解しながら学習すること。

第１１章
「遺伝子多型」遺伝子多型とはどのようなものか、どのような種類があるか、さらに遺伝子多型とオーダーメイード医療の関係について説明してある。

第１２章
「DNAチップ」DNAチップとはどのようなものか、どのように利用できるのかについて説明されている。

第１３章
「リボザイム」リボザイムとはどのようなものか、その発見と機能、および可能性について説明されている。

第１４章
「BSE」狂牛病とはどのようなものか、その原因としてのプリオン仮説について説明されている。

第１５章
「DNA鑑定」DNA鑑定とはどのようなものか、その方法とどのような場面で利用されているかが述べられている。

第１６章
「遺伝子組み換え」品種改良を例に遺伝子組み換えとはどのようなものか、そのやり方が述べられている。

第１７章
「クローン」クローン技術とはどのようなものか、その方法とこの技術の問題点について説明されている。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：油谷幸代「こんなにわかってきたゲノムの世界」技術評論社
■参考書:「ヒトの分子遺伝学（3 版）」村松正實／木南凌監修　村松正實他監訳　メディカル・サイエンス・インターナショナル、「ゲノム　第3 版」村松正實／木南 凌訳　メディカル・サイエンス・インターナショナル</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>１．ＤＮＡ、遺伝子、ゲノムについて説明できる。
２．遺伝子の発現について説明できる。
３．ゲノム解析、ポストゲノムを説明できる。
４．タンパク質の働きとその重要性を理解する。
５．細胞分裂について説明できる。
６．再生医療について説明できる。
７．遺伝子多型とは何か説明できる。
８．遺伝子組み換えとクローンについて説明できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>【テキスト履修】
科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【スクーリング履修】
講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。
総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>高校の生物の教科書を持っている場合は、遺伝のところを読んでおくこと。
テレビ、新聞、雑誌やＷＥＢのホームページで遺伝に関する事柄に触れるよう心がけておく。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1−3 時限</td><td>・この講義でどのようなことを学ぶのかアウトラインを確認する
・ゲノム、ＤＮＡ、遺伝子とは何かについて学ぶ。</td><td>・ゲノム･遺伝子･ＤＮＡ
・遺伝子発現
・ポストゲノム
・タンパク質
・ミトコンドリア</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

	・ゲノム解析とタンパク質の働きについて学ぶ。 ・生物の分類、細胞分裂について学ぶ。	・細胞周期 ・アポトーシス ・テロメア
4－6 時限	・ウイルスによって引き起こされる病気について学ぶ ・アレルギーのおこるメカニズムを学ぶ ・再生医療について学ぶ ・がんの発生メカニズムについて学ぶ ・遺伝子多型とくにＳＮＰにていて学ぶ ・ＤＮＡチップとその利用について学ぶ	・エイズ ・免疫 ・ES細胞・iPS細胞 ・がん抑制遺伝子 ・ＳＮＰ(スニップ) ・ゲノム創薬 ・ncRNA
7－8 時限	・狂牛病の発症の仕組みについて学ぶ ・ＤＮＡ鑑定について学ぶ ・遺伝子組み換え、クローンについて学ぶ ・試験	・プリオン ・PCR法 ・品種改良 ・体細胞クローン

科目名	**高齢者の健康増進**
担当教員	熊谷修
科目コード	２４３２Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	わが国では６５歳以上人口が２３％程度となり超高齢社会に到達した。簡易生命表に目をやれば人生９０年の時代が目前である。高齢期の健康問題を解決する対策を見誤ると医療費と介護費用をはじめとする生活コストは増大する。健やかな高齢期を実現するためにより早くから健康リスクを回避すべきである。そのため高齢期の健康状態を規定するライフスタイル要因や健康増進手段を科学的データにもとづき学習することはきわめて重要となる。本科目は地域高齢者集団を対象としたわが国第一線の老化研究にもとづき明らかになった科学知見を網羅的に学び、学際的な学問である老年学の理解も深める。高齢期の健康問題の特徴とその奥深さが体感できるはずである。
【キーワード】	高齢者／健康指標／栄養／高次生活機能／老化／サポート／エイジズム
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　老人の健康常識の嘘 高齢期の健康問題を正しく理解する。 **第２章**　孤独死する老人は英雄だ 老化の様式を学ぶ **第３章**　世代間信頼と相互扶助 高齢者の能力と社会問題の関わりを理解する。 **第４章**　天寿をまっとうするには 天寿をまっとうするためのさまざまな考え方やスタイルを知る **第５章**　豊かな死に向けて 豊かな死に向けて、その準備教育、生者との関係など、その心構えを総括する。
【使用教材】	■テキスト：柴田博『中高年　健康常識を疑う』講談社選書メチエ、リーディングガイド
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．高齢期の健康・栄養問題の特徴が説明できる ２．老化の基準が説明できる ３．加齢に伴う人間の能力変化が説明できる ４．高齢者へのサポートの様式を説明できる ５．高齢者の健康指標が説明できる ６．ヘルスプロモーションの概念が説明できる
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**成人看護学**
担当教員	大音清香
科目コード	２４３４Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	成人看護について、看護実践に必要な成人のみ方・考え方・捉え方を習得する
【キーワード】	成人期／成人期の看護／医療と看護／看護実践
【テキストの内容及びアドバイス】	【テキスト履修】 ―第 1 部― 成人期にある人の理解では、人間の成長発達における特徴と現代の社会情勢に伴う諸問題を平行して考える 多様化する健康観について看護支援についての考え方を学修する ―第 2 部― 成人期にみられる健康障害について理解を深める 生活習慣の可能性を考慮した看護実践について考える 成人期の職業と健康障害の関連性を理解する 更年期関連障害を理解し、その看護法を習得する ―第 3 部― 病みの軌跡を理解し、成人の看護について総合的に習得する セルフケアの考え方と看護理論を理解する ストレス―コーピング理論を理解し、ストレスマネジメントを習得する 危機理論を理解し、様々な危機の介入の方法を習得する
【使用教材】	■テキスト:『ナーシング・グラフィカ 22　成人看護学―成人看護学概論』安酸史子／鈴木純恵／吉田澄恵編　メディカ出版 ■参考書：
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．成人期の特徴が理解できる ２．成人期にみられる健康障害が説明できる ３．成人への看護に有用な概念を説明することができる ４．現在の社会情勢を認識して成人看護の事例において看護展開ができる ５．病みの軌跡について、その看護の適応が説明できる。
【評価基準】	科目修了試験で６０点以上を合格とする。

科目名	**生活習慣と健康**
担当教員	河野慶三
科目コード	２４３６Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	４単位（テキスト履修：４単位）
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	健康と生活習慣（ライフスタイル）、の関係を生活習慣病を介して理解し、自分自身の健康寿命を延長するには、日常生活をどのようにコントロールするのが適切であるかを考える。また、健康と生活習慣（ライフスタイル）の関係が疫学的な情報にもとづいて構築されていることの理解を深める。
【キーワード】	生活習慣（ライフスタイル）、運動、睡眠、食生活、アルコール、喫煙、生活習慣病、メタボリックシンドローム、肥満、健康増進法、健康寿命、健康日本２１（第２次）
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　生活習慣病の特徴 第２章　主な生活習慣病：がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、歯周病 第３章　歯の健康：自分の歯で噛むことの意義 第４章　がんと生活習慣 第５章　肥満：栄養と運動 第６章　メタボリックシンドローム 第７章　飲酒習慣と健康：アルコールの代謝、肝、膵、脳への影響、アルコール依存 第８章　喫煙習慣：副流煙 第９章　生活習慣病対策 付）健康日本２１（第２次）：２０１３年４月から１０年計画でスタートする健康増進法にもとずく国の施策を理解する。
【使用教材】	■テキスト：山田早百合『生活習慣と健康』人間総合科学大学　２００７年 ＊健康増進法 ＊健康日本２１（第２次）の推進に関する参考資料（平成２４年７月） （いずれも厚生労働省のホームページからダウンロードできる）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 健康と生活習慣の関係を概念として説明できる。 2. 生活習慣病、メタボリックシンドロームについて説明できる。 3. アルコールの健康影響を説明できる。 4. 喫煙の健康影響について説明できる。 5. 運動の意義と効果を説明できる。 6. 健康増進法、健康日本２１（第２次）について説明ができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**看護学概論**
担当教員	五月女ひろみ　　水越礼子
科目コード	２４３８Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：４単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	看護の基本―人間・健康・環境・看護に関する概要を理解し、保健医療福祉の分野の専門職として、人々の健康に資する看護とは何かを学ぶ。その中で（看護の対象である）人間が統合された存在である点を理解する。また、健康上の課題に対応するための方法論についても学ぶが、特に現在の看護診断（看護上の問題の明確化）についても学習する。
【キーワード】	生活／ケアリング／ホリスティック・ナーシング／健康生成／看護過程／看護診断／看護倫理
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　看護とは何か 　現代の看護の考え方と看護学の発達段階を知り、これからの看護学を考える。 第２章　看護の歴史 　現在までの看護の歴史を展望し、看護の概念や看護の本質、看護の定義が考えられてきた道程と根拠について学ぶ。 第３章　人と環境 　人を生活統合体として認識し、その人と環境との関わりについて学ぶ。 第４章　健康と看護 　健康の概念について理解し、看護の対象である人々の健康状態を健康指標の面から学ぶ。 第５章　保健医療システムと看護 　保健医療サービスを提供するシステムとそのシステムの中で機能する看護について学ぶ。 第６章　看護の機能と業務 　看護の機能と業務を、法的側面と実際面から学ぶ。 第７章　看護活動 　看護の目的と看護活動の関連および各段階を学ぶ。 　看護診断分類を理解し、看護診断過程と看護実践過程について学ぶ。 第８章　看護管理 　看護管理の目的を理解し、看護関連の法と制度、看護の役割と管理について学ぶ。 第９章　看護倫理 　看護職に期待される倫理的役割を理解し、看護実践上の道徳的判断の規準について考えることができる。 第10章　看護研究 　看護研究の特性、研究の領域、研究倫理について学ぶ。 第11章　看護の国際化 　保健医療・看護における国際交流と協力のための仕組みについて学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：看護学概論―看護とは・看護学とは（第5 版）：松木光子／編、ヌーベルヒロカワ ■参考書：
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 現代の看護の考え方と看護学の発達段階について説明できる。 2. 看護の概念や看護の本質、看護の定義の歴史について説明できる。 3. 生活統合体としての人と環境との関わりについて説明できる。 4. 健康に対する考えや統計上の人々の健康状態を説明できる。 5. 保健医療サービスシステムとその中で機能する看護について説明できる。 6. 看護の機能と業務について説明できる。 7. 看護過程の意義と各段階、看護診断過程について説明できる。 8. 看護管理の目的と看護の役割について説明できる。 9. 看護実践上の道徳的判断の規準について説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	☆養護教諭養成コース登録の方 　原則として、「養護実習Ⅱ」おいて教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

科目名	**リハビリテーション概論**
担当教員	栗山明彦
科目コード	２４３９Ｔ
科目区分	分野別科目－からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	リハビリテーションとは、障害のある人々の前人間的復権を図ることにある。そこにはリハビリテーションを医療として狭義に捉えがちであるが、医学だけでなく社会的、教育的、職業的な側面など幅広い領域から捉える必要がある。したがって、これらを時系列的にどのような方法でアプローチするかなど一般概念について理解する。
【キーワード】	リハビリテーション／ノーマライゼーション／ＩＣＦ／チーム・アプローチ／福祉用具
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　リハビリテーションの理念 第２章　リハビリテーションの領域と役割 第３章　リハビリテーションに関する社会資源 第４章　リハビリテーションと福祉用具、住宅の改造等 第５章　リハビリテーション介護 第６章　障害別リハビリテーションの実際 第７章　地域リハビリテーション
【使用教材】	■テキスト:「リハビリテーション論」(澤村誠志責任編集、メヂカルフレンド社)、リーディングガイド
【学生が達成すべき目標(行動目標として)】	１．リハビリテーションの言葉の意味と理念 ２．リハビリテーションの種類 ３．リハビリテーションと福祉用具 ４．リハビリテーションの障害とそれに関わる専門職の役割 ５．リハビリテーションにおける諸制度
【評価基準】	科目修了にて６０点以上を合格とする。

科目名	**スポーツ障害学**
担当教員	吉田一也
科目コード	２４４０Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	テキスト「THE SPORTS MEDICINE BIBLE」の講読を通して、スポーツ障害についての理解を深める。
【キーワード】	スポーツ障害／障害予防／診断と治療／リハビリテーション／運動と高齢者
【テキストの内容及びアドバイス】	**第 1 章　フィットネスの新しい考え方** ヘルスフィットネスの効果、スポーツ活動による効果、使いすぎ損傷の危険因子について学ぶ。 **第 2 章　スポーツ損傷の予防** スポーツ損傷はリスクファクター（危険因子）を確認し、予防的手段を講じることで予防が可能となる。本章ではスポーツによる損傷予防、再発防止のための代表的なプログラムについて学ぶ。 **第 3 章　筋力と伸展性：損傷予防のかぎ** スポーツ障害の予防のかぎとなる筋の伸展性と筋力について学び、全身のストレッチと筋力トレーニングの方法についての理解を深める。 **第 4 章　スポーツ損傷の診断と治療** スポーツ損傷の診断と治療の指示は医師が行う。ただ、状況によっては選手が自己診断し、ガイドライン（テキスト p55-59.）に沿って処置する場合も多い。本章では、特に急性または慢性の損傷に対するガイドライン、スポーツ損傷に対して選手が自分で行える処置（RICE）について学ぶ。 **第 5 章　スポーツ損傷のリハビリテーション** 理学療法士（physical therapist;PT）がスポーツ損傷に対して行うリハビリテーションについて学ぶ。 **第 6 章　足の損傷** 代表的な足の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。さらに、整形外科疾患ではない足の皮膚疾患についても理解を深める。 **第 7 章　足関節の損傷** 足関節の解剖学的特性を理解する。代表的な足関節の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 8 章　下腿の損傷** 代表的な下腿の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 9 章　膝の損傷** 膝関節の解剖学的特性を理解する。代表的な膝の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 10 章　大腿の損傷** 代表的な大腿の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 11 章　股関節、骨盤、鼡径部の損傷** 股関節の解剖学的特性を理解する。代表的な股関節、骨盤、鼡径部の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 12 章　背部（胸椎と腰椎）の損傷** 腰痛の解剖学的特性に応じて理解する。代表的な背部の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 13 章　肩と上肢の損傷** 肩関節の解剖学的特性を理解する。代表的な肩と上肢の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 14 章　肘の損傷** 肘関節の解剖学的特性を理解する。代表的な肘の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 15 章　手関節の損傷** 手関節の解剖学的特性を理解する。代表的な手の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 16 章　手と指の損傷**

	代表的な手と指の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 17 章　頭頚部（頚椎）の損傷** 代表的な頭頚部の整形外科疾患の症状、原因、注意点、薬、リハビリテーション、復帰までの期間等について学ぶ。 **第 18 章　スポーツ選手の皮膚障害** 屋内外を問わず、スポーツ活動は多様な皮膚障害を引き起こす潜在的危険性を持っている。本章ではスポーツによって頻繁にみられる皮膚の障害について学ぶ。 **第 19 章　女性スポーツ選手のスポーツ医学上の注意点** 女性スポーツ選手の特徴（女性スポーツ選手の３徴)、女性特有のスポーツ損傷、筋力トレーニングの方法等について学ぶ。 **第 20 章　運動と高齢者** 近年、高齢者の運動参加者は増加傾向にある。本章では適切な運動を行うために必要な基礎（老化に対する運動の効果、運動実施に当たっての注意点等）について学ぶ。 **第 21 章　スポーツのための栄養** スポーツを行う上で、体調管理やパフォーマンスの向上のために食事は重要とされている。本章ではスポーツ選手のためのスポーツ栄養の基礎について学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：1. Lyle J. Michiel, Mark Jenkins（中嶋寛之監訳）：THE SPORTS MEDICINE BIBLE スポーツ損傷の予防、治療、リハビリテーションのための最新のテクニック、ナップ、1997 2. 山田成：スポーツ障害学リーディングガイド
【学生が達成すべき目標(行動目標として)】	1. スポーツ障害について理解し、他者に説明ができる。 2. スポーツ障害の予防、診断と治療について理解し、他者に説明ができる。 3. スポーツ障害に対するリハビリテーションについて理解し、他者に説明ができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**基礎から学ぶいのちの科学**
担当教員	鍵谷方子
科目コード	２４４１Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	人体は多数の細胞からなる。生命の基本単位である細胞の働きと、細胞を構成する分子の働きを学び、生命の営みの基礎を理解する。次いで、細胞が集まって協調的、統合的に働くことで成り立つ個体としての生命現象の仕組みを学ぶ。生命についての最新の知識をやさしく基礎から理解することで、私たちが「生きている」とはどういうことなのか考察を深める。
【キーワード】	人体／生命／分子・細胞レベルの生命現象／個体レベルの生命現象
【テキストの内容及びアドバイス】	**第Ⅰ部　生命の基礎** 第１章　生命の起源と人間に至るまでの進化の過程について学ぶ。 第２章　生命の最小単位である細胞の構造と働きについて学ぶ。 第３章　細胞を構成する分子の特徴を学び，生命の営みの仕組みを理解する。 第４章　遺伝子の働き、遺伝の仕組みについての基礎を学ぶ。 第５章　生体内に取り入れた物質の変化の過程についての基礎を学ぶ。 **第Ⅱ部　統合された生命** 第６章　生命を次世代につなぐ仕組みである生殖と、個体の誕生する仕組みについて学ぶ。 第７章　人間が人間として生まれる基礎である遺伝について学ぶ。 第８章　私たちが老化して死を迎える仕組みを学び、個体としての生命の営みを理解する。 第９章　生体機能を調節する種々のホルモンの働きを学ぶ。 第10章　生体を守る免疫の仕組みの基礎を学ぶ。 第11章　生命の中枢を担い、人間らしさにも重要な脳神経系の働きを学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：『自分を知る　いのちの科学』（培風館、伊藤明夫著）、リーディングガイド（但し、テキストの第Ⅲ部はこの科目では扱わない。学習の参考として読むとよい。） ■参考書：『「いのち」とはなにかー生命科学への招待』（講談社、柳澤桂子著）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．細胞小器官（オルガネラ）の構造と働きについて説明できる。 2．生体を構成する分子の特徴と働きについて説明できる。 3．遺伝子の働きと遺伝の仕組みについて基礎的事項を説明できる。 4．多数の細胞からなる私たちの身体が協調的に働くしくみを概説できる。 5．「生きている」とはどういうことか議論できる。
【評価基準】	科目修了試験で６０点以上を合格とする。

科目名	**老年看護　～老年期の身体・精神心理・社会的変化と健康問題～**
担当教員	三澤久恵
科目コード	２４４４Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	老年期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康レベルや状況下にある高齢者に対して、老年期の持つ意味や加齢による身体的、精神・心理的、社会的変化を理解し、高齢者のライフスタイルやニーズ、高齢社会の保健、医療、福祉に対する理解を深め、老年期における生活習慣病・転倒・認知症を予防するための方法について学び、健康を保持・増進するための支援について理解する。
【キーワード】	老いる／高齢者の健康／生活機能／生活の質（QOL）／セルフケア
【テキストの内容及びアドバイス】	**第 1 章　老いるということ、老いを生きるということ** 加齢と老化、身体的側面の変化、心理的側面の変化、老年期の発達課題について理解する。 **第 2 章　高齢社会と社会保障** 日本の高齢化の現状と課題及び高齢社会における保健医療福祉の動向について把握し、権利擁護について考える。 **第 3 章　老年看護の理念** 老年看護の目指すものと実践の特徴を理解する。 **第 4 章　高齢者のアセスメント** 身体の加齢変化及び高齢者によくみられる身体症状についてのアセスメントの視点と方法を理解する。 **第 5 章　高齢者の生活機能を整える看護の展開** 基本動作と看護ケアについて理解する。 食事・排泄・清潔・生活リズム・コミュニケーションと看護ケアについて理解する。 **第 6 章　健康逸脱からの回復と終末期を支える看護の展開** 検査・治療を受ける高齢者及び疾患を持つ高齢者への看護ケアについて理解する。 認知機能の障害に対する看護ケアについて理解する。 終末期の看護ケアについて理解する。 **第 7 章　地域資源を活用した看護の展開** 在宅高齢者及び保健医療福祉施設における看護について理解する。 **第 8 章　高齢者のリスクマネジメント** 高齢者の医療安全における実態と対策及び災害看護について理解する。
【使用教材】	■テキスト：北川公子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 , 医学書院
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 加齢と身体生理的変化、精神・心理的・スピリチュアリティの特徴を理解できる。 2. 高齢者の社会生活の特徴と課題を理解できる。 3. 高齢者の健康と生活機能について総合的に考えることができる。 4. 高齢社会における高齢者のニーズと保健医療福祉対策の課題を考えることができる。 5. 健康長寿を目指し、QOL 向上の実現に向けた生活支援のありかたを述べることができる。 6. 障害を有する高齢者の日常生活への影響を考慮したアセスメント、援助方法を述べることができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**地域保健　～地域における生活習慣病対策のすすめ方～**
担当教員	松木悠紀雄
科目コード	２４５７Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	健康情報には根拠の曖昧なものも多い。根拠（エビデンス）に基づくことの意義を理解し、地域看護の立場に立って具体的な生活習慣病対策を進めるための一連の過程について学ぶ。地域の診断やリスク・ストラテジーの技法を知ることはそのための前提であり、具体的な健康増進計画の考え方について学ぶ。また実際に地域の統計を処理するための手法やエクセルを用いた集計処理についても学ぶ。
【キーワード】	根拠にもとづいた健康情報／生活習慣病対策／健康政策／地域看護政策／統計処理
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　根拠に基づく健康政策** 健康政策における意思決定、根拠に基づくことの意味、保健医療におけるサービスと質の評価などについて学ぶ。 **第２章　地域診断のすすめ方** 生活習慣病対策を進めるための健康政策や集団の健康状態を評価するための技法について学ぶ。 **第３章　予防医学のストラテラジー** 予防医学におけるリスクの考え方、リスク、ストラテジーなどについて学ぶ。 **第４章　健康増進計画と新しい生活習慣病対策のすすめ方** 健康増進計画、新しい生活習慣病対策のすすめ方、介護予防事業保健事業のすすめ方などについて学ぶ。 **第５章　統計処理のすすめ方** 地域評価のための統計処理の考え方、母集団と標本との関係、実際的な統計処理のすすめ方などについて学ぶ。 **第６章　エクセルを用いた集計解析のすすめ方** エクセルを用いた具体的な集計解析のすすめ方、ピボットテーブルや関数の使用、グラフの作成などについて学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：地域診断のすすめ方　根拠に基づく生活習慣病対策と評価（第２版）、水嶋春朔著（医学書院）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．根拠に基づいた健康情報の考え方について理解する。 ２．健康に関する地域の診断と評価について理解する。 ３．健康に関するリスクマネージメントの基本を身につける。 ４．地域看護学の立場から生活習慣病対策について検討できる。 ５．地域の統計処理について理解する。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**クリティカルケア　～成人看護の視点から～**
担当教員	加藤優紀
科目コード	２４４９Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：　－
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	一般にはあまり触れることのできない、救急医療場面および集中治療場面における生命の危機的状態にある対象者とその家族の身体的・心理的・社会的な状態の理解と生命の危機状態からの離脱を目指す看護援助の基本について学ぶ。また、クリティカルケアが、単に救急救命・集中治療における看護ではなく、生命の危機状況にある人へのケアであることを学習する。 本科目では、クリティカルな状態にある患者の身体・機能的変化、二次障害の予防、感染予防、廃用予防、身体的・精神的苦痛軽減への援助などの概要を知るとともに、患者やその家族の自己決定、生命倫理上の問題についても学習する。
【キーワード】	生命の危機状態／侵襲と生体反応／生命倫理／二次障害予防／家族看護
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章：クリティカルケア看護とは** 　クリティカルケアの概念を明確にし、クリティカルな状態にある対象者についての概略およびその家族のおかれている状況を理解する。 **第２章：クリティカルな患者のアセスメント** 　クリティカルな状況にある対象者の身体的状態を把握するために必要なアセスメントのための知識・方法を学ぶ。また、クリティカルな状態の患者に必要なモニタリング・画像の読みについても学ぶ。 **第３章：クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア** 　クリティカルな状態にある患者に特徴的な病態について学ぶ。身体面については、解剖生理学的および病態生理学的な視点からの理解が重要であり、精神面についてはストレス反応などから理解する。 **第４章：過大侵襲に伴う手術患者の特徴とケア** 　手術療法の中でも身体に過大な侵襲が加わる術式を中心に、侵襲に対する生体反応を踏まえ、侵襲から早期に、安全に離脱するための看護を学ぶ。 **第５章：クリティカルケア看護に必要な看護技術** 　クリティカルな状態にある患者の生命の維持および二次障害の予防、早期の回復に向けた援助の実際について学ぶ。 **第６章：クリティカルケアの看護実践を支える枠組み** 　クリティカルな状況にある患者および家族の抱えている倫理的問題について学ぶ。さらに、患者および家族の諸問題に関わる医療チームの役割について学ぶ。 **第７章：クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメント** 　クリティカルケアが行われている場における看護体制の特徴を学ぶ。集中治療の場における管理の中心は看護職が担っていると言える。そのクリティカルケアの場における看護管理とマネジメントについて理解を深める。
【使用教材】	■テキスト：クリティカルケア看護学　別巻看護学講座：道又元裕・中田諭ほか、医学書院、2008 ■参考図書：人体の構造と機能（解剖生理学）に関する図書
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. クリティカルケアの概念を理解し、クリティカルケアに関わる医療チームの専門性と役割が説明できる。 2. クリティカルな状態の対象者の身体的・心理的・社会的なアセスメントができ、生命の危機状態に対する援助、二次障害予防への援助をふくめたQOL向上のための看護がわかる。 3. クリティカルな状態にある対象者の家族のおかれている状況を理解し、家族への関わりについてわかる。 4. クリティカルケアにおける倫理的問題について自らの考えを深めることができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**緩和ケア　～成人看護の視点から～**
担当教員	加藤優紀
科目コード	２４５１Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	ターミナル期にある人とその家族が質の高い生活を送れるように援助するということの基礎理論と実践に関して、看護の視点から学修する。ターミナル期にある人が主体的に自らの生き方や死の迎え方（人生の完成を目指すプロセス）を決定し実現していくということはどういうことか、家族がターミナル期の人の意向に添いながらともに過ごし看取っていけるように働きかけていくことについて、またターミナル期にある人と家族のストレスや危機状態に応じた看護支援の方法についてわかりやすく解説する。
【キーワード】	ターミナル期／ QOL ／緩和／死生観／全人的苦痛（トータルペイン）
【テキストの内容及びアドバイス】	**パートⅠ．理論編** **Ⅰ．緩和・ターミナルケア看護学の考え方** 現代の医療問題とホスピスの歴史をとおして、末期患者に必要なケアのあり方について考えるとともに、死にまつわる文化的側面、日本人の死生観の特徴を理解する。さらに死をめぐる倫理的課題を理解し、看護の役割について考える。 **Ⅱ．ターミナル期にある人の特徴と理解** ターミナル期に起こる身体的な変化、症状について理解し、トータルペインとは何かを理解し、さらにターミナル期にある人の心理的、社会的、霊的特徴の理解をとおして、ターミナル期にある人のニーズを考える。 またターミナル期にある人の家族の苦痛、死別と悲嘆反応について理解する。 **Ⅲ．ターミナル期にある人への看護援助** ターミナル期の心理的援助、スピリチュアルケア、意思決定について理解し、ターミナル期にある人と家族への援助方法について考える。 **パートⅡ．実践編** **Ⅳ．ターミナル期における緩和ケア** ターミナル期のがん患者に出現する症状のメカニズム、マネジメント方法について理解する。 **Ⅴ．緩和ケアにおける薬剤の活用とその副作用への対処方法** がん患者の痛み・倦怠感・精神症状の原因と治療法、使用される主な薬剤の作用機序、副作用への対処方法について理解する。 **Ⅵ．ターミナル期のコミュニケーション技術とコミュニケーションの技法** ターミナル期におけるコミュニケーションの方法について理解する。 **Ⅶ．心理的支援の方法** 終末期がん患者への心理学的介入について理解する。 **Ⅷ．家族・遺族のケアの方法** 家族ケア・遺族ケアの基本的な考え方について学び、今後の課題について理解する。 **Ⅸ．医療従事者のストレスとその対処方法** 医療従事者のストレスとストレスマネジメントについて理解する。 **パートⅢ．事例編**
【使用教材】	■テキスト：緩和・ターミナルケア看護論 - 成人看護学、鈴木志津枝・内布敦子、ヌーベルヒロカワ
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．ターミナルケアの概念を理解することができる。 2．終末期医療における倫理的問題を理解することができる。 3．ターミナル期にある人の身体的苦痛および心理・社会的苦痛、霊的苦痛について理解することができる。 4．ターミナル期にある人および家族への看護の基本を理解することができる。 5．自分自身の死生観について考えることができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**障害からの回復**
担当教員	秋山純和
科目コード	２４５３Ｔ
科目区分	分野別科目―からだ・保健の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	「リハビリテーションとは何か」他者に説明できる。障害や疾病を持った人の身体的、精神的状況がどのような状態にあるのか理解する。一般的な障害や疾病に対する心理的な受容へのプロセスを理解する。個人と集団および環境の問題やＡＤＬからＱＯＬのあり方を考えてみる。リハビリテーションの理念として、医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーションが必要なことを知る。リハビリテーション医療関連の職種の活動と役割を理解する。
【キーワード】	障害／補助具／義肢装具／廃用症候群／社会参加
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　新しい能力を開発する 能力障害を克服するには機能（能力）を取り戻すのではなく手段として新しい能力を身につける。 第２章　人を助ける道具 人を助ける道具である義足、義手、車椅子、装具、杖には、手段としての役割がある。 第３章　使わない機能は退化する。 機能回復にあたって廃用症候群は、阻害因子であり予防することがとても重要である。 第４章　神経は再生する 機能回復には、神経の再生が必要であるがリハビリテーションによって早期から促進するようにしなければならない。 第５章　脳の機能の再編成 上位中枢である脳の機能回復には、機能の再編成が必要である。 第６章　訓練はなぜ効果があるのか 機能回復を促進するためには、運動学、神経生理の知識が必要であることを解説している。 第７章　精神の働きの復活 高次中枢機能障害によって起こってくる失行、失認、失語、認知症について解説している。 第８章　心の立ち直り：障害受容 障害受容のプロセスを理解することがとても大切であることを理解している。 第９章　最初から社会復帰を目標に 復帰には、職業復帰、社会復帰、家庭復帰があるが住宅環境や社会環境を整備することも大切であることを理解する。 第１０章　ＱＯＬをめざすリハビリテーション ＡＤＬの自立、改善から社会参加に繋げＱＯＬを高める必要がある。
【使用教材】	■テキスト：リハビリテーション、上田敏、ブルーバックス ■参考書：目で見るリハビリテーション医学、上田敏、東京大学出版会
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．リハビリテーションを説明できる。 ２．障害について説明できる。 ３．人を助ける道具を説明できる。 ４．廃用症候群を説明できる。 ５．機能回復を早期に行う理由が説明できる。 ６．リハビリテーション関連職種の役割が説明できる。 ７．高次中枢機能を説明できる。 ８．障害受容の過程が説明できる。 ９．社会復帰と社会参加の意義が説明できる。 10．ＡＤＬとＱＯＬの関係および社会参加の意義が説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	身近に障害や疾病を持っている方を思いながら学修したい。将来自分自身が障害や疾病を持つかもしれないと仮定して学修していただければと思います。

科目名	**比較文化論**
担当教員	大東俊一
科目コード	２５３３Ｔ／２５３３Ｓ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	４単位（テキスト履修：２単位／スクーリング履修：２単位）
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	異文化を理解することは、自らの文化をよりよく理解するきっかけとなる。本講では、異文化理解に関する理論的側面や実際的な場面を考察することから始めて、西欧文化とはかなり異質な側面を持つ日本文化に関する理解を深めることが目標である。スクーリングにおいては、日本の宗教文化を取り上げて、検討を加える。
【キーワード】	西欧文明／日本文化／異文化との出会い／日本の宗教文化／西欧の思想的伝統
【テキストの内容及びアドバイス】	**【テキスト履修】** 第１章　比較文化論入門・・・近代西欧文化の特質、比較文化論の先駆者たち。 　→西欧の人々がこれまで異文化を眺めてきた視点を理解する。 第２章　和辻哲郎の『風土』を読む・・・風土の類型など。 　→『風土』という文明論の先駆的著作の意義を理解する。 第３章　異文化を生きた人々―――ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）・・・ハーンの生涯・文学・思想など。 　→ 西欧文明と日本文化に対するラフカディオ・ハーンの態度を理解し、異文化理解の手がかりとする。 第４章　異文化との葛藤―――岡倉天心の文明論・・・岡倉天心の生涯と思想、『茶の本』、西欧文明批判など。 　→岡倉天心の西欧文明批判の要点を理解する。 第５章　日本文化における自然・・・自然と日本人、季節感の形成など。 　→比較文化論的視点から、日本人と自然との関係性について、季節感の形成という現象を通して考察する。 第６章　日本人の精神風土・・・固有信仰、仏教と日本人、日本人の他界観など。 　→仏教伝来以前から存在している固有信仰の姿を検討し、それが仏教とどのような関係性を築きあげてきたかを考察する ことを通して、日本人の精神風土の特徴を探究する。 **【スクーリング履修】** 　まず、テキストの内容を補足する形で、異文化理解や異文化との接触に関するさまざまな場面を紹介し、文化という対象を考察する際の視点について検討する。 　日本の文化にとっての異文化とは、とりわけ西洋文明であるが、その特質を理解することを通して、日本文化の特質も理解することができる。そして、さらに、日本文化の深層を理解するために、文化の重要な基盤である宗教について検討する。 日本人の宗教心は曖昧であると言われているが、仏教や神道を考察の対象にするだけでなく、日常生活に浸透している民俗宗教的なものを考慮する必要がある。 また、宗教はとりわけ死生観と関連する。死生観は、死に対峙する私たちの態度だけでなく、日常の行動様式にも影響を与える。曖昧だと言われている日本人の死生観の特質についても考察する。
【使用教材】	■テキスト：大東俊一『比較文化論』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	**【テキスト履修】** 1．近代の西欧文明の特質について説明することができる。 2．文化の類型について説明することができる。 3．日本文化の特質について説明することができる。 4．日本人の宗教心の成り立ちについて説明することができる。 5．日本人の死生観について説明することができる。 **【スクーリング履修】** 1．近代の西欧文明の特質について説明することができる。 2．異文化との接触について具体例を挙げて説明することができる。 3．日本文化の特質について説明することができる。 4．日本人の宗教心の成り立ちについて説明することができる。 5．日本人の死生観について説明することができる。 評価
【評価基準】	**【テキスト履修】** 　科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 **【スクーリング履修】**

	講義の出席状況と最後の時限に実施する試験の総合評価とする。 総合評価で６０点以上を合格とする。なお、授業への参加度（質問、発言など）も考慮する。
【スクーリングにおける事前学修】	スクーリングにおいてはテキストの内容を補足説明し、日本文化の特質を検討するので、テキストを通読するとともに、日本の宗教文化に関して、自分のイメージを確認しておくことが望ましい。

【スクーリングでの講義内容】

学修内容		キーワード（重要語句）
１時限	比較文化論入門 ――――東日本と西日本の文化の違い	落葉広葉樹林、照葉樹林、稲作、国家の成立
２時限	比較文化論の先駆者たち ――――カエサルからトインビーまで	西洋人が見た異文化、近代西欧文明、和辻哲郎、ラフカディオ・ハーン
３時限	東洋と西洋との架け橋 ――――岡倉天心（ビデオによる解説と講義）	西欧文明批判、『茶の本』、日本画の復興
４時限	西洋文化の特質 ――――西欧近代とは何か	宗教改革、科学革命、キリスト教
５時限	日本文化の基層（1） ――――自然崇拝	アニミズム、精霊信仰
６時限	日本文化の基層（2） ――――和歌山県・熊野地方の文化（ビデオによる解説と講義）	自然、熊野三山、神仏習合
７時限	日本の神々 ――――『古事記』の神々から国家神道まで	日本古来の神観念、八百万の神
８時限	日本人の民俗宗教 ――――葬送儀礼を通して（ビデオによる解説と講義）	通過儀礼、死生観、民俗宗教
９時限	仏教とは何か？ ――――ブッダの教え、仏教伝来、仏教の受容	インド仏教、現世利益、聖徳太子、奈良仏教
10 時限	奈良仏教から平安仏教へ ――――最澄・空海の教え	天台宗、真言宗、法華経、密教
11 時限	山岳仏教 ――――比叡山、高野山（ビデオによる解説と講義）	神の鎮座する山、神仏習合、延暦寺、金剛峯寺
12 時限	鎌倉新仏教から現代まで ――――鎌倉新仏教の特徴、葬式仏教	天台本覚思想、全員救済、死者供養・祖先祭祀
13 時限	浄土教美術に見る日本人の他界観 ――――来迎図、阿弥陀堂建築（ビデオによる解説と講義）	宇治平等院鳳凰堂、浄瑠璃寺九体阿弥陀堂、三千院往生極楽院
14 時限	日本人の死生観（まとめ） ――――仏教絵画、文献資料	来迎図、山越阿弥陀図、柳田國男
15 時限	テスト	

科目名	**東洋文化論**
担当教員	中山和久
科目コード	２５０１Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	東洋文化を長く支えてきた中国文化について、特にその思想に焦点を当てて考察する。なかでも中国思想の根幹をなす儒家思想、道家思想、法家思想を中心にそれぞれの思想の特質を究明することを通して、東洋人の思考の様式を考察し、その現代的意義を考える。
【キーワード】	中国思想／儒家思想／道家思想／法家思想
【テキストの内容及びアドバイス】	**第二章　天の思想・汎神論的世界観** …中国における「天」の意味と、天と人間との関係をいかなるものと認識していたかを考察する。 **第三章の２　孔子** …『論語』を中心に孔子の思想や学説の概要を考察する。「人とともに生きる（共生）」ことを前提とし、人間の善意を信じて「人として生きる道」を説く儒家思想の特性を読み取る。 **第三章の３　孟子** …孟子の思想や学説の概要を考察する。性善説、仁義の思想を中心に学説を整理してみよう。 **第三章の４　荀子** …荀子の思想や学説の概要を考察する。天人の分（天と人との関係をどうとらえているか)、「礼」の思想、性悪説を中心に学説を整理してみよう。 **第三章の５　韓非子** …韓非子の思想や学説の概要を考察する。法の思想、刑名参同を中心に学説を整理してみよう **第三章の７．８　老子・荘子** …老子・荘子の思想や学説の概要を考察する。自然と人間の関係をいかなるものととらえていたか、無、無為自然、万物斉同（荘子）を中心に学説を整理してみよう。
【使用教材】	■テキスト：森三樹三郎『中国思想史（上)』レグルス文庫　第三文明社、リーディングガイド
【学生が達成すべき目標（行動目標として)】	１．儒家思想、道家思想、法家思想それぞれの代表的思想家（孔子、孟子、荀子、韓非子、老子、荘子）についてその学説の概要が説明できる。 ２．儒家思想、道家思想、法家思想それぞれの思想様式の特性や違いについて説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**西洋文化論**
担当教員	大東俊一
科目コード	２５０２Ｔ／２５０３Ｓ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	３単位（テキスト履修：２単位／スクーリング履修：１単位）
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	日本は明治維新以来、西洋の文化を摂取し、急速に近代化を推進してきたが、今や世界の隅々にまで浸透した西洋文化は、はたして普遍的なものであろうか。本講では、その西洋文化がどのように育成されてきたか、その特質とは何かを検討し、西洋文化を考える上での視点の獲得を目標とする。
【キーワード】	ヨーロッパ中世／ルネサンス／宗教改革／近代哲学／近代科学
【テキストの内容及びアドバイス】	**【テキスト履修】** 第１章　ヨーロッパ世界の成立 　ゲルマン民族、キリスト教、封建社会、中世の文化など 　→ヨーロッパ世界の形成に際しての重要な要因を理解する。 第２章　ルネサンス 　イタリア、東方貿易、人文主義、万能の天才など 　→ルネサンスの歴史的位置づけを理解する。 第３章　宗教改革 　ルター、カルヴァン、イギリス国教会など 　→宗教改革が現代社会に及ぼしている影響について理解する。 第４章　近代市民社会の思想 　デカルト、ホッブス、ロックなど 　→西欧社会の基盤となっている「契約」という概念を理解する。 第５章　西欧近代科学 　古代ギリシャの科学、科学革命、ケプラー、キリスト教など 　→近代科学が１６・１７世紀においてある一定の価値観・世界観のもとで成立したことを理解する。 **【スクーリング履修（インターネット授業）】** テキストの内容に沿って、西洋文明の形成から説き起こし、その特質を検討していく。現代では、世界の隅々まで西洋文明が浸透しているが、西洋文明のパワーの秘密はその成立期である近代という時代にあると思わる。特に、１６、１７世紀の科学革命の成果によって、西欧列強は他の世界に対する支配権を確立した。この時代に焦点を当てることによって、現代の政治や経済、そして、科学が持っている価値観を掘り起こすことができる。歴史的な話が中心となるが、年代の暗記ではなく、歴史的事象の因果関係を理解することが先決である。
【使用教材】	■テキスト：大東俊一『西洋文化論』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. ヨーロッパ世界の成り立ちを説明することができる。 2. 西洋文化の特徴的な要素を挙げて、説明することができる。 3. １６、１７世紀の西欧で起こった諸現象が、現代にまで及ぼしている影響について説明することができる。 4. 近代市民社会の成立において、重要な役割を果たした思想について説明することができる。 5. 近代科学の成立に際して、重要な役割を果たした要因について説明することができる。
【評価基準】	**テキスト履修】** 　科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 **【スクーリング履修（インターネット授業）】** 　インターネット授業の最終リポートで６０点以上を合格とする。
【スクーリングにおける事前学修】	テキストの目次に目を通し、学修の方向性について確認すること、および、自分にとって未知の領域がある場合には、テキスト中の必要な章を通読しておくこと。
【スクーリングでの講義内容】	学修内容 / キーワード（重要語句） １時限：ヨーロッパとは何か――地理的概念、文化的概念 / ゲルマン民族、キリスト教 ２時限：中世からルネサンスへ――中世の社会と文化、キリスト教の自然観・人間観、ルネサンス / 封建制度、ローマ・カトリック教会、旧約聖書創世記、人文主義

	３時限	宗教改革 ――ルター・カルヴァン	万人司祭主義、救霊予定説
	４時限	近代市民社会の思想 ――デカルト、ホッブス、ロック	理性的人間観、合理主義、社会契約説
	５時限	西欧近代科学（1） ――古代ギリシャの科学、アリストテレスの宇宙像	自然観察、原子論、物体の運動、天動説
	６時限	西欧近代科学（2） ――近代科学を準備したもの、近代科学の推進理念	ケプラー、古代ギリシャ人の精神的態度、キリスト教の思想
	※各時限の講義内容は変更になる場合があります。		

科目名	**日本文化論**
担当教員	中山和久
科目コード	２５０４Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	「日本文化」とは何か。文化の概念の成立の歴史的背景を念頭におきつつ、日本における伝統の形成とその変容、現代の日本文化の状況などについて考察する。「日本文化」を自明のものとしてとらえるのではなく、「外から眺めた日本」という視点をもとり入れ、グローバルな世界における自己の語り方について考える。
【キーワード】	日本／文化／伝統／現代／世界
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　テキストは、「文化」の変容を歴史的経緯に沿って書いたものではないので、読みづらいかもしれません。本章では「日本文化」の概念の形成について、また「日本文化」が語られるときの言説的特徴について論じています。「日本文化」といわれるものが一元的、固定的、実体的なものではないことを考えるきっかけになればと思います。 **第２章**　私たちが通常「日本文化」と呼んでいるもの、とりわけ「日本的美意識」とされるものが、どのような歴史的背景から生みだされたのか、そして「伝統」がどのように形成されていったのかを、平安から江戸に至る和歌の歴史を通観しながら紹介します。とりわけ、日本における自然観の特徴について考えます。 **第３章**　江戸期以降に栄えた俳句というジャンルを中心に、文学の世界性という問題について考察します。俳句を英訳するとどうなるか、また英語で俳句を読んだときに生まれる新しい解釈の可能性などについて、具体的に作品を読み解きながら検証します。 **第４章**　日本における「近代」の意味について考え、さらに、1980 年代以降さかんに使われるようになった「ポストモダン」という用語が、どのような歴史的状況を指しているかについて簡単にまとめています。グローバリゼーションと言われる世界的な動きの中で「文化」の意味を問い直すことの意味について、一人一人に考えていただきたいと思います。
【使用教材】	■テキスト：エリス俊子『日本文化論』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．「日本」「日本人」「日本文化」などの概念の成立背景を理解する。 ２．「日本文化」の土台となる伝統的美意識の歴史的形成過程についての基礎知識を得る。 ３．世界的視野に立ち、日本の文化を見直す視点を獲得する。 ４．現代日本文化の状況について考え、議論することができる。 ５．自明のものとして身につけている国民的、文化的、美的価値観に対して、より自覚的になる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**比較芸術論　～日本の美術～**
担当教員	大東俊一
科目コード	２５１４Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	２単位（テキスト履修：２単位）
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	美術作品は各時代や地域の文化の精髄である。日本の美術は、縄文時代は別として、弥生時代から現代に至るまで外来の美術の刺激を受けながら発展してきたが、その発展の歴史をたどりながら、日本の美術の特質とそれを生み出した日本文化の特質を考察する。
【キーワード】	彫刻／絵画／工芸／美術史
【テキストの内容及びアドバイス】	テキストの構成は時代順に以下のようになっていますが、日本の美術が外来の新しい様式をどのように摂取し、消化していったかということに注目しながら学習してください。 第１章　先史・古墳時代 第２章　飛鳥・奈良Ⅰ（白鳳）時代 第３章　奈良Ⅱ（白鳳・天平）時代 第４章　平安時代Ⅰ（前期） 第５章　平安時代Ⅱ（後期） 第６章　鎌倉・南北朝時代 第７章　室町時代 第８章　桃山・江戸Ⅰ（江戸初期）時代 第９章　江戸Ⅱ（江戸中・後期）時代 第10章　近代 第11章　現代Ⅰ 第12章　現代Ⅱ
【使用教材】	■テキスト：辻惟雄監修　増補新装カラー版『日本美術史』美術出版社、2003 年初版。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 各時代の美術の全般的な特徴を説明できる。 2. 各時代の代表的な作品について説明できる。 3. 外来の様式の摂取・消化について説明できる。 4. 美術作品を鑑賞する楽しさが理解できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**日本仏教の世界**
担当教員	中山和久
科目コード	２５１６Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	仏教伝来から平安時代の浄土教の発達までの、日本古代仏教の実態について学ぶ。
【キーワード】	聖徳太子／行基／最澄／空海／『日本霊異記』
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　仏教伝来の年次と仏教受容の可否をめぐる豪族間の対立を理解する。 **第２章**　聖徳太子の仏教信仰を理解する **第３章**　笠朝臣麻呂の生涯と仏教信仰を理解する **第４章**　国分寺の創建と盧舎那仏の造立に関する史料を理解する **第５章**　行基と律令国家との関係の変化を理解する **第６章**　最澄と空海の生涯と思想を理解する **第７章**　『日本霊異記』の編者と編集の目的について理解する **第８章**　『日本霊異記』所収の蘇生説話を理解する **第９章**　空也と源信について理解する **第 10 章**　古代の神仏習合思想を理解する
【使用教材】	■テキスト：宇佐美正利『日本仏教の世界』（本学オリジナルテキスト） ■参考書：速水侑『日本仏教史古代』芳川弘文館 末木文美士『日本仏教史』新潮文庫
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．日本に仏教が伝わった経緯を説明できる。 ２．行基と律令国家の関係の変化を説明できる ３．最澄と空海の思想・教義の違いを説明できる。 ４．『日本霊異記』の内容について説明できる。 ５．日本における浄土教の発展について説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**宗教人類学**
担当教員	中山和久
科目コード	２５１７Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	宗教には、人間のさまざまな活動をよりのびやかに発展させる面と、様々な制約を課す面との、両方の側面がある。本科目ではそのような特徴を踏まえたうえで、人間のこころ・からだ・文化の視点から、宗教とそれに関わる諸事象について学び、理解することを目標とする。
【キーワード】	宗教／文化／心理／人類学／身体
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　アニミズム 第２章　中国人の宗教 第３章　ヒンドゥー教 第４章　仏教 第５章　キリスト教 第６章　イスラーム 第７章　生きる 第８章　祝う 第９章　祀る 第 10 章　呪う 第 11 章　病む 第 12 章　語る 第 13 章　分ける 第 14 章　魅する 第 15 章　抗する
【使用教材】	■テキスト：『宗教人類学入門』関一敏／大塚和夫編　弘文堂　2004 年
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．主な世界宗教について説明できる ２．世界の動向のなかで宗教が果たす役割について説明できる ３．日本社会の中での宗教的動向について理解できる ４．宗教的文化が、こころやからだに与えている影響について説明できる ５．人類学的手法の有効性について理解できる
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**人間観**
担当教員	大東俊一
科目コード	２５２０Ｔ
科目区分	文化・社会の理解
単位数	２単位（テキスト履修：２単位）
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	医療や環境に関する問題をはじめとする現代的諸問題を突き詰めていくと、結局のところ、「人間とは何か」という問題に行き着く。本講では、古今東西の思想や宗教の知恵を動員し、この問いを考える際に必要な基本的な視点を提供し、解答を探求するいくつかの道筋を示すことを目標とする。
【キーワード】	西洋哲学／キリスト教／仏教／儒教／日本思想
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　古代ギリシャの人間観…ソクラテス、プラトン、アリストテレスなど 第２章　キリスト教の人間観……旧約聖書、新約聖書など 第３章　ルネサンスの人間観……人文主義、万能の天才など 第４章　近代哲学の人間観……デカルト、パスカル、ホッブズ、ロックなど 第５章　現代哲学の人間観……ベルクソン、キルケゴール、ハイデガーなど 第６章　仏教の人間観……ブッダの教え、初期仏教の思想など 第７章　儒教の人間観……孔子、孟子、荀子など 第８章　日本古来の人間観……天台本覚思想、草木成仏、神観念など 〈アドバイス〉代表的な思想家や宗教の人間観を、中心的な概念・キーワードを手がかりとして、その概要を把握していってください。
【使用教材】	■テキスト：大東俊一『人間観』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 西欧における伝統的な人間観について、いくつかの類型を挙げて説明することができる。 2. 仏教の人間観について説明することができる。 3. 儒教の人間観について説明することができる。 4. 日本古来の人間観について説明することができる。 5. さまざまな人間観を比較し、その違いについて論じることができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**地域の福祉**
担当教員	松木悠紀雄
科目コード	２５２６Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：４単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	現代の社会保障と社会福祉の概念と制度について公衆衛生看護の視点に立って学ぶ。医療職にとってクライアントの利用できる社会資源について学ぶことは必須であり、生活保護や年金・保険制度はだれにとっても基本的な事項である。これらを具体的に理解し、さらに地域の福祉や障害者の福祉にも触れて学修することにより、社会制度に対する一層の視野の拡大を図ることができる。
【キーワード】	社会保障／社会福祉／地域福祉／社会保険／生活保護／障害福祉
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　現代社会と社会福祉・社会保障** 社会における社会福祉と社会保障の意味について学ぶ。 **第２章　暮らしと社会福祉・社会保障** わが国における社会保障や社会福祉の歴史と動向、世界の動向などについて学ぶ。 **第３章　福祉の実践、資源の活用** 社会福祉の実践や社会資源の活用などについて学ぶ。 **第４章　ライフサイクルと社会福祉** 子どもや家庭の福祉、障害者と福祉、高齢者と福祉などライフサイクルに応じた福祉について学ぶ。 **第５章　生活保護** 生活保護とそれによる生活保障の範囲を学ぶ。 **第６章　地域福祉** 地域福祉とは何か、その推進と実施の体制について学ぶ。 **第７章　社会保障（社会保険）制度** 年金制度、医療保険制度、介護保険制度、雇用保険制度について学ぶ。 **第８章　生活と福祉** 生涯と地域生活、介助とＮＰＯの設置などについて学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：増田雅暢、島田美喜編、健康支援と社会保障―社会福祉と社会保障、メディカ出版（2010 年） ■参考書：国民の福祉の動向 2011／2012 年版、厚生統計協会（毎月 9 月下旬発行）鬼﨑信好編、コメディカルのための社会福祉概論、講談社サイエンティフィク（2012 年）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．時代により変遷のあった社会保障と社会福祉の概念と関わりについて説明できる。 ２．社会資源の種類と範囲について説明できる。 ３．ライフサイクルに見合う福祉、および地域福祉の内容について説明できる。 ４．生活保護や障害者の福祉の制度について説明できる。 ５．年金や医療・介護・雇用保険の制度について説明できる。
【評価基準】	【テキスト履修】 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**高齢社会と福祉・医療　～高齢者の生活・健康・ケア～**
担当教員	柴田博
科目コード	２５４９Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	４単位（テキスト履修：４単位）
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	人間の加齢変化を、身体面、心理面、社会的側面から学び、高齢者への理解と自らの人生設計に役立てるようにする。 同時に、高齢社会をより良く営むための知恵を身につけ、社会の自助、共助、公助の概念と実践方法を学ぶ。 生活機能の自立した高齢者、要支援の高齢者・障害高齢者に合わせたヘルスプロモーションのノウハウを学ぶ。 そして、それを助ける医療および介護の制度と活用の仕方を学ぶ。
【キーワード】	老年学／加齢変化／ウェル・ビーイング／自立と共生／社会システム／心身健康科学
【テキストの内容及びアドバイス】	高齢者の8 割は自立しており、他の高齢者やより若い世代をサポートする能力をもっている。社会貢献をしている高齢者の余命は延び生活の質も高まる。 第１章　幸せな高齢者の基盤　ウェル・ビーイング ウェル・ビーイングの条件として長寿、高い生活の質、社会貢献がある。生活の質には、精神的なものもふくまれる。社会貢献には有償労働もボランティア活動もふくまれる。加齢により人間の人格や能力が向上していくことも多い。 第２章　身体編 加齢にともない自立能力である生活機能（＝健康）が低下していくのがふつうである。病気の予防も余命を延ばすことのみでなく健康余命を延ばす立場から考慮されるべきである。 第３章　心理編 加齢により生涯発達していく側面もある。高齢者の感覚、認知、心理とその病的状態についても学ぶ。 第４章　コミュニケーション編 コミュニケーションの基本能力、コミュニケーションの意義とスキルについて学ぶ。 第５章　健康管理と疾病予防編 高齢期の食生活と栄養、運動と生涯体育、休養の意義の方法について学ぶ。ヘルスチェックについても述べる。 第６章　生活編 おしゃれ・化粧、食べる楽しみ、住まいの工夫、マネープラン、保険などについて学ぶ。 第７章　生活交流編 孤立化を防ぎ、社会とコミュニケートすることの意義とスキルを学ぶ。 第８章　地域活性化と新しいビジネス編 地域デビューと地域に根差した新しいビジネスの創出と活用法を学ぶ。 第９章　介護予防編 要介護状態になることを予防するための一次・二次・三次予防の立場から学ぶ。 第10章　介護と介護保険制度の仕組み編 要介護・要支援の人々のための制度と活用の仕方を学ぶ。 第11章　高齢社会と公的医療保険制度編 医療保険について総合的に学ぶ。 第12章　暮らしの安全・安心編 高齢者への尊厳を尊び、危機や虐待から身を守る術（すべ）を学ぶ。
【使用教材】	■テキスト履修：　特定非営利活動法人　生活・福祉環境づくり21・日本応用老年学会共編著：高齢社会の「生・活（いきいき）」事典、社会保険出版社、2011 年 ■参考図書：柴田博：中高年健康常識を疑う、講談社、2003 年
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 高齢社会が如何なる社会かを学ぶことができる。 2. 高齢社会における自立と共生、とくに高齢者の社会貢献の意義について学ぶことができる。 3. 高齢者の生活機能障害および疾病予防のノウハウについて学ぶことができる。 4. 高齢者が生活をエンジョイし他世代や地域社会と生き・活いき交流することの意義と条件について学ぶことができる。

	5. 高齢者に加えられるさまざまな危害を予防するためのスキルを学ぶことができる。 6. 障害や疾病に陥ったときに活用すべき介護保険・医療保険制度について学ぶことができる。
【評価基準】	**【テキスト履修】** 科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。

科目名	**医療職と生涯学習**
担当教員	宮子あずさ
科目コード	2535T
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	A
【教育目標】	皆さんはどのようないきさつから大学通信教育で学び始めたのでしょうか？大学通信教育は、敗戦後間もなく法政大学で設置が検討され、1947（昭和 22）年に正式に開設されたのが初めです。近年では、大学を社会に開放する有効な方法として設置する大学が増加しています。大学で学びたい医療職にとっては、フルタイムで働きながら学べる数少ない方法として、その生涯教育に大きな役割を果たしてきました。この科目を通して、大学通信教育で学ぶことの積極的な意味を見出し、学習を深める方法を考えていただければと思います。
【キーワード】	生涯学習の意義／看護基礎教育の変化／自分の学習歴を振り返る／学習の方法
【テキストの内容及びアドバイス】	■テキスト：『気持のいい看護！』（宮子あずさ著、医学書院） 私自身看護職として働きながら、短期大学、大学、大学院修士課程と通信教育で学んで来ました。テキストは、看護・医療がかかえる問題についての現場からの論考です。医療職として生きること、学び、働くことの意味について深く考えるきっかけにしていただければ幸いです。 参考書：『ラーニング・アロン通信教育のメディア学』（佐藤卓己・井上義和編、新曜社） 大学通信教育をはじめ、通信教育の歴史を深く学べる好著。読んでいただくと、大学通信教育の意義と歴史が概観できます。
【使用教材】	■テキスト：宮子あずさ『気持のいい看護！』医学書院、リーディングガイド ■参考書：佐藤卓己・井上義和編『ラーニング・アロン通信教育のメディア学』新曜社
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	この科目では、看護や理学療法など、医療にかかわる仕事についている皆さんが大学通信教育で学ぶことの意義を改めて考え直し、本学での学びへの意欲を高めていただきたいと考えています。具体的な目標としては、以下の通りです。 1. 医療職が学ぶ意味を考える 2. 文献の読み方を深める
【評価基準】	1. 科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。 2. 記述部分は、自分の言葉で自由に記述してください。

科目名	**伝承医学**
担当教員	久住武　　矢野忠
科目コード	２５３６Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	２単位（テキスト履修：２単位）
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	世界および日本の伝統医学における生命の捉え方、身体の捉え方を学修することによって現代科学、現代医療の問題点を把握し、人間理解の視点を養う。併せて21世紀における医学・医療の方向性についても理解できるようにする。
【キーワード】	伝承医学／伝統医学／日本の医学／補完代替医療／中国伝統医学
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　本章では、世界の伝統医学の特色とその視点について学修する。それらのことを通して医療の在り方を考える視点を養う。第1章の「学習のねらい」を参照 **第２章**　本章では、日本の医療史として日本医学の変遷の概略を学修する。それらのことを通して現代医学と日本の伝統医学との関係について理解し、日本の伝統医学の役割について学修する。第2章の「学習のねらい」を参照 **第３章**　本章では、日本の伝統医学の根本である中国伝統医学の科学思想と生命観の基本事項を学修する。それらのことを通して現代科学と異なる思想と視点を理解する。第3章の「学習のねらい」を参照 **第４章**　本章では、伝統医学の基本的な医学思想とその基盤に立つ養生論の目的・内容を学修する。それらのことを通して健康医学・人間科学の視点を養う。第4章の「学習のねらい」を参照 **第５章**　本章では、日本の伝統医学の一翼を担う鍼灸医学の基本的事項について学修する。それらのことを通して鍼灸医学の診察・治療法の特色を理解し、身体について考える視点を養う。第5章の「学習のねらい」を参照 **第６章**　本章では、補完代替医療の種類、内容について学修する。それらのことを通して健康・予防医学、未病医学の重要性と21世紀における医療の在り方について考える。第6章の「学習のねらい」を参照 **第７章**　本章では、特に鍼灸医学の科学的研究の概略と現状について学修する。それらのことを通して鍼灸医学の科学性・客観性について理解するとともに体表の意義についても学ぶ。第7章の「学習のねらい」を参照
【使用教材】	■テキスト：矢野忠／久住武『伝承医学』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 世界の主要な伝統医学の名称と特色について説明できる。 2. 日本医学上の主要人物と医学史的な業績について説明できるとともに日本医学の特色について理解できる。 3. 中国伝統医学の科学思想と医学思想および伝統医学の養生論の特色について説明できるとともに健康予防医学、未病医学としての養生の意義について理解できる。 4. 伝統医学の身体論の特色について説明できる。 5. 日本の伝統医学の診療法・治療法の概略について理解できる。 6. 主要な補完代替医療の概略について説明できるとともに21世紀における現代医学と補完代替医療との関係について理解できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**現代の養生訓**
担当教員	久住武
科目コード	２５３７Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	スクーリング履修：－単位　　テキスト履修：２単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	人間が人間らしく豊かに生きるためには、人生を楽しみ健康であることが大切である。日本では約３００年前、『養生訓』という書物が出版された。ここには人生（老い）を健康で楽しく過ごす、という思想が息づいている。そこで、この科目では貝原益軒の『養生訓』を題材として取り上げ、心身相関に基づいた「養生」という思想を学び、現代における健康観や人生観、食生活、医薬との関わり方などについて考えていく。そして過去の知恵を現代に生かし、自分の問題として捉えて実践し、少子高齢社会をいかに快適に生きることができるかを考える。
【キーワード】	心身相関／畏れ（畏敬の念）／こころの養生／からだの養生／食の養生／よりよく生きるための知恵
【テキストの内容及びアドバイス】	近年ますます評価の高まる『養生訓』を題材にして、「人生を楽しむ」や「老いにいたりて娯（たのしみ）を増す」というキーワードから貝原益軒の人生観をみていく。また、益軒の根底にある人間愛や自然愛から「慎む」こと、「惜しむ」こと、「畏れ（畏敬の念）る」ことの大切さを学び、現代社会に生きる私達のあり方を考えていく。「心は楽しむべし」と益軒がいうように養生には「こころ」の養生もあり、「からだ」の養生、「食」の養生を含めて考えていく。 　前半は「心身相関」をベースに持つ「養生」の持つ意味を概観しながら、東洋の健康観・倫理観を学ぶ。また、それが生み出された思想的背景や時代的背景、江戸時代を中心とした日本の医療文化、当時の庶民の生活と疾病観・死生観についても概観し、なぜ今、「養生」が必要なのかを考えていく。後半は、「養生訓」の思想を現代社会に生きる私達に応用し、人生をよりよく生きるための具体的・実践的方法論をみていく。食生活をはじめとする生活習慣のあり方、医薬との関わり方、高齢者の「こころ」と「からだ」の健康について考えていく。
【使用教材】	■テキスト：久住武『現代の養生訓』（本学オリジナルテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	心身相関に基づいた「養生」という思想を学び、現代における健康観や人生観、食生活、医薬との関わり方などについて具体的・実践的方法論を交えながら自分の考えを述べることができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	テキストには、『養生訓』から主要箇所を引用し解説をつけているが、『養生訓』は原文も現代語訳も複数の出版社から刊行されているので、興味のある人は全体像を把握するため是非読んでみてほしい。

科目名	**食べもの学**
担当教員	桑田有
科目コード	２５３８Ｔ／２５４４Ｓ
科目区分	文化・社会の理解
単位数	５単位（テキスト履修：４単位／スクーリング履修：１単位）
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	「食べもの学」ではヒトの健康維持、増進、発育、病気の予防における食べることの意味をよく理解し、「食べもの」を食品学としてのみ捉えず、社会の視点、自立した消費者の立場、人間栄養学、さらには「心」を育てる「場」としての食事に関するすべての行為（食品の選択と購入、食材の組み合わせ、調理、盛り合わせ、家族での談話など）「食べること」のプロセス全体を考える。それらを正しく理解するために、ヒトの健康、主食、主菜、代表的な副菜、おいしさ、食育など含めて幅広く学びます。
【キーワード】	栄養問題／栄養評価／健康評価／生活習慣病／生体生理／食物アレルギー／生体リズム／食事パターン／食行動／おいしさ／食生活デザイン／食育／食物連鎖
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　社会の視点から食べることを考える。この章では健康、栄養問題の歴史的変遷、少子高齢化社会の現状と対策、生活の質（QOL）の概念について学習する。 第２章　人間栄養学の視点から食べることを考える。この章では「健康、栄養評価」、生活習慣病の予防、特殊な条件下での食事の設計について学習する。 第３章　食事管理の視点から食べることを考える。この章では時間栄養学、食事パターン、主要な食材の特性、食事バランスなどを学習する。 第４章　食行動の視点から食べることを考える。この章では食べ物のおいしさの評価法、食行動の理解を深め、食育の考え方を学習する。
【使用教材】	■テキスト：池本真二、稲山貴代編著『食事と健康の科学』建帛社、リーディングガイド ■参考書：森田潤司編著『食品学総論』樹村房　2008 年４月、砂田登志子著『今こそ食育を！』法研　2003 年５月
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 食べ物のヒトの健康、栄養問題に関する知識を習得する。 2. 生活習慣病の予防に対する食事、栄養、ライフスタイルの在り方を習得する。 3. 食事管理全般を理解し、食行動に反映でき、一般社会へ普及できる力を養成する。
【評価基準】	**【テキスト履修】** 科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**地球の環境問題**
担当教員	苅部ひとみ
科目コード	２５４１Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：４単位　　スクーリング履修：
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	1. 地球環境問題の基本的事項を理解する 2. 地球上の資源には限界があることを理解し、廃棄物とそのリサイクルについて学ぶ 3. 人類は英知を絞って地球環境を守り、種を保持する義務があることを学ぶ
【キーワード】	地球環境問題／公害／環境ホルモン／廃棄物／リサイクル
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１部**　地球環境問題と人間の生活についてまとめられている。公害の歴史、途上国の環境問題、地球環境の劣化、人間としての種の保存義務について理解を深めてほしい。 **第２部**　地球の資源には限界があることがまとめられている。廃棄物とそのリサイクル、限りある資源の有効活用について学んで欲しい。 **総括**　　得られた知識を、ぜひ、日常生活に生かして欲しい。
【使用教材】	■テキスト：『地球環境問題とリサイクル』（東京教学社）、リーディングガイド ■参考書：『住まいと環境』（本学オリジナルテキスト）、公害と環境問題（同）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 地球環境問題の基本的事項について説明できる。 2. 地球の資源には限りがあることを理解できる。また、資源の有効活用について説明できる。 3. 現在に生きる人類は、地球環境を守り、種を保持する義務のあることを理解できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**異文化コミュニケーション**
担当教員	大東俊一
科目コード	２５４２Ｔ
科目区分	文化・社会の理解
単位数	４単位（テキスト履修：４単位）
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	本講議では、多文化主義（multiculturalism）をキーワードに、コミュニケーションが行われている場を中心に考えた上で、異文化コミュニケーションの問題をグローバルな視点から考えていきたい。なお、各回の最後にある設問を考察する事が求められる。
【キーワード】	異文化／コミュニケーション／多文化主義／グローバリゼーション／適応
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　はじめに（コラムの概観） 第２章　空間・時間・異文化コミュニケーション 第３章　異文化コミュニケーターとしての通訳者 第４章　異文化コミュニケーションと誤解の接点 第５章　異文化コミュニケーションにおける言語選択 第６章　「地球都市」という概念とコミュニケーション 第７章　マスメディア、コマーシャルと異文化コミュニケーション 第８章　障がい者、高齢者とのコミュニケーションの観点から 第９章　女性と異文化適応 第10章　おわりに（用語の復習）
【使用教材】	■テキスト:『多文化社会と異文化コミュニケーション』伊佐雅子監修　三修　2002 年
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. グローバル化した現代社会を理解する。 2. 異文化コミュニケーションに関する学説や常識を理解し、実際のコミュニケーションに役立てる。 3. 問題解決に向けてリサーチ出来る能力を養う。 4. 他国の文化との比較をする事で、自国の文化に対する新たな側面を発見する。 5. 新しい視点を得ることによって、常識を疑う力を養う。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**法　学（日本国憲法）**
担当教員	上本昌昭
科目コード	２５４５Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	日本国憲法を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか？憲法を学ぶ（学問する）とは、「国のかたち」について考えることを意味します。「統治の仕組み」、「国政運営上の基本原理」、「国として尊重する価値」などから日本国はかたちづくられていますが、これらは日本国憲法という法によって具現化されています。したがって、日本国憲法を学ぶとは、「日本国のかたち」について「法」を通して考えることだといえるでしょう。この科目を通じて「日本国のかたち」への理解を深めます。
【キーワード】	立憲主義／民主主義／統治機構／人権保障／法の支配／自由・平等
【テキストの内容及びアドバイス】	**第 1 章**　国家・憲法（憲法、国家、立憲主義、憲法秩序、憲法典） 憲法の概念、立憲民主主義、憲法典の意味を理解する。 **第２章**　日本憲法略史（明治憲法、明治憲法の運営、現行憲法の成立、現行憲法成立以後） 明治憲法（大日本帝国憲法）から日本国憲法への歴史を認識する。 **第 3 章**　日本国憲法の基本性格（民定憲法性、最高法規性、憲法改正と国法の諸形式） 国民主権および最高法規性、憲法改正を理解する。 **第 4 章**　日本国憲法の基本目標（自由の確保、戦争の放棄、国際協和） 自由主義的民主制、戦争放棄と武力不行使、平和主義を理解する。 **第 5 章**　国民の権利および義務（総説、権利保障の法的効果、包括的人権、法の下の平等、自由権、国務請求権、参政権、国民の義務） 幸福追求権、生存権、精神的自由権、経済的自由権、教育を受ける権利、労働基本権などの重要な判例については、理解を深めておく必要がある。 **第 6 章**　天皇（総説、皇位の継承、天皇の権能、皇室経済） 国家的象徴、皇位継承、国事行為、皇室経済を理解する。 **第 7 章**　国会（総説、構成と組織、権能、議院の権能、権能行使の態様） 国会の分野は、憲法の条文を正しく理解する必要がある。 **第 8 章**　内閣（総説、組織、権能、権能行使の態様、議院内閣制） 内閣の権能と総理大臣の権能、内閣の総辞職など条文知識が重要である。 **第 9 章**　裁判所（司法組織、司法権の独立、権能、活動法） 司法権について、条文と判例の知識が重要である。違憲審査権および裁判官の身分保障などを理解する。 **第 10 章**　財政（財政民主主義、財政決定への制約、財務統制制度の態様） 財政は、財政民主主義、租税法律主義の条文知識が重要である。 **第 11 章**　地方自治（総説、地方公共団体の権能、地方公共団体の組織） 地方自治は、地方自治の本旨、団体の長および議会議員の機能について理解する。
【使用教材】	■テキスト：小嶋和司／大石眞『憲法概観（第 7 版)』有斐閣双書、リーディングガイド
【学生が達成すべき目標（行動目標として)】	〈到達目標〉 日本国憲法の意義や成立過程について理解し、国民主権、平和主義、人権保障、法の支配、三権分立など、日本国憲法の基本原理や基礎的概念を説明できるようになる。 それをふまえ、身近な問題や課題を、日本国憲法に関連づけて理解し、自らの考えを述べることができるようになる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**地球と生命の誕生**
担当教員	川上紳一
科目コード	２５４６Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	いま地球温暖化、水資源やエネルギー資源の枯渇、生物多様性保全など、私たち現代人には大きな課題が山積している。また、原子力発電所事故による放射能汚染は、こうした問題に人類が長期的に関わらざるを得ないことを浮き彫りにした。こうした課題に直面したとき、私たち人類は何者か、どこから来て、どこへ向かっているのかについて長期的な時間スケールのなかで考え、問題の本質を深く理解するための基礎が必要となる。この科目では、地球と生命の誕生と進化を地球が誕生した 46 億年前までさかのぼり、これまでに地球が経験した出来事に照らして現在地球で起こっているさまざまな事象を分析できるようになることを目標としている。そのためには、地球科学における基本的概念や知識について学ぶ必要がある。
【キーワード】	地球・生命の起源／地球環境問題／地球史／生物進化／地球システム
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　新しい地球観 第２章　地球のしくみ 第３章　太陽系の中の地球 第４章　地球の形成・生命の誕生 第５章　大陸地殻のはじまり 第６章　光合成のはじまりと超大陸の形成 第７章　原生代後期の地球変動 第８章　多細胞動物の出現事件 第９章　古生代末の生物大量絶滅事件 第 10 章　恐竜の時代から人類の時代へ
【使用教材】	■テキスト：川上紳一・東條文治著『図解入門・最新地球史がよくわかる本（第 2 版)』秀和システム
【学生が達成すべき目標(行動目標として)】	１．地球や惑星がどのようにして誕生したのかについて説明ができる。 ２．地球の誕生から現在までに起った重要な出来事について説明ができる。 ３．火星や金星と比較して、地球の特異性がどのようなものであるか説明ができる。 ４．地球環境問題について、地球と生命のたどった歴史から分析し、解決にむけて行動ができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**いのちの文化人類学**
担当教員	波平恵美子
科目コード	２５４７Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	本科目は、人間総合科学における文化・社会の側面から「いのち」について学ぶ重要な科目である。「いのち」について多様な考え方が存在していること、私たちが生きているこの日本にも、かつては、現在とは異なる「いのち」観があったことを理解し、そのような多様性や変化が、どのような要因によって形成されたかを学ぶ。さらに、「いのち」を一般的な意味よりはるかに広くとらえることによって、生きること、死ぬこと、個人と個人が所属する社会が存在することの意味がこれまでとは違って見えたりより深く理解できる方法としての文化人類学の考え方を学ぶ。
【キーワード】	いのち／生と死／医療／文化人類学
【テキストの内容及びアドバイス】	Ⅰ部：「人の誕生と生育」では、子が生まれ育つことが、子を産む女性とその女性の性的パートナーである男性（多くは夫と妻）との安定した持続的人間関係を必要としていること、また、新たに生まれてくる子にいのちの連続を見る認識があることを理解する。 Ⅱ部：「病いと癒し」では、病気や治療がその社会その時代の社会・経済・文化の総合的なあり様を反映しており、それは病気観や治療に現れることを理解する。 Ⅲ部：「死と再生」では個人の死がもたらす周囲への影響とそれに対応するために様々な手段があることを知り、生と死の意味を再考する手掛りについて考える。
【使用教材】	■テキスト：波平恵美子『いのちの文化人類学』新潮選書 ■参考書：
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 多様な「いのち」観があることを、具体的な例を挙げて説明できる。 2. 医療の具体的なあり様は、それぞれの社会それぞれの時代の経済・技術・社会制度そして「いのち」についての考え方の総合的な表出であることを、具体的な例を挙げて説明できる。 3. 生と死とは、全く異なる現象のようでいて、多くの社会でそれがリンクするものと考えていることについて説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**教育学概論**
担当教員	田村美由紀
科目コード	２５４８Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	人間はなぜ学び（教育）という営みをするのか、子供の成長・発達や文化の成熟と教育がどのような関係を持ち合わせているのか。教育の歴史を踏まえながら多様な教育観を相互に検討する。現在わが国における教育および教育学上の課題をも検討し、教育を直接に担う主導者としての「児童・生徒観」「教育観」の確立を目指していく。また、社会の変化に対応した教育の今日的課題を多角的な視点から理解し、吟味し、教育の再構築へ向けての基本的視座、思考力を養う。
【キーワード】	適時性と臨界期／ポリス的動物／学問のすすめ／教育基本法／リカレント教育
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　教育の基本原理** 教育の本質、必要性、意味、役割、目的を考察します １．なぜ人間には教育が必要なのか ２．教育の意味 ３．教育の役割 ４．境域の目的 **第２章　ヨーロッパにおける教育の理念と歴史** 古代から現代にわたる、ヨーロッパの教育の理念と歴史をまとめます １．古代から中世までのヨーロッパの教育理念 ２．ルネサンスと宗教改革 ３．近代ヨーロッパの教育理念 ４．20 世紀の教育学 **第３章　日本における教育の理念と歴史** 古代から現代にわたる、日本の教育観と教育制度についてまとめます １．古代から近世までの日本の教育観 ２．明治の日本の教育観と教育制度 ３．大正から終戦までの日本の教育観と教育制度 ４．戦後日本の教育観と教育制度 **第４章　教育方法の基礎理論** 教育の内容（教育内容と教育課程)、そして教育方法について理解します。 １．教育方法論の基礎原理と歴史 ２．教育課程論の基礎原理と歴史 ３．教育実践の諸相 ４．教育技術の諸相 **第５章　現代教育での展開** 教育制度、教育関係法規、生涯学習について理解します １．公教育について ２．社会教育と生涯教育 ３．生涯教育から生涯学習へ ４．わが国での生涯学習政策
【受講条件】	「教職課程科目」や「教育心理学（学習と発達)」を履修済みであることが望ましい。
【使用教材】	■テキスト：相澤伸幸『教育学の基礎と展開』第２版　ナカニシヤ出版 ■参考書：教育六法（三省堂)，氏家重信『教育学事始め』北大路書房,『学習指導要領』文部科学省
【学生が達成すべき目標（行動目標として)】	１．教育の目的を説明できる。字句の解読もできる。 ２．教育思想家名とそれぞれの主張をコンパクトに整理しておきましょう。 ３．近代公教育のねらいはどこにあったか、そして現在の公教育とどうかかわっているか検討・議論をしてほしい。 ４．法制的な体系もまとめておきましょう。 ５．日本の教育（主に公教育）のすすむべき方向性を考えて下さい。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	☆養護教諭養成コース登録の方 原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

科目名	**プレゼンテーション論**
担当教員	鍵谷方子
科目コード	２５５０Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：１単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	人類が築いてきた高度な文明の基礎の１つに言語をはじめとする様々な情報伝達手段の発展がある。プレゼンテーションは、そうした情報伝達の１つの形態である。本科目は、学会発表を題材にプレゼンテーションの基礎を学ぶ。テキストは、学部の卒業研究生、研究生、大学院生を対象に書かれているが、あなた自身の発表を聴衆に理解してもらうこと、あなたの成果の価値を認めてもらうために何を行う必要があるかを学ぶことで、仕事の成果報告やプロジェクト提案などにおいて必要とされる技術としても活用できる。これから学会発表をする学生のための入門講座としてだけでなく、職業人、社会人にとってのプレゼンテーション全般に役立つ基本的事項を学ぶ。
【キーワード】	学会、研究発表、プレゼン技術、ポスター発表、口頭発表
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１部　学会発表の前に知っておきたいこと** 第１～５章： 学会とは何か、学会に行く目的、学会発表とは何かなど、学会への参加、学会後にすべきことなど、学会発表の心構えや基本事項を理解する。 **第２部　発表内容の練り方** 第１章： 発表で主張したいことをどのように決めるのか、これまで取り組んできた研究テーマから主張する内容を決めることの重要性について学ぶ。 第２～６章： 説得力のある序論の作り方、演題の付け方、研究方法の説明、研究結果の説明、結論の示し方、講演要旨の書き方などを理解する。 **第３部　学会発表のプレゼン技術** 第１～２章：聴衆の理解に配慮した学会発表をするために留意すべきことについて理解する。 第３～４章：プレゼン技術の基本事項について学ぶ。すなわち、発表の流れ、情報量、説明の仕方について理解する。 第５～６「章： 読みやすく理解しやすいポスターの作り方、ポスター発表の仕方など、実際にポスター発表を行う際の心構え、技術、留意点について学ぶ。 第７～８章： 論理的にプレゼンするためのスライドの作り方とスライド作成、口頭発表の発表原稿の準備、時間配分、発表の仕方・話し方など、実際の口頭発表の心構え、技術、留意点について学ぶ。 第９章：質疑応答に際して、質問の意図をとらえ、質問者に的確かつ簡潔に答えるための方法を学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：酒井聡樹著『これから学会発表する若者のために』共立出版 ■参考書：酒井聡樹著『これから論文を書く若者のために』共立出版
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 発表内容を練る（つまり序論、研究方法、結果、結論の各パートで、簡潔に何を伝えるべきか）、プレゼンテーションの設計をすることができる。 2. プレゼン技術のポイントとなる、わかりやすいポスターやスライドを作ることができる。 3. 発表本番で、ポスターやスライドを使って研究内容を明確な論理展開で説明することができる。 4. 質疑応答の際に、質問者の意図を的確に理解し、簡潔に答えることができる。
【評価基準】	科目修了試験で６０点以上を合格とする。

科目名	**リーダーシップ論**
担当教員	諏訪茂樹
科目コード	２５５１Ｔ
科目区分	分野別科目－文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：１単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	本講義では、リーダーシップ論のこれまでの流れを理解したうえで、今日の一つの到達点である状況対応モデルを学習する。専門家集団では、スタッフを支配・統制するリーダーシップではなく、自立したスタッフを育てるリーダーシップが必要となる。そのために、相手の自立度に応じてティーチングとコーチングの使い分けながら、徐々に権限移譲していく方法を学ぶ。また、組織やチームのリーダーとしては、めまぐるしく変化する環境に柔軟に対応することも求められる。そこで、型にはまったリーダーシップではなく、様々なスタイルを各場面で使い分ける、しなやかなリーダーシップを学ぶ。
【キーワード】	類型論／特性論／状況対応論／ティーチング／コーチング／交流分析
【テキストの内容及びアドバイス】	［理論編］ **１.看護界におけるリーダー像の多様化（必読）** リーダーシップ、ヘッドシップ、マネジメント、暴君タイプ、縁の下の力持ちタイプ、機関車タイプ、カリスマ制、世襲制、民主制 **２.支配・統制するリーダーから育てるリーダーへ（必読）** 科学的管理主義、X-Y理論、ホーソン工場の実験、動機と労働意欲と生産性、レヴィンの作業実験、権威型、放任型、民主型、個人のパーソナリティとリーダーシップ **３.「これか、あれか」から「これも、あれも」へ（必読）** 類型論、特性論、マネジリアルグリッド、ＰM理論、フィードバック **４.発達対応モデル（必読）** シチュエーショナル・リーダーシップ・セオリー、自立に至る階段モデル、依存、半依存、半自立、自立、ティーチング、指示、助言、コーチング、支持、コーチングの限界、動機づけの強化法、コミュニケーション技法 **５．場面対応モデル（必読）** 交流分析、エゴグラム、危機対処時、会議時、通常時、遊びの時、組織内の人間関係、ソシオメトリー **６．ＬＰＣ論（必読）** **７．最新のリーダーシップ論（必読）** リーダーシップ・エンジン論、サーバント・リーダーシップ論、ピラミッド組織、逆さまのピラミッド、権限移譲、目標管理、コーチング
【使用教材】	■テキスト：諏訪茂樹著『看護にいかすリーダーシップ　第２版』医学院２０１１年 ■参考書：
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．これまでのリーダーシップ論の流れを理解することができる。 ２．自立・成長をサポートするリーダーシップについて理解することができる。 各場面に応じたリーダーシップについて理解することができる。
【評価基準】	科目修了試験で６０点以上を合格とする。

科目名	**地球・生命・文化の歴史**
担当教員	吉田浩子
科目コード	２５５２Ｔ
科目区分	分野別科目―文化・社会の理解
単位数	テキスト履修：４単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	宇宙が始まってから今日までの全歴史を振り返ってみましょう。137億年前に宇宙が始まり、地球が誕生し、その地球という惑星に生命が誕生、進化し、動物としてのヒトが生まれ、文明を築き、文字を発明し、今に至りました。この生命の連続線上にあなたが存在します。地球の歴史を振り返ることは、あなたの歴史を振り返ることでもあります。最新の知見を含む文系と理系が融合したこの137億年の物語を学ぶことで、地球上におけるヒトと他の生命のつながりを知り、人間とは何かを考え、人間の地球に対する責任について考察を深めることを目的とします。
【キーワード】	地球の歴史、生命の進化、人類進化、文明、地球環境
【テキストの内容及びアドバイス】	本書は、137 億年の歴史を 42 のテーマから振り返っています。それぞれのテーマは、「点」ではなく、有機的につながっています。地球にこれまでに起こった様々な事象が時系列で示されていますが、単なる科学的事実と歴史的事実の羅列ではなく、それが現在を生きる私たちにどのようにつながっているのか、豊富なイラストと写真とともにわかりやすく解説されています。地球上にこれまでに起こったその時々の様々な事象が、今を生きる私たちの在り方にそのままつながっていることを実感できるでしょう。興味のある章から読み始めても十分に面白い内容となっていますが、最終的には最初から最後まで、すなわち宇宙の誕生から現在までを続けて読破されることをお勧めします。わくわくと楽しみながら 137 億年を旅することは、そのまま現在の私たちを理解することであることが良くわかるでしょう。 第一部　母なる自然 宇宙のはじまりから哺乳類の誕生までの物語です。地球という惑星のシステムの中で、人類、すなわちあなたにつながる最古の生物が誕生しました。 第二部　ホモ・サピエンス 地球上の気候変動が、人類の誕生を促しました。多様な人類の中で、唯一ホモ・ピエンスだけが生き残り、農耕牧畜を開始したことで、初めて「進化」を自分の手で操作する動物となったのです。 第三部　文明の夜明け 文字の発明によって、「有史時代」が始まりました。様々な地域で生まれたそれぞれの文明の栄枯盛衰は、それぞれの地域の「今」と無関係ではありません。 第四部　グローバル化 様々な価値観を携えながら世界に広がった唯一種「ホモ・サピエンス」は、同種内で争いを繰り返しているだけでなく、動物や植物は栽培され、飼育され、装具をつけられ、輸送され、酷使されました。今や地球の未来そのものが人類の手の中にあるのかもしれません。その過程を振り返ることは、私たちの未来を考えることにほかなりません。
【使用教材】	■テキスト：137億年の物語　宇宙が始まってから今日までの全歴史 クリストファー・ロイド著　野中香方子訳　文芸春秋社　2012 年
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 宇宙と地球、生命の誕生の過程を理解する。 2. 地球上の生命進化の連続線上にヒトが存在することを理解する。 3. 生物としてのヒトが文明を築くに至った過程を理解する。 4. 人類が築いた各種文明の栄枯盛衰と現代のつながりを理解する。 5. 137 億年の歴史を振り返ることで、人間と地球の関わりについて考察できる。
【評価基準】	テキスト課題の提出と科目修了試験における 60 点以上を合格とする。テキストの内容を暗記する必要はない。地球の歴史を振り返り、その面白さを楽しみながら、過去を知ることで現在を考える、そのための知恵の獲得を目指して欲しい。

科目名	**卒業研究**
担当教員	専任教員及び一部兼任講師
科目コード	２６００Ｇ
科目区分	卒業研究
単位数	８単位（テキスト履修：４単位／スクーリング履修：４単位）
テキスト履修グループ	
【教育目標】	本学での学修の総決算として、学修を通して得た自らの気づきの中で、「こころ・からだ・文化」の３つの領域から、人間にまつわる諸問題を学際的・統合的な視点から探究していく能力を育成することを目的とする。
【キーワード】	人間総合科学／心身健康科学／学際性／統合性／客観性／主体性／課題発見／情報整理／Knowledge for well-being
【テキストの内容及びアドバイス】	卒業研究は自らが見出したテーマを「人間総合科学」の視点に立って合理的に追求し、結論を導き出していく創造的なプロセスである。テーマを追求するに際しては、従来の学問領域の枠組みを超えて、学際的・多角的なアプローチが望まれる。 この科目は自らの手で主体性を引き出し、育成する場であるが、同時に、指導教員による直接の指導を受けることのできる機会でもある。テーマ申請、研究プラン概要書提出、進捗状況連絡、草稿提出など、卒業研究報告書作成の節目における指導教員からの指導に加え、随時、指導教員と連絡を取るなどして、十分な指導を受け、柔軟に対応していくことが望ましい。 卒業研究報告書作成にあたっては『卒業研究履修の手引き』を熟読し、その内容について把握しておく必要がある。また教材として『卒業研究履修の手引き』とともに『運命を変える　心とからだの磨き方』（幻冬舎）が指定されている。私たちが、実際の生活の中でよりよく生きるために必要な科学的・合理的・統合的な見方・考え方、そして生き方のヒントがまとめられている。本学の提唱する心身健康科学は生活に活かされてこその学問である。「よりよく生きるための知恵(Knowledge for well-being)」の実践的なアドバイスとして利用してほしい。 論文執筆の基礎や文章を書くことに関して不安のある者は、「基礎科目」の「論文の書き方」をあらかじめ履修しておくとよいであろう。 なお、履修期間を通して原則として１回以上面接指導を受けること。
【使用教材】	卒業研究履修の手引き 久住眞理著『運命を変える　心とからだの磨き方』幻冬舎、２０１３
【学生が達成すべき目標(行動目標として)】	1. 「こころ・からだ・文化」の３つの視点から、総合的に問題を探求することができる。 2. 自ら課題・テーマを見つけることができる。 3. 課題・テーマにふさわしい研究方法を見つけることができる。 4. 研究方法に応じた論文の構成・スタイルを考案することができる。 5. 論文執筆の基本的なルール、倫理的要件などを理解することができる。 6. 課題・テーマを探求するにあたって、適切な文献・資料を使用することができる。 7. 探究の成果を、適切な文章で、客観的にまとめることができる。 8. 限られた時間の中で目標を定め、達成することができる。 9. 必要に応じて、適切な形で指導教員などに相談することができる。 10. 指導教員などからの指導を柔軟に受け入れることができる。 11. 自分の成長を実感することができる。 12. 人間総合科学大学の建学の精神、教育理念を理解することができる。 13. 現代人が、自己実現を成し遂げ、健康で幸せな人生を歩むために必要な科学的・合理的・統合的な考え方をすることができる。
【評価基準】	卒業研究報告書の諸要件を満たしているものを合格とする。 注）毎年、Web 上、および、会場にて卒業研究発表会を開催いたしますが、発表の有無は合否判定には影響しません。

科目名	**生涯学習特別講義　ネット授業１**
担当教員	大東俊一
科目コード	２７０１Ｓ
科目区分	特別講義
単位数	１単位（スクーリング履修：１単位）
【教育目標】	本学の「生涯学習特別講義」は、人間総体の理解をめざし、「こころ」「からだ」「文化」の３つの分野からのアプローチを、最先端の科学や臨床の最前線から検証する公開講座。本科目は、2008 年7 月12 日に開催された2008 年度第1 回生涯学習特別講義『Knowledge for well-being ―よりよく生きるための知恵―「こころ」と「からだ」の健康を科学する』をインターネットで受講し、進化生物学、脳科学、生理学、健康科学、心身医学からみた「よりよく生きるための知恵」とは何かを検討する。最終講義で人間総合科学の発展領域となる心身健康科学の考え方を学ぶ。
【キーワード】	心身健康科学／心身相関／ Knowledge for well-being ／よりよく生きるための知恵／統合科学
【テキストの内容及びアドバイス】	本科目は、2008 年度第１回生涯学習特別講義『Knowledge for well-being ―よりよく生きるための知恵―「こころ」と「からだ」の健康を科学する』の講演録をテキストとして使用して、インターネット授業を受講する。
【使用教材】	■テキスト：久住眞理監修　HAS（Human Arts and Sciences）Vol.03 特集：「Knowledge for well-being ―よりよく生きるための知恵―「こころ」と「からだ」の健康を科学する
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	・心身健康科学におけるKnowledge for well-being（よりよく生きるための知恵）の考え方を理解する。 ・Knowledge for well-being（よりよく生きるための知恵）が、進化心理学、脳科学、生理学、健康科学、心身医学などさまざまな領域の中でどのように理解されているのかを把握する。
【評価基準】	総合評価で６０点以上を合格とする。
【スクーリングでの講義内容】	

講演タイトル		講演者
１時限	脳、こころの健康	久住武
２時限	こころ・脳の発達を考えるー大人の脳にニューロンの新生はないというドグマは死んだ	新井康允
３時限	脳・こころと身体の相互作用のメカニズムの基礎	鈴木はる江
４時限	ポジティブヘルス（積極健康）とヘルスプロモーション	川口毅
５時限	現代人に必要なメンタルヘルスマネジメント	筒井末春
６時限	ヒトはなぜ病気になるのかー進化生物学から見た「よりよく生きるための知恵」	長谷川眞理子
７時限	心身健康科学がめざすもの	久住眞理

科目名	**生涯学習特別講義　ネット授業２**
担当教員	大東俊一
科目コード	２７０２Ｓ
科目区分	特別講義
単位数	１単位（スクーリング履修：１単位）
【教育目標】	本学の「生涯学習特別講義」は、人間総体の理解をめざし、「こころ」「からだ」「文化」の３つの分野からのアプローチを、最先端の科学や臨床の最前線から検証する公開講座。本科目は、2009 年３月１４日に開催された生涯学習特別講義『よりよく“老い”を生きる―あなたは“老い”をどう生きますか』から、現代社会の“老い”について考える。 さらに、2010 年３月１３日に開催された生涯学習特別講義『死への準備教育』では、終末期、死に際しての課題について検討する。
【キーワード】	心身健康科学／ Knowledge for well-being ／死への準備教育／終末期／“老い”を生きる
【テキストの内容及びアドバイス】	本科目は、2008 年度第3 回生涯学習特別講義『よりよく“老い”を生きる―あなたは“老い”をどう生きますか』、2009年度第3 回生涯学習特別講義『死への準備教育』の講演録をテキストとして使用して、インターネット授業を受講する。
【使用教材】	■テキスト：久住眞理監修　HAS（Human Arts and Sciences）Vol.05『よりよく“老い”を生きる―あなたは“老い”をどう生きますか』、HAS（Human Arts and Sciences）Vol.07『死への準備教育』
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	・心身健康科学のいう「いのちのつながり」を“老い”という観点から理解する。 ・死への準備教育とはなにか、終末期とはなにか、を社会環境、ライフサイクルなど多層的にとらえる。
【評価基準】	総合評価で６０点以上を合格とする。
【スクーリングでの講義内容】	

	講演タイトル	講演者
１時限	文化・社会環境から“老い”を考える	大東俊一
２時限	ライフサイクルから“老い”を考える	佐藤優子
３時限	社会保障政策から“老い”を考える	阿部正俊
４時限	終末期医療から“老い”を考える	青木清
５時限	日本人の他界観	大東俊一
６時限	終末期とリビングウィル	青木清
７時限	死への準備教育	アルフォンス・デーケン
８時限	死の覚悟を学ぶ	中山和久

<table>
<tr><td>科目名</td><td>生涯学習特別講義　ネット授業３</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>久住武</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>２７０３Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>特別講義</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>１単位（スクーリング履修：１単位）</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>本学の「生涯学習特別講義」は、人間総体の理解をめざし、「こころ」「からだ」「文化」の３つの分野からのアプローチを、最先端の科学や臨床の最前線から検証する公開講座。本科目は、2009 年７月１１日に開催された生涯学習特別講義『脳とこころの進化―なぜ宇宙は人類をつくったか』から、人類の進化の過程における「こころ」と「からだ」の関係を理解する。
さらに、2009 年１１月１４日に開催された生涯学習特別講義『こころとからだをストレスから守る仕組みを探る』では、いのちを守るシステムとして備わっている生物の防衛システムについて理解する。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>心身健康科学／ Knowledge for well-being ／宇宙の進化／脳の進化／生命の進化／ストレス／アロスタシス</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>本科目は、2009 年度第１回生涯学習特別講義『脳とこころの進化―なぜ宇宙は人類をつくったか』、2009 年度第2 回生涯学習特別講義『こころとからだをストレスから守る仕組みを探る』の講演録をテキストとして使用して、インターネット授業を受講する。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：久住眞理監修　HAS（Human Arts and Sciences）Vol.04『脳とこころの進化―なぜ宇宙は人類をつくったか』
HAS（Human Arts and Sciences）Vol.06『こころとからだをストレスから守る仕組みを探る』ほか</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>・心身健康科学のいう「いのちのつながり」を宇宙の進化、生命の進化論、脳と心の進化の側面から理解する。
・生物の「いのちを守るシステム」としての「アロスタシス」について理解する。
・ストレスに対する新しい概念として「アロスタシス」を知る。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>本科目は、2009 年度第１回生涯学習特別講義『脳とこころの進化―なぜ宇宙は人類をつくったか』、2009 年度第2 回生涯学習特別講義『こころとからだをストレスから守る仕組みを探る』の２回の講演プログラムによって構成される。
<table>
<tr><th colspan="2">講演タイトル</th><th>講演者</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>人類の進化</td><td>青木清</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>脳の進化、こころの深化</td><td>大隅典子</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>なぜ宇宙は人類をつくったのか</td><td>桜井邦朋</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>ストレスの仕組みと心身の健康</td><td>鈴木はる江</td></tr>
<tr><td>５時限</td><td>ストレスとアロスタシス</td><td>久住武</td></tr>
<tr><td>６時限</td><td>こころとからだをストレスから守る仕組みを探る</td><td>ブルース・マキューアン</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>科目名</td><td>生涯学習特別講義　ネット授業４</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>大東俊一</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>２７０４Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>特別講義</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>１単位（スクーリング履修：１単位）</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td></td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>本学の「生涯学習特別講義」は、人間総体の理解をめざし、「こころ」「からだ」「文化」の３つの分野からのアプローチを、最先端の科学や臨床の最前線から検証する公開講座。本科目は、2010 年７月１０日に開催された生涯学習特別講義『健康長寿のすすめ―心身ともに豊かな「老い」をめざして』では、老年学、栄養学、生理学といった幅広い領域から、「老い」の問題とその生き方について考える。
さらに、2010 年１２月１１日に開催された生涯学習特別講義『食を通して、こころとからだの健康生活習慣を』では、「食」を通して健康な生活習慣を確立する方法を考える。今回の共通するテーマとしては、心身の健康を維持するためには、食習慣が重要な要素であることがあげられる。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>心身健康科学／ Knowledge for well-being ／サクセスフル・エイジング、栄養、抗加齢、生活習慣病、食育、食習慣</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>本科目は、2010 年度第１回生涯学習特別講義『健康長寿のすすめ―心身ともに豊かな「老い」をめざして』、2010 年度第２回生涯学習特別講義『食を通して、こころとからだの健康生活習慣を』の講演録をテキストとして使用して、インターネット授業を受講する。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：久住眞理監修　HAS（Human Arts and Sciences）Vol.08『健康長寿のすすめ―心身ともに豊かな「老い」をめざして』
HAS（Human Arts and Sciences）Vol.09『食を通して、こころとからだの健康生活習慣を』</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>・老化のメカニズムについて知る。
・老化とどのように向き合うかについて理解を深める。
・生活習慣病についての理解を深める。
・食育について理解を深める。
・心身ともに健康な生活習慣を確立する方法を知る。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>総合評価で６０点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>本科目は、2010 年度第１回生涯学習特別講義『健康長寿のすすめ―心身ともに豊かな「老い」をめざして』、2010 年度第2 回生涯学習特別講義『食を通して、こころとからだの健康生活習慣を』の２回の講演プログラムによって構成される。
<table>
<tr><th colspan="2">講演タイトル</th><th>講演者</th></tr>
<tr><td colspan="3">『健康長寿のすすめ―心身ともに豊かな「老い」をめざして』（2010.7.10）</td></tr>
<tr><td>１時限</td><td>高齢者のこころとからだ―栄養と運動から</td><td>小林修平</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>心身ともに豊かな老いを生きる、抗加齢の仕組み</td><td>近藤　昊</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>要介護予防からアクティブ・エイジングまで</td><td>柴田　博</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>生活習慣病を予防するための食育</td><td>玉木雅子</td></tr>
<tr><td>５時限</td><td>臨床栄養の面から生活習慣病を考える</td><td>白石弘美</td></tr>
<tr><td>６時限</td><td>あなたが生活習慣病になる理由</td><td>板倉弘重</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

科目名	**文明科学概論**
担当教員	青木　清　　加藤尚武　　菊地京子
科目コード	５５０１Ｔ
科目区分	学士申請プログラム　　★学士申請プログラムに登録した学生のみ履修できます。
単位数	テキスト履修：４単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	本学では、人間の理解を、「こころ」「からだ」「文化」の領域から学際的、総合的に追求していくことを目標にしているが、その「文化」の領域の核をなすのがこの「文明科学概論」である。 ２１世紀に入って、時代は急激な変化を見せ、科学・社会・人間すべてに質的な転換が求められている。そのため、人間とは何かを問う時に、身体面、精神面とともに文化面からの追求が欠かせない。特に、現代を生きる人間の「いのち」や「存在」を考える時、私たち人間のたどった文化・文明に焦点を当てることが重要であろう。そこで「文明科学概論」では、人間がこれまでに形作ってきた古代から現代までの文化・文明を見渡すとともに、ヒトが人間へと進化してきた過程や人間の心と文化の形成に欠かせない宗教について解説しながら、真の意味で人間とは何かという問いを広く考えていく。
【キーワード】	比較文明／比較宗教／人間の特異性／現代日本／環境適応／環境との共生／異文化理解
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　文明誕生への序章―ヒトの脳と行動の進化（青木清） ２０世紀の後半に発展した生命科学は、人間とは何かという問いに対して様々な材料を与えてくれた。そのひとつに、植物であっても動物であっても、生命現象は分子や細胞のレベルでみると共通の仕組みを持っているということがある。一方、人類と他の生物との共通性が理解できたとしても、総体としての人間の他の生物との違い―人間の特殊性―は何か、という課題に対する答えはまだ出ていない。第Ⅰ章では、この人間の特殊性とは何かという課題に関して、生命科学や自然人類学、行動生物学などからわかってきた人間の自然科学的理解と文化形成の生物的基盤について考える。 1. 人間の自然科学的理解／ 2. ヒトの脳と行動の変化／ 3. 脳の容量の変化／ 4. 石器の種類／ 5. チンパンジーの道具使用／ 6. 生物進化／ 7. 人間の環境と進化／ 8. ヒトと生物との共生／ 9. ヒトの進化／ 10. ヒトの環境適応としての文化／ 11. 動物のサブ・カルチャー（ヒトの文化に似た特徴）／ 12. ヒトの音声言語と他の霊長類の音声伝達の差／ 13. トリの歌と人間の言語習得／ 14. 人間と動物とのちがい／ 15. 人間と動物の感覚受容期間／ 16. 人間と動物との連続性と不連続性 第２章　文化の理解（菊地京子） 地球上に人類が誕生して今日に至るまでの歴史のなかで、異文化に属する人間同士の、あるいは社会集団間の緊張・敵対関係の大半は、相互に異なる文化への尊重が欠如していたことに起因する場合が少なくなかった。第Ⅱ章では、グローバル化の進展とともに異文化間の遭遇の機会が増大する国際社会のなかで異文化をもつ者同士の共存共栄を達成するための条件として欠かすことのできない「文化の理解」について、文化人類学の観点から考察する。 1. 文化とは何か／2. 異文化の認識と異文化理解への対応／3. 世界観の諸相／4. 人間とは何か／5. 現代文明社会における人間 第３章　宗教と人間―人間に宗教は必要か（ひろさちや） 宗教を「人間らしい生き方を教えるもの」と定義し、それに基づいて、世界３大宗教および主要な民族宗教について考察し、それぞれの宗教の特徴を理解する。そして、宗教と道徳・倫理という似て非なるものについて、それぞれのあり方と違いを学ぶとともに、宗教と科学の対立について、両者の成立の歴史を通して、その理由を考える。 最後に、病気になったときにどう生きるべきかという問いについて、それぞれの宗教ではどう教えるかを考察しながら、宗教という生き方の指針をもたない現代日本の社会のあり方に警鐘を鳴らす。 1. 宗教とは何か？／ 2. 宗教と道徳・倫理／ 3. 宗教と科学・医学／ 4. 現代日本人と宗教／参考：世界宗教の基礎知識（キリスト教，イスラム教，仏教，ヒンドゥー教，儒教，神道） 第４章　現代文明の諸問題―技術文明の高度化（加藤尚武） ２０世紀の後半には世界の文化史のなかでも最大といえるような変化が起こった。第1 に遺伝子への操作が可能になり、人工の生物も作られるようになった。第２に、自然全体が歴史性という特徴をもち、自然は同一の構造の永遠の反復であるという見方ができなくなった。第３に、原子力の開発、地球の温暖化、臓器移植、遺伝子操作など自然の根底にある同一性を破壊する人工的な営為が始まっている。第4 に、個人が大量の情報を操作できるようになったが、情報の質を高める自動的な調整装置は存在しないの

	で、大量の粗悪情報が氾濫している。この時代をどのように生きたらいいのかを考える。 1. ２０～２１ 世紀の技術文明／ 2. 原子力エネルギーの開発／ 3. 情報工学の展開／ 4. 生命を操作する技術／ 5. 地球の温暖化／6. 資源の大量消費
【使用教材】	■テキスト：青木清、菊地京子、ひろさちや、大東俊一、加藤尚武『文明科学概論』（本学オリジナル）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 世界には、多様な文化、文明のあることを歴史的、実証的に理解している。 2. 時代による文化や生活の変化について、具体的な説明ができる。 3. 時代とともに変化する社会や文化に対して、変わらない価値や考え方、存在のあることについて説明ができる。 4. ヒトと他の生物との共通性と、人間の特殊性について理解している。 5. 人間に特有な文化の形成と、ヒトの進化との関連について理解している。 6. 世界の宗教とその特徴について理解している。 7. 自然と倫理学や科学技術との関連性について説明ができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**発達心理学**
担当教員	中野博子
科目コード	５５０２Ｔ
科目区分	学士申請プログラム　　★学士申請プログラムに登録した学生のみ履修できます。
単位数	テキスト履修：４単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	人間が人間らしく成長するためにはどのような条件が必要かについて心理的視点から考察することを目標とする。特に「こころの健康」に関係が深いと思われる情緒的側面の発達を中心に据え、人の命の誕生から死にいたるまでの生涯発達を視野に入れて検討する。
【キーワード】	生涯発達／遺伝と環境／ライフサイクル／アタッチメント（愛着）／中高年の発達
【テキストの内容及びアドバイス】	【オリジナルテキスト】 **第１章　人間の生涯の中での発達心理学** 発達心理学がどういうことを目指しているのかについてのオリエンテーションです。 **第２章　人間の発達** 心理学では長い間「遺伝と環境」はどう関連するのかが大きなテーマとして扱われてきました。これらが具体的にはどういう風に扱われてきたのかを学んでください。 **第３章　ヒトが人間になるとはどういうことか** ヒトとして育つ環境の与えられなかった事例を検討することで、人の発達に必要なものを学びます。現在では児童虐待の問題もこれらの問いに対して私たちにさまざまな問題提起をしています。 **第４章　初期経験の影響** 環境の影響についてこれまでに行われてきた動物の知見をもとに検討します。またヒトはその中にあってどういう風に位置付けられるのか考えます。愛着の問題が大きなテーマです。 **第５章　発達を理解するための理論** いわゆる発達段階についての学習です。フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階などについて充分に理解することが必要です。 **第６章　人間の発達の可能性と諸問題** これまで述べてきたことを利用して現在の私たちを取り巻くさまざまな問題について考えてみましょう。発達心理学を学ぶことは単に知識を増やすことではなく、分かったことを元にいかに私たちが自分の問題を理解していけるかにあると思います。 【サブテキスト】 サブテキスト「生涯発達の心理学」には発達心理学の基本的な知識や、オリジナルテキストの第６章に述べられているような発展的な問題を考えていくためのヒントがたくさん含まれています。まずオリジナルテキストによって基本的な事項をしっかりと理解し、これを補う意味でサブテキストを読むようにしてください。理解が深まるはずです。
【使用教材】	■テキスト：中野博子『発達心理学』（本学オリジナルテキスト） 高橋恵子・波多野誼余夫「生涯発達の心理学」岩波新書（サブテキスト）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．生涯発達の視点をもって人間の発達の各段階の特徴を論ずることが出来る。 ２．ヒトが人間として存在するために必要なことについて説明することが出来る。 ３．発達心理学で得られた知識を基にして実際に問題に対して考えて、表現出来る。
【評価基準】	テキスト課題合格の後、科目修了で６０点以上を合格とします。
【連絡事項】	できれば自宅学習として､最近の発達心理学のトピックスを知るために｢柏木恵子　子どもも育つ　おとなも育つ　発達心理学　崩文書林　２０１３｣の一読をすすめます。

科目名	**ストレスと健康**
担当教員	久住武　　鈴木はる江　　鍵谷方子　　小岩信義
科目コード	５５０３Ｔ
科目区分	学士申請プログラム　　★学士申請プログラムに登録した学生のみ履修できます。
単位数	テキスト履修：４単位
【テキスト履修グループ】	Ａ
【教育目標】	現代人は様々なストレスにさらされながら生きている。１９３０年代に動物でストレスの主体に及ぼす作用の神経科学的メカニズムが解明された。人間の社会的生活においても種々のストレス刺激によって、動物と同様のストレス反応が現れるが、人間ではさらに心理的・社会的刺激もストレス反応を起こしうる。このようなストレスの基礎的科学的メカニズムと人間社会のストレスの特徴を学ぶ。各種ストレス反応の評価法、ストレスによる健康障害とストレスに対する対処法についても学び、ストレスへの理解を深める。本科目は各専門分野の教員の分担によるテキストと議義により、ストレスとは何かを学ぶ。
【キーワード】	心身相関／ストレス反応／ホメオスタシス／ストレス障害／ストレスマネジメント
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　ストレスと健康　―統合的考察―** ストレスは古くて新しい概念である。ストレスの考え方やアプローチの研究の歴史を振り返り、さらに現代社会のストレスの特徴やストレスとどう向き合うかなど、ストレスを取り巻く諸問題について概観する。 **第２章　ストレスの生理学的基礎　－ストレスとホメオスタシス―** ストレスの概念がどのように生まれ発展していったか歴史的流れを学び、特にストレス概念の基礎を築いたセリエの全身適応症候群やキャノンの緊急反応について理解する。ストレスは生体に広範な反応を引き起こすが、その生理的仕組みについて学ぶ。ストレスは生体に本来備わっているホメオスタシスにも影響を及ぼす。体温調節、血圧調節、血糖値調節、酸塩基平衡の調節の仕組みと、ストレスがそれらにどのような影響を及ぼすについても学ぶ。 **第３章　ストレスと脳　―ストレスの脳機能に及ぼす影響―** ストレスはうつ病を発症したり、脳の発達に大きな影響を及ぼす。ストレスが脳の働きにどのような影響を及ぼすのか、脳科学からのアプローチについて学び、脳科学からのストレス対処についても考える。 **第４章　生理的ストレス反応の測定** ストレスは身体に様々な反応を起こす。ストレス反応を客観的に評価する方法を学び、ストレス反応を測定する意義について理解する。ストレスによって起こる生体反応を測定するさまざまな方法として、自律神経機能を指標とする方法、運動機能を指標とする方法、脳機能を測定する方法などによるストレス反応の測定法を学ぶ。さらに質問紙を用いてストレスを評価する方法についても学ぶ。種々のストレス反応の測定法を理解して各指標を読み取る力を養う。 **第５章　ストレスとメンタルヘルス** 人間は多数の心理学的・社会的ストレスに曝されている。種々の心理的・社会的ストレスモデルのうち、社会的再適応評価尺度、心理学的ストレスモデル、人間生態モデル、職業性ストレスモデル、仕事のストレインモデルなどの代表的なモデルについて理解する。ストレスの認知的評価、ストレスコーピング、ストレスマネジメント、ストレスの予防と対策、こころの健康なども学び、ストレスへの対処・対策法について理解を深める。さらに臨床的なストレス問題として、メンタルヘルスの重要性、ストレス由来の症状、睡眠の問題、代表的なストレス性健康障害についても学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：久住眞理／筒井末春／久住武／鈴木はる江／小岩信義『ストレスと健康』（本学オリジナルテキスト） ■参考書：テキストの各章ごとに基本的な文献を列挙してある。ストレスの問題は広範な分野にまたがっており、生理学、心理学、社会科学、臨床医学などそれぞれの分野で専門の参考書が多数出版されている。各人が特に深く学びたい分野の図書を参考文献の中から選び、より深い専門的な知識について学ぶとよいだろう。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．ストレスの生理学的仕組みについて、セリエの視床下部―下垂体前葉―副腎皮質系、キャノンの交感神経―副腎髄質系の反応の要点を説明できる。 ２．血圧調節、体温調節、血糖値調節などのホメオスタシスの仕組みと、それぞれに対するストレスの影響について説明できる。 ３．生理的ストレス反応を測定することの意義について説明できる。 ４．ストレス反応を客観的に測定する各種方法と生理的指標の意味について理解している。 ５．代表的な心理・社会的ストレスモデルについて説明できる。

	６．ストレスの予防と対策のあり方について説明できる。 ７．ストレス性健康障害の代表例について理解している。 ８．個人や職場でできるストレス対策について、自分の意見を述べることができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 テキスト課題で出題されている内容、分野をよく理解しておくこと。

科目名	**心理学概論**
担当教員	村上香奈
科目コード	５５０４Ｔ
科目区分	学士申請プログラム　　★学士申請プログラムに登録した学生のみ履修できます。
単位数	テキスト履修：４単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	心理学とは、人間の意識や行動を科学的に解明する学問である。本科目では、知覚・認知・発達・学習・社会・臨床などの心理学の各分野を概観し、心理学領域の科目の基礎を理解することを目標とする。
【キーワード】	心理学／科学
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　環境を認知する心の接点―感覚系とその機能―** 　環境からの刺激を情報として感受する機能としての感覚系を整理した上で、すべての感覚系に共通な感受機能の限界性質について学び、更に、環境認知にとって相対的に重要な役割を果たす視覚系と聴覚系と、その性質を勉強する。 **第２章　環境を認知する知覚の機能** 　感覚過程の所産に外在的対象としての性質を解釈的に付与して外界の事物や様態を認知する心の働きを知覚と総称し、その中でも視覚を中心にその機能と性質について学習する。 **第３章　情報を処理する心のしくみ** 　情報処理の基礎を学ぶ。まず、「情報」「情報処理」「情報処理研究」などの用語を整理した上で、入力と出力の間に介在する心の働きのしくみ、すなわち、情報を処理する人間の内部機構について、行動観測的データに推論を交えながら、その一端を概観する。 **第４章　児童期までの心の働きと行動の発達** 　人間の心の働きと行動は時間の経過とともに変化する。人間の加齢に伴う継時的な変化をとらえようとする発達心理学について学ぶ。発達心理学のもつ基本的枠組みや独自の方法を概観し、その後に胎児から児童期までをとりあげる。 **第５章　青年期の心の働きと行動の発達** 　青年期は発達の過度期であり、子どもから大人への発達の通過点でもある。この章ではこの青年期の特徴を学び、対人関係において、また自己との関わりの中で青年期にみられる変化の意味を考える。 **第６章　中高年期の心の働きと行動の推移** 　発達のプロセスのうち中高年期から老年期について学ぶ。まずは中高年期についてその特徴とその時期の諸問題について考え、次に加齢に伴う老化の問題を概観する。老化は正常な老化と病的な老化があり、病的な老化については社会問題化しつつある認知症の問題について取り上げる。 高齢化社会においては老化の問題を避けて通ることはできない。 **第７章　行動の形成と変容－学習を支える行動法則―** 　過去の経験によって行動が変容する過程を学習といい、心理学の中でも古くから研究が行われてきた分野である。この章では学習心理学の基礎、条件付けについて学ぶ。人間と動物に共通する行動法則について、実験室研究を中心に述べてあるので、誰にも知られているパブロフの犬の実験などを基本として学ぶこと。その上で社会的文脈における行動についても簡単に触れる。 **第８章　知識とスキルの学習** 　前章では学習の成立過程を支えている行動法則（学習理論）が「条件付け」であることを学んだが、人間の日常的な学習行動を理解するためには多目的な視点が必要である。本章では人間の学習行動の多様な形態概観し、それらの理解に役立つ視点を紹介する。更に、知識や技能の学習に影響する学習者内部要因および学習者内部要因および学習事態の要因について学ぶ。 **第９章　記憶の過程と知識の蓄積** 　記憶は単に情報を貯えておくだけではなく、われわれを人間らしくする重要な働きをもつといえる。そこで記憶の基本、短期記憶・長期記憶・構成的な記憶・手続き的記憶など記憶の多様な側面について学ぶ。 **第１０章　知識の利用と問題解決** 　知識は推測を行うため、問題解決のためなどに利用される。本章では判断や推測を行うときに、内的、外的情報をどのように利用しているかについて学ぶ。 **第１１章　心の機能への認知科学的接近** 　コンピューター科学は人間の知識を理解するための新しい法論を提供している。一方コンピューターの進展のために人間の知的活動や心的処理が参考になっている。人

	間の脳がどのような情報処理を行っているのかについて認知科学と心の機能、人工知能、視覚と言語の情報処理、神経回路網モデルについて学ぶ。 **第１２章　知性の構造と個人差の理解** 一般的に用いられる「知性」について心理学ではどのように理解がすすんでいるのか、その知性を支えている「知能」についてはどのように考えられているのか、さらに「学力」についても心理学的な理解のありかたを学ぶ。 **第１３章　パーソナリティの理解** パーソナリティ研究は個人差の分類と人間を駆動させるものを把握しようとすることに大別できる。個人差の分類においては類型論と特性論、駆動力の理解には力動論が代表的な考え方である。 **第１４章　個人差のアセスメント** 人間ひとりひとりの知能およびパーソナリティのアセスメント（査定）についての章であり、心理測定と心理アセスメント、知能のアセスメントとパーソナリティのアセスメントについて学ぶ。最初に心理測定の性質や要件について、次いで知能とパーソナリティアセスメントについて実際に用いられている検査法が具体的に概観される。 **第１５章　自己概念の構造と自尊心** 社会心理学には社会構造や集団と個人との相互作用を調査や研究で解明する社会学的社会心理学と、社会に生きる個人の行動や個人間の相互作用を実験によって解明する心理学的社会心理学がある。後者の立場において「社会」とは「他者」を意味し、個人が他者によってどのように影響されるかを学習する。 **第１６章　自己と他者の相互作用** 本章では他者の存在によって自己の価値が変化すること、他者と競争することなどの人間として避けがたい他者との関係を社会心理学的な観点から自己意識、他者からの影響、対人相互作用などについて学ぶ。 **第１７章　集団に関する社会行動** かつてアメリカを中心とする心理学会は集団に関する研究―集団凝集性、集団構造、コミュニケーション構造、などのグループダイナミックスについての研究―は、一時衰退したかに見えた。しかし現在では集団に属することの個人にとっての意味がアイディンティティの問題と重なり、ふたたび注目されてきている。集団内行動と集団間行動などについて学ぶ。 **第１８章　喜怒哀楽と感情の機能** 感情や情動は人間にとって日常的かつ主観的体験として経験する。従来感情や情動の主観性から、感情内容の分析や感情状態を生起しせめる条件の研究が主流であったが、現代では人間の活動における感情や情動の果たす機能についての研究が盛んになってきている。これまでの研究の歴史を顧み、行動としての感情についての考え方を概観する。 **第１９章　心と行動のリズム** 人間の身体に生起する生理的過程と心や行動との関連を探求する生理心理学分野の章である。心と行動の生理学的基礎、睡眠と覚醒のリズム、意識について学ぶ。 **第２０章　ストレスと心の健康** 本章ではストレスに関する基礎、ストレスの定義からストレスへの対処までを整理する。 **第２１章　心の病と心理療法** 本章は臨床心理学の領域である。精神医学的な知識とともに、心理学においては異常心理学ととらえられてきた考え方に基づく。現代に多くみられる精神的な問題・心の病について整理し、それに対して心理学がどのように向き合ってきたのか、心理療法の基本理論と技法を学ぶ。
【使用教材】	■テキスト：培風館「心理学概説」心と行動の理解　松田隆夫編 ■参考書　：心理学の諸領域についは個々の成書を参考にすること。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．心理学の各分野の歴史的背景および理論的背景を理解できる。 ２．人間の認知機能や発達過程を理解できる。 ３．心理学における専門用語について理解し、説明ができる。 ４．人間の心の過程・動きについて理解できる。
【評価基準】	選択式の科目修了試験に６割以上正解することで合格とする。

科目名	**運動生理学**
担当教員	鈴木はる江
科目コード	５５０５Ｔ
科目区分	学士申請プログラム　　★学士申請プログラムに登録した学生のみ履修できます。
単位数	テキスト履修：４単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	我々は身体の種々の部位を動かして日常生活を営んでいる。本科目では、身体運動に関わる身体の構造と働きを理解することを目標とする。すなわち、骨格と骨格筋、骨格筋を調節する神経系、運動を支える呼吸器系や循環器系の働きについて、その基本構造と生理作用を学ぶ。その上で健康的な身体機能の維持に運動が重要な役割を果たしていること、さらに身体の健康ばかりでなく、心の健康、社会的な健康にも運動が役立っていることについても学ぶ。但し運動は、不足しても度をすぎても身体に害を及ぼす。運動生理学の理解を通じて、心身共に健康で充実した生活を送る上で必要な運動とは何かを考察する。
【キーワード】	骨と骨代謝／骨格筋／運動神経系／呼吸器系／循環器系
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　運動と骨格―体を支える骨の構造と機能** 運動をする際に体を支える骨の構造と働きについて学ぶ。骨を丈夫に保つために運動が重要であることも学ぶ。 **第２章　運動と筋肉―運動の基となる筋収縮の仕組み** 収縮することにより様々な運動を起こす筋肉の働きについて学ぶ。筋収縮に必要なエネルギー供給の仕組みと運動の種類との関係を学び、健康維持にはどのような運動が有効なのかも理解する。 【サブテキストの関連箇所】 第1 章　筋肉の燃料の製造と供給のふしぎ 第2 章　筋肉の部品がいくら使ってもすり減らないふしぎ 第3 章　筋肉エンジンが動力を発生するメカニズム 筋肉のタンパク質が遺伝情報に基づいて作り変えられていること、ATP のエネルギー産生の仕組み、ATP エネルギーが筋収縮に利用される仕組みについて学ぶ。 第5 章　筋肉が使えば使うほど発達するふしぎ 第6 章　筋肉エンジンの性能がトレーニングにより向上するふしぎ 筋肉活動に伴い筋肉が発達する仕組み、トレーニング法により筋タンパク質が運動に適したタイプに作り変えられる仕組みについて学ぶ。 **第３章　運動と神経―神経系による運動調節の仕組み** 全身の筋肉を調節して適切な運動を可能にする神経系の働きを学ぶ。適切な運動を行うためには感覚系も働いている。運動時にはこのように運動神経系、感覚神経系が作動し、脳の広範な領域が活発に働くことについて理解する。 【サブテキストの関連箇所】 第4 章　筋肉が自由意志によって動くふしぎ 活動電位発生の仕組み、大脳皮質からの運動指令が筋肉に伝わる仕組み、筋紡錘の構造とその役割について学ぶ。 **第４章　運動を支える身体機能** 呼吸器系、循環器系などの身体機能が運動時にどのように変化して運動を支えているのかを理解する。健康のために運動中に留意すべきことについても学ぶ。 【サブテキストの関連箇所】 第8 章　心臓はなぜ肥大するか 第9 章　心臓停止による突然死はどうして起こるか 心臓の構造と心筋の特徴、不良心筋細胞がなぜ作られるかなどについて学ぶ。 **第５章　運動の身体的・精神的・社会的効用** 運動が種々の身体機能を改善する効果を持つこと、さらには精神的・社会的にも健康維持に役立つことを学ぶ。 【サブテキストの関連箇所】 第10 章　健康増進のための運動 運動による生活習慣病予防の仕組み、運動による疲労、肉離れ、筋肉痛の起こる仕組みなどについて学ぶ。 **第６章　運動の発達と加齢変化** 運動機能が生まれてから成人期まで発達していき、やがて老化に伴い機能が低下していく過程について学ぶ。 ・テキストに記載されている内容の中で、特に太字のキーワードを重要ポイントとし

	て充分理解すると良い。 ・サブテキストは、骨格筋の構造、筋収縮の仕組み、エネルギー供給の仕組み、筋発達の仕組みなど、特に骨格筋についてより詳しい内容を分かりやすく説明してある。テキストの内容を深く理解するのに役立ててほしい。
【使用教材】	■テキスト：鈴木はる江編著『運動生理学』（本学オリジナルテキスト） ■サブテキスト：杉晴夫著『筋肉はふしぎー力を生み出すメカニズム』（ブルーバックス）講談社 ■参考書：岸恭一・上田伸男編『栄養科学シリーズNEXT・運動生理学』講談社サイエンティック（運動と栄養素代謝、運動と食事、運動前の検査と運動処方の実際、疾患時の運動療法など分かりやすく解説してある。栄養や運動処方についてより詳しく学びたい場合に参考になる。）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1．骨の代謝に関わるホルモンの名称とその働きについて説明できる。 2．骨格筋の構造と収縮の仕組みについて説明できる。 3．骨格筋が収縮する際のエネルギー供給の仕組みについて、無酸素系と有酸素系の特徴を説明できる。 4．運動調節に関わる中枢神経系の各部位の名称とその働きの特徴、基本的反射について説明できる。 5．運動中に呼吸器系と循環器系はどのように調節されるか説明できる。 6．運動はどのようにして肥満・高脂血症、高血圧、糖尿病などの生活習慣病の改善に役立つのか、その仕組みについて理解している。 7．心と身体の健康維持にどのような運動が適しているか、自分の意見を述べることができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。 テキスト課題で出題されている内容、分野をよく理解しておくこと。

科目名	**生命倫理学**
担当教員	青木清
科目コード	５５０８Ｔ
科目区分	学士申請講座　　★学士申請プログラムに登録した学生のみ履修できます。
単位数	テキスト履修：４単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	現在、著しい生命科学の進歩に伴って開発された技術が医学薬学医療に応用される一方、それら科学技術と医療技術の進歩は私たち人間の生存に対してさまざまな問題を提起している。これらの問題に対して、生命倫理（バイオエシックス）の果たす役割は大きい。 　その根本にある、生命科学の時代の基本的な考え方は、人間の尊厳や生命の尊厳と、人間の生存を守ることにある。生命科学が 21 世紀に大きく発展して、健全な発展により人間の生存を守ることで大きな力となるかどうかは、人々が生命倫理の知識を教養として持っているかどうかにかかっているだろう。 　生命倫理が誕生する以前から医療倫理はあったが、生命倫理の誕生によって医療倫理そのものも大きく変化することになった。それは患者中心の医療がメインテーマになり、それまでの医師中心の医療と代ったからである。 患者中心の医療を重視する生命倫理では、近年、ヒトクローン作製、万能細胞、脳死臓器移植、ヒトゲノム、遺伝子治療、ES 細胞、再生医療などについて議論されている。それら課題の生物学的、医学的なことを理解するとともに倫理的な問題を具体的に考察し、生命文化としてこれらと環境倫理との関連を学ぶことが大事である。 　特に、近年、脳死臓器移植、ヒト・ゲノム、再生医学医療などにおける生命倫理の議論がなされている。その生命倫理的な問題を具体的に考察する。
【キーワード】	バイオエシックス／ ＤＮＡ ／インフォームド・コンセント／倫理的基準／ヒトクローン
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　人間の生存とバイオエシックス 第２章　生命倫理に関する諸問題 第３章　ヒト・ゲノム研究ド・コンセント 第４章　脳死と臓器移植 第５章　医療における倫理―患者の自己決定権とは― 第６章　生命・いのち・倫理 第７章　遺伝子治療 第８章　安楽死と尊厳死 第９章　人間の生存を考える 第 10 章　環境倫理 第 11 章　インフォーム 第 12 章　先端的生殖技術 第 13 章　尊厳死・安楽死 第 14 章　エイズと生命倫理 第 15 章　出生前診断 第 16 章　生命倫理の歴史
【使用教材】	■テキスト：青木清『生命倫理学』（本学オリジナルテキスト）、『生命倫理学 別冊』 ■サブテキスト：星野一正『医療の倫理』岩波新書
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 生命倫理の課題としては何があるか。 2. 先端医療について。 3. 先端的生物医学について。 4. 生命科学について。 5. 技術の進歩と自然について（人間と他の生物との共生）。 6. 生命倫理と医療倫理について。 7. 生殖補助医療について。 8. 終末期医療について。
【評価基準】	科目修了試験において６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	テキストには、生命倫理学を学習するにあたっての基礎となる資料として「ヒポクラテスの誓い」「ニュールンベルク綱領」 「ヘルシンキ宣言－患者の権利章典－」「ジュネーブ宣言」「リスボン宣言」「国際看護師倫理綱領」が付されています。

科目名	**教職概論**
担当教員	田村美由紀
科目コード	５０１１Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：２単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	大きな社会変化に伴い、児童・生徒の生活スタイルや心のありようは大きく変わってきている。その中にあって、国民は学校教育に強い関心と期待を寄せている。教育愛に満ち、人を育てる使命感を持ち、人間の抱える問題への高い解明力と品格のある教師が強く求められている。学校には児童・生徒の教育を担う、若い溌剌とした教師の存在は欠かせない。教師を希望する学生が単に「子どもが好き」「教師になりたい」といったおぼろげな希望ではなく、なぜ学校が存在するのか、教育という職業がどんな制度のもとに、どんな使命を担っているかについての認識を深めながら、各自の目指す教育像を明確にする。
【キーワード】	教員／教師像／訓導と開放制／服務の宣誓／研修
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　教職の意義** 「教師」「先生」という言葉の法律から見た表現はどうなるか。教職の意義についてまとめます。 **第２章　教職観と理想の教師像** わが国の伝統的な教師像、教職観の変遷を概観します。 **第３章　教師と教員養成の歴史** 「師範学校」を中心とした教師養成から戦後の「開放制」へと移りかわりの意義。 **第４章　教員の任務と服務** 「教員の任用」（採用）の手順や「服務上の義務」について細説してゆきます。 **第５章　教師の役割と仕事** 教師の法的な役割や教師の仕事の特質と内容について理解します。 **第６章　管理職・主任の役割** 管理職、各種主任の役割を理解し、関わり方について考察をすすめます。 **第７章　教師の職場環境** 教師の勤務実態、悩み、人間関係、ライフサイクル等検討していきます。 **第８章　教師の資質向上と研修** 求められる教師の資質・能力や教師の力量形成と研修制度について詳説します。 **第９章　教育実習の意義と心得** 教育実習と学習指導案の作成、教育実習の評価等についてまとめます。 **第 10 章　教職への進路選択と教員採用選考** 教員免許状取得後の進路と教員採用試験について学びます。 **第 11 章　面接・模擬授業にどう臨むか** 必要な基礎知識や心構えについて学びます。
【使用教材】	■テキスト：佐藤晴雄『教職概論第 3 次改訂版』学陽書房 ■参考書：『学習指導要領』文部科学省，『最新教育キーワード 137』第 13 版　時事通信社
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．「教員」「教諭」の定義づけができる。 ２・教員養成の「開放制」の重要性を論議できる。 ３．服務上の義務を二大別し説明できる。 ４．教師にとっての研修の意義を説明できる。 ５．家庭、地域社会との連携・協働の重要性が説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	☆養護教諭養成コース登録の方 原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

科目名	**教育課程論**
担当教員	和井田清司
科目コード	５０３１Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：１単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	学校教育における教育内容（カリキュラム）の変遷および編成原理について理解する。さらに、時代の課題に即応した教育課程編成の課題や方法について考察する。
【キーワード】	教育課程とカリキュラム／経験主義と知識主義／教育課程開発／教育課程評価／教育課程改革／教育評価（意義・種類・機能・目標分類・信頼性・妥当性）
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　近代日本の教育課程の歩み：戦前の教育課程の変遷を跡づけている。 第２章　現代日本の教育課程の歩み：戦後の教育課程の変遷を跡づけている。 第３章　教育課程開発の新しい動き：最近の教育課程改革の動向を紹介している。 第４章　教育課程の思想と構造:教育課程の原理をめぐる基本的な争点を整理している。 第５章　教育課程をどう編成するか：教育課程の構成要件や編成上の基本原則について論述している。 第６章　教育課程をどう評価するか：教育課程評価の意義や方法について述べ、最新の評価論を紹介している。 第７章　社会における教育課程：社会学的な視点から教育課程の意味について論述している。 第８章　今日的課題への挑戦：生命・市民性・環境・メディアという視点から、今日的課題の教育課程化の課題と方法について論述している。 第９章　諸外国の教育課程改革：米・英・中・韓国の各国の教育課程改革の動向について紹介している。
【使用教材】	■テキスト：田中耕治／水原克敏／三石初雄／西岡加名恵『新しい時代の教育課程（第３版)』有斐閣　2011 ■参考書：文部科学省　小学校学習指導要領解説・総則編（2008） 文部科学省　中学校学習指導要領解説・総則編（2008） 文部科学省　高等学校学習指導要領解説・総則編（2009）
【学生が達成すべき目標（行動目標として)】	1. 教育課程とカリキュラムの概念について説明できる。 2. 我が国の教育課程をめぐる歴史・現状・課題について簡単に説明できる。 3. 教育課程編成の基本的原理や方法および教育課程評価の在り方について簡単に説明できる。 4. 教育課程開発にあたってどのような今日的課題が生起しているか説明できる。 5. 最新の学習指導要領の概略について説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	☆履修している全ての方 【発展学習のために】 テキスト課題に合格した後、科目修了試験を受けるまでに、次のとおり準備を進めて下さい。 ●論述（600 字程度で論じなさい） 履修主義と習得主義の相違点、教育課程の構造と課題、学力問題（学力の定義、学力問題の諸相)、教育課程の編成原理（子どもからの要請・社会からの要請） ●キーワード（100 字程度で説明しなさい） デューイ、ヘルバルト主義、大正自由教育、三層四領域論、戦後新教育、研究開発学校、羅生門的接近、隠れたカリキュラム、学校を基礎にしたカリキュラム開発、メディアリテラシー、素質教育、ポートフォリオ評価 ☆養護教諭養成コース登録の方 原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

科目名	**教育方法論**
担当教員	和井田清司
科目コード	5032T
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：１単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	学校教育における教育方法の変遷および原理について理解する。さらに、時代の課題に即応した教育方法の在り方について考察する。あわせて、学習指導案の作成や授業づくりの基礎的な技法を理解する。
【キーワード】	教育方法の歩み／児童中心カリキュラム・学問中心カリキュラム／教育メディアとその活用法／授業と授業方法／学力と評価
【テキストの内容及びアドバイス】	第 1 章　教育方法史：教育方法の歴史について、具体的な人名やその特徴について簡潔に論述している。 第 2 章　カリキュラム論：カリキュラムの類型、学習指導要領の変遷、教育課程の構造、教科書等について論述している。 第 3 章　授業論：授業の構造を押さえつつ、学習指導案の作成および授業実践について論述している。 第 4 章　教育の技術：学習指導の基本的な概念や方法について解説するとともに、学習集団づくり・板書・発問・机間指導・模擬授業の方法等についても紹介している。 第 5 章　学力と教育評価：学力の定義や評価方法の類型や特徴について整理し、指導記録や特別支援教育の意義や方法についてふれている。
【使用教材】	■テキスト：柴田義松・山崎準二編『教育の方法と技術』学文社 2009 田中耕治／水原克敏／三石初雄／西岡加名恵『新しい時代の教育課程(第３版)』有斐閣 2011 ■参考書：文部科学省　小学校学習指導要領解説・総則編（2008） 文部科学省　中学校学習指導要領解説・総則編（2008） 文部科学省　高等学校学習指導要領解説・総則編（2009）
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1　教育方法の歴史について簡潔に説明できる。あわせて、教授 － 学習理論の変遷、諸類型（行動主義による学習観、認知心理学による学習観、状況論的学習観）について説明できる。 2　カリキュラムの類型や編成について簡潔に説明できる。工学的アプローチと羅生門的アプローチの違いについて説明できる。 3　授業の構造と方法について理解し、教材研究の知識と活用方法をふまえて学習指導案を作成することができる。 4　授業実践の基本的な技術を理解し、模擬授業の際に活用できる。教授 － 学習方法の原則を理解し、指導的場面で活用できる。 5　学力の意味と評価の類型について説明することができる。ルーブリック評価を含め、授業の評価の方法についても説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。
【連絡事項】	☆履修している全ての方 【発展学習のために】 テキスト課題に合格した後、科目修了試験を受けるまでに、次のとおり準備を進めて下さい。 ●論述（600 字程度で論じなさい） 系統学習と問題解決学習の相違点、「発問」と「質問」の相違点、「一斉指導」と「個に応じた指導」の相違点、「総合的な学習の時間」の趣旨と実践視点 ●キーワード（100 字程度で説明しなさい） 「生きる力」、国際学力調査、消極教育、教育的タクト、反省的思考、ドルトンプラン、水道方式、教科書検定、仮説実験授業、ティーム・ティーチング（TT）、指導と評価の一体化、特別支援教育 ☆養護教諭養成コース登録の方 原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

科目名	**道徳教育指導論**
担当教員	辻　直人
科目コード	５０３３Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：　－
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	学校で道徳を教えることの意味や、道徳教育のあり方について、多角的に検討できるような視点を養い、且つ、道徳教育の指導方法について学ぶことを目標とします。
【キーワード】	道徳教育／人格教育／教師論
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　道徳・道徳教育とは何か 　道徳及び道徳教育について、字義からその特徴を考察する。 第２章　道徳は教えられるか 　教育学者・村井実の著書を参考にしながら、道徳を教えることの特徴や道徳教育に求められることを、他教科との比較を交えて考察する。 第３章　近代日本における道徳教育の歴史 　(1) 明治期、大正期、昭和戦前期の時代に行われていた修身教育の特徴について考察する。 第４章　近代日本における道徳教育の歴史 　(2) 太平洋戦争終戦直後の教育改革における道徳教育のあり方を考える。 第５章　近代日本における道徳教育の歴史 　(3) 1958 年に道徳の時間が特設されるまで、及びそれ以降の道徳教育をめぐる動きについて考察する。 第６章　日本における人間関係 　哲学者・森有正の文章を参考にしながら、日本の道徳の基礎となる人間関係の特徴について考察する。 第７章　「学習指導要領」の特徴 　学校教育の内容を規定する「学習指導要領」のうち、道徳に関する記述について考察する。 第８章　『心のノート』と道徳教育 　近年道徳教育用教材として配られている『心のノート』の特徴、実際の用い方などについて考察する。 第９章　道徳教育方法論 　(1) 心情に訴える方法について考える。 第 10 章　道徳教育方法論 　(2) 判断力を養う方法について考える。 第 11 章　道徳教育方法論 　(3) その他の方法を紹介しながら、道徳教育方法を総括する。 第 12 章　諸活動における道徳教育と評価 　道徳の時間以外の学校教育全般における教育的指導と道徳教育の関わりについて考察する。 第 13 章　現代社会に求められる道徳教育 　急速な現代社会の変化の中で、今どのような道徳教育が求められるのか、考察する。
【使用教材】	■テキスト：辻直人『道徳教育の研究（改訂版)』ヴェリタス書房 ■参考書：村井実『道徳は教えられるか』国土社、文部科学省『中学校学習指導要領解説』道徳編、平成 20 年９月
【学生が達成すべき目標(行動目標として)】	1. 道徳教育の意義、特徴、方法について説明できる。 2. 道徳教育の指導案をまとめることができる。 3. 道徳教育を行う教師としての心構えについて、自分の考えを述べることができる。
【評価基準】	科目修了試験にて 60 点以上を合格とする。
【連絡事項】	☆養護教諭養成コース登録の方 　原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

科目名	**特別活動論**
担当教員	赤坂雅裕
科目コード	５０３４Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：１単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	特別活動の教育的な意義を理解し、特別活動の特質である、生徒の自主的、実践的な活動を助長し、生徒自身による創意工夫を生かした、自発的、自治的な活動が十分に展開されるよう、特別活動を指導する教師の在り方を学び、特別活動の実践的な指導力を身につける。
【キーワード】	集団活動／実践的な活動／人間関係／体験活動／自己を生かす能力
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　特別活動の特質・教育的意義 　特別活動が子どもたちの学校生活において重要な役割を果していることへの理解を深める。 第２章　特別活動の目標と内容 　特別活動の目標を構成する５つの要素と３つの内容（小学校は４つ）を確認する。 第３章　人間関係づくりと特別活動　　好ましい人間関係づくりのための指導例 　集団活動の実践を通して、望ましい人間関係を築くための指導方法を知る。 第４章　社会性の育成と特別活動 　集団生活や社会生活の向上のために、進んで尽くそうとする態度や能力をいかに養うか考える。 第５章　学級活動の実践 　学級活動の内容を知り、学級活動の実践方法を学ぶ。 第６章　生徒会活動の実践 　生徒会活動の内容を知り、生徒会活動の実践方法を学ぶ。 第７章　学校行事の実践 　学校行事の内容を知り、学校行事の実践方法を学ぶ。 第８章　特別活動と学校・学年・学級経営　学級づくりの方法 　学校・学年・学級経営とは何か、特別活動との関係を理解し、学級づくりの方途を考える。 第９章　学習指導要領　総則　特別活動 　学習指導要領とは何か、教育課程の編成、指導内容や指導計画の作成に当たっての配慮事項を知る。 第 10 章　部活動の意義と指導 　部活動の教育的意義と教育的効果を理解し、部活動の顧問の役割を知る。
【使用教材】	■テキスト：渡部邦雄 / 緑川哲夫 / 桑原憲一編著『実践的指導力をはぐくむ　特別活動指導法』日本文教出版 ■参考書：『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（平成 20 年 9 月）文部科学省（ぎょうせい）　／　赤坂雅裕著『響育』文教大学出版事業部
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1　特別活動の特質・教育的意義について説明できる。 2　特別活動の目標について説明できる。 3　人間関係づくりと特別活動について議論できる。 4　学級活動・生徒会活動・学校行事の実践について説明できる。 5　特別活動と学校・学年・学級経営ついて議論できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**生徒指導論**
担当教員	赤坂雅裕
科目コード	５０４１Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	生徒指導の目的、機能、課題等基本的事項について学び、児童生徒一人一人が日々生きることの喜びを感じ、自分のよさや可能性を発見し、社会的な自己実現を図るよう指導、援助する。生徒指導と関連の深い教育相談及び進路指導にも触れながら、いじめ、不登校、暴力行為、少年非行等の生徒指導上の課題についても理解を深める。
【キーワード】	自己指導力／指導・援助（ガイダンス・カウンセリング）／児童生徒理解／教師と生徒の信頼関係／いじめ、不登校、暴力行為
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　生徒指導・進路指導の歴史と発展 わが国の学校教育で生徒指導・進路指導が行われるようになった経緯を理解する。 第２章　生徒指導・進路指導の理念と性格 生徒指導とは、について文部省『生徒指導資料集第 20 号』1988 にどのように書かれているか 第３章　生徒指導・進路指導における教師の役割 生徒指導主事・進路指導主事（主任）の役割は 第４章　学校教育相談の特徴 学校教育相談がめざす目的、ないし機能は 第５章　小学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践 小学校における生徒指導の基本的な課題は 第６章　中学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践 「生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つである」 第７章　高等学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践 「教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てる」 第８章　問題行動の理解 問題行動の種類と特徴は、少年法第３条の規定は 第９章　少年非行の時代的推移と最近の問題行動の特徴 最近の「いじめ」の問題と特徴は、 第 10 章　不登校・高校中途退学の問題の理解とその指導 年々増加している不登校の子どもへの基本的な対応のあり方は
【使用教材】	■テキスト：吉田辰雄『生徒指導・進路指導論』図書文化 ■参考書：『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（平成 20 年 9 月）文部科学省（ぎょうせい）、赤坂雅裕『人間教師をめぐる断想』文教大学出版事業部
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1　生徒・進路指導の役割について説明できる。 2　生徒・進路指導における教師の役割について説明できる。 3　「いじめ」の問題への対応策を立てることができる。 4　不登校の子どもへの対応策を議論することができる。 5　学校教育相談が目指す目的、機能について説明できる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**教育相談**
担当教員	田村美由紀
科目コード	５０４２Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：１単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	教育相談は成長・発達に途上にある児童・生徒の教育上の諸問題に対して、解決や支援をする教育実践上の活動である。したがって、全ての児童・生徒が教育相談の対象となる。カウンセリングに関する基礎的な知識を習得し、学校教育における教育相談の重要性を認識する。教師間の有機的な実践的連携のあり方を修得し、相談活動の組織・運営の効率化について理解することを目標とする。
【キーワード】	予防的・開発的な指導／共感的理解／二重関係／関係者との連携／生徒理解
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章　学校教育相談とは** １．教育相談の意義や課題について理解していきます。 ２．学校教育と教育相談活動の関わり方について学びます。 文体は平易ですが、二重関係を意識しながら内容理解に努めてください。 **第２章　カウンセリングの理念と実際** １．教師の行う教育相談や日常の子どもとの関わりにカウンセリング的な見方がどのように役立つか、活かせるかを念頭に学修を進めてください。 ２．教師間、専門家及び保護者等との連携の重要性をまとめておいてください。 **第３章　児童・生徒の問題の理解と対応** 子ども理解の基礎を身につけ、更にその対処・対応の方策を編み出していきましょう。 **第４章　児童・生徒理解の精神医学的な基礎** 精神医学の成り立ちと代表的な問題を理解し、まとめます。 **第５章～第９章** 「不登校」「いじめ」「学級崩壊」「反社会的問題行動」「神経症的問題」等についての分析と対応についてまとめ、理解しておいてください。 **第 10 章　開発的カウンセリング** 開発的カウンセリングを学級経営に活かすための手法を学びます。 **第 11 章～第 13 章** 「保護者への援助」「校内での協力体制」「他機関との連携」等についての分析と対応についてまとめ、理解しておいてください。 **第 14 章　教員のメンタル・ヘルス** 教職員のメンタル・ケアを通して、現代の教育現場の難しさといった課題について自身の理解を深めてください。
【受講条件】	本教科を選択する場合は、「教職概論」が履修済みであること。「教育心理学（学習と発達)」、「カウンセリング論」、「カウンセリング実践」を履修しておくことが望ましい。
【使用教材】	■テキスト：一丸藤太郎他『学校教育相談』ミネルヴァ書房 ■参考書：上地安昭『学校教師のカウンセリング基本訓練』北大路書房 中野博子『カウンセリング論』(本学オリジナルテキスト)
【学生が達成すべき目標（行動目標として)】	１．「教育相談」を自分のことばで定義づけできる。 ２．連携上の困難点を２～３取り上げ、解決策を編み出せる。 ３．カウンセリングや心理療法と教育相談との相違点を述べることができる。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	☆養護教諭養成コース登録の方 原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

<table>
<tr><td>科目名</td><td>教職実践演習</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>中野博子　　門田美恵子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>５０５５Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>教職課程科目</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>テキスト履修：－単位　　スクーリング履修：２単位</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td>－</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>教職実践演習は、教職課程における授業科目や教育実習を通じて、養護教諭として必要な資質能力が身についたかについて、確認するとともに、課題を確認してその解決を図る。また、本学の掲げる総合的な人間力を有する教諭としての資質についても確認することを目標とする。資質についての具体的な内容は別途【学生が達成すべき目標（行動目標として)】に示す4点である。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>実践的指導力／使命感／責任感／社会性／対人関係能力／生徒理解／指導力／事例検討／グループ討論／表現力</td></tr>
<tr><td>【授業のアドバイス】</td><td>本科目では、教職課程の諸科目を履修し、教育実習を経験した学生を対象として、上述した目標を達成することを目標に、講義とワークを中心の授業を行う。主な課題は、① 各自が事前学習課題として作成した、教職を目指して学習することによって明らかになった各自の課題の発表・討論、② 教育場面で起こりうるさまざまな子どもの問題についての講義・事例提示・グループ討論・発表、③ 豊富な現場経験を持つ養護教諭による現場の様々な問題についての講義・グループ討論、④ 保健管理についての事例提示・事例についてのグループ討論、⑤ 学校保健組織活動についてのグループ討論、⑥ 各自が事前学習課題として作成した学習指導案についてのグループ討議・模擬授業・評価を行う。以上を通じて主に知識主体で学習してきた教職に関する事柄が実際の養護教員としての実践につなげられるようにと考えている。</td></tr>
<tr><td>【受講条件】</td><td>1. 当科目は教職科目の集大成となるため、原則として養護実習を終えていることが必要である。

3. 受講者には事前に課題を課す。ここで提出した作業が授業の進行に関係することを意識して取り組んで欲しい。
4. グループワーク中心で進行するため、欠席は他の受講生に非常な負担をかけることになる。お互いに迷惑をかけないように全部出席することが条件となるので、あらかじめ早い時期に予定を組んでおくこと。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>テキストは用いない。当日プリントによる資料を配布する。
提出された事前学習課題の他に、4年間の履修カルテも持参すること。</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として)】</td><td>１．使命感や責任感を持ち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢で行動できる。
２．教員としての職責や責務を自覚し、目的や状況に応じて適切な言動をとることができる。
３．子どもの心身の発達や状況に応じて抱える問題を理解し、それぞれの子どもに適切な指導をすることができる。
４．養護教諭の指導力、執務に関して理解し、行動できる。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>授業目標に則した養護教諭としての在り方を追求する授業内の積極的な参加態度(グループ討論、発表態度などにおいて)を有するか、及び　事前レポート課題への取り組みなど中心に総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>事前学習課題
授業に参加予定の学生は、授業開始１週間前までに以下の課題を提出すること（詳細は受講決定者に通知する）
＊　教職を目指して学習することによって明らかになった各自の課題について
＊　学習指導案</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句)</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>イントロダクション　本科目の目的、意義、ガイダンス</td><td>教職実践演習</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>これまでの学習の振り返りについての発表(事前提出をもとに)</td><td>養護教諭、教職・教員の意義、教員の役割、使命感・責任感、プレゼンテーション</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>学習の振り返りの発表についてのグループ討論</td><td>グループ討論、社会性・対人関係能力</td></tr>
<tr><td>４時限</td><td>学習の振り返りについてグルー</td><td>グループ討論、プレゼンテーショ</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

	プごとの発表	ン能力、表現力
5時限	子どものこころとからだの理解 理解の難しい子ども	虐待、不登校、特別支援教育、子どもの理解と支援の方法、カウンセリングマインド、事例研究
6時限	子どものこころとからだの理解 理解の難しい子どもについてのグループ討論	いじめ、虐待、不登校、特別支援教育、事例研究、グループ討論
7時限	子どものこころとからだの理解 理解の難しい子どもについてのグループ別発表	いじめ、虐待、不登校の理解、事例研究、グループ討論、プレゼンテーション、表現力
8時限	養護教諭の仕事の実際①小学校	職務内容、子どもに対する責務、安全管理、教員の責任、社会人としての基本、教員組織における役割、学校運営の中での養護教諭、保護者・地域との連携協力
9時限	養護教諭の仕事の実際②中学校	職務内容、子どもに対する責務、安全管理、教員の責任、社会人としての基本、教員組織における役割、学校運営の中での養護教諭、保護者・地域との連携協力
１０時限	養護教諭の仕事の実際（小学校、中学校）③グループ討論	職務内容、子どもに対する責務、安全管理、教員の責任、社会人としての基本、教員組織における役割、学校運営の中での養護教諭、保護者・地域との連携協力、グループ討議
１１時限	養護教諭の仕事の実際④グループ別発表	職務内容、子どもに対する責務、安全管理、教員の責任、社会人としての基本、教員組織における役割、学校運営の中での養護教諭、保護者・地域との連携協力、プレゼンテーション、表現力
１２時限	模擬授業演習①学習指導案のグループ内発表とグループ討論	教材研究、学習指導案、板書・発問・話し方などの表現力、学習形態の工夫、グループ討議
１３時限	模擬授業演習②学習指導案の代表発表と評価その１	教材研究、学習指導案、板書・発問・話し方などの表現力、学習形態の工夫、グループ討論、評価
１４時限	模擬授業演習③学習指導案の代表発表と評価その２	教材研究、学習指導案、板書・発問・話し方などの表現力、学習形態の工夫、グループ討論、評価
１５時限	まとめ　全体の振り返りと評価	グループ討論、評価

※講義内容は受講生数や条件によって変更の可能性がある。

科目名	**養護実習Ⅰ**
担当教員	田村　美由紀
科目コード	５０５３Ｓ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：－単位）　　スクーリング履修：１単位
テキスト履修グループ	－
【教育目標】	学校現場において児童・生徒の心身の発育や健康課題、健康教育の実態を把握する。また、これまで履修した科目の知識と教養を生かし、実践的展開を通して養護教諭の専門的知識の習得と技術を練磨し、同時に教育に関する実践的・研究的能力と態度を養う体験学習を行う。 この実践の中で、教育における研究課題を発見するとともに、健全な教育観、児童・生徒観、教師観を培うことができる。
【キーワード】	保健室経営／救急処置／健康観察／健康相談活動／健康教育（保健学習・保健指導）
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　養護実習の意義と目標 第２章　養護実習の内容と方法 第３章　実習前の準備と実習の開始 第４章　教育計画と学校組織についての理解 第５章　学校の生活と環境についての理解 第６章　養護教諭の執務計画と保健室経営 第７章　健康管理体制の理解 第８章　保健室来室者への対応 第９章　集団対象の保健指導 第10章　健康教育（保健学習を中心に） 第11章　臨地実習のまとめと研究
【使用教材】	■テキスト：大谷尚子／中桐佐智子編著『養護実習ハンドブック』第4版　東山書房 ■参考書：新版・養護教諭　執務のてびき　第８版　東山書房
【受講条件】	・「養護実習Ⅰ」は3年次以降でなければ履修できません。 ・学校等での実習は「養護実習Ⅱ」として4年次に実施しますが、「養護実習Ⅰ」はその事前指導として3年次に受講することとなります。 ・なお、「養護実習Ⅱ」において、学校等での実習を受けるためには、【養護に関する科目】のうち「学校保健」「養護概説」「健康相談活動」「身体の構造と機能」「看護学概論」「看護実習」の各科目を、【教職に関する科目】のうち「教職総合演習」を除く全ての科目について単位を修得している必要があります。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 学校保健活動および養護教諭の職務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方および養護教諭の果たすべき役割を説明できる。 2. 児童・生徒の心身・生活の状況および、健康問題の特質を説明できる。 3. 児童・生徒の養護上の問題に対して、個別的、組織的に対応し、取り組むことができる。 4. 養護実習の意義、養護実習生の心得、教育実習記録の書き方について説明できる。 5. 養護教諭像を描き、自らの態度や能力・適正（資質）をみつめ、研鑽すべき課題に対して、どのように追及していくかを考え、その方法をあげることができる。
【評価基準】	■スクーリング：必ず出席すること。 ■事前課題の内容、スクーリングの出席状況、態度を総合的に評価する。
【スクーリングにおける事前学修】	①　事前課題を提示するので、スクーリングに持参すること。 ②　①の事前課題については、できるだけ「養護概説」「学校保健」「健康相談活動」の各科目のテキストを読んで取り組むこと。 ③　保健関係法規、基準等について、理解し説明できるよう教育小六法などで学習しておくこと。

【スクーリングでの講義内容】

※1～3 時限はインターネット授業です。UHAS@My キャンパスから視聴してください。

学修内容		キーワード（重要語句）
1 時限	養護実習オリエンテーションⅠ	教育実習の目的と意義、リフレクションシート
2 時限	養護教諭の執務計画と保健室経営 健康管理体制	執務計画、保健室経営、救急処置、健康診断、健康観察
3 時限	保健室来室者への対応 保健指導と保健学習	外科的症状、内科的症状、保健室登校、保健指導案、学習指導要領
4 時限	養護実習オリエンテーションⅡ 保健室の現場から	スクーリング、実習記録、保健室経営、救急処置、保健指導・保健学習
5-6 時限	健康診断について 健康診断実技	健康管理体制
7 時限	救急処置について	救急処置の理解
8-9 時限	救急処置のロールプレイ	救急処置の実践
10-12 時限	学習指導案、指導略案の作成 模擬授業準備	知識、技能、学習指導案、学習指導要領
13-15 時限	模擬授業発表と相互評価	板書、発問、評価、考察とまとめ

※会場スクーリングは 4～15 時限の内容を 2 日間の日程で行います。

科目名	**養護実習Ⅱ**
担当教員	田村　美由紀
科目コード	５０５４Ｓ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：－単位　　スクーリング履修：４単位
テキスト履修グループ	－
【教育目標】	学校現場において児童・生徒の心身の発育や健康課題、健康教育の実態を把握する。また、これまで履修した科目の知識と教養を生かし、実践的展開を通して養護教諭の専門的知識の習得と技術を練磨し、同時に教育に関する実践的・研究的能力と態度を養う体験学習を行なう。 この実践の中で、教育における研究課題を発見するとともに、健全な教育観、児童・生徒観、教師観を培うことができる。
【キーワード】	保健室経営／救急処置／健康観察／健康相談活動／健康教育（保健学習・保健指導）
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　養護実習の意義と目標 第２章　養護実習の内容と方法 第３章　実習前の準備と実習の開始 第４章　教育計画と学校組織についての理解 第５章　学校の生活と環境についての理解 第６章　養護教諭の執務計画と保健室経営 第７章　健康管理体制の理解 第８章　保健室来室者への対応 第９章　集団対象の保健指導 第10章　健康教育（保健学習を中心に） 第11章　臨地実習のまとめと研究
【使用教材】	■テキスト：大谷尚子／中桐佐智子編著『養護実習ハンドブック』第4版　東山書房 ■参考書：新版・養護教諭　執務のてびき　第８版　東山書房
【受講条件】	・「養護実習Ｉ」を受講していること。 ・学校等での実習は４年次に実施します。 ・学校等での実習を受けるためには、【養護に関する科目】のうち「学校保健」「養護概説」「健康相談活動」「身体の構造と機能」「看護学概論」「看護実習」の各科目を、【教職に関する科目】のうち「教職総合演習」を除く全ての科目について単位を修得している必要があります。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 学校保健活動および養護教諭の職務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方および養護教諭の果たすべき役割を説明できる。 2. 児童・生徒の心身・生活の状況および、健康問題の特質を説明できる。 3. 児童・生徒の養護上の問題に対して、個別的、組織的に対応し、取り組むことができる。 4. 教育専門職としての研究活動を知るとともに、日々の実践体験を記録・分析し研究的視点でまとめる事ができる。 5. 養護教諭像を描き、自らの態度や能力・適正（資質）をみつめ、研鑽すべき課題に対して、どのように追及していくかを考え、その方法をあげることができる。
【評価基準】	■実習： ・ 養護実習期間は原則4週間とする。基本的には週5 日× 4 週間＝ 20 日間（合計160 時間以上）受講することとなるため、祝日や当該校の学校行事による休校などで実習を受けられない日が発生した場合には、その分実習期間を追加していただくよう受入校に相談する必要がある。160 時間以上を満たさなければ、本実習の単位修得ができないため、計画を立てて時間を管理すること。 ・実習は計画的に学校管理職や指導教諭、養護教諭等の下で行うため、実習中の遅刻や欠席は原則的に認めない。 ・実習記録の内容・提出状況、意欲、態度、実習校の評価を総合的に判断して評価する。 ■実習の事後指導：事後指導には必ず出席すること。
【実習に臨むにあたっての事前学修】	■「学校保健」「養護概説」「健康相談活動」「養護実習」の各科目について復習して整理する。 ■保健関係法規、基準等について、理解し説明できるようにする
【スクーリングにおける事前学修】	■事前課題を提示するので、事後指導スクーリングに持参すること。

<table>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>■事後指導

<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>1-2 時限</td><td>教育実習報告会及び総合評価</td><td>現場の実態、実践研究的視点</td></tr>
<tr><td>3 時限</td><td>実習の反省、問題点の整理、今後の課題の明確化</td><td>実習目標、健康課題</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

科目名	**学校保健**
担当教員	門田美惠子
科目コード	５１１１Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	学校における児童生徒等に係る心身の健康・安全を、保持増進するための保健活動について理解する。学校保健の意義、児童生徒の心身の発達を学習し、保健教育の進め方及び保健管理のあり方について理解するとともに養護教諭の職務と役割とのかかわりについて正しい認識を持つことを目標とする。これらの目標を達成することで、学校保健の目指す「心身ともに健康な国民の育成」「一人一人が生涯にわたって健康・安全で活力のある生活」ができるようにするためのライフスキル教育の充実を図ることをテーマとする。
【キーワード】	健康教育／保健管理（疾病管理）／学校保健計画・学校安全計画／精神保健／学校保健組織活動
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　学校保健の概説 第２章　児童生徒の心身の発達と健康 第３章　健康診断 第４章　健康観察・保健指導 第５章　疾病管理 第６章　感染症（伝染病）対策 第７章　救急処置 第８章　学校安全 第９章　健康教育 第１０章 精神保健 第１１章 健康相談 第１２章 環境衛生 第１３章 学校保健計画・学校組織活動
【使用教材】	■テキスト：『養護教諭講座⑦新・学校保健』杉浦守邦・野村和雄監修　東山書房 ■参考書：『学校保健実務必携』学校保健・安全実務研究会編　第一法規、『学校保健マニュアル』衛藤隆他編　南山堂、『養 護教諭執務の手引き・新版』東山書房
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 学校保健の概説を理解し説明できること。 2. 児童生徒の心身の発達と健康、精神保健、疾病管理、救急処置、学校安全について理解すること。 3. 健康診断、健康相談、健康観察と保健指導、健康教育について理解し説明できること。 4. 感染症（学校伝染病の種類、症状、発生時の処置）と、環境衛生の基準・検査について理解し説明できること。 5. 学校保健計画、学校保健組織活動について理解し説明できること。
【評価基準】	■テキスト履修：科目修了試験にて６０上を合格とする。
【連絡事項】	☆養護教諭養成コース登録の方 原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

科目名	**養護概説**
担当教員	門田美惠子
科目コード	５１２１Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：２単位　　スクーリング履修：－
テキスト履修グループ	B
【教育目標】	養護教諭の歴史や学校での役割を把握し、養護教諭の専門的な養護活動について理解し実践できるようにする。学校における児童・生徒の健康・安全状況の把握および健康・安全問題の解決について、その方法を身につけることを目標とする。また、学校保健活動の推進にあたり中心的役割を担いヘルスプロモーションの視点から、地域全体で児童・生徒の心身の健康・安全について育成できるような養護教諭としての能力を養う。
【キーワード】	養護診断／保健指導／健康相談活動／ヘルスプロモーション／健康診断企画と運営
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　養護学概論 第２章　保健室の経営 第３章　健康実態の把握（A） 第４章　健康実態の把握（B） 第５章　健康問題解決への支援（A） 第６章　健康問題解決への支援（B） 第７章　保健活動（Ⅰ）保健教育 第８章　保健活動（Ⅱ）保健指導 第９章　保健活動（Ⅲ）環境保健活動 第 10 章　学校保健経営への参画
【使用教材】	■テキスト：『養護教諭講座１　第 5 版　養護概説』杉浦守邦監修　東山書房 ■参考書：新版・養護教諭執務の手引き　第 8 版　東山書房
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	1. 学校教育における養護活動の意義、歴史および学校保健関係職員の役割と連携方法を説明できる。 2. 保健室の機能を理解して保健室経営計画を作成し、養護教諭の専門的な養護活動が実践できるようにする。 3. 養護活動としての健康実態把握の方法と評価について説明できる。 4. 心身の健康問題解決への支援方法について説明できる。 5. 保健活動（保健教育、保健指導、環境保全活動）、学校保健経営について説明でき、参画できるようにする。
【評価基準】	テキスト履修：科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	☆養護教諭養成コース登録の方 　原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

科目名	**健康相談活動**
担当教員	門田美惠子
科目コード	５１３１Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：２単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	児童生徒の心身の不調や健康に関する多様な訴え等について対応すべく、健康相談の概念と特徴を理解し、健康相談を行うための理論と手法を身に付けることを目的とする。
【キーワード】	健康相談／養護教諭の職務の特質／保健室の機能／児童生徒の姿・成長期の健康／成長期特有の心身の不調／家族への配慮
【テキストの内容及びアドバイス】	**第１章**　養護教諭の職務における健康相談の定義・目的・意義を理解し、その種類を把握すること。 **第２章**　現在の児童生徒の姿や成長期の健康を把握するために、現状に至る歴史的な変遷を垣間見てから、社会現象全体にも視野を広げたヘルスニーズ像を理解すること。その際、成長期特有の心身の不調や家族構成の問題にも通じること。 **第３章**　具体的な健康相談の方法を知ること。(保健室の配置から、アセスメントやカウンセリング手法、さらには、応急手当や校内・校外連携まで) **第４章**　いじめ・虐待・心身症（身体症状)・不登校・引きこもり・自殺念慮や自殺企図といった生命予後にも関わる一連の問題について理解を深め、対応を学ぶこと。具体的な事例を通して、さらに理解を仕上げていくこと。 **第５章**　職責上の説明責任を果たすため記録の基本的な仕方を身につけること。 **第６章**　自己研鑽や研究活動の方法を知ること。
【使用教材】	■テキスト：大谷尚子他『養護教諭の行う健康相談』(第１０版）東山書房
【学生が達成すべき目標(行動目標として)】	１．児童生徒の姿を見据え、成長期の健康を理解すること。 ２．成長期特有の心身の不調に対して、暖かく見守れると同時に、問題解決・改善傾向に助言ができること。 ３．家族への配慮や研究活動の方法を知ること。 ４．職責に応じた健康相談ができること。 ５．自らが行った健康相談の効果測定を主観的にも客観的にも省みれること。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。
【連絡事項】	☆養護教諭養成コース登録の方 原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。

<table>
<tr><td>科目名</td><td>看護実習</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>佐藤弘子</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>５１４１Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>教職課程科目</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>テキスト履修：－単位　　スクーリング履修：１単位</td></tr>
<tr><td>テキスト履修グループ</td><td>－</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>患者や家族に行われる看護活動の過程や保健医療福祉専門職との連携・協働、看護に必要な知識、技術、態度を学ぶ。人間が病をもつことで起こる健康や日常生活への影響や対象者への援助方法の実際をみることで、看護についての理解を深める。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>人間理解／看護実践／看護実習／救急処置／</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>医療現場における看護実践にかかわり、看護の対象となる人間の理解、看護に必要な基本的知識や技術、態度を修得できるよう学修を進める。また様々な看護ケアの実践について理解を深め、看護の特性を学び自己成長に発展させていく。</td></tr>
<tr><td>【受講条件】</td><td>「看護学概論」「人間科学概論」を履修済みであることが望ましい（実習病院での実習開始前までに）</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>■テキスト：岡田加奈子他編著『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護』東山書房
■参考書：杉浦守邦著『学校救急処置マニュアル』東山書房</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>１．事前指導スクーリングでの目標
１）看護実習の意義について理解できる。
２）実習病院への依頼・調整・実習方法について理解できる。
３）救急時の対応について体験することができる。
４）看護実習における自己の課題を明確にすることができる。
２．病院実習での目標
１）実習病院の概要について理解する。
２）入院患者および外来受診患者の健康上の問題について理解できる。
３）患者の疾病が日常生活に及ぼす影響について理解できる。
４）患者に応じた看護の実際について理解できる。
５）看護職者の役割について理解できる。
６）看護職者と他専門職者の連携および協働について理解できる。
３．事後指導スクーリングでの目標
１）実習で学んだことを共有する。
２）看護実習で学んだことについて、どのようなことが養護教諭の役割に活かすことができるか考察する。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>■実習：実習時間は１日８時間を基本とする。また、実習は主として見学実習や看護指導者の指導の下に実施するため、実習中の遅刻や欠席は原則的に認めない。実習の事前指導・事後指導スクーリングには必ず出席すること。スクーリングの参加態度、実習記録の提出・態度、実習施設の評価を総合的に判断して評価する。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前および事後学修】</td><td>■実習：事前学修
次について事前自己学習としてノートにまとめておきましょう。
１．実習病院に関連すること。
２．悪性腫瘍、脳卒中、心疾患、糖尿病、高血圧症、腎不全他、代表的な疾患や子どもに多い疾患について調べる（疾患の病態、検査、治療、看護など）。
３．救急外来診療について調べる。
４．病院と学校の連携について調べる（復習）。
５．「看護学概論」「人間科学概論」の科目を復習する。
■実習：事後学修
実習で学んだことをふまえ、どのようなことが養護教諭の役割に活かすことができるのか考察したことをまとめておきましょう。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>■事前指導（当日は救急処理の演習がありますので、動きやすい服装で参加してください）
<table>
<tr><th colspan="2">学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr>
<tr><td>１時限</td><td>看護実習の意義について
実習記録用紙の記入方法について</td><td>看護実習の目的と意義、実習オリエンテーション</td></tr>
<tr><td>２時限</td><td>養護教諭に必要な技術</td><td>救急処置、バイタルサインの観察</td></tr>
<tr><td>３時限</td><td>救急時の対応</td><td>救急処置の理解と体験</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>■事後指導
<table><tr><th colspan="2">学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th></tr><tr><td>1時限</td><td>看護実習課題についてのまとめ、発表</td><td>看護実習のまとめ</td></tr><tr><td>2時限</td><td>今後の課題についての考察</td><td>今後の課題</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>【連絡事項】</td><td>☆養護教諭養成コース登録の方
原則として、「養護実習Ⅱ」において教育現場での実習へ行く前に、本科目の単位を修得している必要があります。</td></tr>
</table>

科目名	**体育Ⅰ**
担当教員	真砂雄一　　高原皓全
科目コード	２４５５Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：１単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ａ
【教育目標】	健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動、栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。楽しみながら運動を継続することで体力の体得、疾病等の軽減ができ、健やかな生活を送ることができる。また、児童期の体育の授業経験が、その後の運動の好き嫌いを左右する場合が多い。学生一人一人が自分自身の体験と照らし合わせて、運動や体育の必要性を考えていく。
【キーワード】	健康／生活習慣病／健康日本２１／運動／体力
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　健康の概念 第２章　生活習慣病 第３章　健康日本２１ 第４章　栄養・食生活 第５章　運動 第６章　体力 第７章　健康づくり 第８章　休養 第９章　生活習慣の予防
【使用教材】	■テキスト:『生活習慣病の予防「健康づくりへのアプローチ」第４版』石川兵衛著　文光堂
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．健康の定義を説明出来る。 ２．運動の目的を理解している。 ３．体力について説明できる。 ４．乳幼児期における運動の必要性を理解している。 ５．運動および集団活動で体得できるこころとからだのしくみを知る。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

科目名	**体育Ⅱ**
担当教員	真砂雄一　　高原皓全
科目コード	２４５６Ｔ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：１単位　　スクーリング履修：－単位
テキスト履修グループ	Ｂ
【教育目標】	体育は、知育・徳育と並び教育の３本柱として欠かせない大きな柱の１つであり、体育やスポーツは運動技術の向上だけでなく、「心身の健康」を育成する目的として行われている。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身に付けておくことが必要になる。スポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学び、スポーツの歴史や文化的意義などを総合的に捉え、体育の必要性を考えていく。
【キーワード】	運動・スポーツの多様性／体力トレーニング／スポーツの文化的意義／心身の発達／豊かなスポーツライフ
【テキストの内容及びアドバイス】	第１章　私たちのスポーツ 第２章　スポーツは心と体を育て、仲間をつくる 第３章　運動技能を高め、実力を発揮する 第４章　体力トレーニング 第５章　競技力を高めるライフマネジメント 第６章　スポーツ指導者、地域スポーツ
【使用教材】	■テキスト：『最新 体育・スポーツ理論（改訂版）』高橋健夫他著　大修館書店
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．スポーツ歴史や文化的意義を理解している。 ２．運動技術と運動技能の違いを説明できる。 ３．体力トレーニングのＰＣＤＡを理解している。 ４．スポーツライフマネジメントの重要性を理解している。 ５．トレーニングによって変わるこころとからだのしくみを知る。
【評価基準】	科目修了試験にて６０点以上を合格とする。

<table>
<tr><td>科目名</td><td>体育Ⅲ</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>高原皓全　　真砂雄一</td></tr>
<tr><td>科目コード</td><td>５２１２Ｓ</td></tr>
<tr><td>科目区分</td><td>教職課程科目</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>テキスト履修：－単位　　スクーリング履修：１単位</td></tr>
<tr><td>【教育目標】</td><td>自分自身の身体に関心を持ち、運動を通して自分や相手の心と身体の状態について気付くこと。健康を維持・増進するための運動方法を体得するとともに、演習を通して相手に伝える方法を学び、体得すること。</td></tr>
<tr><td>【キーワード】</td><td>こころ／からだ／健康／運動／人間関係／役割</td></tr>
<tr><td>【テキストの内容及びアドバイス】</td><td>小中学校の体育授業で運動の技術の優劣が可視化され、この経験がその後の運動の好き嫌いに影響を与えることが多い。
しかしながら、本来、学校体育とは生涯にわたり、運動に親しむ素質や能力を育てるとともに、健康の保持増進を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てるものである。また、運動を楽しみながら継続することは体力の向上や疾病等の軽減につながり、健やかな生活へもつながる。このような体育教育の目的や身体活動の楽しさを演習を通して受講生自身が体験し、他者との共存・協力する姿勢を身につけてもらうためにも積極的に授業に出席すること。</td></tr>
<tr><td>【使用教材】</td><td>必要に応じて、プリントを配布します。</td></tr>
<tr><td>【学生が達成すべき目標（行動目標として）】</td><td>1. 自己の心身の状態を理解できること。
2. 他者の心身の状態を理解できること。
3. 支援者として他者の運動に関わることができること。</td></tr>
<tr><td>【評価基準】</td><td>講義の出席状況と参加意欲などの総合評価とする。総合評価で 60 点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングにおける事前学修】</td><td>①体調管理等、各自準備をして臨んでください。
②自らの過去の体育授業やスポーツ経験を振り返り、体育・スポーツにどんなイメージがあるか考えてきてください。</td></tr>
<tr><td>【スクーリングでの講義内容】</td><td>①体調管理等、各自準備をして臨んでください。
②自らの過去の体育授業やスポーツ経験を振り返り、体育・スポーツにどんなイメージがあるか考えてきてください。
<table>
<tr><th colspan="2">学修内容</th><th>キーワード</th></tr>
<tr><td>１時限目</td><td>ガイダンス（授業の進め方・目的等）・体つくり運動</td><td>体育／こころ／からだ</td></tr>
<tr><td>２時限目</td><td>イニシアティブゲーム</td><td>自己開示／他者理解</td></tr>
<tr><td>３時限目</td><td>からだを使った運動遊び</td><td>人間関係／セルフコントロール</td></tr>
<tr><td>４時限目</td><td>ニュースポーツ</td><td>行動／工夫</td></tr>
<tr><td>５時限目</td><td>レクリエーションスポーツ</td><td>自己表現／コミュニケーション</td></tr>
<tr><td>６時限目</td><td>走・跳の運動遊び</td><td>協力／役割</td></tr>
<tr><td>７時限目</td><td>球技</td><td>チーム／信頼</td></tr>
<tr><td>８時限目</td><td>ゲーム・まとめ</td><td>問題解決／体育／健康</td></tr>
</table>
※各時限の講義内容は変更になる場合があります。</td></tr>
</table>

科目名	**体育Ⅳ**
担当教員	高原皓全　　真砂雄一
科目コード	５２１３Ｓ
科目区分	教職課程科目
単位数	テキスト履修：－単位　　スクーリング履修：１単位
【教育目標】	本科目では、体育実技を通して、主体的かつ自律的に自らの「こころ」と「からだ」をコントロールすることを体験し、生活の実践者として自らの心身の健康を理解するとともに、健康教育のひとつとしての身体活動について学習を深める。
【テキストの内容及びアドバイス】	本科目については、学生が本学の教育上適当と認められる社会体育事業等に参加し、３０時間以上の実技を実施した場合に１単位を付与します。　本学にスクーリングに来るのではなく自治体等が行う社会体育事業等について自身で調べて申込みの上、参加してください。 本科目の履修について、実技実施に関する費用は全て学生本人の負担となります。
【使用教材】	『人間総合科学大学　体育実技』履修の手引き （『ＵＨＡＳ@Ｍｙキャンパス』よりダウンロードください）
【スクーリングにおける事前学修】	①『人間総合科学大学　体育実技』履修の手引きを熟読し、手続きを進めてください。 ②実技に臨む際には、体調管理を含め、参加する社会体育事業等の実施者の指示に従って準備を行ってください。
【学生が達成すべき目標（行動目標として）】	１．自己の心身の変化を理解することができること。 ２．生涯スポーツの実践者として、自らの目標ができること。 ３．本授業の学修を、自らの生活や職務に生かすことができること。
【評価基準】	『人間総合科学大学　体育実技』履修の手引きに基づいて手続きが行われ、かつ規定の時間数の実施が認められること。